

徳島の剣道

第 16 号



徳島県剣道連盟

第10回 徳島県小・中学校剣道強化錬成大会

平成12年1月23日 鳴門県民体育館

〈少年の部〉
優勝 竜虎館



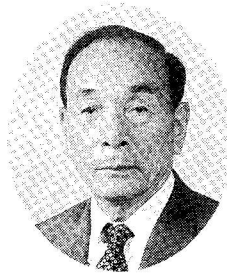
〈中学男子の部〉
優勝 阿南第二中学校



〈中学女子の部〉
優勝 相生中学校



新しい世紀に向けて



西暦二千年、千年紀（ミレニアム）という節目に私達は立ち会っ

ています。歴史的なめでたい節目ではありますが、社会的には景気も悪く、少子高齢化の傾向が強まっています。これらの社会情勢からすれば、新しい世紀になれば、ある面においては、ますます深刻な事態やさらに困難な展開となることも考えられます。

しかしながら、どのような状況にもかかわらず、私達には、明るく対処し、生き抜いていく力が備わっているように思えます。この「・・・にもかかわらず」の精神こそ、新しい世紀に生きる人たちに必要であり、その精神を鍛えて行かなければなりません。

幸いにも、我が徳島県剣道連盟には、この精神が脈々

徳島県剣道連盟会長

遠藤 一美

と受け継がれています。「仕事が忙しいにもかかわらず」「家事が大変なものにもかかわらず」「体が疲れているにもかかわらず」剣道を愛し、後輩を育成し、我が徳島県剣道連盟を支えてこられた人が何と多いことか。現在も、高齢剣友会による出張指導や剣連主催の大会・講習会等々の中で、青少年・実年・熟年の三世代の関わりが、他のスポーツ競技にはない、素晴らしい、充実したハーモニーとなり、剣道発展のエネルギーとなっております。「・・・にもかかわらず」の精神をもって、来るべき新しい世紀に向けて、剣道に取り組んで行くこうではありませんか。

『徳島の剣道 第十六号』目次

巻頭言	遠藤 一美	1
顕彰一覽		4
剣道有功賞	平岡 竹雄	4
叙 勲	堀江 幸夫	8
居合道八段を授けて頂いて	原田 勝	11
特別寄稿		
思い出トーク	松井 明	15
剣道“私の第一歩”	ホセ・イグナシオ	20
先生を偲ぶ		
下村富男先生言行録	勝沼 信彦	23
坂本吉郎先生を偲ぶ(その二)	木原 資裕	27
思いでの一枚	堀江 幸夫	32
私は誰でしょう		33
全国講習会報告		
西日本講習会	来代 真治	36
女子講習会	竹内佳代子	38
居合道中央講習会	原田 勝	40
四国地区講習会	藤本 辰夫	41
柳生講習	来代 真治	42
徳島の剣道史		
阿波の柳生新陰流剣術	坂本 裕二	44
支部だより		
阿南支部	北條 憲治	50

各種大会に参加して

全国スポーツ少年団剣道交流大会	大石 洋史	53
全日本都道府県対抗剣道優勝大会	佐藤 佳宏	56
四国四県剣道大会	藤本 雅史	57
西日本勤労者大会	山室 雅幹	60
全国警察防犯大会	鎌田 崇佐	61
全国家庭婦人剣道大会	手塚十三子	63
四国・全国矯正職員大会	中村 稔裕	69
全国選抜大会	小柏 祐三	70
インターハイ 男子	藤川 卓也	71
四国総体参加	矢野裕美子	72
インターハイ 女子	小林かおり	73
全国教職員剣道大会	笠松 寛子	74
四国教職員剣道大会	西谷 肇一	77
全国少年錬成大会 道場連盟	岩見さゆり	79
全日本少年武道(剣道)大会に臨んで	笠井 恵之	80
中学県総体・四国大会 女子	中山希実子	82
全日本女子剣道選手権大会	岸 香織	83
国民体育大会	伊藤奈津子	84
全日本居合道大会	栗本 美香	87
全日本剣道選手権大会	原田 勝	88
全国青年大会	吉岡 修一	89
全日本剣道選手権大会	吉田 茂生	90
全国青年大会	甘利 克征	93

全国警察剣道大会……………平野 誠司……………95
全日本高齢者武道大会……………南 充実……………97

大会所感

ネンリンピック高齢者大会報告……………勝浦 守……………101
大会所感……………東内 勉……………98

山家旗大会……………吉田 祖……………104
阿土大会……………佐々木武夫……………112
武道推進研究発表……………福多 雅英……………114

随 想

国体に参加しての思い出……………大澤 孝彰……………118

医者の剣道素人奮闘記……………勝沼 信彦……………119

今年の体感……………三木 毅……………122

私と剣道……………松村 和宏……………124

水産高校の十一年……………福井 軍二……………125

遠征・訓練

姫路遠征に参加して……………兵頭 新平……………128

姫路遠征の旅日記……………岡島 茂雄……………129

強化訓練に参加して……………坂東 潤……………129

平成十一年度少年強化錬成実施報告……………広瀬 清……………131

段位合格者

七段に合格して……………岸田 光博……………133

……………兵頭 新平……………134

……………松村 明文……………136

……………青木 茂生……………136

……………楳本 英夫……………137

六段に合格して……………竹内佳代子……………140

……………野々宮真佐夫……………142

……………須藤 恭宏……………143

……………山田 浩司……………144

……………小谷 徹……………145

……………本村 賢二……………147

……………小坂 治……………148

……………称号・段位合格者一覧……………150

……………がんばろう徳島……………154

……………剣連稽古会参加者の動向について……………近藤 亘……………154

……………事務局だより……………藤本 雅史……………158

……………大会記録……………159

……………徳島新聞にみる戦いの跡……………183

……………昇段審査学科問題・解答例……………227

……………平成十一年度議事録……………245

……………徳島県剣道連盟役員一覧表……………247

……………平成十二年度徳島県剣道連盟行事予定表……………251

……………徳島県剣道連盟事務分掌……………252

……………平成十二年度審査実施計画表……………254

……………徳島県剣道連盟審査資格・審査料等……………255

編集後記

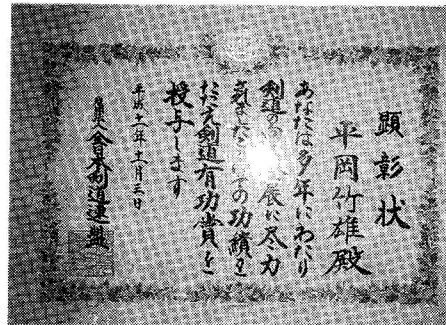
〈表紙さし紙〉料理 慎徳

〈題 名〉守 徳 英夫

平成十一年度 顕彰一覽

剣道有功賞 (全日本剣道連盟)

○平岡 竹雄 (大正三年一月十三日生まれ)



徳島県剣道連盟の、役員として長年にわたり、連盟充実発展に 尽くされた。特に、少年指導に力を注ぎ、自らも高齢者大会等に 意欲的に参加している。また、海部支部長として、地域の剣道発 展に努力されている。その功績は顕著であり、自ら率先修行する する姿は、会員の範たりうる。

叙勲 (勲五等瑞宝章)

○堀江 幸夫 (大正九年六月二十七日生れ)

国民体育大会、全日本東西対抗等々に選手および監督として出 場し、見事な実績を残している。また、昭和二十四年発足した徳 島県剣道連盟に理事として就任以来、審議員、事務局長、理事長、 会長、名誉会長と要職を歴任し、さらに、徳島県警察剣道師範と して、警察剣道発展に尽力しつつ、広く、剣道を担う後継者育成 に努力され、連盟発展の基礎を築いた功績は多大である。

居合道八段

○原田 勝 (昭和二十一年二月十日生れ)

長年にわたり、本連盟の居合道指導の中心者として、また、現 在も本連盟の居合道部長として、会員の技能向上および居合道発 展伸長に努める。また、全国大会や講習会に精力的に参加し、自 らの技能向上と人格陶冶に努める本県居合道の先達的存在である。

体育功労者表彰 (徳島県体育協会)

○柏原 浩 (昭和十五年十二月十九日生れ)

徳島県剣道連盟の常任理事、事務局長、理事長、副会長として 連盟の執行部の中心的役割を担い、連盟充実発展に尽くされた。 特に、東四国国体では剣道競技徳島開催の剣連副理事長として、 国体成功の原動力として、その任にあたった功績は多大である。

厚生大臣表彰 (厚生省)

○佐藤 勇 (昭和二年七月二十四日生れ)



長年にわたり、鳴門支部の支部長として、地域の剣道の普及発展に尽力しつつ、戦没者遺族の援護事業に積極的に取り組み、徳島県遺族会副会長、鳴門市遺族会長として、その任にあたった功績は多大である。

表彰状

佐藤 勇 殿

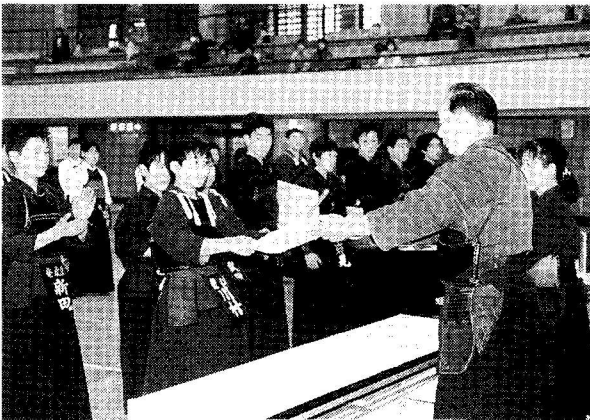
あなたは多年にわたり援護事業に貢献されその功績は誠に顕著なものとありますよってこれを表彰します

平成十一年十月二十九日

厚生大臣 丹羽 根 誠

少年部強化錬成皆勤者表彰

- | | |
|---------------|--------------|
| 岸野 哲也 (徳島少年剣) | 川村 昌史 (藍住剣) |
| 岩見 恭輔 (練心館) | 久保 智司 (清風館) |
| 石川 裕介 (練心館) | 新田 裕 (竜虎館) |
| 近藤 雅規 (入田錬成会) | 森本 龍毅 (吉野剣) |
| 坂東 潤 (入田錬成会) | 武田 寛 (吉野剣) |
| 佐藤 一貴 (入田錬成会) | 三木 翔太 (市場剣) |
| 清水 桃代 (入田錬成会) | 上田 圭介 (北井上剣) |



遠藤会長より表彰される皆勤者

平成11年度 徳島県高等学校剣道優秀選手名簿

男 子	学 校 名	女 子	学 校 名
小 柏 祐 三	富 岡 西	伊 藤 奈 津 子	富 岡 東
藤 川 卓 也	富 岡 西	栗 本 美 香	富 岡 東
多 川 大 智	富 岡 西	沖 津 佐 智 恵	富 岡 東
田 村 修 平	富 岡 西	阿 部 純 子	富 岡 西
喜 多 将 記	富 岡 西	菅 野 智 恵	富 岡 西
大 前 智 仁	富 岡 東	森 崎 知	富 岡 西
山ノ井 敬 仁	富 岡 東	藤 本 和 香	川 島
佐 竹 孝 文	富 岡 東	近 藤 多 恵	川 島
隅 田 憲 男	川 島	寺 西 真 理 子	鳴 門
岡 一 貴	川 島	喜 田 有 紀	鳴 門
佐 藤 太	川 島	古 佐 小 春 香	池 田
久 保 拓 司	川 島	島 尾 恵 理 子	池 田
中 川 達 彦	城ノ内	湯 岑 美 由 紀	池 田
富 永 誠 二	城ノ内		
森 充 正	城ノ内		
瀬 口 智	阿 南 工		
吉 岡 大 介	阿 南 工		
久 川 誠 弘	阿 南 工		
倉 橋 孝 輔	阿 南 工		
坂 東 和 成	鳴 門		
大 西 允	徳 島 東 工		
富 森 義 治	徳 島 東 工		
西 木 聖 造	徳 島 東 工		

平成11年度 徳島県中学校剣道優秀選手名簿

男 子	学 校 名	女 子	学 校 名
林 美 文	阿 波	瀬 口 裕 子	相 生
原 祐 輔	那 賀 川	中 山 希 実 子	那 賀 川
神 元 駿 一	阿 南 一	岸 香 織	那 賀 川
西 岡 将	山 川	茂 崎 江 里 子	阿 南 一
松 田 克 毅	阿 南 一	橋 本 佳 奈	那 賀 川
森 下 和 也	山 川	後 藤 田 和 美	市 場
田 中 孝 弘	市 場	佐 藤 甲 子	市 場
尾 田 正 和	市 場	小 西 美 穂	那 賀 川
岩 脇 有 軌	市 場	工 藤 美 希	那 賀 川
小 川 泰 弘	那 賀 川	清 水 久 美	阿 南 一
佐 藤 友 紀	那 賀 川	北 岡 奈 都 美	木 頭
戸 川 和 樹	城 東	楠 原 沙 穂 史	阿 南
前 田 悠 貴	相 生	喜 多 由 美 子	池 田 一
野々宮 史 朗	驚 敷	木 下 奈 都 美	文 理
切 中 諭	石 井	藤 本 明 子	市 場
笠 井 弘 起	阿 波	元 浦 千 絵 美	相 生
板 東 悟	入 田	原 福 海	相 生
的 場 健 佑	平 谷	川 人 葵	阿 波
久 保 美 栄	平 谷		
柿 本 剛	池 田		
横 田 直 也	羽ノ浦		

おかげさまで

名誉会長

堀江幸夫



貫之”の剣道三昧の日々であった。
書家で仏教詩人、中学時代剣道に夢中だった、相田みつおの詩をお借りする。

外出から帰って
娘から、「勲章を
頂けるそうよ」と
聞き、誰が、えつ
//私が”これは正
に、青天の霹靂^{へきれき}で
ある。

長い人生、時と
して思いがけない
出来事に出会う事
は数え切れないほ
ど体験してきたが、

私は無駄にこの世に生まれてきたのではない、また人間として生まれてきたには無駄にこの世を過ごしたくない。私がこの世に生まれてきたのは、私でなければ、できない仕事の一つこの世にあるからなのだ。それが社会的に高いか低いかそんなことは問題ではない。その仕事は何であるかを見つけてそのために精一杯の魂を打ち込んでゆくと同時に人間として生きてきた意義と生きてゆくよろこびがある”

長い長い剣道人生の道のりで数々の出会いに彩られた私の日々、私は多くの方々によって磨かれ出会いによって導かれて、叙勲の光榮に浴した。その一つ一つのご縁の尊さ有難さをかみしめると、限りない喜びと感謝の念で一杯だ。

さて、今後いく年剣道生活に恵まれるか、それこそ天命に任ず外はないのだが、今は一日でも長くできますよう祈るばかりである。皆様、ありがとうございました。

叙勲などという大事は他事、住む世界が違々と全く視野になかったから、嬉しいなどと思う感情はわかず、むしろおおいに戸惑いが体中を駆け巡る心の整理に些か時間が必要だった。戸惑いの尾は長ながと引いて家族の「おめでとう」の声もうわの空のようであった。

思えば暴れん坊の精力善用と父の手ほどきで竹刀を手に不世出の剣士、酒匂久先生^{ささぐわひさ}によって剣の道に導かれて以来、吾道一以

堀江幸夫先生事績

堀江幸夫先生は、幼少の頃よりご尊父から剣の手ほどきを受け、青年時代には、酒匂久先生に師事し大阪武徳殿において修行に励まれました。終戦後、徳島に居を移してからも剣の道一筋に、温故知新と日夜研鑽を積まれて約半世紀に亘って剣道の発展のために尽力されました。そして、今なお現役の剣士としての修行を怠らず、また、剣道界の知識の源として相談に応じられる等、後進のための指導を続けられています。

1 戦後の剣道復興と発展に尽された功績

先生は、選手として常に最前線で活躍され、国民体育大会、全日本東西対抗剣道大会等の数々の全国大会に出場し、すばらしい実績を残されています。とりわけ明治村における八段選抜大会においては、全国の強豪を相手に見事三位入賞の栄誉に輝かれました。一方、全日本剣道連盟の理事、評議員を永年にわたり勤められ、その進路について貴重な提言をされる等、名実ともに日本の剣道界のリーダーとして戦後剣道の復興と発展に寄与され、その功績は誠に顕著であります。

2 徳島県剣道の振興と徳島県剣道連盟の礎を築かれた功績

昭和24年に発足した徳島県剣道連盟に、昭和25年に理事として就任して以来、審議員、事務局長、理事長、会長、名誉会長と要職を歴任し、緻密で堅実な運営で確固とした徳島県剣道連盟の基礎を築かれました。その間、理事長在任中には全日本東西対抗剣道大会、理事長兼会長在任中には第48回国民体育大会（東四国国体）を成功に導き、特に東四国国体剣道競技においては地元の大きな夢でありました総合優勝を勝ち取ることができました。これら大イベントにおける先生の企画力、行動力、指導力等は繊細かつ大胆であり、後進の模範となっています。

また、昭和37年から徳島県警察剣道師範として警察剣道の発展に尽力されながら、次代を担う剣道を志す若者の育成にも力を注がれ、撫養高校（現鳴門第一高校）を始めとして、四国大学、徳島大学剣道部の師範として指導にあたられました。先生のご指導は真正かつ深遠であり、先生の崇高な指導理念及び偉大なご功績は、徳島県剣道界のみならず日本剣道界に大きな影響を与えてきました。

堀江幸夫先生 主な経歴

〔学 歴〕	昭和16年12月	日本大学大阪専門学校卒業 (現近畿大学)
〔職 歴〕	昭和21年 8月	復 員 (中部憲兵隊司令部)
	昭和22年10月 昭和27年 3月	関西自動車用品株式会社
	昭和27年 4月 昭和37年 3月	自 営 (用品雑貨商)
	昭和37年 4月 1日 昭和54年 6月30日	徳島県警察本部技術史員 (剣道師範)
	昭和54年 7月 1日 昭和63年 3月31日	徳島県警察学校術科専任講師
〔団 体 歴〕	昭和25年 3月12日 昭和50年 3月31日	徳 島 県 剣 道 連 盟 理 事
	昭和46年 4月 1日 昭和50年 3月31日	徳 島 県 剣 道 連 盟 事 務 局 長
	昭和50年 4月 1日 平成 6年 3月31日	徳 島 県 剣 道 連 盟 理 事 長
	昭和62年 4月 1日 平成 9年 3月31日	徳 島 県 剣 道 連 盟 会 長
	平成 9年 4月 1日 現在	徳 島 県 剣 道 連 盟 名 誉 会 長
	昭和44年 6月 1日 昭和62年 5月31日	(財)全日本剣道連盟評議員
	昭和62年 6月 1日 平成 6年 5月31日	(財)全日本剣道連盟理事
	昭和52年 4月 1日 昭和62年 7月	(財)徳島県体育協会評議員
	昭和62年 7月23日 平成 9年 3月	(財)徳島県体育協会理事
	昭和37年 4月 1日 現在	徳 島 大 学 剣 道 部 師 範
〔表 彰〕	昭和44年 2月11日	(財)徳 島 県 体 育 協 会 体 育 功 勞 者 表 彰
	昭和63年 8月 7日	(財)徳島県体育協会感謝状
	平成 4年 6月 3日	徳 島 県 知 事 表 彰
	平成 5年10月10日	文 部 大 臣 表 彰
	平成 6年 2月11日	(財)徳島県体育協会感謝状
	平成 7年 6月27日	(財)全日本剣道連盟表彰状
	平成 7年12月 3日	中四国学生剣道連盟感謝状

〔競技歴〕

大 会 名	選手回数	監督回数	審判員回数	役員回数
国民体育大会	1 1	2	7	2
全日本東西対抗	1 1	1	1	
全国都道府県対抗	8	8	6	
全国八段選抜大会	8			
全日本選手権大会			3	
四国四県大会	1 6		1 5	

居合道八段を授けて頂いて

居合道部長 原田 勝



平成十一年五月四日、京都で行われ
ました居合道八段審査会に於きまして全日
本剣道連盟より居合道八段という高い段
位を授けて頂き、身にあまる光栄と感激
すると共に自分には一生かかっても頂け
ない無縁の段位であると思っていました

ので、たまたま運が良かったにしてもよく頂けたものだとも自分で
も驚いております。これも偏に諸先生方そして剣友の皆様方の温
かいご支援とご指導の賜であると心より深く感謝しております。

私と居合道との関わりは大澤善二郎先生との出会いより始まり
ました。昭和三十九年郵政職員として新規採用となり、木頭村の
出原郵便局に配属されました。昭和四十年二月、雪のちらつく寒
い日であったと記憶しております。郵便局の窓口にマントのよう
なものを着た眼光の鋭い坊主頭の人が訪れ、私に「君は見かけな
い顔だが剣道をしたことがあるか。」と私に尋ねられました。「し
たことがあります。」と答えると「では剣道をやりなさい。」と
言われたので、私は剣道はしたくありませんと言うつもりが、そ
の人の目には人にはいやだと言わせないものがありました。つい
「お願いします。」と心にもない返事をしてしまい困っていると、



恩師 大澤善二郎先生

その人が途端に優しい目になって、その日から「大和錬心館道場
に来なさい。」と言ひ残して帰られました。これは大変な事になっ
たと思いましたが、あとの祭でした。

これが大澤善二郎先生との出会いであり、私と居合道との出会
いでもありました。夜は錬心館の先生方にもご指導を頂き、土日
と非番日の昼間は先生に一日中剣道と居合の手解きをして頂
きました。先生が何処へ行く時も私が専属の運転手兼かばん持ち
でした。走る車の中や稽古の終わった後には必ず、大きな和の心
の大切さについて切々と話して頂きました。段位はいらない、剣
道は強くなれ、居合はうまくなれ、居合は人に見せるものではな
いとも教えられ、五段になるまで居合の大会があることも試合が
あることも知らずに過ごしました。又先生は「一生のうちには諸
般の事情により、稽古がしたくても出来ない日が必ずあるから、

出来る時に無茶苦茶稽古をしておけ」ともよく聞かされました。

昭和四十七年の夏、大和錬心館に少年部を結成する運びとなり、最初に自分が結成の口火を切った為、指導の方法も分からない私とその最初の指導者となってしまいました。日曜と祭日以外は毎日稽古日とし、三年たつとそれなりの成果も上げ、六年が過ぎ剣道にも少し興味がわいてきた頃に郵政の定期検診で心臓病を指摘され剣道を止められました。やむなく少年剣道の指導も岡田豊氏（現在剣道六段）に頼み、自分は医師の許可をえて居合道のみに専念するようになりました。

昭和五十五年の五月、大澤先生が七十二歳で逝去された後、一時はこれですべて終わりにしようとも思いましたが、これでは今までご指導頂いた先生方に申し訳がないと思い、気を取り直して一人で稽古をする日々が続きました。これでは駄目だと思い、月に一回の割合で県外の大会に積極的に参加するよう努めました。しばらくして大澤先生が生前「居合をするなら高知へ行け」と言ってくれてたのを思い出しましたが、当てがあるわけでもなく、どうしたものかと思案にくりけていたある日、風の便りに高知県の土佐山田町に三谷義里と云う全剣連の居合道委員であり範士八段（後に九段）の先生がおいでになる事を知り、さっそくその先生を訪ねご指導をお願いしたところ、心良く承諾を頂き、養心館道場の末席に加えて頂きました。その道場には義里先生の外にも範士八段横川操先生と教士七段三谷昭雄先生（現在八段）が指導をされていました。これを機に全剣連居合と古流は無双直伝英信流



恩師 三谷義里先生

を本格的に学ぶことになり、ひたすら居合道の道を歩む事になりました。

当時は道路事情も悪く往復四時間の道を毎週二回と義里先生がご在宅の土・日等には時間の許す限り稽古に行くことになっておりました。最初の数日間は三人の先生が抜かれるのを見てその所作又はその感じを学ぶ見取り稽古がほとんどでした。義里先生の教えは、豪快にして精妙な切れる居合を目指せ、最期は優美で人に感銘を与える居合となれと教わりましたが、そのためにどのような稽古せよとまでは教えてくれませんでした。義里先生が私の顔を見る度に居合はいくら稽古してもなかなか上手になるものではないが、天狗になると全てが駄目になるので十分気をつけるようにと何時も聞かされました。六段を頂いた時先生に報告に行く、「おめでとう、これで出来たと思っではいけない、昇段は自



三谷義里先生 顕彰碑の除幕式に

己啓発のためにある事を以後十分肝に銘じておくように」と教えて頂きました。稽古を見て頂くうちにこれは教えてもらうものではなく、自ら習得するものであるということがようやくわかるようになってこれから本格的に稽古という時に、その先生も昭和六十年の五月、「審査も試合も人様が決めることだから気にするな、信念を持って抜け、居合は上手でなくてもよいから、くれぐれも天狗だけはなってくれるなよ」と言い残して八十四歳の生涯を終えられました。



八段祝賀会にて



徳島の講習会で福田一男先生に指導を受ける

それからは、永年において徳島県の居合道講習会の講師としてお招きしている全剣連の居合道委員である大阪の範士九段の福田一男先生のご指導を頂くようになり、早くも十五年の歳月が過ぎました。福田先生にご指導頂いたことは、常に謙虚に真剣にそして自然に、人には合わせてゆけ、反対に合わされたら負けだと重ねがさね幾度となくご指導を頂きました。また県内においては遠藤会長様を始め堀江幸夫先生、大沢孝彰先生、平尾勝美先生、その他多くの先生方のご指導・ご支援を賜り、押し上げて頂き、引つ張り上げて頂き、自分は何も努力しなかったような気がして恥ずかしく思っております。唯ただ自分には剣の道については何も分からないけれども、人は偶然の出会いによりその人の生き方や生き様が大きく変わってくることだけは身をもって分かりました。私が各先生方にご指導頂いたことを思い起こしてみますと、刀の握り方や技前についてよりもそれ以前の心構え又は常日頃の生き方や、人間としてどうあるべきか等について多くのご指導を賜り、そのおかげでこの度八段を頂くことができたものと感謝の気持ちでいっぱいです。これからも教えて頂いた事の数々を大切に更に精進を重ね段位に恥じない人間形成を目指すと共に、微力ながらもこの道のためそして徳島の居合道発展のために誠心誠意努力し、ご恩返しをしなければならぬと心に念じております。今後共にご支援ご指導の程よろしくお願い致します。

特別寄稿

思い出トーク (talk)

徳島県の皆さんへ

岡山県警察本部 教養課 警務部首席師範

剣道教士八段 松井 明



全日本剣道連盟主催の中・四国剣道合同稽古会が、本年の七月十六日、香川県立武道館で開催されました。私もこの稽古会に岡山から参加させていただきました。

香川県立武道館の会場では、なつかしい先生方の顔触ればかりで、久しぶりにお目にかかった徳島県の範士八段の堀江幸夫先生が、笑顔で迎えてくださり、ご無沙汰をお詫びしつつ挨拶を交わしました。

堀江先生のご壮健な雄姿を拝見し安堵しました。稽古の準備を進めていると、堀江先生が「徳島の剣道」という連盟の機関誌に遠くでトークの投稿をしてくれるか、とのお言葉がありました。

私は、「いやーこれは大変なことになった」と一瞬堅くなりまし

たが、厚顔にも「はい」と答えてしまいました。こうした経緯で筆をとることになったわけですが、このすばらしい機関誌で、なつかしい徳島県剣道連盟会員の皆様にお目にかかれまことに、本当に幸せに思います。

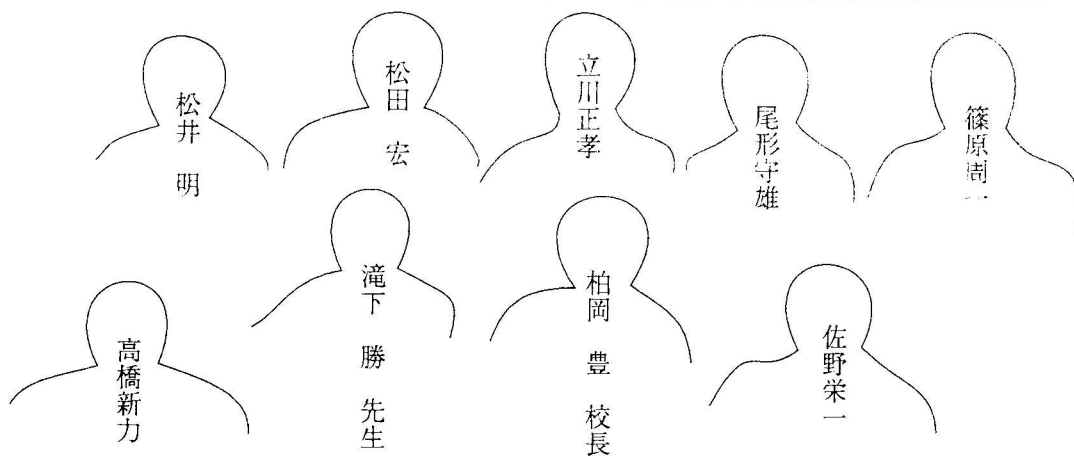
さて、私は、徳島県美馬郡脇町出身で、徳島県立脇町高等学校を卒業し、岡山県警察に奉職し、早や三十七年を迎えようとしています。剣道を始めたのは、旧脇町警察署の道場で恩師の範士柴田稔夫先生の手ほどきを受けたのがきっかけです。その後、高校時代には、滝下勝先生に剣道と居合道「無双直伝英信流」を教わり、卒業前（昭和三十七年一月十日）に剣道と居合道とともに三段を、滝下記由・清水宏・佐野栄一君らとともに全剣連からいただきました。

すばらしい同級生や先輩、そして後輩に囲まれての脇町高校剣道部時代には、県下大会にも優勝できました。これも偏に柴田・滝下・下村先生というすばらしい先生方のご指導があったからなのです。

当時を思い出すと良く稽古をした記憶があります。徳島農業高校にも出稽古に良く行き下村先生にもよくご指導を頂きました。脇町高校の古い体育館には照明がなく、特に秋から冬の時期には授業が終わってからの稽古で、真つ暗になるまで稽古をしていました。相手の姿が見えなくなるまで稽古を続けました。

ある時、テレビ局が脇町高校体育館にやって来て、私たちの居合道の稽古を取材しました。この模様は、当時のテレビのニュー

県下大会優勝



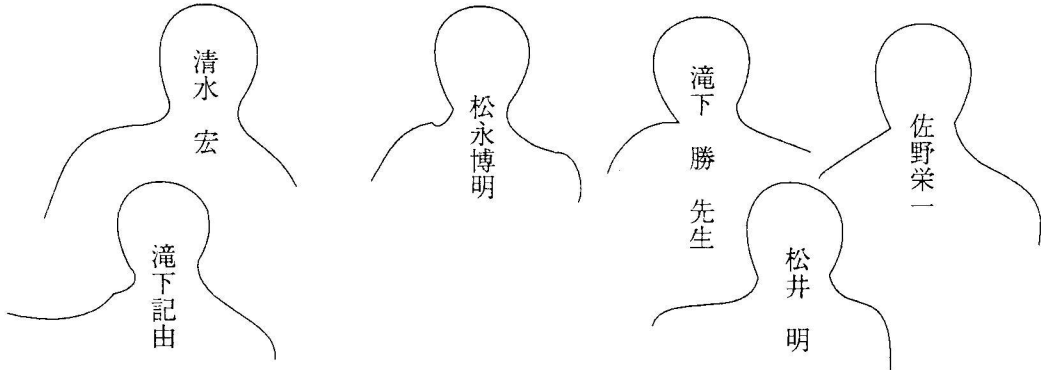
ス番組で放映されました。昭和三十六年頃、実家にはテレビはなく、近くの「銭谷旅館」まで両親とともに見に行った記憶があります。

岡山県警察に奉職してからは、範士九段の石原忠美先生・故範士八段の山根昇先生らの指導を受け、機動隊で選手として十四年間をおくりました。その間に全国警察剣道大会第二部で優勝を成し遂げました。これは、岡山県警察では初めての出来事でした。

その後、警察大学校術科養成科剣道課程を卒業して昭和五十五年の三月に現在の教養課に赴任、剣道師範としての第一歩を歩むことになったのです。ここでは、選手の指導育成をはじめ、岡山県剣道連盟の事務局長や理事長の役職を頂き、剣道一筋の人生となりました。

平成九年五月、NHKテレビの番組で「ドキュメントにっぽん」剣道日本最難関試験『心で闘う百二十秒』という剣道八段審査の放送がありました。

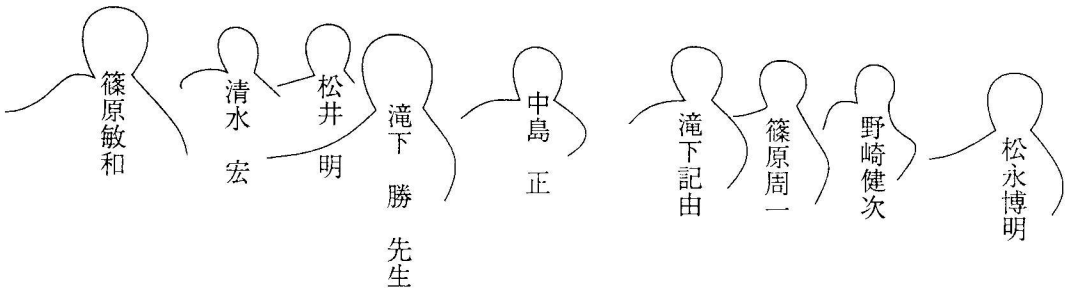
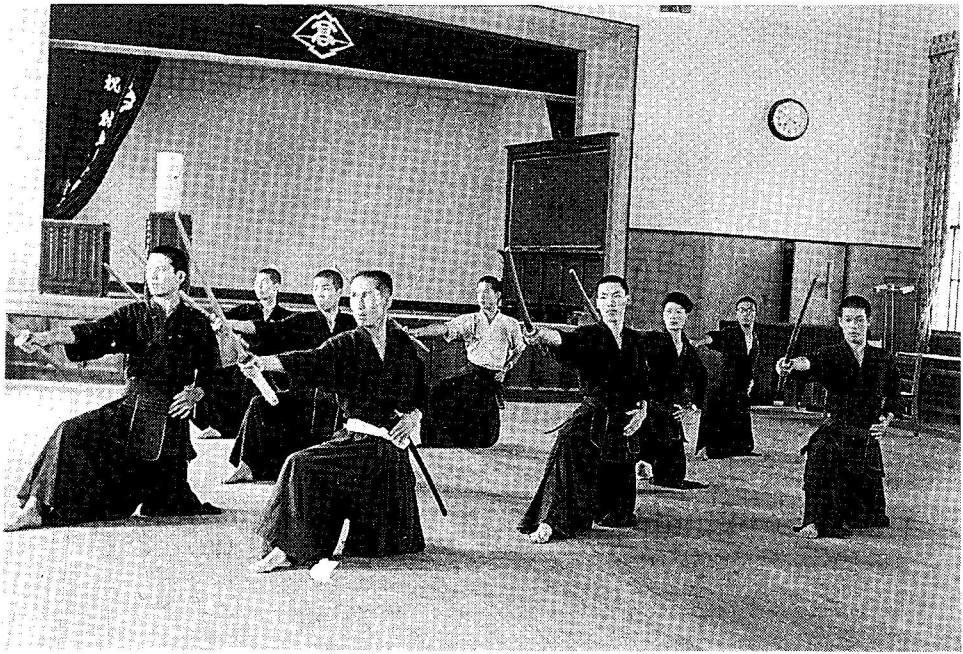
剣道・居合道三段合格記念



その時に、私も二次審査四回目で合格させていただきました。八段の重みといえますか、責任といえますか合格証書を手にした時、ちょうど、富士山の麓に立たされた感じになりました。これから、この大きな山を登っていかなければならないという思いが致しました。八段合格は、人生の一通過点にしか過ぎないのです。幸せなことに、ただ今は、西大寺武道館の朝稽古で週四回、石原九段範士（八十三歳）のご指導を頂いています。有り難いことだと深く感じております。これも、少年時代に剣道をご指導頂いた恩師の範士柴田稔夫先生をはじめ、多くの徳島県剣道連盟の先生方や会員の皆様のお陰であります。この誌面をお借りして心から感謝を申し上げます。思います。

ある時、八段受審の前に岡山武道館の稽古会で石原先生に稽古を見て頂く時がありました。その時は、先生に稽古を見られているということで気を集中しての稽古ができましたが、先生が見てない時は、気の集中が続かず弛むことが時々ありました。これでは何回受審しても駄目だ、毎回稽古の始めと終りに神前の神様に拝礼している。先生が見ていなくても神様が見ている。神様に松井の稽古を見て頂いているのだと気付き、それからは、石原先生に見て頂い

テレビ取材の時



ている時と同じように稽古を一生懸命集中してまいりました。

剣道の目付についてわかっていると思ひ込んでいましたが、相手への観の目付以外に大切な自分への目付に気付いたのです。

最近の剣道の稽古で特に心掛けていることは、如何に辛抱できるか、すぐ、打ちたがる人が多い中、「呼吸法」も合わせて「辛抱」と「攻め打ち」を工夫しています。私の心から相手の心へ見えない糸をつなぎ、この心の糸がゆるまぬようにしています。静中動の関係、攻めて作って引き出して打つ、打つときの気剣体一致はもちろん捌くときも気剣体一致に心がけ、すべて、バランスを崩さないように、又、引き分けの場合も相手より少し良かったと言えるように心掛けています。

日常生活でも、剣道の先の教えのとおり「一コマ早く」を心掛けています。最近、特に剣道が人生に役立つているなあと実感しています。

平成十七年には第六十回岡山国体が開催されます。全剣連のご指導を頂きながら剣道競技会場は一カ所で行うと言うことで五年前から、県・全剣連・市町村との協議・調整をしてきましたが、最終的には、全剣連会長と岡山県知事との会談で会場は「美作地域」と

し、競技会場を津山市及び英田郡大原町の二カ所ですという方針で決定されました。

十一月十五日・十六日と二日間に渡り、中央競技団体の正規視察を受けました。二カ所開催となると運営面でかなり難しいことがあると思います。

成年の部は津山市内の「岡山県津山総合体育館」で、少年の部は宮本武蔵生誕の地、大原町で、ただ今建築中の「宮本武蔵顕彰武蔵武道館」で開催の予定です。

国体の運営等全般にわたり、徳島国体を参考にさせて頂き、岡山国体剣道大会を立派に成功させたいと思っています。皆様方のご指導・ご鞭撻の程をお願い致します。

トークという事で本当に気楽な話をさせて頂きました。最後に、徳島県剣道連盟のますますのご発展と会員皆様のご活躍をお祈り致します。

また、皆様にお目にかかりお稽古をお願いできる日を楽しみにしています。それでは、お元気で。



剣道 “私の第一歩”

スペイン ビトリア美術大学学長

ホセ・イグナシオ・
マルティネス・デ・アルブロ

訳 同大学教授 本田 亘子

私は一九九九年八月に初めて剣道を習い始めました。剣道にふれるということは、かなり長い間からの私の念願でもありました。しかし、私の国スペインでは柔道、空手、合気道と違って、剣道はそれほど普及していません。又、私の日本滞在期間が長期間に亘らないということもあり、始める機会がありませんでした。

剣道の世界に入るには、その“一歩純粹な形で”日本で日本人の先生の指導のもとに歩みたいと考えていました。それはまさにあの昔の賢者が言っていたように“万里の長い旅に出る時は最初の一步が一番大事である”と一致するものです。

私はついにその最初の一步を踏み出すことができました。そして、確信していえることは、完璧に正しい一步であったということです。それはまさに徳島市の竹原実太郎先生の寛大さ、ご親切のお陰であります。

竹原先生は私のかつてからの願いであった「剣道を始めたい。」という意向を聞かれるや、ただちにこの上ない便宜をはかって下

KENDO: MI PRIMER PASO José Ignacio MTZ. DE ARBUJO

El pasado mes de agosto comencé por primera vez a practicar el KENDO. Era una ilusión de hacia muchos años pero debido a que en mi país (España) apenas está extendido y a que mis estancias en Japón no han sido largas, no había encontrado el momento para empezar.

Por otra parte, quería acercarme al mundo del KENDO en su estado más puro. Por este motivo mi interés era comenzar los primeros pasos en Japón, con profesores japoneses. Como dijo un viejo sabio, “en un viaje de diez mil leguas, el primer paso es el más importante”.

Yo, por fin ya he conseguido dar mi primer paso y, con toda seguridad, en la dirección correcta gracias a la gran amabilidad del profesor Jitsutero TAKEHARA de Tokushima Shi, que al escuchar mi deseo de iniciarme en el KENDO, me ha dado todas las facilidades y todos los medios posibles para realizar un curso intensivo durante el pasado mes de agosto.

Desde estas líneas quiero expresarle mi agradecimiento por su afán desinteresado a difundir el hermoso arte del KENDO.

En mi país, España, que es donde resido habitualmente, me ha resultado imposible encontrar un lugar cerca de mi ciudad de residencia donde encontrar un Kendojō. El Judo, el Karate, el Aikido, etc., están plenamente implantados desde hace muchos años, sin embargo el KENDO es todavía un deporte desconocido para la mayoría. Posiblemente, el motivo del desconocimiento del KENDO está en que la mayoría de los aficionados a las artes marciales acceden a ellas en principio simplemente como un deporte más, o en algunos casos, en la búsqueda de técnicas de defensa personal.

Lo atractivo del KENDO para mí es precisamente este estado de pureza por el que aún no es un deporte más ni tampoco una técnica de defensa personal. El KENDO constituye para mí el acercamiento a otro tipo de pensamiento, a otra cultura. Se trata de una puerta de acceso a la forma de ser y de sentir del pueblo japonés.

No lo concibo como herramienta de lucha o enfrentamiento sino como una actitud, una forma de estar, una forma de conquista de uno mismo, donde el objetivo a vencer es el propio yo, hasta conseguir la libertad necesaria para que la práctica deportiva se convierta en un acto total e integrador, de la misma categoría, con el mismo fin que un acto de creación artística.

El KENDO, en último término, es para mí una parte más de mi formación como artista que me exige no sólo actividad mental sino participar con todo mi cuerpo en una acción global, donde concentración, precisión, velocidad, técnica e intuición, se dan cita en unos instantes para asomarse al mundo del arte y a través de él al conocimiento del alma humana.

Las características propias del KENDO, economía de movimientos, rapidez en su ejecución, elegancia y fluidez, intuición, la concentración y los reflejos que hacen que el pensamiento racional pase a un segundo término, así como la tensión derivada de una forma de actuar en la que no queda hueco para la duda o el error dado que no admite una segunda oportunidad.

Su filosofía de origen, siempre en el límite, al filo de la vida y la muerte, hacen que se aproxime a muchas formas de sentir el arte en todos los tiempos y culturas.

Así, manifestaciones artísticas como la Pintura de Acción americana (el Expresionismo Abstracto de J. Pollock), el Surrealismo de Dalí, el Informalismo Europeo de Tàpies o incluso artistas como Goya, cuya obsesiva temática era la frontera entre la vida y la muerte, participan en una u otra medida, de los aspectos mencionados que alimentan el espíritu del KENDO.

El principio del KENDO, desde mi punto de vista, es el de la simplicidad, el de con lo mínimo obtener lo máximo.

Exige por ello un desarrollo profundo de la técnica unida a una agilidad y claridad mental indispensable, factores éstos que son comunes a las grandes obras de arte.

Como he dicho al principio, el primer paso ya lo he dado, ahora se trata de seguir adelante en mi país, sin olvidar nunca las primeras lecciones recibidas, las más importantes.



鳴門武道館前にて家族とともに

さったのです。手段、方法、環境、……この上ないコンディションを与えて下さり、おかげで八月一ぱい集中的に指導を頂くことが出来ました。この紙面をとおして、剣道の素晴らしい芸術性を普及させるための先生の利害を越えての限りない熱心さに私の深い感謝を表するものです。

私の国スペイン、私の住んでいる街には近くに剣道場として独立したスポーツ施設がありません。柔道とか空手、合気道などはかなり定着していますが、剣道はまだ大多数の人々には知られていないスポーツなのです。

多分、剣道があまり知られていない理由の一つとして、大多数の武道愛好家は、原則として日本のスポーツをただ単にもう一つのスポーツとしてだけ実践しているだけにすぎないからではないかと思われます。又あるいは、自身の防衛の為の技術を追求するという目的のためだけに実行されているのではないかと思われるのです。

私にとって剣道の魅力とは、ただ単にスポーツとしての運動でもなく、又自身の防衛の技術習得としてでもない、まさにその人間が何かの行動に出るまえの最も純粋な精神の状態を剣道が持っているというところにあります。

剣道は西洋人である私に、別の思考方法、別の文化への接近を手助けしてくれます。つまり、剣道の中に、日本人の本質的な在り方、感じ方を理解しうる鍵があると思います。

剣道を戦いや対決のための道具であるとは考えません。そうで

はなく、一つの態度、一つの在り方、自分自身を律する一つの方法であると考えられるのです。そして、その目的は意識の主体である自分、“自己”を克服するところにあると思うのです。自己を克服した時点で“自由さ”、“無我の境地”に到達できるのではないのでしょうか。そしてその自由さ、無我の境地こそ、まさに芸術的創造のための行為に必要な境地であります。

つまり、スポーツの実践が、芸術創造の行為と同様、全体の行為になりうるために必要な“自由さ”を求めているという意味において同じ目的を有しているのではないかと思います。そして、その時点で二者は同じカテゴリーに構成されうると考えられます。剣道は最終的に申しますと、私には芸術家としての人間形成にもつながると考えられます。

剣道は精神的活動を要求するばかりでなく、私の全身体で、総合的な行動に参加させます。そこには、集中心力、的確さ、迅速性、技術、直観力がただ一瞬の間に要求されます。その一瞬は、芸術の世界を垣間見るために、そしてその世界を通して人間の魂の認識することに通じます。

剣道の特性として最小限の動き、遂行の敏速性、端麗さ、流動性、直観力、集中心力、反射力等が挙げられると思います。そしてそれ等が理性的思考を遠景に追いやり、その行動の仕方から派生される緊張、疑問や誤りの余地のない、二度目の機会を許さないところの行動方法は芸術の世界に近いものがあると思います。

又、剣道の哲学的起源は常時その限界の状態に在ること、生と

死の両刃の境にいること、それはいつの時代や文化において芸術の多様な表現方法、感じ方に近似するものがあると思います。そのようにして米国画、アクションペインティング、(エクスプレシオニスム・アブストラクト)のジャクソンポロックやシウルレアリスムのダリ、ヨーロッパ、インホルマリスムのタピエス、ゴヤ等、彼等の芸術的表明は、執念的に主題として、「生と死の境」であつたと考えられます。

これらも又前述同様なんらかの割合で剣道の精神の扶養に關与するのではないのでしょうか。

剣道の起点は私の視点から申しますと、その簡索性、最小のもので最大を得るといふところにあるのではないかと思われまふ。そのためには軽快で明白な考え方に与えられたところの技術を広く、深く発展させることが要求されると思ひます。そしてそれらの素因は偉大な芸術作品と共通する不可欠な素因でもあります。初めに申しましたとおり、最初の一步はもう踏み出すことが出来ました。今はただ私の国スペインで前進を続けるばかりです。最初に受けた指導、「一番大事」である最初の指導を決して忘れることなく……。

妻の実家(徳島)に滞在 ス페인人父子 剣道に魅せられ猛練習



「剣道ハ高情ヲシヤ」。スペイン人父子が、妻の実家(徳島)に滞在して毎朝の妻の実家に滞在し、夫の剣道教室で毎日「ムーン」「サン」を気合のこもった掛け声とともに竹刀を振っている。けいこを始めてまだ1カ月ほどだが、剣道も舌卷くほどの上達ぶりだ。父子は「日本文化の奥情のしるべき実情である。スペインでも剣道を通じた」と目を輝かせている。

徳島新聞より

開始1カ月で メキメキ上達

一昨(26)日、スペイン人父子が、妻の実家(徳島)に滞在して毎朝の妻の実家に滞在し、夫の剣道教室で毎日「ムーン」「サン」を気合のこもった掛け声とともに竹刀を振っている。けいこを始めてまだ1カ月ほどだが、剣道も舌卷くほどの上達ぶりだ。父子は「日本文化の奥情のしるべき実情である。スペインでも剣道を通じた」と目を輝かせている。

「国でも続けたい」
剣道教室の先生は「剣道は、日本の文化の奥情のしるべき実情である。スペインでも剣道を通じた」と目を輝かせている。

先生を偲ぶ



ありし日の下村先生

下村富男先生言行録

副会長 勝沼信彦

下村先生は全日本選手権に十回徳島県代表として出られた達人です。先生は素晴らしい教育者でもあり、県下の学校剣道連盟を育て上げ、多くの学校剣道の指導者を育てられ教職員剣道のゴッドファーザーでもあります。また医学部剣道部

師範として、医学生と一心同体で「剣の素晴らしさ」を教えて下さいました。私が今日の剣士になれたのは先生のお蔭であります。ここに下村先生が常々言っておられた事を思い出すままにまとめて、先生の遺徳を忍び後進の参考にしたいと思えます。

一、剣道の哲理

① 「生涯之勝」

剣道も、学問も社会生活も、夫々が一駒の勝負の積み重ねであります。一つ一つの勝負に勝ち抜き続けてゆくことが人生という究極の勝負に勝つことである。

② 「大将・王者の剣」

剣の修業は大将・王者の剣を学ぶ事である。

③ 「大将討死の心得」

相手がとてつもなく強いと感じた時は大将としての討死を心がけよ。

④ 「無住心剣流の相抜けの心」

相手も生かし、自分も生きるのが相抜けの心

⑤ 「剣尖は打つ時、以外は揚げるな」

臆病心が手元を揚げさせる。

⑥ 「剣は間合いと拍子である」

敵から遠く、自ら近い間合いを心得る「拍子」は破調である。いくら早くても順調の「拍子」は駄目である。

⑦ 「剣道は相手を「ハット」とさせたら勝ち、自分が「ハット」とさせられたら負け」

気で攻めて、相手が。ハッとした時は心も筋肉も硬直しており動けない。ハッとさせ得るか、ハッとしないかは人間力である。

人間力を鍛えよ。

二、剣道の技術の秘訣

①「初一本の大事」

誰と稽古をする時も、初一本は真剣勝負のつもりでせよ。

②「剣の技は全て突きから始めよ」

突きの出来る構えは正しく、しかも剣尖がきいている。

③「自分の稽古・勝負を繰り返し返り頭の中で再現して考えよ。頭

の中でスロービデオのように再現して工夫せよ」

④「打たれる事を嫌う人は上達しない、人生も同じ」

⑤「胴打ちは右手首の技である」

下村先生は三十センチの間合いで見事な胸を抜かれました。

先生は右手首をクルクル回して右胴打ちは右手首の軟らかさ

だとおっしゃいました。

⑤「剣道の全ての打ちは左手の小指・薬指の技である。逆胴も

同じ、右手で打ってはならぬ。ただ一つ、正胴打ちは右手首

の返しと右手の親指・人差し指の技である」

⑦「面を打つチャンス」

面を打つチャンスは、わずかでも相手の頭が、前または後

ろに傾いた瞬間である。

下村先生が亡くなる前、入院されている所へ見舞いに行つ

た際、これを読んでおいてほしいと先生の日記を私に渡されました。その中に日付をつけず、先生が日頃思いつかれたことを書き留められている箇所があります。先生のお人柄が偲ばれますので以下に転記することとします。

○生徒を処分したり指導したりする時、神や佛であれば如何にするであろうかと考えてみる事が大切である。

○正直に慎み深くおごらざる様を佗という。

○良い笑いは家庭を明るくする。

○繁栄の中でも窮乏を忘るな。

○物を失つて後にその真価を知る。

○己に勝つは決して小さい勝ちではない。

○生活は簡素に、思索は複雑に。

○忍耐は苦しいけれどもその実は甘い。

○言うべき時を知る人は黙すべき時を知る。

○人の長短は見易く己の是非は知り難し。

○自信は成功の第一の秘訣である。

○口には怒れども眼には笑みを湛う。

○労力なくば安楽もなく休息もなし。

○己を尊ぶ者は万人これを尊ぶ、

○知らざるを知らずとせよ、これ知るなり。

○記憶の力はこれを練磨しなければ衰える。

○人は瞬間といえども義務のない時はない。

○自ら働いて得たパンほどよいものはない。

- 苦は楽の種、楽は苦の種と知るべし。
- 真面目とは実行するということだ。
- 忍耐は仕事をささえる一種の資本である。
- 実例は教訓の十倍も有効である。
- 人を許すはよし、忘れることはさらによし。
- 汝の仕事を追え、仕事に追われるな。
- 真の欲求なくして真の満足はない。
- 人生の真の富は人に施した善行である。
- 全世界を知るは易く己を知るは難い。
- 力よりも優しさの方が効き目がある。
- 休息は必ずしも怠惰ではない。
- 人に勝たんと欲する者はまず自らに勝て。
- 良い言葉の一つは多くの本の一冊に勝る。
- 今日成功は昨日の努力の賜。
- 一日延ばしは時の盗人である。
- 正義の最大の果実は魂の平和である。
- すべての人にはその個性の美しさがある。
- 第一の財産は健康である。
- 人は尊敬するが故にのみ尊敬せられる。
- 生きるということは考えるということである。
- 人の知識はその人の顔に光あらしむ
- 親切は社会を結合させる金の鎖である。
- 見知らぬ人の挨拶にも丁寧な礼を返せ。

- 人生には友情より気高い快樂はない。
- 勤勞によらない富の所有は罪惡である。
- 愛は万人に、信賴は少数の人に。
- 人我に背くとも我人に背かず。
- 河が深ければその水は滑らかに流れる。
- 人は教える間に教えられる。
- 有頂天の歡喜は常に悲哀に転ずる。
- 人は用い方にて物の用に立つものはない。
- 約束は易く、実行は難い。
- 一度言つた事には責任を持つて。
- 苦勞の中にこそ真の樂しみがある。
- 得ることを思うよりは得る資格を養え。
- 失敗の原因を知れば即ち成功すべし。
- 善事も一貫しなければ真価がない。

「自戒」

二十一世紀に向かつて躍動せんとする、世界的視野を持った日本人を育成する教師であることを自覚すること。

オアシス運動

お早うございます。ありがとうございます。親切。すみません。
 楽しみは控え目に　―菜根譚―　口、心
 うたたねの我が枕辺に立ちし亡母勤め励めと言うて消うたり
 亡き母の夜毎に立つや夢枕不肖の我を励まし賜う

薬王寺詣りの四季

○女厄坂の下りで鐘の音におどろく(春)

○本堂で大師を見た(夏)

○十六夜月の残照の美しさ(秋)

○唯一回の積雪に薬王寺橋に足跡を印した感激(冬)

百居ても同じ浮世に同じ花 月はまんまる雪はしろたえ

永田 貞柳

動中の工夫は静中の工夫に勝ること百千万倍



ありし日の下村先生
(国体監督として)

青年は未来社会から来た留学生である。

教育には勇気が必要である。教師は常に真の勇者たれ。

だらしのない教師はこのくらいと見逃しているが、生徒も自分も教育そのものも駄目にする。



則天去私 漱石

浮世から何里あろうぞ山桜 山本常朝

先手挨拶

坂本吉郎先生を偲ぶ（その二）

編集委員

木原資裕

坂本吉郎先生は、明治三十四年十二月三十日に阿波町東林で生まれになり、少年期を徳島で過ごされた後、お父様の事業の關係で、大阪へ出られました。大阪府立都島工業学校（旧制）卒業後、大阪府警の警察官となられ、その後、剣道主席師範、剣道範士八段、居合道範士九段となられ、剣道・居合道の発展に多大な貢献をなされています。その間、昭和四年の昭和天覧試合に大阪代表として出場された徳島が生んだ名剣士であります。昭和六十二年十一月に八十五歳で亡くられています。

坂本先生のお人柄については、現在、居合道範士九段として活躍されている福田一男先生より「徳島の剣道第十四号」に「恩師坂本吉郎先生を偲ぶ」として心洗われる特別寄稿をいただきました。

『徳島の剣道第十四号』発行後、坂本先生のご長男でいらつしやる坂本吉樹様より、堀江幸夫先生を通して、坂本吉郎先生が題字を揮毫され、原稿をお書きになつてゐる「都島工業高等学校剣友会誌」と昭和三十七年七月二十三日より、「盤上人物ウイークリー」と題して、十回にわたつて当時の新聞に掲載された記事を送つていただきました。また、当時の何という新聞に掲載されたのかを確認するために、私の方から手紙を坂本吉樹様に出しましたとこ

拝復 堀江先生からも、父の記事を掲載して頂く事を承っていました。お世話様です。お問い合わせの、記事は、当時の大阪日々新聞で、夕刊だけが発行されていたのかも知れません。講評指導に当たられた、石井邦生五段はいまは九段で、活躍されながら、テレビでも重要対局の解説に時々出演なさっています。

ウイークリーにも出身校の事が書かれていますが、父の題字と記事のある都島工業高校の剣友会誌が残っていましたので、同封しました。コピーを先にお届けしているかも知れません。

私も、間もなく古希ですが、囲碁、将棋、音楽など、多趣味を誇つて、もてあます暇とて無いのですが、父の多趣味を思うと、半分位は受け継いだかと思う程度です。父は、昭和の始めに、すでにマンドリンを習い、尺八も手掛け、蓄音機を愛用し、残しているレコード（音盤）は、クラシックから小唄、端唄、流行歌、落語に及んでいます。

都島工業では、剣道がやりたくて1年留年したのか、剣道のやりすぎで、勉強の暇が無くて、留年させられたのか、事実はもう判りませんが、とにかく留年したために、1年下級生の友人との縁ができ、その妹が、私たち子供8人（上3人はダンゴ3兄弟）の母になったという訳です。

比べるには、恐れ多くも、昭和天皇と同年で、ともに、大変な時代を生き抜いて、苦勞も多いが、生きがいもあったことと思います。

以上ご返事までよろしくお願い致します。

敬 具

平成11年3月26日

坂 本 吉 樹

桃の季節

堀江幸夫

お稽古をいただいた後、汗を拭う坂本先生にご挨拶すると、「ナー堀江、お前との稽古は面白くない、西（大阪 西善延範士）と稽古すると面白い、ぐっとはらにひびいてくる。」それは昭和四十四年の三月九日、旧武道館の朝稽古での訓え。以来、腹にひびく肚にこたえるを念仏を唱えるように五星霜やつと八段の峠にたどりつく。桃の花咲く頃は私にとって特に坂本先生のきびしさで温かさ、交々の慈顔を思い出す季節である。

ろ、別紙のようなお便りをいただきました。坂本吉郎先生の雰囲気とそのまま感じられるような文章でしたので、全文掲載させていただきます。

また、堀江幸夫先生からも、坂本先生のご指導の思い出を寄せていただきました。

大阪日々新聞の「盤上人物ウイクリー」はその当時の大阪府柔道連盟会長で大阪府警の柔道師範・柔道九段の浜野正平先生と大阪府警剣道師範・剣道八段の坂本吉郎先生が囲碁で対戦されている模様を石井邦生プロ五段（現九段）が解説しているものです。紙面の関係上、全文は掲載できませんが、以下に、坂本先生の人柄が忍ばれる場面を抜き書きしてみました。

〈坂本先生の風貌（六十二歳当時）について〉

ヤセ型でふさふさした髪にはかなりの白いものがまじる自称「わしや、まだ青年じゃ」―俳優の笠智衆にウリ二つ。大正時代の若槻礼次郎にも「よく似ている」といわれるそうだが、全然飾りつ気のないところは野人武蔵の感ひとしお。

〈対戦前のあいさつ〉

坂本さんは正座をしながら盤面に向かう「挑戦だからチョウ先といきますか」・・・「それじゃお願いします」親しい仲だが、やはり柔道と剣道に精進した人だけあって、試合前のあいさつは堂に入ったもの。

〈坂本先生の性格〉

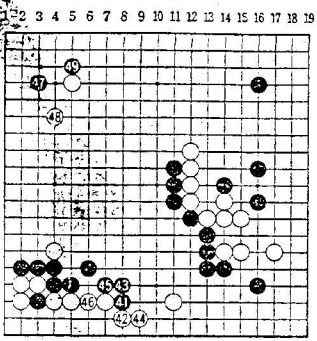
・・・いま夫人と七人暮らしだが、男三女五の子福者で、その

盤と人物ウイクリー

名士囲碁戦

第三陣
【41-49】

白 坂本 三平
黒 坂本 三平
(大塚秀三郎監修)
坂本 三平 監修



坂本三平の囲碁は、その鋭い頭脳と、冷静な判断力、そして、その独特のスタイルで、戦界を驚かせた。この戦いは、その風格を十分に発揮している。特に、この局では、坂本三平の深い計算力と、相手の弱みを突く能力が、よく表れている。この戦いは、囲碁の歴史に残るべき名局の一つである。



坂本三平先生
坂本三平先生は、囲碁の天才と呼ばれた。この写真は、先生の晩年の姿を捉えている。先生は、囲碁を通じて、多くの人々に感動を与えた。先生の没後、先生の名は、依然として、多くの人々の心に残っている。

益智衆とウリニ

この本は、囲碁の歴史と、その発展を、詳しく解説している。特に、この本では、囲碁の歴史と、その発展を、詳しく解説している。この本は、囲碁の歴史と、その発展を、詳しく解説している。この本は、囲碁の歴史と、その発展を、詳しく解説している。

苦勞からにじみ出たホオのやつれや、おどけたしぐさ、ちょっとあわてん坊のところなど、まさにスクリーンの笠智衆そのものを感じた。・・・天下の名剣士に対してあわてん坊などといえば、まことに失礼なのだが、この人はいかにもユーモアな雰囲気を作り、多くの愉快な思い出がある。碁に夢中になってタバコを逆さにすつたことがちよいちよいあるそうだが、すっかり白くなっている鼻のたくわえ毛がチリチリとくすぶり、思わず飛び上がって優勢な碁盤をひっくり返し、勝負なしとなった例など・・・。

〈中学時代のエピソード〉

中学のころである。『ポテシヤン』というあだ名の物理の先生がいて、だれもが一番恐れれていた。ある日、寝屋川の碁会所で新開碁会があり、坂本少年は授業をさぼって打ちに行った。ところが講義があるはずの『ポテシヤン』もきているではないか。「キサマ頭が痛いといって早退したのと違ったのか」恥も外聞もない。ポテシヤン先生は大声でしかりとばした。だが好きもの同士、盤をはさむことになったが、白番で三回連続勝ち。坂本さんが十八歳の五級、先生の方は六級だったが、以来、ポテシヤン先生、何かにつけ坂本少年に当たり散らし、成績もいい点をくれなかった？ そうだ。

〈剣道と碁について〉

・・・「私は世の中の苦しさを覚えたときに剣道と碁を知った」という坂本さんは、『無我の境』『無心』を最良のものとして剣道、棋道に心のよりどころを求めた、と述懐する。

〈碁の虫〉

・・・「打つアホウに見るアホウ、同じアホなら打たにゃ損、損」・・・「打たん日は数えるほど」碁の虫である。・・・趣味は若さの特効薬。

〈警察官への道〉

家は百姓アイ彩色業。だから都島工業学校を卒業したのはわかるが、大阪の電気屋に五年間勤めたあと大正十五年に警察に入ったのだから変わりダネだ。しかし理由は簡単。武徳会に籍を置き剣道三段だったので「先生になってくれ」と誘われたわけ。「いや、警察に入ってよかったですよ」と、坂本先生は大いに人生意気を感じているから、芸が身を助けた良き例というもの。しかし、「先生、先生」といわれながらも、本務は厳しくつらかった日も多かったという。府警の専任師範になったのはさる二十六年前。いまでは越川主任師範とともに府警にとって大切な存在。剣道は十一歳のときから始め昨年八段に昇段した。

〈昔は神童……〉

坂本さんの碁歴は古い。小学校時代、初段の父と近くの和尚さんと代わるがわる打ってもらったが、翌年にはもう初段の父に三子で打つほど強くなったというから天才だ。もともとこの人、近所の人から神童といわれたそうで、縁台将棋も幼稚園のころ大人を負かしたというからワセだ。

〈勝負観・人生観について〉

すべて勝負の道には必勝の信念が必要。勝負はいつも紙一重で

あり、負けるのは自分の心が「ダメだ」と、心のスキが原因となる。チャンスの裏にはピンチがあり、ピンチの裏には必ずチャンスがあるのだ。だから、いつも「忍の一字」反撃のチャンスをつかもうという気力がその人を成功させるかどうかにある――と剣の道で鍛えた人らしく、話にますます力がこもっていつ果てるとも知れなかった。

※ 浜野柔道九段との対戦は、所要時間一時間四十分、百九十三手で、坂本先生が勝たれています。



健将

都島工業高等学校剣友会

発行

編集者／岩井重良

題字「無 倦」

坂本吉郎師範筆

昭和56年5月〔3号〕

六十数年前の初陣

大正十五年 M科卒 坂本 吉郎



運動は好きで、何でもやってきたが、なかでも剣道は好きだったが、誰もひいてくれる人もないまま上級生の稽古を只眺めていた。剣道場と云ったものはなく、昼食を済ました跡の生徒控所のテーブルを（腰掛はなく立食だった様に思う）一方に片付けて、靴のまま出入りする。泥だらけの板の間を掃き清めた道場でいつも六、七人の上級生が稽古するのを見れていた。

（柔道の道場は三十坪位の程遠い運動場の西北端にあった。不公平だなあと常に思っていた。）
上級生の松井某と、中国人の生徒、呉無小の二人は強くて何でも何所かの大会で活躍して見事優勝を飾っていた。
この生徒控所兼道場の西北端に一室をとって、生徒監兼体操教師の加藤先生、ニックネーム「ピン将」と「カンテキ」の二人の先生が居られて、常に生徒にニラミを利かせていた。「ピン将」の時間は旧式の村田銃（下級生にはと重すぎた）をとっての兵式訓練と剣道の稽古。この剣道の時間が一番うれしい時間だった。「カンテキ」先生の出て来られる時は徒手体操、武器庫から銃を持ち出した

り、剣道の防具をいじっている友人たちに「オーイ、今日はカンテキ踊りやぞうと、知らし合っているのが聞こえたらしくて、カンテキ先生にコッピドク叱られた事があった。きびしい中にも優しいさのある懐かしい先生であった。
三年生の夏休みに、どんなきつかけか忘れたが、同級の友人「湯川」「土江」私の三人が所轄の福島警察署に毎日剣道の稽古に行くことになった。署員の多田巡查（現在八十五才、健在にまだ稽古されている）福田巡查の二人が親切に教えてくれた。
休暇後登校して皆と竹刀を合わせて見ると私は急に強くなっていた。
その秋の大阪商大の中等学校優勝大会に、名誉ある先鋒に抜擢されて出場することになった。初めて選手用の黒胴の防具（と云ってももちろん、ほろほろだった）をかっついて、皆と一緒に

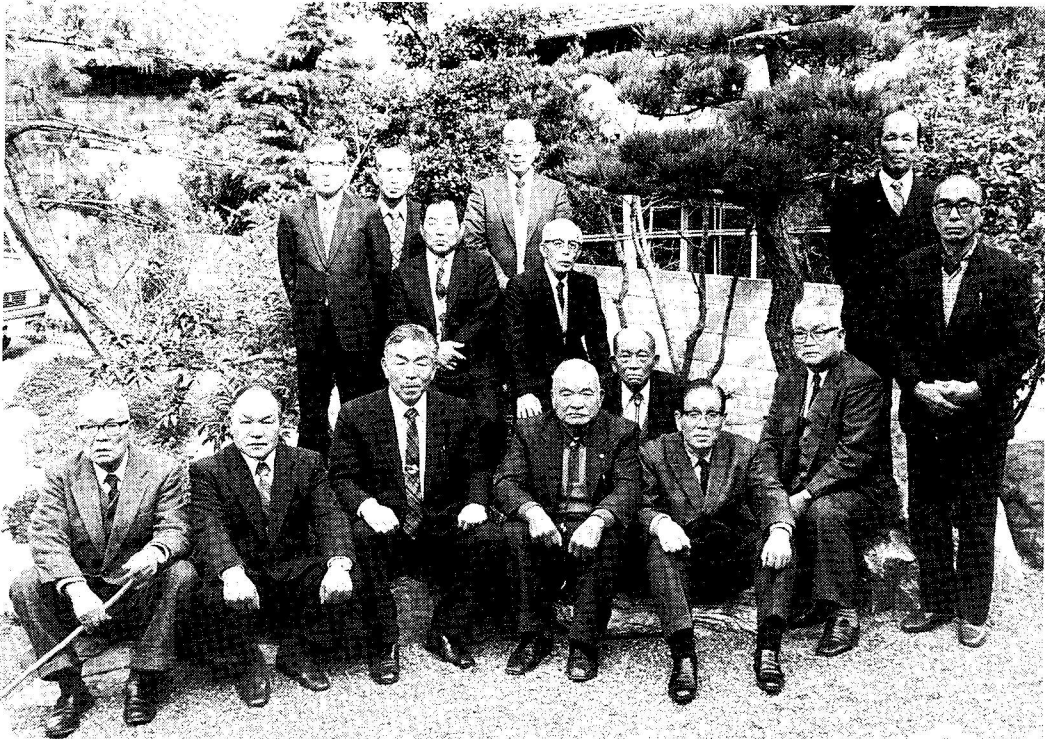
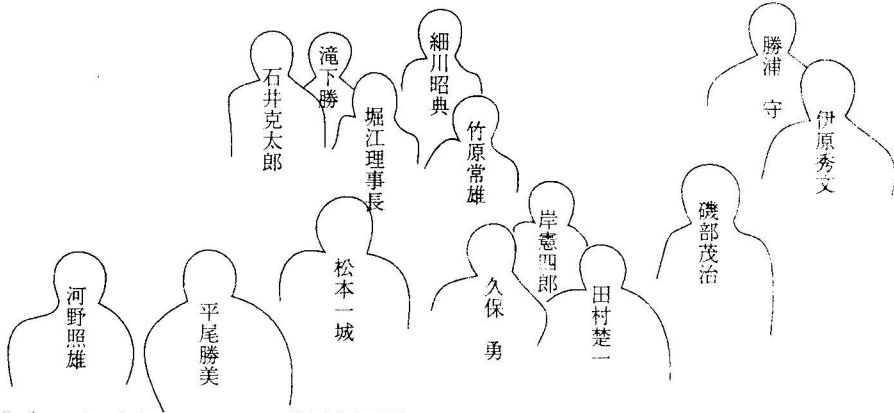
に出かけた。
前の晩一睡もせずと考えた技が、敵が出てくると感じた一瞬素早く振り上げて面を打ってやろう。果然私の企画は適中した。途中、種々の曲折もあったが私の抜き目は大いに功を奏し次鋒、中堅、副将の四人をなぎ倒して残るは敵将只一人となった。「ヨシ、もうあと一人だな」とはりきりすぎたのが悪かったのか、惜しくも敗れ、あとはどうなったのか残念ながら五人共杖を並べて死亡、見事、逆転負けを喫したのを覚えている。相手校はどこか。メンバーは何も記憶はない。
一栄、一落
六十数年前の初陣、憶い出の一幕である。

思い出の一枚

名誉会長

堀江 幸夫

昭和五十七年二月十三日、鳴門市小海シーサイド瀬戸で瀬戸の美しい海を眺めつつ、昔を語り、今を論じ、将来の展望に夜を徹した審議会開催寸前の今は思い出なつかしい一コマです。



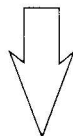
審議員16名（下村、柴田、林三審議員は遅刻のため）

私は誰でしょう

今回新しい企画として、みな様がよく知っている先生方の若き日の写真を提供していただき、その顔つきの変化を見ていただくとするものです。



① 昭和十七年八月二十四日 剣道四段（武徳会）
ビルマ国ラングーン第百六兵站病院
陸軍中尉（向かって左）



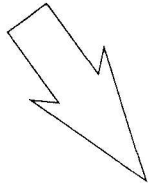
復員後四十才の八月 剣道六段
北海道アイヌ村にて



③ 右から二番目 八才当時の私



② 五才当時の私



同国体の次鋒として出場しました。(二十八才)



昭和五十八年群馬あかぎ国体の先鋒として出場しました。(二十三才)

現在の私

① 勝浦 守(八十二才)



② 福多 雅英(四十才)



③ 近藤 亘(四十五才)



全国講習会報告

西日本中央講習会と

伝達講習会を終えて

評議員 来代 真治



稽古に指導にと、共に自らの至らなさを日々悩みつつ、自殺を志すという程の状況には踏み込まぬにしても、己の手に余る目的を志し、そのために悪戦苦闘し、力の及ばぬ自分を呪い憐れみ、更にまた努め苦吟するという生き様は、ある意味で剣道指導者または剣士として、自分の生存を賭けた人生の危機に違いない。

この危機を経ぬままに、人が何かを真剣に信じ、身を委ね、救われることなどあり得ない。即ち、修道者としての原体験を得ることではなく、真の自力を持つことなど不可能なのである。

神戸で行われた講習会における講師の先生方は、まさに剣の道における原体験を経てこられた剣聖達。私はこの機会に、ガンダラまでいった玄奘三蔵とはいかないにしても、苦吟する剣士達に宝典を持ち帰ることが出来るに違いないとの思いを胸に、神戸へ

と聞かされた。

講習会の内容は、期待を裏切らないういせわしさをそれと上回るものであった。指導法の小林講師、審判法へ国分講師、剣道形は熊本講師、三人の範士八段による三日間の講習は一瞬たりとも気の抜けないものであった。

それにもまして、講習生の中に八段が多かったせいか、稽古を含めた会そのものが原体験と呼べるものであり、私などは末席を汚すことのないよう細心の注意を払いながらも、同席できる喜びをかみしめ、全力で事に当たった。

二日目には講師先生を囲んだ懇談会が行われた。酒の席にも関わらず、誰一人として酔うこともなく、剣の話による鋭い鎬合いが続いた。受講生も柔和な言い回しながら、鋭く突いた議論を繰り広げ、講師先生方と共に話題をさらに昇華させていく。

講師先生方から頂いた貴重な講話と講習資料に伴う剣心を書き留めながら、私はこの講習会を終えた。帰県後、県下の指導に当たっておいでる先生方に対する伝達講習会を行ったが、講習、および資料の内容については無事に伝えることができ、安堵した次第である。

最後に鳴門における私の伝達講習を熱心に聞いていただいた先生方々に感謝すると共に、今回の中央講習会に参加するにあたって様々なご配慮を頂いた徳島県剣道連盟に対して、深くお礼を申し上げます。報告とさせていただきます。

日本剣道形の効果と修練上の留意事項

◎日本剣道形の効果

- 1、形の修練によつてまず、旺盛な気力の充実、心を練るとともに剣道修練上の呼吸の会得。
 - 2、礼法を身に付け、冷静にして沈着の態度の養成。観見の眼付けが養われる。
 - 3、稽古における姿勢が正しくなり機敏性が養われる。
 - 4、稽古における技術上の癖の矯正。大業で刃筋正しい竹刀の使用を身に付ける。
 - 5、間合・打突の機会・残心を学ぶ。
 - 6、技の順序を覚えるのみではなく、形の理合の習得。
 - 7、形の修練によつて気品・風格・気位が身に付く。
- このように種々の多大な効果が得られるものである。現在の形は、竹刀剣道にふさわしくないものという人がいるが、これは大きな誤りである。

先に述べたような形の修練によつて、竹刀を使用しての日常の稽古の基礎を作る上に必要欠くべからずものといえる。

「正しい心・正しい姿勢・構えからの体の捌きによる抜き技・すり上げ技・返し技・受け流し技等々は、形による基本の稽古の積み重ねによつて正しい剣道を学び、その剣道が勝ちにつながる」以上のように形は、その基をつくる上に多大な効果がある。

◎形の修練上の留意事項

- 1、形は大きく雄大に行うよう心掛けること。
- 2、呼吸を整えること。一本の形をせめて二呼吸で行なうよう心掛けること。段々と上達するにつれて一本を一呼吸で実施するよう修行すること。
- 3、目付けを誤らないようにすること。
- 4、前進後退のとき上半身を腰に据えて動作し、肩や腰を振らないこと。
- 5、足さばきは、すり足で音をたてないこと。
- 6、太刀は「機を見て」、小太刀は「入身にならんとするを」の打つべき機会を心に留めて行なうこと。心十身十術
- 7、充分な気位で残心を示すこと。
 - (1) 打太刀は仕太刀に充分な残心を示すよう配慮すること。
 - (2) 仕太刀は残心を示した後、打太刀の動作に従うこと。
- 8、打突は約束の部位を正確に打突すること。(特に小太刀は正確でなければならない)
- 9、頭上に振りかぶった剣先は下がらないこと。
- 10、緩急強弱と充実した気魄。(発声は腹から大きく)
- 11、約束上の構えの変化は守らなければならない。(間違つてもやり直さないこと)
- 12、機とは、相手の心と体と術の変わり際に起こるもの、「きざし」である。

この場合、打太刀が仕太刀の勝つ機会を教えているもので、

打太刀は仕太刀の充分に気の満ちたところを見て打つこと。形を修練する場合は大先生方の生命をかけて作られたものであるから「守・破・離」の「守」の段階で行なう心掛けが大切である。



女子審判講習会に参加して

鳴門支部

竹内 佳代子



六月十九日(土)～二十日(日)に行われた第四回女子剣道審判講習会に、徳島県を代表して参加させていただきました。私にとっては初めての参加でしたが、細かく先生方からご指導をいただくことができ、大変有意義な講習会となりました。このような貴重な機会を与えていただいたことに心より感謝すると共に、少しでも実践に生かされるように努力したいと思います。

審判の心構え・・・長尾講師

厳しく判定を行なうことにより、試合が引き締まってくる。

○戦国時代——ルールのない時代

自ら倒れた方が負け。

○幕末——立合いだけ

立合いがあっても突かれた方が負け。

○明治～昭和

大きな大会は、六会場で行われるようになり、統一が必要となりルールができた。

十年に一度改正を行なっているので、熟知してほしい。
有効打突——気剣体一致、残心

レベルに合わせ基準を決める。有効打突の見極めが一番大切。

試合が終わるたびごと互いに反省会をし、意思統一が必要。

判断は、自分の信念で。半拍おいてもかまわない。

一番見える人があげた時、見えない人が取り消しては信用性がなくなる。

三人三様の動きではなく三人が一体となって動く。

試合・審判規則要点説明・・・角講師

女子の大会には、できるだけ女子の審判をとという願いをもっている。

命がけしてほしい。体の傷はなおるが、心の傷はなおらない。

剣道の質を高めると共に、試合者が納得がいき、これからの勉強になつていくような審判を。

常に疑問をもつてやらなければいけない。

幼少年にとつては試合は重要。十回の稽古に値する。剣道への失望感を与えかねない。だからこそ、「剣道の審判は難しく、人を裁く」ということは、自分自身も裁かれるということであり、剣道における審判員の任務というものは、まさに剣道の盛衰興亡に

かかわる重大問題につながる」のである。

○指導法の重点事項

- ・ 正しく強く
- ・ 技術以前の礼法、着装、竹刀手入れ、などを徹底する。
- ・ 刃筋、手の内、刃え、鎬の使いなど。
- ・ 一足一刀の間合いから一拍子で正しく打ち切る。
- ・ 年齢相応の応じる技
- ・ 正しいつばぜり合い、つばぜり合いからの技
- ・ 講話を積極的に取り入れる。

*このような指導が生きてくるような試合審判を！

○審判の技術とは何か。

- ・ 誠実さと勇氣。
- ・ 当たりだけでなく、打ちを見極める。
- ・ 冷静さ、即決、信念。場数をふむ。
- ・ 規則集の中身の熟知。
- ・ 日々修行。

○有効打突

- ・ 打突の意志、体勢、ポイント、強さ
- ・ 当たった瞬間だけに目がいってはいけない。(おこり、瞬時、直後)

○反則事項

- ・ 深く、正しくが剣道の目的。
- ・ 双方が命がけ、格闘か故意の技かの見極め。

第二十六回居合道

中央講習会に参加して

居合道部長

原田 勝

○目付けが一点に凝縮してしまっている。

○試合者の先をよんですばやく動く。

○見落としのないように。

○「有効打突の宣告」と「やめ」の号令は、命令調に力強く。

○昼からは、緊張感がとぎれがち。精神的なスタミナをつけるべき。

○先の技なら、拳三分かかって一本とすべき。

○気持ちの切り替え。一本目があさい、しかし、二本目。次の技をすぐ見る。一本打ちでやめない稽古の積み重ねを大切にす。

以上のような、ご指導をいただきました。



平成十一年九月四日（土）から五日（日）にかけて京都市武道センターに於て平成十一年度の居合道中央講習会が開催され、本県からは平尾勝美先生と私の二名が参加させて頂きました。この講習会は伝達講習を条件とし各都道府県剣連

において中核となる指導的立場の者を対象に行われるものです。その内容は全剣連居合と審判実技の講習を重点に行い技能の向上を図ることを目的としたもので居合道六段以上（六段以上の適格者がいないときは五段を認めることがある）の者で各都道府県に帰り責任を持つて伝達講習のできる適格者でなければならぬとされておりその責任は重大であります。その人員も限られたもので、東京都は四名 埼玉県・神奈川県・千葉県・愛知県・大阪府・福岡県は三名 その他の道府県は二名で合計百二名の参加者でした。

一日目は全剣連居合の講習であり、その作法と技術について一本目から十本目までの解説を大阪の範士九段福田一男先生が行い、模範実技を新潟の範士九段草間昭盛先生が行なわれました。午後

は各段に別れて居合道委員の先生方が実技指導にあたり、八段以上は大阪の福田一男先生が担当され、八段者同士向かい合って抜きお互いが悪いところを指摘しあうもので、私の相手は大阪の剣、居共に範士八段の柳生秀男先生であり私のみが直して頂くばかりでした。福田先生はたとえ相手が範士でも遠慮すると言われておりましたが、どうにもなりませんでした。

二日目は大分の範士九段河村好雄先生による居合道試合・審判規則解説があり、その後大阪の範士八段池田晃雄先生による審判実技を通して勝敗の判定基準と審判での着眼点の説明ならびに宣告、旗の表示要領についての説明を受けた後に交代で審判実技を行ないました。午後は各流派に別れて古流の研究会となり、他の流派の事も良く分かり大変良いことだと感じました。年々全剣連居合は統一され大変良くなったことは喜ばしい事だと感じつつ、講習会が終了しました。

帰県後の九月十二日、徳島市農村環境改善センターに於て伝達講習会を行いました。平尾先生が解説を行い、私が実技を担当しました。受講者が二十二名と少なかったのが今後の課題となりましたが、無事伝達講習も終了しました。

四国地区講習会を終えて

理事長 藤本辰夫



昨年五月に開催されました全剣連主催の四国地区講習会は平成十一年三月の県剣道連盟総会において新執行部が発足して初めての大会イベントでした。

新体制となったばかりの執行部にとっては、現在の日本を代表する先生方を多数お迎えしての講習会だけに、果たして何の落ち度もなく無事やり遂げることができののだろうか、不安で一杯でした。しかしながら、一方では若さを武器としてみんなで一生懸命を惜しまず動けばどうにか結果を出せるだろうという開き直りに近い気持ちでもありました。

そして、遠藤会長をはじめ、堀江名誉会長、大澤副会長等、県剣連挙げての知恵と努力をお借りして無事成功裏に終えることができました。特に裏方としてお世話をして頂いた女子部の皆さんの細やかな心使いには講師の先生方からも大変ご好評をいただきました。この講習会の成功は、このような関係者一人一人の誠意と努力が結集したおかげであるとあらためてお礼申し上げます。

この講習会の苦労話を一つだけご披露したいと思います。講習会初日のお昼頃になって講師の先生から、会場正面に掲げてあり

第三十七回西日本

中堅剣士講習会に参加して

評議員 来代真治

まず全剣連と県剣連の旗の位置が逆ではないかというご指摘がありました。全剣連の主催する大会では向かって左側に全剣連の旗があるとのこと。

もし、旗の位置が逆であれば開会式の時の写真が使えないことになりました。これは一大事であり、協議を重ねてもどちらが正しいのか結論が出ませんでした。その時、森川澄生先生が奥様に電話で問い合わせさせていただきました。そして、奥様は茶道のお作法の本で調べて下さいました。その結果「日本古来の伝統では向かって右側が上席とされていたが、明治以降外来文化が入って来て向かって左側を上席とするところが多くなり、現在では関東は左、関西は右を上席とするところが多いようである。」とのこと、関西流で考えればそのまま問題はないという結論に達し、こと無きを得ました。

この旗の位置のように人や地方あるいは年代によって価値観が変わるのはやむを得ないことであります。したがって、ことにあったては固定観念を持たずに常に柔軟に対処するよう心掛けることが大切であるとの貴重な教訓を得ました。

まだまだ未熟な我々執行部ではありますが、全員一丸となって全力で前向きに努力して参りたいと存じますので会員の皆様方のご支援ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



私が初めて西日本中堅剣士講習会に参加したのは、柳生での講習会が東、西日本に分かれた七年前のことである。あれから六年の歳月が過ぎた昨年、私は二度目の柳生講習に参加することとなった。

受講者は、各府県を代表する強者揃い。講師は剣道界屈指の先生方。このような環境下で講習を受け、また稽古できる機会は少ない。再びこのような機会を得ることができたことに、私は最高の幸せを感じた。

講習は五日間の日程で行われた。その内容は剣道形、指導法、心構え、審判法、講話と幅広く、また深いものであった。また、適時行われた稽古によって、学んだことを確認し、実践することができた。

さて、今回の講習会で私は多くのものを得ることができた訳だが、それは必ずしも新しい発見ばかりではなかった。いや、決して新しい発見が少なかつた訳ではない。私が以前に習い、学んだにも関わらず、その経験が活かされていない、または活かす方を理解していないことが幾つもあり、それを再発見したということ

である。

特に、「これは大丈夫だ」と自分で思っていた部分について、実は不十分だとわかったときには、自分が「無明」の状態にあることを実感せずにはいられなかった。

無明とは、「邪見・盲執のために、一切諸法の心理に暗いこと（広辞苑）」であるが、これは、「何らかの錯覚により、存在しないものが見えているように思うこと」とも言い換えられる（これは全く上記の状態に当てはまる）。

ここで私は、私にとって錯覚となった何かについて考え、そしてその判断ミスについて反省しなければならぬ。

人間は、五感で得た様々な情報について、無意識に、または意識的にそれらの有用性を考え、取捨選択を行っている。その判断基準は、例えば私ならば私自身、または私の（生物学的な）祖先が経験的に決めたものであるが、残念ながら完璧ではない。従って、五感で得た有益な情報を捨ててしまったり、逆に無益な情報を取り入れてしまうことがある。

上記の錯覚は、まさに無益な情報を取り入れた結果だと、私は考えている。つまり、もの（情報）を見る目がなかったのだ。

「ものを見る目」については、何も剣道に限った話ではない。昨今の高度情報化社会においては、有益無益様々な情報が飛び交い、我々はその中で生きることが余儀なくされている。逆に言えば、当たり前のことではあるが、そこには無明の状態が存在する。

無明状態からの脱却は、剣の道を歩む私にとっての目標である。

そして、それを私の寿命の中で達成することは、間違いなく困難である。しかし、その目標に向けて僅かでも足を進めるために、私は取捨選択の判断基準を見直し、ものを見る目を養わなければならない。少なくとも、判断基準が一つ直れば、そこでの判断は正しくなる。これだけでも自分にとって進歩である。

柳生の講習会を受けて、このようなことを考えるに至った次第である。目下のところは、有益、無益の判断を、目先の利益、不利益に直結してしまう自分が、その裏にある真実を見抜くことができるように、つまり「無」に執着できるように、稽古を続けているところだ。

最後になりましたが、私ごとき者をこのような講習会に参加させていただきましたこと、およびこの場で筆を執る機会を与えて頂きましたことについて、徳島県剣道連盟の関係者各位に深く感謝いたします。

徳島の剣道史

阿波の柳生新陰流剣術

剣道史担当理事

坂本裕二



一、柳生家の人々(資料一参照)

柳生家は大和国(奈良県)の柳生の郷に住む豪族で遠祖は、大膳永家といわれ、奈良春日社の小柳生庄の代官であつて、柳生の姓を名乗るのは鎌倉時代になつてからである。

柳生家が兵法家になつたのは、永禄(一五五八)頃、新左衛門尉宗厳三十五歳の秋、奈良の宝蔵院覚祥房法印胤栄から、新影流兵法の祖、上泉伊勢守秀綱が当院に滞在していると報せを受け、直ちに訪れて弟子になり、それより修行を重ね秀綱から新影流の極意を永禄九年(一五六六)五月に伝授された。宗厳は、その兵法を守り、大成を志し伝授の基本である燕飛、三学、九箇、天狗抄など師伝の目録の上に自身の工夫を積み、剣術の極致として『無刀の術』を案出した。ただし流名は秀綱の常用した『新影流』を取らず『新陰流』と書いて一派を編みだした。

天保五年(一八三四)

仁木宇兵衛義通が原田柳次に付与した新陰流之許状



原田 柳次 殿

申遣事

貴文幼年分当流剣術

出精丈夫ニ被ニ相調ニ候付

先達而目錄令ニ進達ニ候

其後尚更ニ切礎無レ怠リ

事調ニ達ス之ニ就令ニ感美

仍々今般新陰之許状

令付与候尚委細同姓

廣太郎可申述ニ候也

仁木宇兵衛

義通花押

天保五年

文祿三年（一五九四）五月宗敵は徳川家康を京都郊外紫竹村の本陣に訪ね、家康の家臣と立ち合った。その時家康は彼の入神の技に感銘して、神文誓紙を与え、家臣として召し抱えた。これが後世柳生新陰流が徳川將軍家の兵法として名声を得る端緒となった。

宗敵の五男宗矩は元龜二年（二五七二）に大和国柳生庄にて生まれ、は家康、秀忠、家光三代に仕え、秀忠、家光の劍術師範になった。彼は將軍の師として重任を自覚し家伝の兵法の完成に心血を注ぎ、心法、技法を深く追求して理想的劍術に仕上げ、劍の理を持つて、治国の要諦を説き、家光の厚い信任を得て、柳生新陰流の地位を確立した。そして宗矩の内から多くの名手が出て、その高弟達を諸藩に兵法の師として派遣し、ますます発展に貢献した。

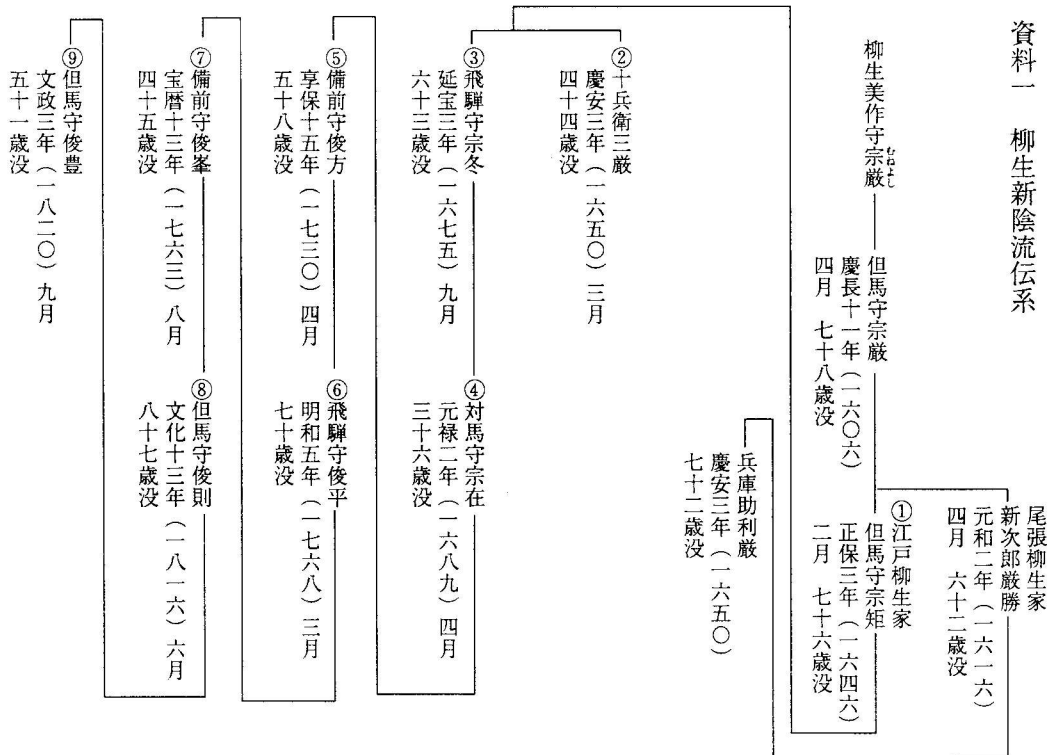
宗矩は『玉成集、兵法家伝書』の兵法書を上梓した。これは宮本武蔵の『五輪書』と共に有名である。宗矩は徳川幕府はじめての大監察（後の大目付）四人の一人となり寛永十六年（一六三九）には加増され高一万二千五百石の大名となった。

しかしその後、この系統は守成期に入り、江戸後期にはさらに保守化して幕末に至った。

一方宗敵の長男嚴勝の次男利敵は尾張藩主徳川義直の兵法師範として仕え、以後代々藩主の劍術師範を勤め、新陰流の道統は藩主と交互に受けつぐ『御流儀の制』を確立し、幕末に至った。

『江戸の柳生家は心法を、尾張の柳生家は刀法』の伝統を護持し

資料一 柳生新陰流伝系



たといつてよい。

二、徳島藩の柳生新陰流剣術の道統（資料二参照）

宗矩は徳島藩に柳生新陰流の伝播普及のため、その高弟佐々木茂左衛門を派遣（江戸柳生家資料による）した。この事は徳島藩に何時来たか、どのような活躍をしたか資料が無いため明確に分らないが、恐らく三代藩主忠英（慶長十六（一六一一）〜承応元年（一六五二））の時代ではなからうか。その頃は徳島藩は浮沈にかかる益田豊後の事件や一国一城制で九城取り壊し等の多事多難の時であった。それで佐々木は藩主側近で藩の内部事情探索に専念して剣術指南する余裕がなかったのではなからうか。

次に木村郷右衛門頼重について

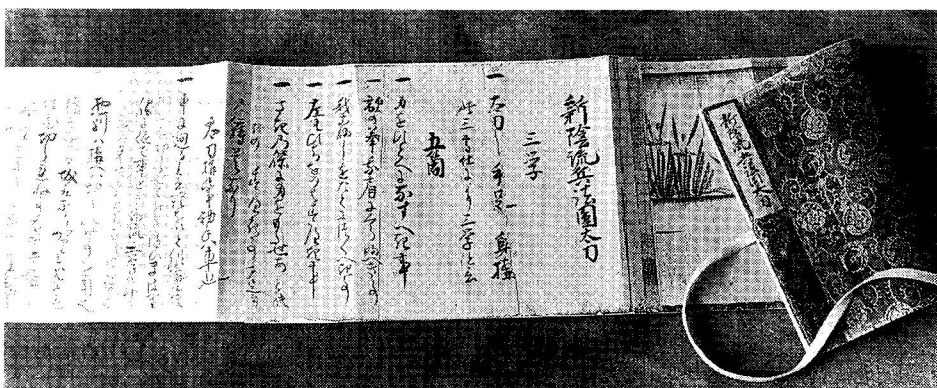
頼重は高千五百石徳島藩家老樋口内蔵助正泰まさやすの家来であったが故あつて浪人となった。それより大和柳生に行き、柳生家の家臣柳生市之進頼直の門弟となつて修業し、さらに蘊奥を極めるため、江戸柳生備前守俊方（享保十五年（一七三〇）没）に師事した。そこで刻苦勉励し業成り帰郷し、樋口正泰の嫡子正保の師範となり育成した。その後阿波で多くの門弟を指南した。その主な高弟を列挙すると

(一)、麻植郡西川田村庄屋住友嘉七郎

嘉七郎は相撲取りで有名な『一本』西川田村庄屋住友治五右衛門正輔の嫡子である。彼は幼少より剣を好み、頼重に師事し、二十二才の時、元文五年（一七四〇）に奥義を極めるため大和柳生を訪れ、柳生家の家老二百石柳生喜七郎の門弟となった。

写二 文化九年（一八一二）三月に仁木観水義行が原田

柳次に与えた新陰流兵法圓太刀目録



その後も度々柳生へ行き宝暦十一年（一七六一）四十二才の時、漸く免許を得た。それより師家となり、阿波郡伊沢の原土武岡実之助の弟・喜曾次や二男・伊勢次、阿波郡香美村先規奉公人村瀬忠藏などを育成した。

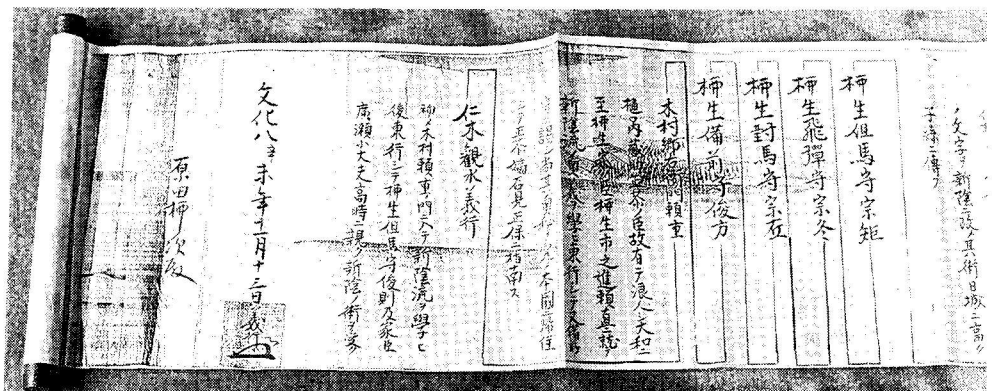
(二)、頼重はまた仁木由岐丞（註）（御繕奉行七人扶持十一石二斗）を指南した。

由岐丞はさらに江戸柳生但馬守俊則（文化十三年（一八一六）死去）に親炙（註）し帰郷して嫡子宇兵衛を始め多数の門弟を指南した。

(三)、大阪周之丞（松茂村（註）、広島御分一奉行扶持十石）を育成す。

さらに周之丞は江戸柳生家（師は不詳）に入門する。帰郷して嫡子大阪卯欽太を指南して師家にする。

(四)、浦上市之進（樋口内蔵助家来）は木村頼重の指南を受け江戸柳生備前守俊峯（宝暦十二年（一七六二）八月、四十五才没）に親炙し、帰郷して樋口家の師範となり家臣を指南した。その高弟が河野権太夫である。以上が木村頼重が指南した主な高弟であるが寛政元年（一七八九）の『書き上げ』に仁木由岐丞、大阪卯欽太、浦上市之丞、河野権太夫の四名が徳島藩から柳生新陰流の指南者として幕府に報告された。この時徳島藩から幕府に報告された各流派の指南者の総数は五十八名で、貫心流十八名、関口流九名、柳生新陰流四名である。天下の有名な柳生新陰流の指南者が四名は余りにも僅少である。これは次のような理由によるものではなからうか。



写三 文化八年（一八一二）十一月十三日に仁木観水義行が原田柳次に与えた新陰流刀法伝来系譜

免許を得るのに他流派に比べて長い期間の修業を必要とした。例えば住友嘉七郎は前述のように二十年余の修業をして漸く免許を得ている。他の仁木、大阪、浦上も皆、木村頼重に阿波で指導を受け、さらに江戸に行き柳生家の師匠の親炙を受け、免許を得て漸く師家となっている。このように新陰流剣術は一般武士を対象とした剣術ではなく上級武士を対象とした剣術であるので免許取得は容易ではなかったので指南者が少なかったと思われる。

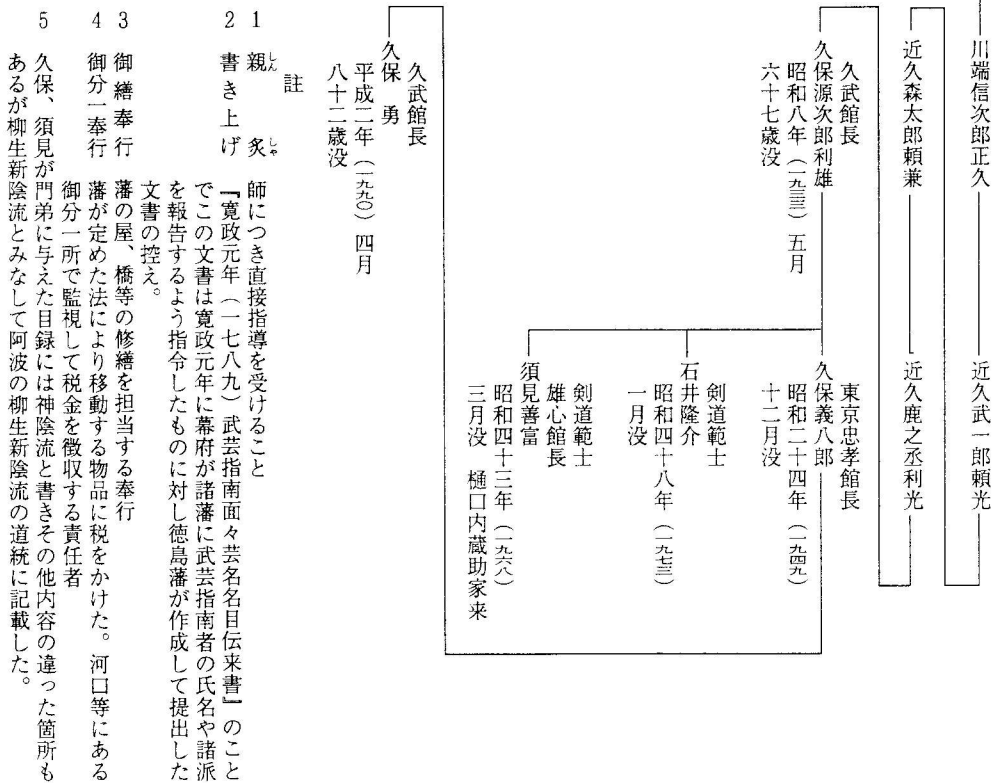
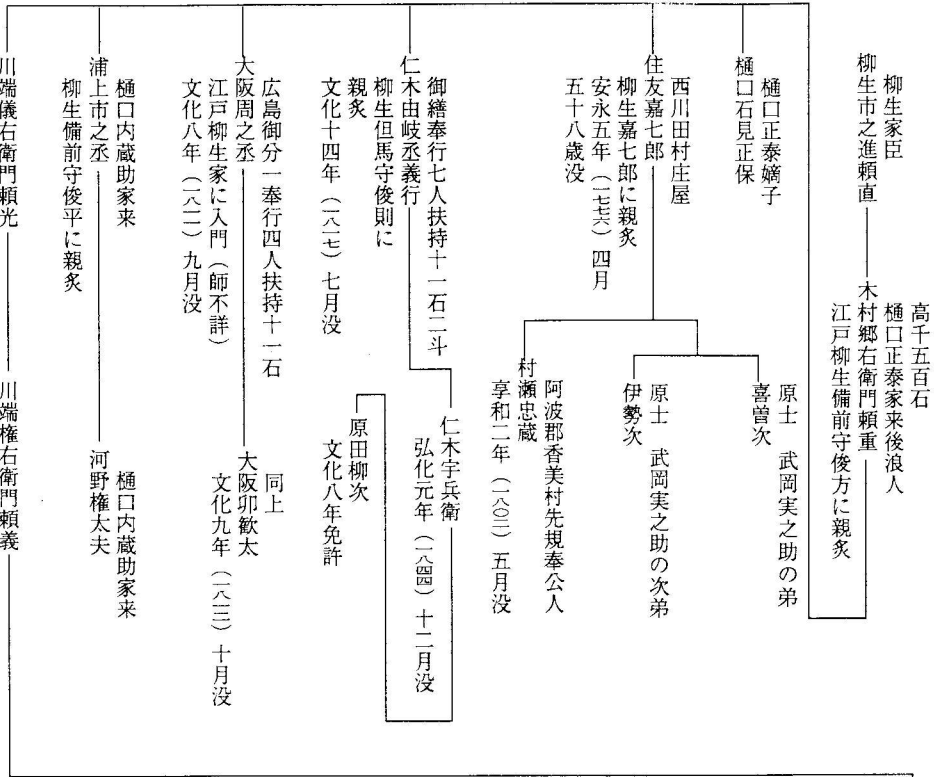
次に格調が高かった一例として、これは最近のことであるが柳生新陰流剣術の流れを汲む剣道家に名西郡浦庄村の久保利雄（昭和八年六十七歳没）の高弟に石井町の石井隆介（昭和四十八年八十四歳没）と石井町藍畑の須見善富（昭和四十三年七十五歳没）両範士がおった。両範士の剣術は当時『刃筋の通った品のある剣術』であるとの定評で、優雅な中に峻烈な剣道であった。これにより新陰流剣術の片鱗が窺えるのでなからうか。

この「阿波の柳生新陰流剣術」の原稿は平成十一年十月に御逝去された山川町の森本康平先生（剣道五段）の収集した資料によるものである。

「徳島の剣道第十六号」が上梓した暁は先生のご霊前に捧げ、御冥福を祈りたい。

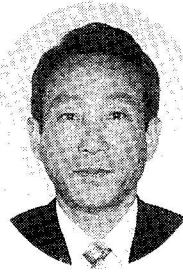


資料二 阿波における柳生新陰流道統



支部だより

阿南支部長 北條 憲治



歴代支部長が中心になり、先生、諸先輩達が積み重ね、築いてこられた阿南支部を、有賀秀敏先生より平成十一年度より引き継ぎを致しました。今になって、その重責を感じております。

阿南支部の歴史は、皆様もご存じの通り、今年で四十四回を迎えました県下剣道大会（清原杯争奪）にあります。

言うまでもなく、支部員はもとより、県下の剣道仲間や、剣道に対して、ご理解、ご協力、またご支援を賜っているご家族、地域の有志皆様のお陰で成り立ち、その事に対しましては、常日頃より感謝を致しております。

「求道」「弘道」と言う点から、少年剣道教室が一番大切だと思います。阿南市、羽ノ浦町、那賀川町で組織する阿南支部内に、少年剣道教室が十二教室あります。保護者と指導者が一致することが大事で、春に懇談会を行っており、保護者への理解と協力をお願いし、共に育つことを目的として、大会への参加も、お接待の形で、教室ごと順番にお願いしております。

少年剣道教室単位で連絡網が出来ており、一般の練習場でもあります。特に市立武道館で火曜日、金曜日、阿南一中で土曜日の夜九時より一時間程、稽古を致しております。

学校のクラブに所属していない生徒や、橋火力発電所の工事関係で来ておられる、他府県の剣士もよくお見えになりますし、羽ノ浦町では水曜日、土曜日の朝六時より早朝稽古を行っております。近年特に青年部、女子部の活動が活発で他支部との合同稽古会等も行い、親交をはかっている様です。

少年剣士から、学生、一般高齢剣士に至

るまで集い、親交を深め武道の振興発展に寄与する目的で、阿南武道親交会が平成十年に発足致しました。剣道、柔道、銃剣道、居合道、少林寺拳法、空手道であります。初代会長に遠藤一美先生が就任され、今年の夏第二回大会を開催致しました。日本剣道形を、打太刀・上田宏司、仕太刀・仁木香両先生が行い、錬武館少年剣道教室が基本錬成、阿南工業高校剣道部が、試合練習を披露致しました。

年間を通して活動計画はつまっておりますが、支部全員の協力のもと消化しております。これも、前有賀支部長時代に、誰が支部長になっても心配のない様に、連絡網、青年部、女子部、居合部、又新たに審査担当、大会準備担当等体制が調い、今後は若い青年部を中心に、諸先生方のご指導を頂きながら、多数の剣友が集い、楽しい「求道」「弘道」の場となれば、と思っております。

以下に掲載しますのは、第二回、阿南武道親交会時の写真です。

基本錬成

指導 錬武館少年剣道教室 茂崎 光 昭

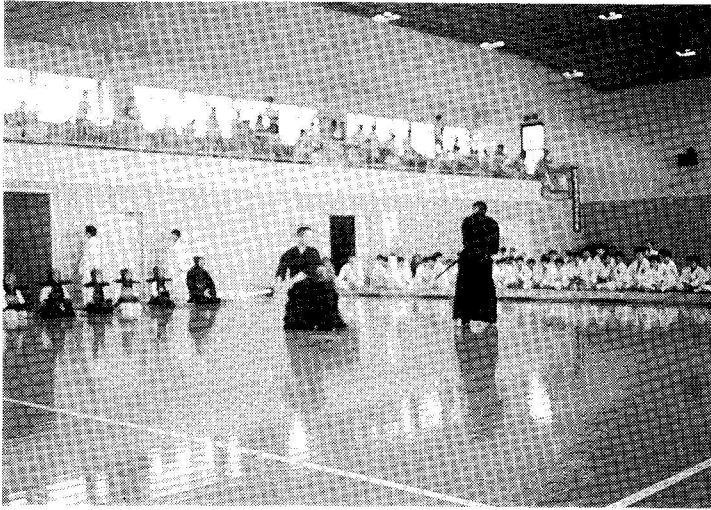
岩佐 勇希 (宝田小四年) 笠井 友貴 (中野島小四年)

鈴木健太郎 (宝田小三年) 住吉 隼斗 (宝田小三年)

賀上由里奈 (長生小三年) 細川 美波 (長生小三年)

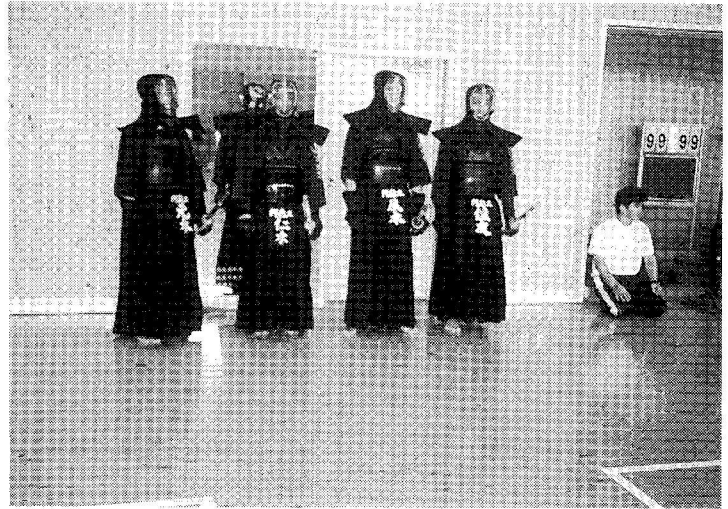
仁木 悠美 (長生小二年) 岩佐 将希 (宝田小一年)





日本剣道形

打太刀 六段 上田 宏司
 仕太刀 五段 仁木 香



試合練習 阿南工業高校剣道部

指導 県立阿南工業高校

谷 喜史・近藤 久善

仁木 進介（二年）

住友 直城（二年）

蔵木 浩一（一年）

元木 高志（一年）



阿南支部

新年稽古初め

各種大会に参加して

第二十一回全国 スポーツ少年団

剣道交流大会に参加して

桑野川剣道教室 大石 洋 史

平成十年十二月六日、全国スポーツ少年団剣道大会の徳島予選がありました。毎年、四年生から一名、五・六年女子から二名、五・六年男子から二名、計五名の選手が徳島県代表の団体チームとして全国大会に参加します。中学校は男女一名ずつで個人戦に出場します。僕は、この県大会の五・六年男子の部で優勝でき、兵庫県赤穂市で開催の全国大会へ行けるようになりました。大会までの約三ヶ月間、強化練習をしたり、おそろいのジャージを作ったりしました。大会は三月二十六日から三月二十八日まで三日間です。

大会一日目、開会式がありました。その

後で地元の先生方に指導していただきながら合同練習をしました。

二日目は団体、個人の予選リーグがありました。徳島県チームは、一試合目は宮城県として、5対0で勝ち、続く二試合目は大分県として、3対0で勝ちました。予選リーグ突破です。中学女子個人の瀬口さんは、二勝で予選を抜きました。男子個人は、原くんは一勝一敗で全くの同点だったので、再試合になりました。もう一度やりなおしたけど、また一勝一敗で再々試合になりました。僕は一回目も二回目も原くんの方がおしていたので勝てると思ったのですが、三回目は二敗で負けてしまいました。とて



も惜しかったです。

三日目、決勝トーナメントが始まりました。徳島県チームの相手は、岡山県でした。取ったり取られたりで大將戦になりました。僕が、一本取ってそのまま逃げきり、決勝トーナメント一回戦を勝つことができました。続く二回戦、鹿児島県が相手になりました。先鋒が二本負け、次鋒が二本勝ち、中堅が二本負けをして後がない状況になりました。副將戦、一本一本の引き分け、とうとう僕の大將戦がきました。二本勝ちすると、代表戦です。絶対勝とうと思って、少し緊張しましたが、始まると思ったより落ち着いていました。先に一本取って、もう一本取りに行かなければいけなかったの、焦ってしまい、逆に取られてしまい、その時点でチームの負けが決まってしまいました。その後一本取って、二本対一本で自分としては勝ちましたが、大將としての責任を果たせなくてとても悔しかったです。個人戦の瀬口さんも延長戦の末、負けてしまいました。閉会式では徳島県チームとしては、敢闘賞をもらい、個人戦でも瀬口さ

んが敢闘賞をもらい、結果的には、良い成績を納められたと思います。

この大会でいろんなことが勉強できました。剣道は足が大切だということです。これからは、足腰を鍛え、力強い剣道が出来るように練習に励みたいと思います。中学校でも頑張って「全国優勝」を目標にしたいと思います。

最後に、監督をしてくださった池田先生、桑野川剣道教室の先生方、また応援して下さった保護者のみなさま、本当にありがとうございました。

第21回全国スポーツ少年団剣道交流大会

徳島県選手

- 先鋒 玉田 越太 至誠館
- 次鋒 中本 雅美 大野小学校剣道部
- 中堅 玉田 康郎 至誠館
- 副将 新居見 綾 鴨島少年剣道
- 大将 大石 洋史 桑野川剣道教室
- 男子個人 原 祐輔 那賀川中学校
- 女子個人 瀬口 裕子 相生中学校

第21回全国スポーツ少年団剣道交流大会

団体戦予選リーグ

徳島	玉田	中本	玉田	新居見	大石	10 5
	⊖メ	⊙コ	コメ	⊙メ	メコ	
宮城		コ	⊕		⊗	3 0
	生出	尾形	佐々木	勝連	乃川	

徳島	玉田	中本	玉田	新居見	大石	7 3
	⊖	⊖	⊖一本勝	⊙メ	⊗メ	
大分		メ				2 0
	竹下	安達	滝石	二井手	林	

決勝トーナメント
1回戦

徳島	玉田	中本	玉田	新居見	大石
		▲	コメ		⊖一本勝
岡山			⊗	⊖一本勝	
	田中	佐藤	竹林	岸	笠井

準々決勝

徳島	玉田	中本	玉田	新居見	大石
		⊖コ		⊖	⊖メ
鹿児島	⊖メ		⊗コ	コ	メ
	松本	米満	藤田	松本	鶴木

全国ベスト8 (敢闘賞)

男子個人
予選リーグ

	長 橋 (群馬)	篠 井 (石川)	原 (徳島)
長 橋		② ①	△ ① ①
篠 井	△ ① ①		② ①
原	① ①	△ ① ①	

②
①
②
①
②
①

代表戦リーグ
(1)

	長 橋	篠 井	原
長 橋		△	㊦
篠 井	㊦		△
原	△	⊗	

①
①
①
①
①
①

代表戦リーグ
(2)

	長 橋	篠 井	原
長 橋		㊦	㊦
篠 井	▲ △		⊗
原	△	△	

順位
②/② 1
①/① 2
①/① 3

女子個人
予選リーグ

	富松 (和歌山)	横溝 (神奈川)	瀬口 (徳島)
富 松		① ①	① ①
横 溝	① ①		△ ① ①
瀬 口	① ①	① ①	

順位
①/① 2
①/① 3
①/① 1

決勝トーナメント

1回戦 瀬口 - 延長 - 池田 (茨城)

瀬口全国ベスト16 (敢闘賞)



第四十七回

全日本都道府県対抗

剣道優勝大会に参加して

徳島支部

佐藤 佳宏



平成十一年五月
三日、大阪市中央
体育館にて第四十
七回全日本都道府
県対抗剣道優勝大
会が開催されまし

た。この大会は職業、段位、年齢等による
区分で構成され、様々な分野で稽古に励む
選手が心を一つにして団体戦日本一を決す
るものです。

本県では、二月二十一日、警察学校道場
における予選の結果、次の皆さんが代表と
して選抜されました。

監督 木原 資裕

先鋒 猪尾 満紀

次鋒 曾我部敦介

五将 竹内佳代子

中堅 白木 洋一
三将 吉田 茂生
副将 佐藤 佳宏
大将 近藤 亘



予選以降、上記メンバーによる毎週二回
警察学校での強化練習、京都府警への遠征、
驚敷町での合宿等、チームの技術力と団結
力を高めるため様々な人と剣を交え、厳し
い稽古に汗を流し、大会に向け頑張つて参
りました。

いよいよ試合当日、会場の扉を開けると
その広さはもちろん、全国大会という独特
の雰囲気、圧倒される思いを感じました。

初戦の相手は岡山県チーム。強豪ではあ
るが、普段の力を出しきればとの思いで望
みましたが、私の相手は今までに対戦した
ことのないようなタイプであり、何もしな
いうちに負けてしまったという感じで、自
分の剣道が出来なかったということに対し
て悔いが残りました。チームとしても、健
闘したものの対戦成績一対三で惜しくも涙
をのみました。

因に決勝戦では、愛知県戦を制した大阪
府チームが三年ぶり十回目の栄冠を手にし
ました。私は、今回初めてこの大会に参加
させていただくこととなり、当初は稽古も
ろくにしていない私のようなものが、この

	(先)	(中)	(大)					
徳島	猪尾	曾我部	竹内	白木	吉田	佐藤	近藤	1(1)
			コ					
岡山	×				×		×	3(5)
		メ		コメ		メコ		
	福島	宮ノ内	榎本	真野	難波	竹内	山根	

ような大会に出場して迷惑をかけるはしないだろうかという不安がありました。しかし、その後の強化練習や諸先生方のご指導により、ある程度自信がついてきたかのように思われましたが、やはり全国の壁は厚く、自分の実力のなさと共に、いかに日頃の稽古の積み重ねが大切であるかということを感じしました。

今思いますと、この大会に参加できたことは、私にとって非常に良い、貴重な経験になったと思います。今後の経験を生かし、自分の剣道を一から見直し、更なる精進をしていきたいと思えます。

最後に、本大会出場に当たりご支援、ご尽力頂いた皆様方にお礼を申し上げて大会の報告とさせていただきます。

第五十一回

四国四県剣道大会

監督 藤本雅史



二年振りの優勝奪回を目指して。
平成十一年五月二十三日、第五十一回四国四県剣道大会が高知市介良潮

見台小学校で開催された。昨年は惜しくも三連覇の夢を絶たれ、悔しい思いをしたこの事、本年は巻き返すべく、精鋭剣士十三名が真新しい体育館に集合した。開会式も終り、友永隆雄、渡辺三則両先生の日本剣道演武の後、二会場に分れて第一試合が開始された。

初戦は地元高知県である。第一試合と言うことで全体的に硬さが見られたが、構えも良く、姿勢も立派で、よく相手を崩しているのだが、後一本が取れず、逆に終盤ちょっとした隙を突かれて一本取られるという試

第一試合	県名	順位	先	次	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大
	徳島	氏名	酒卷	山田	曾我部	前田	吉田	片山	福多	近藤	河田	西谷	中尾	長久保	川田
		得点	$\frac{8}{3}$	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
	高知	得点	$\frac{9}{4}$	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
氏名		山下	福留	宇賀	山本	中澤	宮本	森崎	白川	岩崎	本山	岡本	橋本	友永	

第二試合	県名	順位	先	次	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大
	香川	氏名	谷本	秋山	松本	井口	笹谷	竹下	岡本	井上	三浦	国重	定住	太田	宇田
		得点	$\frac{3}{2}$	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
	徳島	得点	$\frac{11}{7}$	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
氏名		酒卷	山田	曾我部	前田	吉田	片山	福多	近藤	河田	西谷	中尾	長久保	川田	

第三試合	県名	順位	先	次	11	10	9	8	7	6	5	4	3	副	大
	愛媛	氏名	増田	小原	白石	大栗	矢野	井上	猪野	大城戸	田辺	俊野	佐伯	水野	三好
		得点	$\frac{10}{4}$	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
	徳島	得点	$\frac{10}{3}$	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
氏名		酒卷	山田	曾我部	前田	吉田	片山	福多	近藤	河田	西谷	中尾	長久保	川田	

合展開が多かった。流れは先手々とリードされ、四将西谷選手、三将中尾選手の活躍で三勝三敗の五分に戻したものの、結局勝ち越しならず三勝四敗の惜敗であった。

第二試合は過去二十一回の優勝を誇る強豪香川県である。第一試合に比べて動きも良く、先に先にと良く攻めていた。試合は先手々とリードしながら中盤以降七将福多選手、六将近藤選手、五将河田選手のストレート勝ちで突き放し勝負を決めた。そして終ってみれば七勝二敗、取得本数も十一本対三本という圧勝であった。

昼食を挟んで第三試合は愛媛県である。ここまで高知県の二勝、徳島県と香川県が一勝一敗、香川県が高知県に勝ち徳島県が愛媛県に勝利を収めれば二勝一敗で三県が並び、勝者数如何んでは優勝も夢ではないと香川県にも健闘を祈りながら試合に臨んだ。最後ということで気合も充分、よく果敢に攻められた。前半はリードを許すが、中盤九将吉田選手、八将片山選手の頑張りでもよく追いつき、四将西谷選手の勝利で一時はリードをしたものの、最後まで後一本が

取れずに涙を飲んだ。特に大将川田選手は一本取得すれば勝利が決まるため、力を振り絞っての必死のコテ技に徳島県選手一同何度も拍手を贈る場面があったものの一本に成らず、三勝四敗本数十本対十本の同数、一本差で惜敗した。

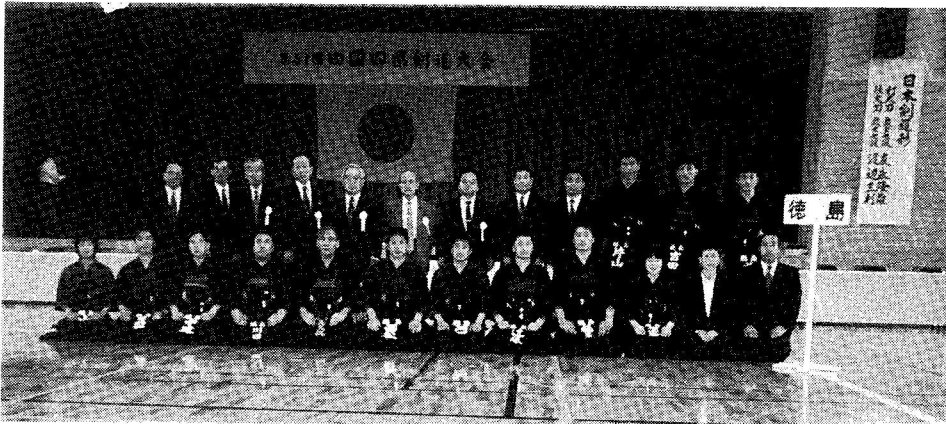
最終結果は高知県が三勝で優勝、二位は本数差で徳島県となった。

今年度より事務局長として剣道連盟に携わり、四国各県の現状を見聞し、視野を広めてくる様にとの命で監督の任を仰せ仕りました。お陰様で準優勝の賞状を頂いた訳ですが、今後は堀江先生、大沢先生、遠藤会長始め範士の先生方が雑壇で胸を張ってご観戦いただき、選手は日頃より鍛えた正しく強いしっかりした剣道が十二分に発揮できるよう、又それを支える裏方としての事務局、そんな徳島県選手団になれば強い徳島、常勝徳島県剣道連盟も夢でないと思信しました。今回も近藤強化部長の計画で山家旗大会前に合宿が行われましたが、日々の稽古、又合同稽古等お互いに切磋琢磨ができる環境作りに少しでもお役に立てれば

第51回 四国四県剣道大会成績表

	徳島	香川	愛媛	高知	勝敗	勝者数	得本数	順位
徳島		$\frac{11}{7}$	$\frac{10}{3}$	$\frac{8}{3}$	1	13	29	2
香川	$\frac{3}{2}$		$\frac{6}{5}$	$\frac{5}{4}$	1	11	14	3
愛媛	$\frac{10}{4}$	$\frac{5}{2}$		$\frac{11}{3}$	1	9	26	4
高知	$\frac{9}{4}$	$\frac{10}{7}$	$\frac{11}{4}$		3	15	30	1

と意を強くしました。徳島県選手、剣士達の更なる飛躍を祈念して報告とさせていただきます。



先鋒の役割

警察支部 山室 雅 幹



第三十八回、西日本勤労者剣道大会が高知県民体育館で開催され、過去最高となる三八チームが参加しました。

私が徳島県警察剣道特練員として初陣を飾った記念すべき試合、それが西日本勤労者剣道大会なのです。その時は中堅として決勝の舞台に立つことができました。とにかく自分の持てる力を出し切ろうと、無心で戦ったことを覚えています。そして三回目の出場となる今年、先鋒として出場し一回戦、二回戦は緊張していたものの試合を重ねるごとに体も良く動き、技も多く出るようになりました。私たちのチームは順当に勝ち上がり、コート決勝に進出、主番の「始め」の合図により先鋒戦が始まりま

した。試合開始から一分が過ぎた頃、鏝せり合いから引き面を先取る事ができたので、このまま試合の流れを次につなぐことができればと、考えていました。

ところが、「二本目も取ってやろう」と欲が出てしまい、遠間から面を狙うと、見事に出小手を奪われ、一対一の同本数になってしまったのです。私は追いつかれたことで、これまでの攻めの気持ちから「打たれたらどうしよう」という受けの気持ちに変わっていました。相手が打突動作に入ると、気持ちが動いてしまい左手がそれに反応し、受けの動作になってしまふ悪い癖がでたり、また、体も思うように動かなくなっていました。ですので、そして、そのまま、自分の剣道ができない状態が続き挽回することなく、試合終了の笛が鳴ってしまいました。

です。一本取ったら取ったで、どのように試合の流れを持っていくか、どう有利に進めていくか、もっと冷静に考えるべきでした。

今大会の反省としては、無心で戦えなかったということ。必死になって試合に臨んだものの、欲を出したところで一本取られてしまいました。特に三人戦ということもあって、白星で次につなげるか、つなげないかではチーム全体の優劣も違ってきます。

私は今大会を終えてから、先鋒として試合に出場していますが、「先鋒の役割」を十分に考えながら試合に臨んでいます。今大会の経験は、私の剣道人生の中でプラスになり、大変勉強になりました。この経験を忘れず、目の前の試合、一試合一試合を全力で一生懸命頑張っていきたいです。

第十二回

全国警察少年

剣道大会に出場して

徳島至誠館

鎌田 崇 佐



平成十一年八月
四日、僕は県代表
の阿南警察署チー
ムの選手として、

全国大会に出場
しました。試合会場

である警視庁武道館の大きさには大変驚きました。

開会式のゲストとして出席されていた、元柔道選手で現在全日本柔道連盟の女子強化コーチの山口香さんのお話がとても印象的でした。「素質などは関係なく、とにかく努力して頑張ることが大切だ」そして、「頑張ることとは、もうだめだと思つたとき、あと少しもう少しとあきらめずに続けることだ」と教えていただきました。この言葉は、これからも忘れずに心に刻んでお

こうと思いました。

いよいよ予選リーグが始まりました。僕は少し緊張していましたが、みんなが励ましてくれたので、リラックスして試合ができました。一試合目は、三重県チームに三対〇で勝ち、二試合目は、茨城県チームに一対三で敗けてしまいました。中堅戦まで一対二と敗けていた時に、副将と大将が逆転しようと、最後まであきらめずに、全力で戦っている姿を見て感動しました。僕も先輩のようにになりたいと思いました。

決勝トーナメントには進めなかったことは、悔しかったけど、良い勉強をすることができました。これからは、全国大会で活躍できる選手になることを目標に頑張りたいと思います。

僕には、技術はもちろんのこと気迫がまだまだ足りないのです、厳しい練習を重ねて、心と技を磨き、自分に自信をつけたいと思います。

日頃、ご指導してくださる中山繁輝先生をはじめ、たくさんの方の先生方の教えを守り、「素直な心」でこれからも一生懸命頑張ります。

ます。

監督 中山 繁輝 (徳島至誠館)

小学校選手

原 隼司 (大野 小)

本田 万里 (阿南)

鎌田 崇佐 (徳島至誠館)

玉田 昶大 (徳島至誠館)

中学校選手

大石 真也 (阿南 二)

山田 裕一 (阿南 二)

大石 洋史 (阿南 二)



第十六回

全国家庭婦人剣道大会

第三位

好プレー・珍プレー続出

徳島商業高等学校

教諭 手塚 十三子

平成十一年七月十一日(日)徳島中央武道館において、第二十回女子剣道大会並びと八月三日(火)に日本武道館で開催される第十六回全国家庭婦人剣道大会の予選会が行われました。少数精鋭の予選を経て

先鋒 二十代(山田 三枝・三段・阿波支部・富岡東高卒・インターハイ個人三位)

次鋒 三十代(岩木 淳子・四段・徳島支部・川島高卒・インターハイ団体三位)

中堅 三十代(平野 悦子・四段・鳴門支部・大阪体育大卒・全国家庭婦人大会出場)

副将 四十代(後藤佳代子・二段・徳島支部・小松島西高卒・結婚後初めてお子さんともに竹刀を握る)

大將 四十代(森本 敦子・五段・板野西支部・中京大卒・全国家庭婦人大会出場)

監督 手塚十三子

以上五名の選手の方が決定しました。

他府県ではこの大会に臨み、毎週のように強化練習会や宿泊を伴う合宿、また練習試合等を繰り返し、その総合結果から選手を決定するというかなりハードな報告も耳にしています。大会当日までわずか二十日余りと迫った状況のなか、一同が会しての合同稽古や練習試合等たび重ねることは不可能でしたが、それぞれが所属する各支部で、またでき得る限り連盟の強化練習会に参加することを心掛けてきました。

炎天の八月三日(火)午前八時三十分。

大太鼓の力強い音と合図を受けていよいよ開会式の始まりです。たくさんの拍手に迎えられ、心地よい入場行進に浸るのも束の間。大会会長の「家庭婦人らしい品位ある



試合の展開を「のお言葉に身体も心も引き締まる思いです。さらに第一試合の対戦カードが目飛び込み、ウォーミングアップも不十分なままの整列を余儀なくさせられてしまいました。

《予選リーグ 対奈良戦及び島根戦》

先鋒・山田選手、次鋒・岩木選手ともに互角の勝負で引き分けに持ち込む。第二十回女子剣道大会に優勝、しかも連盟主催の強化練習をほとんど欠かすことなくお子さんとともに参加して豊富な稽古量を誇る中堅・平野選手に賭けられた期待はそのとおりの実力を発揮。ともに一本勝ちを収め、大きな勝機をもたらしてくれた。全国規模の大会は初体験という副将・後藤選手。あえなく二本負けを喫したものの、大将・森本選手の落ち着いた堂々たる闘いぶりは時間内に見事な二本勝ちを制し、ともに二勝一敗という成績で十六年ぶりに念願の予選リーグ突破を果たすことができた。

〈予選リーグ戦〉

県名	順位	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数
奈良		北村	田中	辰巳	鈴木	長岡	1	(2)
		×	×		⊖ ⊖			
徳島		山田	岩木	▲ ⊕ 一本勝	後藤	⊗ ⊖ 森本	2	(3)
		×	×					

〈予選リーグ戦〉

県名	順位	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数
徳島		山田	岩木	平野	後藤	森本	2	(3)
		×	×	⊖ 一本勝		⊗ ⊕		
島根		尾木	若槻	高井	糸原	石倉	1	(2)
		×	×		⊖ ⊖			

《トーナメント 一回戦対栃木戦及び

二回戦愛知戦》

先鋒・山田選手は常に先手先手の充実した攻めで、大きく思い切りのある剣捌きで先鋒の役を十二分に担い、ともに二勝の大貢献。続く次鋒・岩木選手の対栃木戦の相手は前年の国体選手である。また愛知県は昨年本大会で優勝を遂げたチームであり、その相手と闘うことになる。ともに善戦、惜しくも一本負け。

躊躇から立ち上がるや否や、やる気満々、闘士を全身にみなぎらせる中堅・平野選手。フットワークの良さや機をみてしかける抜群の勘の良さで負け知らずのまたもや二勝。「皆にやる気を出してもらうために負けました」とにっこり語る副将・後藤選手。ムードメーカー的存在として欠かすことができないキャラクター。「私に任せて」とばかりに勢いづいている大将・森本選手は、身体ごと大振りの面技で積極的な展開を最終繰り返し、目の覚めるような抜き胴を決めるなど、まるで平野選手と戦績を競うかのように連戦連勝を重ねる。

トーナメント二回戦を終え、ややしばらくの休憩。「ひよっとしてまだ試合があるのかなあ」「今日は嬉しい日だなあ」「ここまで来たら胸を借りに行こう」などなど、選手だれ一人として勝利を意識したようすが見られない。全国大会の試合というにはほど遠く、さながら回を重ねた交歓試合にも似た和やかな雰囲気、他のチームも仲間入り。

さすが!!主婦はいつも明るくたくましく家庭の要。

また、幸いなことにこの光景が本大会で審判を務められた愛媛県、加茂功先生のお目にふれる。「先鋒がいい。リズムを作ってくれている。この流れに全員が乗りなさい。延長戦は時間を気にせず、いくらでもやりなさい」と鬼に金棒とばかり力強い励ましのお言葉をいただく。ここまで四コートを使って進められてきた試合も準決勝戦からは雑壇を左右に分けて二コートに移動。となれば気分はもう最高絶好、言うことなし。

〈トーナメント 1回戦〉

県名	順位	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数
徳島		山田	岩木	平野	後藤	森本	3	(6)
	⊖	⊗	⊗ ⊖		⊖ ⊕			
栃木			⊗ 一本勝		⊖ ⊕	⊖	2	(4)
		藤高	茂呂	高津戸	大杉	金田		

〈トーナメント 2回戦〉

県名	順位	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝者数	総本数
徳島		山田	岩木	平野	後藤	森本	3	(3)
	⊖	一本勝		延長 ⊗		延長 ⊗		
愛知			⊕ 一本勝		⊖ ⊖	延長	2	(3)
		秋田	中村	青山	野田	上村		

《準決勝対茨城戦》

高校時代全国大会入賞を経験し、試合慣れは充分である先鋒・山田選手。一点に凝視される会場の雰囲気、全く臆することなく、再び先手必勝とばかりに仕掛け、自在の動きで面技を先取。その直後相手の反撃で二本取り返されはしたものの、加茂先生のお言葉を裏付けるような見応えのある闘いぶりであった。

続く次鋒・岩木選手は長身の選手と幾度も体当たり、倒れながらも気迫で起き上がり前へ前へと打って出る。一本負けで試合終了となったものの、会場内の拍手に支えられての大健闘。今大会快進撃の中堅・平野選手。得意の足捌きで集中力を保ちじつと機をうかがう。やがて延長戦を迎え、出ばな小手を取られるが、懸りの稽古を中心とした積み重ねとそこから生じる試合の展開は大きく魅きつけられるものがあつた。ここまでチームの緊張と緩和のバランス役を務め、心ならずも相手に勝ちを許してしまった副将・後藤選手。本日五度目の登場となり、すっかり肩の力も抜けてきた。コー

トのほぼ真ん中で対峙した相手と、剣先のやりとりを愉んでいるかのような様子で、ゆとりを漂わせ、初の引き分け戦である。チームの勝敗は決していたが、常に強気の攻めと、無駄のない太刀捌きで大将としての要を確実に果たしてきた森本選手。小手の一本負けなど気にも留めず、お腹の底から沸き出るような掛け声で気を充実させ、剣先から炎が噴き出すようなジリジリとした攻めと果敢な打突は「これが徳島の剣道です」と語っているように感じられた。



晴れの表彰式の舞台に参列という嬉しい瞬間。しかしながら飛行機の予約時間に遅れるというアクシデントが、徳島行きの直行便に見放された私たちはひたすらJASカウンターにしがみつき、とりあえず大阪までの足を確保することができました。五試合分の汗と感激がびっしり染みこんだ剣道着と袴姿に機内の乗客の方たちから奇異な視線を向けられたのは言うまでもないこと。首をすくめながらも機内サーブिसに満面の笑みを浮かべて喉の渇きを潤す選手たち——課題をもって朗らかに真剣に稽古に取り組めば、結果はあとからついてくる——そつとそのことを伝えているようでした。

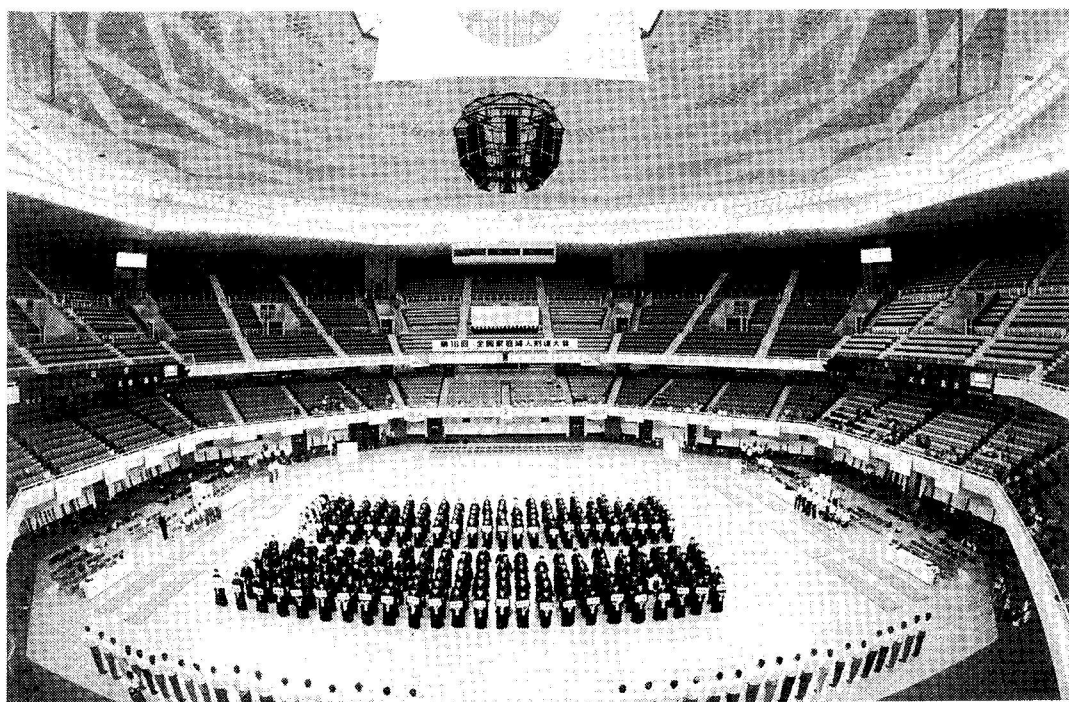
ここまで戻れば徳島まであと一息。午後九時を回ると空港内もさすがに人気が減り、寂しい雰囲気にも包まれ徳島が一段と恋しくなります。加えてこの感動を一秒でも早く徳島に持ち帰りたい思いにかられ、最後の手段は県剣道連盟に「SOS」の発信です。「何とか私たちを迎えに来て下さい」と丁寧なお願いをしたつもりですが、ニュアンス

〈準 決 勝〉

順位 県名	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将	勝 者 数	総 本 数
徳 島	山 田	岩 木	平 野	後 藤	森 本	0	(1)
	⊗		延 長	×			
茨 城	⊗	⊗	⊗		⊗	4	(5)
	鍋 山	大 石	金 井	砂 押	桜 井		

スの違いでしょうか、半ば脅迫に近いものであったと指摘されました。身も心も愛車も、三位一体の大きな犠牲を払って、事務局長藤本雅史先生と徳島工業高校手塚英先生が、夕食も摂らずに夜の高速をひた走り大阪駅まで迎えに来て下さいました。ガソリン切れの心配をよそに車中の興奮は一向に冷めやらず、再び遠足気分で大賑いです。松茂の空港に無事到着したときは午前零時を少し回っていました。御家族の熱烈歓迎をうけ、道具袋にも両手にも余るお土産を車いっぱいにつめ込み、安堵と来年の活躍を誓い合っの解散です。

「四国は一つ」の温かいお心でトーナメント戦からずっと二階席でエールを送って下さった四国の選手の方たち。小さいお子さんの手を引いて要らぬ気遣いをさせぬようにと目立たぬ位置からそっと見守って下さった御家族の皆様。多くの方がたに支えられての入賞の一語に尽きます。本日までご教示賜りました関係各位の皆様方に心よりお礼を申し上げて大会の報告とさせていただきます。



第16回 全国家庭婦人剣道大会 日本武道館 平成11年 8月3日



第16回 全国家庭婦人剣道大会 日本武道館 平成11年 8月3日



平成十一年度

徳島刑務所支部の戦跡

刑務所支部 中村 稔 裕



平成十一年は、刑務所支部剣道部にとって実に慌ただしく過ぎ去った一年であった。特に剣道部員の主力

選手の大半が管区機動警備隊に所属していることから、数次に亘り広島管内施設への緊急出動を繰り返し、緊張の連続と共に剣道の練習もままならぬ状態にあったが、この緊張感が選手にとって集中した剣道に結び付いたようであり、それなりの成績を残すことができたように思う。

戦跡を順次紹介してみますと

平成十一年四月二十八日

(管内矯正職員施設対抗武道大会)

準優勝

選手オーダー

- 先鋒 北村 仁志
- 次鋒 前田 秀一
- 中堅 鳴川 善人
- 副将 片山 尊史
- 大将 猪野 和男
- 補欠 鈴木 伸一

成績

徳島刑務所 2 対 1 高知刑務所

同 2 対 2 松山刑務所

(本数勝ち)

同 0 対 3 高松刑務所

敢闘賞 前田 秀一

平成十一年八月二十九日

(県下段別選手権大会)

四段の部優勝 前田 秀一

五段の部優勝 北村 仁志

六段の部二位 片山 尊史

平成十一年九月三日

(管内矯正職員武道選手権大会)

第三位 北村 仁志

第四位 鳴川 善人

この大会は、北村、鳴川両選手が順調に勝ち進み、両者の決勝戦かと思われたが、惜しくも準決勝で両者の対戦となり、北村選手が勝ち残り全国大会出場を果たした。平成十一年十月十四日

全国矯正職員武道選手権大会(大阪)

北村 仁志(予選Dブロック5人中第三位となり、決勝トーナメント進出ならず敗退。)なお、優勝者は水口夏樹選手(名古屋刑務所)二年連続

平成十一年十月二十九日

(管内矯正職員武道奨励大会・新人戦)

徳島刑務所二年連続優勝

先鋒 富杉 貴広

次鋒 中島 祐輔

中堅 沖津 泰志

副将 鎌田 雅史

大将 遠藤 雅之

奨励大会は、出場資格が三段以下と指定され、矯正職員の武道の底辺拡大のための大会(所謂新人戦)であり、管内八施設が参加し毎年熱の籠もった試合が展開される。

当所は、開催当番庁であったことから選

全国選抜大会に出場して

手の育成に力を注ぎ厳しい練習を重ねたか
いあり見事管内二連覇を達成することがで
きた。

富岡西高校三年

小 柏 祐 三

以上が平成十一年の戦跡であります、
一軍の団体優勝が今一步と言うところで毎
年無念の涙を飲んでおり、一軍選手の強化
が新年度の課題となっております。県下各支部の
剣友、先生方の来訪をお待ちしております。



三月二十四日か
ら愛知県春日井市
で全国選抜大会が
行なわれました。

この大会が始まる
前、これまで指導
してくださった本田先生が転任するという
ことを知り、なんとかこの最後の大会で先
生に、今までの感謝の気持ちを結果で表し
たいと思っていました。

一日目は、予選リーグが行われました。
対戦相手は、茨城県水戸葵陵高校と、愛知
県西尾高校でした。第一試合目は、水戸葵
陵高校とでした。この高校は、優勝候補と
いわれていてたいへん力のある学校でした。
しかし決つて気持ちで負けるのではなく、
逆に相手が緊張して固かった所を、大将で
逆転し、二―二の本数差で勝利をつかみま

した。次戦は、西尾高校とでした。少し勝
にこだわりすぎて危ない所もありましたが
二―一で勝つことができ、リーグ二戦全勝
で予選を突破することができ、次の日の決
勝トーナメントに駒を進めることができま
した。

二日目はいよいよ決勝トーナメントです。
一回戦熊本県阿蘇高校との対戦になりました。
激戦区熊本代表だけあつてそのパワー
に圧倒され一―三と敗れました。敗れはし
たものの自分達の力を発揮することができ
たし、自分達の剣道が通用することが分か
り自信がつかしました。また、この大会を振
り返つてみると、一戦一戦が自分との戦い
だったように思います。剣道を通じて、私
が経験したことは、これからの人生の中で
大きな自信となることでしょう。

そして、ここまで指導してくださった監
督の先生や先輩方、保護者のみなさんには、
心から感謝しています。また、共に厳しい
練習に耐え、お互いを励まし合いながら成
長してきた仲間を得たことを幸せに思い、
今まで学んできたことを、これからの人生

の糧にしていきたいと思っています。また、後輩のみなさんは、練習は苦しいと思いますが、苦しさに負けるのではなく、自分に勝って日々練習に励んでください。そして、ぼくたちよりさらに上を目指してください。活躍を期待しています。

インターハイに出場して

富岡西高校三年

藤川 卓也



「飛びたとう

岩手の空に 夢は
せて」のスローガ
ンのもと、平成十
一年度全国総合体
育大会、剣道競技

が八月二日から四日まで、岩手県二戸市総合スポーツセンターで開催されました。

県総体では、優勝候補とされていましたが、川島を初め、富岡東、城ノ内を合わせて四校が決勝リーグでインターハイ出場を賭けて熱戦しました。プレッシャーもありましたが、自分たちの持っている力を発揮することができ、念願の五連覇を達成し、インターハイへの切符を手に入れることができました。それからインターハイまでの約二カ月間は日々厳しい練習に耐え、精神も強くしていきました。

いよいよ大会三日前に徳島から飛行機で青森の空港に到着し、外に出てみると、涼しいはずの東北が今年は連日三十度を越す猛暑であることを地元の人に聞き、驚きました。大会前日の練習でも疲れが残らないよう短時間で切り上げました。

そして大会当日。予選リーグの相手は奈良大付属高と群馬の樹徳高でした。試合前に皆で、「会場の雰囲気は飲まれないよう、普段の自分たちの力を出し、悔いの残らない試合にしよう。」と誓い合い、チーム一丸となって予選リーグに臨みました。

予選リーグ初戦は奈良大付属でした。奈良大付属は遠征先で、何度か剣を交えており、お互い手の内を知っているだけになかなか一本を取らせてくれませんでした。先鋒、次鋒と続けて引き分けた後、中堅戦では、相手に小手を取られてしまい、いやなムードが漂ってきました。続く副将は引き分けとなり、ついに大将戦になりました。毎日、最悪の状況をイメージトレーニングし、小さい頃から何度も味わっている大将戦には自信がありました。一対0で負けて



いるので二本取れば勝つんだという欲があったのかもしれない。試合開始一分後ぐらゐに打突後を狙われて引き小手を取られてしまいました。しかし、その一本が自分のあせりに気づき、その後よく相手を見て面を取り返すことができました。一瞬も気の抜けない緊迫した時間が刻々と過ぎていきました。なんとでももう一本取らねばチームは負けるので果敢に攻めていきました。そこを相手は狙っていたのか小手を奪われ、試合は終了しました。結局二対〇で奈良大付属に敗れてしまい、もう後がありませんでした。

しかしチャンスはまだ残っていました。奈良大付属が樹徳に負けたというのです。「勝ち負けはどうでもいい、精一杯やっつこい。」と山田先生が檄を飛ばしてくれました。

第二試合目、樹徳高とも練習試合で勝つたことはありますが、そんなことは頭から消えていました。皆、必死に攻めました。三対一という負けている状況で大将である僕の所まで回ってきました。高校三年間の

集大成とされる最後の試合で悔いだけは残したくはありませんでした。相手も力のあゝる選手でしたが、気持ちで勝っていた自分が面二本で最後を締めくくりました。皆の気持ちはさまざまだと思いますが、僕は三年間、この富岡西剣道部で皆と剣道を通じ、経験したことは決して無駄にはならなかったと思っています。

春の全国選抜大会以上の成績は残すことはできませんでしたが、現在、日々努力している後輩達、陰ながらいろいろとお世話していただいたマネージャーや保護者の方々には本当に感謝しています。そして今までご指導してくださった山田先生、本田先生には心から感謝しています。インターハイでは結果を残すことはできませんでしたが、苦しい練習で汗を流したこと、そしてそれによって皆で勝利を得た時の喜びを一生、自分の心の中に残していきたいです。

四国総体に参加して

富岡東高校二年

矢野 裕美子



私は、初めて四国総体に参加しました。徳島県一位として、また二年生という立場から三年生の先輩方から足をひっぱらないようにということからも、必死で試合に挑みました。

私は県総体で、自分の力が十分に発揮できず、悔いが残る結果に終わりました。悔いが残ったことよって、稽古に取り組む意欲が変わりました。初めは、何をしてもうまくいかず、悩んだり我慢の毎日が続きました。また、精神的にも落ち込んでいましたが、前向きに考え、少しでも立ち直れるようにと、一生懸命に努力しました。その成果を確かめる最初の試合が、この試合でした。

初日は、予選リーグが行われ、私は先鋒を務めました。まず一試合目、緊張せず落ち着いて思い切った試合をしようと思い、その試合に挑みました。その結果二本勝ちし、次鋒につながる事ができ、そして二回戦、三回戦と順調に勝ち進み、予選リーグ一位で決勝トーナメントに駒を進める事ができました。

二日目は、個人戦が行われ、富岡東高校からは六名が出場しました。そして、徳島県以外の三県のトップの選手にも勝ち、優勝、準優勝、三位と、富岡東高校が独占し、その勢いで決勝トーナメントに挑みました。一回戦は、高松第一高校との対戦でした。先鋒の私は抜き胴で一本負けし、次鋒に上げる事ができず、次鋒は引き胴を取ったがとびこみ面を二本奪われ逆転負けし、中堅が面を見せて小手を取り一本勝ち。副将が引き分けし、大将があい小手面で一本負けという結果終わりました。今年も優勝旗を持ち帰りました。連覇はできませんでした。

私は日頃、自分の力をすべて発揮できる

ように稽古の時も、試合だと思い取り組むように努力していますが、なかなかうまくいきません。しかし、一試合一試合を大切にし、真剣に戦うように自分に言い聞かせています。

四国総体を振り返ってみて、優勝はできませんでしたが、とてもよい経験ができたと思います。今までに、多くの強豪チームと剣を交えてきましたが、改めて剣道の難しさを学びました。これからもたくさんの大会がありますが、反省しつつ、自信や技の向上になるよう、河田先生のご指導のもと、日々努力し稽古に励みたいと思っております。

予選リーグ

- 一回戦 富岡東四―一 済美
 - 二回戦 富岡東三―〇 坂出商
 - 三回戦 富岡東五―〇 岡豊
- 決勝トーナメント

- 一回戦 富岡東一―三 高松第一

インターハイに出場して

富岡東高校三年

小林 かおり



平成十一年八月、二日から四日、「飛びたとう岩手の空に夢はせて」をスローガンに岩手県二戸市総合ス

ポーツセンターでインターハイが開催されました。

今年東北にしては珍しく暑い夏だと地元の人からも聞いていました。会場内は選手達の熱気で一段と暑くなっているのに、試合が近づくとつれ私は、緊張して体が震える思いがしました。心の中では、この日のために苦しい練習や遠征に耐えてきたのだ。普段通りの剣道をすればいいと自分に言い聞かせていました。

予選リーグ第一試合は、鹿児島県の鹿児島高校と対戦しました。先鋒、次鋒と引き

分け、中堅が一本取りましたが、副将が一本取られ大将が引き分け、勝者本勢とも引き分けでした。

第二試合は埼玉県の淑徳与野高校でした。先鋒が引き分け後、次鋒から大将まで四人が勝って四対〇で勝ち決勝トーナメントに進出することができました。

二日目、決勝トーナメント一回戦の相手は広島県の強豪広島女子商業との対戦となりました。先鋒が一本勝、次鋒引き分け、中堅、副将が負けて、大将が健闘して勝ち、二対二でしたが本数差負けでベスト8進出は、残念ながらもなりませんでした。悔し涙がしばらく止まりませんが、みんななで気持ちを一つにして精一杯がんばった結果です。自分なりに反省して、今後の練習の課題も見つかりました。これから又、次の目標に向かって基本を大切に一生懸命練習に打ち込みたいと思います。インターハイに出場して色々なことを学ばせてもらったこと本当に感謝しています。そしてここまで毎日ご指導して下さった河田先生、諸先生方ありがとうございます。保護者の方々

も、いつも遠くまで応援にきてお世話してくださり感謝の気持ちいっぱいです。

全国教職員

剣道大会に参加して

池田高等学校

教諭 笠松寛子



「熱い。」

それもそのはず。

ここは八月の長崎県立体育館。私たちは、第四十一回

の全国教職員剣道

大会で大活躍をするため、車で十時間かけて長崎へのりこんだ。

開会式が終り、各選手が試合の準備を始める頃、当然試合相手は誰かという会話になる。私も飯田選手に「相手誰?。」と聞かれたので、「山形の松田さんという方です。」と答えた。飯田選手は「ああ。」と答えた。私はこの時小さな異変に気付いた。

飯田選手の声が一トーン下がったのだ。もしやと思い、私はプログラムをひろげ、過去の成績の覧を見た。やはり……。松田選





手は過去に二度優勝をしていた。続いて大
学時代の恩師とあい、「相手はどんなやつ
だ。」と尋ねられたので、「二回優勝してる
ようです。」と答えると、「じゃあ三回目の
優勝に花を添えてやれ。」と返ってきた。
あまりにも的をえていたため、下手に励ま
されるよりいぶんとすがすがしかった。

さあいよいよ試合が始まる。二階席から
試合会場へ下りた。この時、私は自分が全
く集中していないことが分かった。会場の
ライトがものすごくまぶしく感じられたか
らだ。昔からそうだ。なぜだかライトをま
ぶしく感じる時、私は負ける。先になぜだ
か述べたが、本当は理由も分かっている。
ライトをまぶしく感じる時、私は試合をす
る前からすでに負けているのだ。相手は二
度も優勝しているのだとか、あんまり稽古を
していないのだとか、負けた後のうまい言
い訳ばかり考えて、私の心の目は曇ってい
る。だからそんな卑怯者には、勝者を照ら
すライトがまぶしくてしょうがないのだ。
それでも試合は始まった。一本目、右に
大きく振られ、反射的に戻ったところ、引

き面を打たれた。一本を取られてからの時
間は速く過ぎる。私の竹刀は松田選手をと
らせる気配すらないまま時間が過ぎる。鏝
ざりあいから引き小手を打ったところ、松
田選手が追い込んできた。面を打ってくる
ようだ。いつもの私なら、ここは無難によ
けるところだが、思いきっていちかばちか
相面の勝負に出た——試合終了。桜よりも
潔く散ってしまった。

男子個人戦は、小・中学校の部に玉田選
手が出場した。技と技、気合いと気合いの
ぶつかり合いは、惜しくも対戦相手側に軍
配が上がった。高校・高専・大学・教委の
部には、飯田選手が出場し、一・二回戦と、
相手が気の毒にも思えてくるようなおつそ
ろしい飛び込み面を武器に勝ち進んだ。こ
のまま何びとも寄せつけまいと思えたが、
続く三回戦で、地元長崎の選手の、虚をつ
いた面が決め手となり、入賞を逃した。

団体戦は福岡県との対戦であった。先鋒
戦、福岡県チームの先鋒は、すばらしく勢
いのある選手であり、徳島県の若手のホー
プ、松永選手をもってしても止めることが

できなかった。ここで奮起したのが次鋒の白木選手。白木選手は普段、頭にあんこをつめた正義の味方にも似た、穏やかな表情をしているが、この時は目の色を変え相手を完全に圧倒する気迫で次鋒戦をとり返した。続く中堅戦に登場したのは福多選手。私は以前から、福多選手の試合を見て不思議に思っていたことがある。福多選手何らかの技を決める時、相手はよけ損ねたとか、相打ちで打ち負けたとかではなく、棒立ちになっていることが多い。だから私は常々、「あれは試合中に呪文でも唱えて呪いをかけよんやな。」と思っていたが、やはりこの時も相手は福多マジックにかかったかの様に一瞬硬直し、上段からの面が決まった。中堅戦を終え二対一と逆転し、迎えた副将戦。木原選手は試合開始まもなく一本もぎとった。「勝った。」手に握った汗をふいていたのだが、敵もさるもの、試合はこのままでは終らなかつた。福岡県チームの副将は、ジリジリと木原選手を追いつめはじめ、逆転勝利を治めた。勝者数は二対二、しかし取得本数で負けている。沢井選手に

すべてを托した大将戦、驚異のねばりをみせ、両者決め手がなのまま、ピーツという笛の音とともに五人の戦いは終った。
 試合後、皆で昼食をとっている時、木原選手は「くやしー。」を連呼し、「もう今日からグレル。」といったセリフを置土産とし、私達は長崎を後にした。
 三回戦 飯田―④銀杏田(長崎)
 (女子の部)
 二回戦 笠松―④松田(山形)

本大会は、自分のふがいなさを痛感させられる大会であったが、それゆえに多くを獲ることができた。このような機会を与えて下さった方々に心から感謝し、全国教職員剣道大会の報告とさせていただきます。

《団体》

松永・白木・福多雅・木原・沢井
 一回戦 徳島二―二福岡○(本数負け)

《個人戦》

(小・中学校の部)
 一回戦 玉田―④麻生(栃木)
 (高校・高专・大学・教委の部)
 一回戦 飯田④―小幡(群馬)
 二回戦 飯田④―牧野(奈良)



第十九回四国教職員 剣道大会に参加して

徳島北高等学校

教諭 西谷 肇 一



六月「若鮎が躍る季節」の書き出

して四国教職員大会の案内が学校剣道連盟事務局長富田正先生（相生中

学校教諭）から届いた。今年は、八月十一日（水）に愛媛県の県立武道館で開催されることになり本県選手団は選手十三名、監督一名、審判員二名の計十六名が参加することになった。大会前日（八月十日）に三台の車で（福多・立川・松永）号にそれぞれ便乗して宿舎を目指す計画であったが、諸事情で一部変更した。私は、監督会議に出席する為に福多号に乗せてもらい出発をしたが、途中昼食の為に石鎚山のドライブインに立ち寄った。これが大きく計画を狂

わせてしまうことになろうとは思わなかった。四十分位の時間を当ててはいたが、注文してもなかなか品物が来ずいらいらしていたら、やっと届き全員が終わった頃には一時間を過ぎていた。このままでは、会議に間に合わないと思いいだが、結局間に合わず先に到着していた富田先生に監督会議に参加してもらった。

しかし、このように道中でのハプニングも教職員大会参加の楽しみでもある。もちろん大会に優勝することも目的であるが、大会に参加するまで道中の楽しみや試合の緊張感、試合が終わってからの試合内容の分析等盛り沢山な体験や話ができて非常にすばらしいものである。

さて、この大会は以前四国教職員の国体予選が実施されていたものが時を経て変化してきたものであり、予選が無くなって中断していた時、教職員自ら研鑽すると共に四国は一つとすることで剣道を通じて互いの和を広めるために故人の下村富夫校長先生（阿南工）が中心となって四国の理事の先生方に働きかけて実施されることになっ

た。従って第一回の大会を徳島県で開催し、現在に至っている。

今回の大会では、本県チームは最下位に終わったけれど、ケレンミのないすばらしい面を披露してくれた飯田選手、試合運びの上手さを見せつけた福多選手、無駄打ちの少ない切れ味のよい試合をした玉田選手が印象に残った。また、西山選手の元気の良さの上に以前より増して一段と一振りの正確さが加わって来て成長を漂わせた。チームは負けてしまったけれど、個人的には幾つかのすばらしい成果を収めた。

これを機にそれぞれ練習に励み、より一層すばらしい剣道と人間形成実現の為に努力するとともに来年度の大会に向けて頑張ってください。



試 合 結 果

第一試合	県名	先	次	十一	十	九	八	中	六	五	四	三	副	大	勝数	本数
	徳島県	笠松	森	磯部	松永	兼松	飯田	玉田	西山	佐々木	福多	柴田	木原	沢井		
愛媛県							⊗ ⊗		⊗ ⊗		⊖ ⊗	⊗			3	7
	一本勝 ⊖	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	5	10
	松木	小笠原	日野	森川	秋山	矢野	川井	近藤	門岡	青野	渡部	光宗	桜木			

第二試合	県名	先	次	十一	十	九	八	中	六	五	四	三	副	大	勝数	本数
	香川県	山本	諏訪	千葉	銭谷	福原	宮本	香川	小川	香西	港	氏家	村上	國金		
徳島県		⊗		⊗ ⊗					⊖	⊗			⊖	⊗	3	7
	一本勝 ⊖	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	一本勝		2	6
	笠松	森	磯部	松永	兼松	飯田	玉田	西山	佐々木	福多	柴田	木原	沢井			

第三試合	県名	先	次	十一	十	九	八	中	六	五	四	三	副	大	勝数	本数
	高知県	谷本直	町田	竹田	谷本吉	東野	大塚	三谷	田村	柿本	道願	下坂	中野	内村		
徳島県		⊗	⊗	⊖	⊖			⊗		⊗		⊗	⊖	⊖	5	13
	一本勝 ⊖	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	4	11
	笠松	森	磯部	松永	兼松	飯田	玉田	西山	佐々木	福多	柴田	木原	沢井			

第三十四回

全日本少年剣道錬成大会

第二十四回

全日本選抜少年剣道

個人錬成大会に参加して

監督 岩 見 さゆり



平成十一年、七月二十八日、二十九日、日本武道館において開催された大会に参加させて頂きました。初日は団体戦、二日目は個人戦でした。当日は天候もよく前日から武道館近くに宿泊していた私達は九時より開会式という事なので、選手は宿泊先より着替を済ませ防具も胴までつけた状態で全員、武道館へ。到着すると入口からすで

に満員です。もはや座る席もなく三階席の最上階しか空いていませんでした。まずはそこに場所を構え、コートへと下りて行きました。何しろ大勢の人なので五人がまともまっているのが精一杯できよろきよろしていると人込みですぐわからなくなっています。だから試合が終わるまでは個々に行動しないように注意しました。

いよいよ開会式が始まり次々といろいろなセレモニーが進み最後に基本錬成がありました。「問合をとって前の人に当たらないように広がって下さい」と言われ、みんながそれぞれに広がると最後の列の子供達なんかは場所がなくなり素振ができない人もたくさんいました。

どうか基本錬成も終り、いよいよ試合です。子供達は緊張した様子もなくコート近くで出番を待ちました。対戦相手は岩手県千徳練武館というチームです。そして対戦です。結果は、先鋒二本勝、次鋒二本負け、中堅二本負け、副将二本勝、大将二本負けという事で、チームとして二対三で負けてしまいました。

二日目は個人戦、岩見（息子）が出場です。相手は宮崎県延岡修道館、川崎選手と対戦しました。見るからに大きな相手、これで六年生？と思えるほどの体格です。でも何を思ってもしかたなく戦うのみです。やはり結果は面を二本取られての負けとなりました。この試合では体格の差、体力の差が大きかったように思います。本人も打ち掛かって行くのですが、つきとばされ、よろよろと後ろによろめいた所を追い込まれて面を同じようなものを二本取られての負けでした。

この二日間を振り返って見ると負けはしたもののいろいろな大会に出場しているいろんな経験をすることが選手にとって横からあれこれ言うより本人達がいけばんわかっていようでした。前日の団体戦では、大将（岩見）は試合が終わってもなかなか面を取りませんでした。「早く取りなさい。もう終わったのだから」と言うのと泣き声で「もう一回、もう一回試合したら僕は勝って見せる」と真剣に言うので「試合という本番には、もう一回はない。」「だからいつ

の時も後になってああすればよかった。こうしたらよかったと悔いの残る剣道（試合）はしてはいけない。いつも真剣に戦わなくてはいけないのだ。」と言う事を言いました。それがちよつと薬になったのかわかりませんが、二日目の個人戦では何一つ相手に対し怯える事なく掛かって行き、負けはしたものの横で見ている、おもいつきのある動きであったように思いました。負けて帰ってきた時はまた泣いているのかな？と思いましたがそうではなく、どこか悔しさがあるもののすっきりした顔だったように思います。

試合ということは必ず勝敗があり、勝つというのはその人の実力と、時の運だと思おうし、たとえ「負けるかも」と弱気が頭を横切ったとしても最後まであきらめてはいけない。負けても負け方があると思う。またその負けをバネに次の試合では勝利を勝ち取るような気持ちを持つ事だと思えます。一回試合に出場するという事は、稽古の何回分にも匹敵すると聞いた事がありますが、この大会に出場した事によって、技の面、

精神面、多くの事を勉強しまた反省し選手としての子供達はすばらしいものを心の中に持ち帰ったのではないかと思います。最後になりましたがこの素晴らしい大会に出場させて頂き、私達一同に剣道を通じての、幸わせの道を与えて下さいました大澤先生に心から深く感謝致しております。

全日本少年武道

(剣道) 大会に臨んで

鴨島少年剣道教室

道場長 笠井 恵之



今年も日本武道館にて、猛暑の中、全日本武道（剣道）錬成大会が、開催されました。

わが鴨島少年剣

道教室は、二十一回目の出場となり、例年通り三カ月ほど前から、錬成大会の練習を始めました。この錬成大会は、二回戦までが、基本判定試合と一本勝負で勝敗を決します。基本錬成は、四〇秒間で切り返し、応じ技を二本以上交えた打ち込み稽古です。よって、切り返しを一六秒迄に終えるよう正確に、又、打ち込みでは、抜けた後、振り返り、すぐに出る足運び、足さばき。間合いが取れ、最後まで、気合いと体勢が崩れない。そして、残心。たくさん課題の

中、切磋琢磨し、子ども達がどこまで、心技体を一体として修練できるか。

今大会の出場は、当教室においても最高学年の集大成であり、その目標に向かって日々、厳しい稽古を重ねました。また、少年剣士として、勝負にとらわれない心身の練磨と相互の親睦を目的とするところでもあります。

練習を始めた当時は、昨年度の先輩の優良賞（準優勝）が、子供たちの肩に重くのしかかっていたように思います。その重みも稽古を重ねている間に取れ、それ以降、子供たちの腕もぐんぐんと上達したように思います。今年の六年生は、例年になくチームワークがよく、皆が丸となり稽古に取り組んでいました。

日本武道館の太鼓が響き渡り、入場行進が始まりました。プラカードを先頭に、堂々と行進してくる少年剣士たちの姿は、武道館の熱気を払う涼風のようにすがすがしいものでした。全国津々浦々からの参加者で武道館の広いフロア一杯になり参加者の多さを改めて思い知らされたように思い

ます。

この雰囲気の中、舞台の大きさに吞まれる事無く思う存分、力が発揮できるように願っておりました。その願いが叶ったのか、一、二回戦とも接戦ながらも勝ち進むことができました。ベスト4をかけた試合は、

代表決定戦に纏れ込む熱戦であり、合い面、息を呑んだ瞬間、旗は無常にも相手側にあがりました。勝負に破れましたが、見応えのある試合をしてくれました。

昨年のような成績を残せませんでした、補員を含めたみんなが励まし合い、カバーし合って、より一段の成果が出たものと思います。全国の少年少女剣士達と熱く燃え、経験できた喜びに感謝すること、この錬成大会が最終目標ではなく、これからの剣道人生の再出発地点であることを学んでくれたことと思います。

子供たちと熱く燃えた夏の錬成大会から、早、四ヶ月過ぎ、道場の外は、冷たい風が吹き出していますが、錬成大会に参加し大きく成長した六年生を中心に今日も、大きな掛け声が道場に響きわたり、竹刀を交え

心身の鍛練を行っている姿を見、今後もし意専心、剣の心を伝えるよう精進しようと思えます。

《一回戦》

鴨島少年剣道教室	加古川（兵庫）
先 富 本 2 ⊗	1 田 村
次 近 藤 2 ⊗	1 坂 本
中 田 尾 0 ⊖	2 中 村
副 桑 原 2 ⊕	1 山 本
大 新居見 2	1 大 村

《二回戦》

鴨島少年剣道教室	滝小剣友会
先 富 本 0	3 成 田
次 近 藤 1	2 海老原
中 田 尾 3	0 渡 辺
副 桑 原 1	2 山野辺
大 新居見 3 ⊗	0 秋 山

《三回戦》

鳴島少年剣道教室

福地南部小学校

先富永 ②③

兵藤

次近藤

Ⓛ 小松真

中田尾

Ⓛ 小松裕

副桑原

× 石原

大新居見 ③

渋谷

(代)新居見

Ⓛ 小松裕

第三十七回

四国中学校総体

女子団体戦に優勝して

那賀川中学校三年

中山 希実子



平成十一年八月七日、四国大会の前日、練習のため、剣道部コーチの山田浩司先生と選手七名で鳴門武道館

へ向かいました。短い時間ではありましたが、気迫のこもった練習をすることができました。また、他県のチームの練習を見てみると、私たちが闘志がわいてきました。八月八日、いよいよ四国大会の始まりです。今年 は地元開催でもあり、昨年は決勝戦で敗れて悔しい思いをしたので、「絶対に優勝するんだ」という強い気持ちで試合に臨みました。

予選リーグには、過去に敗けたことはな

いが、実力のある白鳥中(香川)と高知中(高知)。そして初めて対戦する砥部中(愛媛)でした。苦戦しましたが、結果は白鳥中に二対〇、高知中に二対一、砥部中に二対〇と三戦全勝で、決勝トーナメントに進出しました。

準決勝戦では西条北中(愛媛)を二対〇と下し、決勝は予選リーグで戦った高知中と再び対戦することになりました。決勝戦では先鋒、次鋒が勝ったものの、中堅、副将が敗けてしまいました。大將戦を見事に制して、七年振り三度目の優勝に輝きました。

この大会を振り返って、一本を取ることの難しさ、先鋒、次鋒とリードした時や逆にリードされた時の団体戦の戦い方など、たくさんのお話を学ぶことができました。優勝することができたのも、選手七名が力を合わせて練習に耐えてきた結果だと思えます。

最後になりましたが、日頃ご指導を頂いている坪井・木下両先生、忙しい時間をさいてご指導くださった山田浩司・山田耕司

両先生に心からお礼を申し上げます。
「ありがとうございました」

選手 片岡 未来・岸 香織

工藤 美希・小西 美穂

坪井 香奈・橋本 佳奈

中山希実子

四国大会に個人優勝して

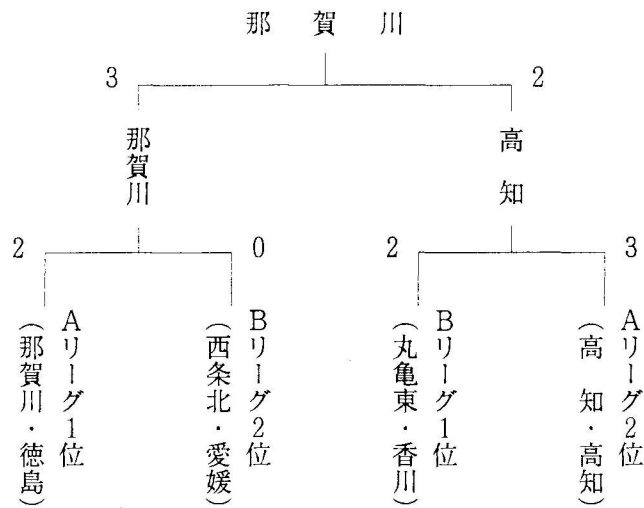
那賀川中学校三年

岸 香織



昨年の四国大会で私は女子個人戦に優勝するというすばらしい結果を残すことができました。

いたように見えたそうです。今まで団体戦で優勝することはあっても、個人戦で優勝するなんて初めてのことだったので今でも実感がわかないぐらいです。
今、じっくり考えてみると、四国大会で優勝できたのも、いままでお世話になったたくさんの先生方、つらい時や剣道をやめたいと思った時に励ましてくれたり、怒ってくれたりした家族や、よい仲間でよいライバルだった剣道部のみんなのおかげだと思っています。本当にありがとうございました。



中学校で個人戦をするのは、この四国大会で最後だったので、できるだけがんばろうという気持ちでした。決勝戦の相手は、同じ中学校の中山希実子さんでした。中山さんは小学校の時から一緒に剣道をしてきましたが、あまり勝つことがなかったので、この試合も中山さんが優勝すると思っていました。でも、前でも言ったように、中学校で個人戦するのは最後だったので、くいの残らない試合をしたかったです。試合は延長戦になりました。思いきってコテを打つと、決まり、私は一瞬とまどって

私は今、週に一回徳島至誠館へ練習に行つて、先生方に指導してもらっています。試合に出ていた時は、もちろん悪いクセを直すのもとても大事なことです。やはり勝たなければいけないという時は、自分で意識しているつもりでも、悪い所が出てきてしまったと思います。しかし、試合をしなくなった今は、勝たなければいけないというプレッシャーがなくなり、自分自身の剣道と向き合っているといます。
私は高校へ行つても剣道を続けたいと思つ

ています。そのために、今基礎をしつかり固めて、四国大会優勝の名に恥じぬよう、また高校へ行っても通じる様な剣道をしていきたいと思えます。

全日本女子

剣道選手権に出場して

富岡東高校三年

伊藤 奈津子



県予選で優勝し、初めて全日本大会に出場できるうれしさの反面、県代表として良い試合ができるかどうか不安であった。試合は、九月十二日名古屋

市中村スポーツセンターで行われた。そうそうたる顔触れと高校生の大会とはまた違う緊張した会場の雰囲気は一瞬戸惑ったが、今自分が持っている力を最大限に発揮しようとして試合に臨んだ。

一回戦

伊藤 藤 (⊗) ⊗ | 矢野 (東京都代表)

一回戦は、矢野選手(東京都代表)五段であった。矢野選手は実業団大会など多くの全国の大会で活躍されており、試合経験

も豊富である。試合前に河田先生がおっしゃったように背伸びした剣道をせず、いつもと同じ調子、気持ちの心がけた。前半の早い時点で飛び込みメンを獲り、それで緊張がほぐれた。後半にかけては自分の得意なパターンに持ち込むことができ、相手の出頭のメンをとらえた。しかし途中では、有効打突にはならなかったものの、一瞬こちらの迷ったところをつかれ、はっとする場面が何度かあった。いくらこちらのペースであつても打突の良い機会はお互いに何度かあり、それが有効打突になるのは紙一重でそれを確実に一本にすることが勝ちにつながるのだと思つた。

二回戦

伊藤 藤 | ⊙ ⊙ 山本 (富山県代表)

延長

二回戦は山本選手(富山県代表)四段であつた。一回戦とは違い、足を巧みに使つた速い攻撃に戸惑つた。しかしそれでも気持ちは落ち着いていて良いタイミングで相メン、コテとでたが、いずれも軽く有効打突にはならなかつた。逆に、飛び込みメン



を警戒され、お互い良い所が出ないまま延長戦へと入った。決して気持ちは押されていたわけではなかったが、つばぜりあいからふつと集中がきれ、手元が上がったところをひき逆下ウを打たれた。軽いのではと思ったが完全に意表をつかれた攻撃だった。後から思えば、相手が自分のメンを警戒して手元を上げるところを自分が打たなければいけなかった。延長に入った試合はまさに一本勝負で、少しの気のゆるみが命取りになることを改めて痛感した。

優勝は東京都代表の朝比奈選手であった。朝比奈選手は長身で特にメンはスピードだけでなく破壊力もある。私も学ぶところがたくさんあった。他の選手も県の代表として素晴らしい選手ばかりであった。そのため緊迫した試合が続き、一瞬のスキを狙ったレベルの高い攻防戦が見られた。

今回で三十八回を迎えた全日本女子であるが高校生の出場は四人と過去三年間で最高だったそうである。私の目標は一回戦突破であったが四人とも一回戦を勝ち抜いた。他の高校生の健闘を見て私も頑張らなければ

ばという気になった。そして、自分たちの力でも上を目指していけるのだという自信にもなった。

私は、今回このような全日本大会という大きな舞台に立つことができ感激した。不安な時もあったが熱心に指導して下さった先生方、周囲の人達の支えで胸を張って出場することができた。本当に心から感謝したいと思う。まだまだ反省しなければいけない点はたくさんあるがのびのびと試合できたと思う。何よりも今の日本の女子剣道のトップの試合を目の当たりにして、スピードと力だけではない女性らしい技や精神面の強さが深く印象に残った。それはやはり、自分に厳しい質の良い稽古を積まれているからだと思う。私もこの大会に出場したという経験を誇りにし、学んだことを忘れる事なくこれからの自分の剣道に生かし精進していきたいと思う。

国体に出場して

副将 松村 和宏



第五十四回熊本
未来国体が、十月
二十三日から開催
されました。剣道
競技は、二十六日
に一回戦、青森県

代表と、二回戦は静岡県代表でした。三回戦へと進むことはできませんでしたが私は国体出場の夢が叶っただけでも満足でした。私はかつてから国体出場が望みでもあったのです。第四十八回国体が徳島で開催された時、息子が高校三年で大将として出場できました。その時の試合は私の目に焼きついて今でも浮かんできます。当時、私は親子で出場できればどんなにいいだろうと秘かに思っておりましたが、しかしその頃、仕事が軌道に乗りかかった所でしたので仕事を優先しなければならず、自分自身の剣道の練習時間も思う様に取れず、息子の高

校時代に試合にも応援にも行ってやれない
歯痒さも思い出します。

あれから六年、こうして国体会場で自分
が徳島県代表選手として入場行進している。
感動という一言です。これまで九州、大阪、
高知遠征へと参加し、各県の選手と練習試
合をして、他県の選手の強さやレベルの高
い事に圧倒されるばかりでした。試合経験
の少ない私は、監督の近藤巨先生のアドバ
イスを一つ一つ大切に練習試合に望ました。
一回でも多く試合してみたいと思う様になっ
た自分が、こんなにも剣道に対しての心構
えが変わるものか、それは国体出場が大き
なプレッシャーでもあったのは事実です。
とにかく負けてもいいから無様な負け方だ
けはしたくない。運良く相手から一本でも
取れたら良ししよう。そう思いながら試合
当日、一回戦青森県代表と先鋒・佐野は開
始直後、抜き胴を鮮やかに先取、それを守
りきり先手を取りました。次鋒・吉田は延
長戦開始直後に相手の手元が上がったとこ
ろを抜き胴を決め連勝しました。相手中堅
は出場できず。この時点で徳島の勝が決まっ

ていたので私は気持ちは楽でした。相手小
林選手に小手を取られ、しかし、すぐに取
り返すことができ、もう一本と勝負をかけ
て引き胴を打ったところ間合が切れず、追
い込まれて面を取られてしまいました。大
将・中尾は、上段からの面と、出小手の二
本勝ちをし、二回戦へと進出する事となり
ました。二回戦、静岡県代表とは、先鋒戦
では技が決まらず、延長に入り静岡の片岡
が小手を決めました。次鋒・吉田は切れの
よい抜き胴を決め一本勝、中堅と副将とも
二本取られ、大将を待たず勝負が決まりま
した。しかし、この国体経験が一つの節目
となり、私は時間の許す限り練習に励み、
剣道の各試合に出場してみようと思ってい
ます。

これからの人生、剣道を通じ人と人との
交流を深め、自己修養の場とし、おだやか
な気質で情緒豊かに安定し、仕事にも頑張っ
ていければと思っています。



国民体育大会に出場して

富岡東高校三年

栗本美香



私が初めて国民体育大会に出場させてもらったのは、高校二年生の時でした。徳島県の前選で運よく勝つこ

とができチームに入れていただきました。国体はすべてのチームが出場できるわけではなく、四国からは二チームしか出場できません。四国の予選で勝ち国体に出場しましたが全国の強豪ばかりが集まっています。「私もこんな強い人たちの中で試合するんだ。恥ずかしい試合だけはしたくない。」と不安やあせりを感じたのを覚えています。今年、四国総体で負けた悔しさをバネにチーム一丸となって四国予選を一位で通過し熊本未来国体に出場することができました。私達は富岡東の単独チームで、お互

いのいいところも分かっており「チームワークを大切にして試合をしよう。」と誓い合い、試合に臨みました。

一回戦は、新潟県との対戦でした。あまり練習試合でも剣を交える機会が無くどのようなチームなのか分からないまま試合が始まりました。国体は、普通の試合とは違い、延長になると勝負が決まるまで試合が行われます。先鋒が延長戦の末粘って勝つと、その勢いにのって四対〇で圧勝しました。

二回戦は、強豪佐賀県との対戦でした。何回か練習試合をしましたが今まで一度も勝つたことがありませんでした。昨年も二回戦でインターハイ優勝の山形県と対戦しましたが、あと一歩というところまで追い込んだので「今年も何が起るかわからない。がんばろう。」と心の中で思っていました。先鋒、次鋒と粘ったものの負けました。しまい、中堅の私にまわってきました。負ければ勝負がついてしまいます。私は負けられないと思います。試合開始早々小手をねらいにいったところを返さ

れ面を取られてしまいました。一本取られると焦ってしまい相手のペースになり、取り返そうと掛かっていきましたが逆に取られ、負けてしまいました。私が負けたところで勝負はついてしまいました。副将が勝って結果は三対一でした。目標の五位入賞はなりません。試合が終わった後、思いきってやったものの、自分の試合内容に満足できず、「どうして後になげれなかつたんだろう。私が負けてなかつたら勝負はついていなかったのに。」と後悔の気持ちばかりが出てきました。悔しくて涙がとまりませんでした。

今、この大会を振り返ってみると、負けはしたけれど、自分の課題も見つけることができ、忘れることができない思い出の大会になりました。国体は、どんなに強くても、望んでも出場できない人がたくさんいます。その中で、私が二回も出場できたことは自分の誇りだと思っています。そして、剣道を通じて、仲間と協力することの大切さや、言葉では言い表せないほど多くの感動を得ました。私は剣道をしていてよかつ

たと思っています。今まで指導して下さいました先生や先輩、共に練習し、励まし合いながらやってきた仲間にお礼の言葉を言いたいです。

「本当にありがとうございます。」

私は、剣道を通じて経験したことをこれからの生活に生かしていきたいと思っています。

第三十四回全日本 居合道大会に参加して

監督 原田 勝

平成十一年十月二十三日山形県総合運動公園総合体育館において第三十四回全国居合道大会が開催され本県からも監督・原田勝、七段の部・吉岡修一、六段の部・坂本憲一、五段の部・高野康寛が出場しました。今年には特に居合道発祥の地である山形県での開催となり由緒ある大会となりました。居合道の始祖である林崎甚助源重信先生もさぞや満足されている事と思われます。今年の本県の戦績は、七段の部・吉岡修一選手が一回戦で新潟県の品田峰雄選手に三対〇で敗退。六段の部では坂本憲一選手が二回戦で岐阜県の渡邊和泉選手に二対一で敗退し、五段の部では高野康寛選手が一回戦で広島県の安田宏之選手に三対〇で敗退し、近年になく不調なものであり監督としては痛切にその責任を感じるところである。

一位は山形県、二位は東京都、三位は福岡県で本県の全国順位は二十四位であった。全国的にみて全剣連居合が定着しており、所作の上では各選手は同じ様なものであり、後は正しい稽古の量と創意工夫から生じる剣先の働きとその選手に合った間の取り方、氣迫、体勢の善し悪し等が勝敗の分かれ目であった。選手に選ばれた方もそうでない者も私自身を含めて、各道場の稽古日の練習や強化練習会での稽古だけで不足であると私は思う。刀を抜く場所がなければ、木刀による素振りだけでも良く、抜きつけ、切り下ろしに創意工夫をこらし日々何らか稽古をしなければ駄目である。鍛練は千日の行、勝負は一瞬の行、行ずる気で日々稽古をするそんな選手が一人でも多く増えたいものです。そうでないと全国大会での上位入賞はとても望めないと感ずる反省点の多い大会でした。第三十五回大会は、平成十二年十月二十一日(土)大分県で開催されることになっております。これ以上全国順位が落ちないように、早期に選手選考を行い強化練習に入りたいと思っております。



りますのでご協力よろしくお願い致します。



第34回
全日本居合道大会
都道府県対抗優勝試合

平成11年10月23日(土) 山形県総合運動公園
主催：財団法人全日本剣道連盟 主管：山形県剣道連盟

※ 山形県：山形県剣道連盟 / 岩手県：山形県剣道連盟 / 宮城県：全東北居合道連盟
秋田県：山形県剣道連盟 / 山形県：山形県剣道連盟 / 山形県：山形県剣道連盟 / 山形県：山形県剣道連盟

全日本居合道

大会に参加して

居合道教士七段

吉岡修一

平成十一年十月二十三日(土) 山形県の将棋の駒で有名な天童市広大な山形県総合運動公園内の立派な体育館で第三十四回全日本居合道大会が開催されました。監督・原田勝先生、五段の部・高野康寛選手、六段の部・坂本憲一選手、七段の部は私が参加しました。山形県といえますと居合道の始祖林崎甚助重信が有名であります。生れは奥州出羽の国現在の山形県村山市楯岡町で、今から四百五十年前親の仇討ちのため居合を極めこの道の始祖となりました。大会前日、林崎甚助重信が祀られています居合神社へ師匠の平尾勝美先生と個人演武に出場する同門の岸田、西山六段、高野五段とで戦勝祈願をし、同神社道場にて奉納演武をさせてもらいました。十八年前、平尾先生にはじめて居合神社へ連れていっても

らいました。その時は田舎の田ほの中の小さなお社でありました。しかし、今は立派な神社になっておりました。

大会は開会式後、第一試合会場は七段の部、第二試合会場は六段の部、第三試合会場は五段の部と三試合会場同時に試合が始まりました。七段の部、私の出場は一回戦第二試合目でありました。対戦相手は新潟県品田峯雄選手四十九才でありました。残念ながら、結果は三対〇で初戦に破れました。敗因は稽古不足の一言であり、ご指導を賜りました先生方に対して申しわけなく深く、反省しております。七段の部は、四回戦の準々決勝に全日本居合道大会で七回優勝している東京の金田和久選手と地元山形の原田一廣選手が対戦しました。接戦の末二対一にて地元原田選手の勝となりました。この試合が事実上優勝戦であったと思います。実に見ごたえのある良い試合でありました。七段の部は地元原田選手が優勝しました。

都道府県対抗団体戦は地元山形県が総合優勝、二位東京都、三位福岡県という結果

でありました。「修業の深さ」ということをよく聞きます。稽古を積むことによって表に現れてくるものでも言いますが居合は仮想敵に対して演武をしますので真剣さに欠けることがあります。本場の敵に対して「切るか」「切られるか」という場に自分の身を置き、抜、気合、間に寸分のスキなしに演武ができるかどうかは修業を積むことによって、表に現われるものであると思います。全日本居合道大会に参加して有名な選手の試合を見、表に現われた抜内に秘められたなどを、目で見、ハダで感じたものを持ち帰り、一步でも近づけるよう稽古に励げみ、また大会に出場できるよう努力したいと思えます。

全日本選手権

大会に出場して

(宮崎正裕選手との対戦を終えて)

警察支部 吉田茂生



この度、三度目の出場権を得て、初出場のときの心境とは異なり、何とか上位進出が出来るよう県予選が

終わつたときからもなお稽古に励んできました。しかし、ただ勝ちたいだけでは進歩はありません。自分の欠点を直し、長所を延ばす。特に攻めて打つこと、得意技を磨くことに専念しました。稽古が積んでくるにつれ、疑心暗鬼に陥り、打つ技が見抜かれるようになると思い切つた技が出なくなり、一時期最悪の状態になりました。夏が終わる頃少しずつ良い状態に戻ってきてきましたがまだまだ自分を捨て切れるところまでいきませんでした。秋ぐらいからは技の

研究と共に、精神面を安定させる工夫をしました。このように技術、精神面の強化を図り、いよいよ大会一か月前がきました。そろそろ対戦相手が気になる頃、連盟事務局から職場へ対戦表が送られてきました、

見た瞬間『おー』と奇声を発してしまいました。というのは相手が日本剣道界を代表する神奈川県警の宮崎正裕選手だったからです。その時の心境はまさか一回戦から当たるとは思っていなかったので一瞬『それはないだろ』と肩を落としかけました。しかしよくよく考えてみれば、二連覇を目指し、十回目の出場をされる宮崎さんとあの大舞台で対戦できることは自分にとって貴重な体験であり、甘い考えですが『もしかしたら……』ということも頭の中を過りました。まわりの方々も『相手も人間だからどこかに隙がある。気持ちで負けたいかん』と励ましてくれました。(慰めにも受け取れましたが)

相手に取って不足なし”対戦相手が決まったからにはやるしかありません。残り一か月間はビデオ研究と稽古を繰り返して

いましたが、急に強くなるわけがありません。後には気持ちと体のコンディショニングをうまく大会当日に持っていくことだけを考えました。

そして大会当日。私の試合は第二試合場の第四試合目でほしい自分の試合の二試合前に対戦相手と揃って面を着けに行くのですが、第一試合が始まってまもなく宮崎選手の方から『そろそろ面を着けに行きましょう。』と言ってきたのです。私は思わず『はいっ』と言って面を着けにいきました。今思えばあの時から宮崎さんのペースにはまっていたのかもしれない。あの時も『もう少ししてからにしましょう。』と言っておけば相手の出鼻を挫けたかもしれません。(自分勝手な想像ですが)

いよいよ対戦の時。前試合が終わって審判の交替。しばらくコートの外で『赤、徳島県代表・吉田茂生選手(少し声が小さく感じる)、白 前年度優勝神奈川県代表宮崎正裕選手。(大分声が大きく聞こえた)』場内が一斉に沸いた。と同時に何かしら全身に“じゅん”とくるものがあつた。『よ

しやるぞ!』

試合が始まり、気合いを入れると同時に間合いを詰めて飛び込み小手。十分気持ちは前にいっている。よし、このままの調子”私は宮崎さんに先を取らせないようにと気持ちは前へ持っていた。しかしそこは強者宮崎選手。私の気持ちを察してか強引には入ってこない。そしてしばらくしてまた飛び込み小手を打った。これが惜しかったです。(結局いいところはそれだけだったのですが)中盤過ぎから宮崎選手が表から竹刀を払いながら攻め入ってくる。(宮崎選手独特の攻め)下がったら負け。一生懸命耐えようとするが耐えきれず下がってしまった。宮崎選手の面が飛んできた。しっかりと防いだつもりが私の左面に触る。(ふう、危ない、危ない)その後鏝せりあいになり宮崎選手が引面を打った。さっと防いだその時だった。引き面を打って決まらなかつたときみた宮崎選手はすぐさま中間から飛び込み小手を打ってきた。(その時の私の動きは引き面を防いで中段に戻そうとしていたときだった。)“しまった”と思った瞬間

間宮崎選手の竹刀が私の小手を切った。

(剣道日本では「したたかに打った」と表現している。) 間も近いし軽かったし、決まっていな思ひ試合を続行しようとしたのですが無情にも旗が三本上がっていた。(正直言つて「うそだろ」と思いました。が……)

二本目。残り時間一分少々。気を取り直して向かつていくがそこは試合巧者の宮崎選手。無理には勝負をしてこない。結局そのまま時間切れとなる。

宮崎選手との対戦を終え、後からビデオを見てみたのですが、あの間合いから小手を打つてあれだけの冴えが出るのはやはり「素晴らしい」の一言に尽きます。

- ・攻める時には怒濤の攻めをする。
- ・守りながらも攻めの気持ちを持つ。
- ・確実にチャンスをもノにする。
- ・打つときには捨て身で打ち、正確に部位を捕える。

これらすべてを自分のものに行っている宮崎選手。本当に強かったです。宮崎選手から学んだことをこれからの自分の剣道に生か

してさらに精進したいと思ひます。

続きまして中倉旗(内閣総理大臣杯)争奪剣道選手権大会の結果報告をさせていただきます。

去る十二月五日、東京都国立市民体育館において開かれたこの大会。本年最後の大会であるということもあつて本年中に開催された五大会の優勝選手、特別招待選手、国際社会人剣道連盟代表、都道府県代表選手、外国人選手については本年はアメリカと台湾の二名の参加で合計百十九名により中倉旗の覇を競いました。

私は一回戦、東京都大田区代表の武藤健一郎選手(筑波大出身)と対戦しました。構えもしっかりしており正剣であつたうえに審判員も範士八段。思い切つていけば大丈夫。そう思ひ気を入れて試合に臨みました。試合が始まりしばらくして惜しい一本もあつたのですがそのまま中盤を迎えました。構え合つたところから相手が飛び込み面を打つてきたので前で捌いたのですが、旗三本上がつており、続いて二本目。取り返さなければいけないと気がはやり面に

たところを捌かれて引き小手気味の小手を取られ二本負けを喫しました。

大会前調子が良かっただけに後味の悪い結果となり、何とも言えない脱力感を味わいました。

今大会を終えて、不運にも一本先取されたとはいえ、それにも動じずじつくりワンチャンスを待つ気構えが必要であることを痛感しました。

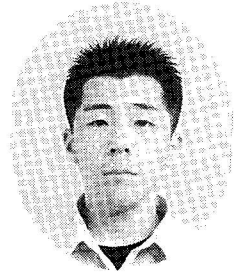
これからの課題としては精神面を充実させることに重点を置いていきたいと思ひます。「気持ち」だけで試合の展開が変わります。気持ちができていると技はその時自然とついてきます。力が似ている相手ならなおさら気持ちの勝負になります。今私には精神面、技術面ともに足りないところが多々ありますのでこれからの稽古で少しずつ克服していきたいと思ひます。

最後にこの二大会出場に際しましてご支援頂きました先生方にお礼を申し上げます。結果報告とさせていただきます。ありがとうございました。

全国青年大会

出場を振り返って

阿南支部 甘利 克征



一九九九年十一月十二日、秋薫る神宮に、全国津々浦々から若者が集い、第四十八回国青年大会が、四

日間に渡り開催された。

「友愛」と「共励」を大会テーマに、二十一種目が各会場に分かれ熱戦が繰り広げられた。

剣道の部は、東京武道館で行われた。初日ハプニングがあつたが、無事開会式を終え、団体戦を迎えた。私の心の中では、仲間の試合経験豊富で、駆け引きのうまさを知っていた為か、「まかす」という感覚に傾いていた。そんな中で団体戦が始まった。

団体戦・二回戦 広島県と対戦した。

〈二回戦〉

					先鋒	奥田	延長	谷口	徳島
					次鋒	竹尾	延長	鈴木	
					中堅	小林		甘利	
					副将	山脇		池田	
					大将	竹尾		二反田	

先鋒谷口選手が粘りに粘り延長で面一本で一勝。次鋒鈴木選手も粘り延長で面一本。中堅の私は、攻めきれず敗れ、副将池田選手が善戦、大将二反田選手敗れたが、三対二で三回戦に駒をすすめた。

団体戦・三回戦 岩手県と対戦した。力の差は、あまり感じなく思ったが、先鋒、次鋒、中堅と前三人が敗れ、副将、大将が粘ったが、結果一対四で敗退。ベスト8に上がることが出来なかった。

〈三回戦〉

					先鋒	谷口		伊東	岩手
					次鋒	鈴木		沢口	
					中堅	甘利		猫塚	
					副将	池田		及川	
					大将	二反田		田村	

決勝戦は、福岡県と東京都の対戦となり、福岡県が栄冠に輝いた。気剣体のどれをとっても素晴らしい、迫力のある試合だった。

団体戦を終えたところで、私自身役割を果たすことと、自分の剣道が出来なかったことが虚しく思えた。団体戦とは、一人一人の役割があり、それを果たすことで「勝ち」が生まれることを教えられた。全試合終了後の稽古会で気合いの入れ直しをした。そして、アドバイスを耳を傾けていると、

なんとなくイメージができ、個人戦に向けて「一勝したい」そんな欲望が高まっていくのを感じた。

才二日目個人戦の結果は次の通り。

一回戦

鈴木
(徳島)

田中
(神奈川)

二回戦

池田
(徳島)

不戦勝

谷口
(徳島)

不戦勝

二反田
(徳島)

竹尾
(広島)

甘利
(徳島)

木場
(鹿児島)

三回戦

池田
(徳島)

後藤
(岡山)

谷口
(徳島)

古川
(宮崎)

甘利
(徳島)

長崎
(東京)

個人戦でも、それぞれが気迫溢れる試合を展開したが、上位には手がとどかなかった。

自分自身を振り返れば、このような大舞台での念願の一生が得られたのも、仲間のアドバイスがあったからこそである。

今回の大会に出場した、馬見監督と五名は、それぞれの気持ちで試合と稽古会に望み、研究し合い、満足したり、今後の課題や目標が得られたように思う。

今回の青年大会出場に際して、稽古の間と場所を提供していただいた各道場、ご指導ご激励いただいた先生方には、深く感謝し、お礼申し上げます。また、機会を与えて下さった阿南支部の皆様有難うございました。



東京武道館玄関にて

全国警察剣道大会

「終わりなき夢への挑戦」

警察支部 平野 誠司



平成十一年全国警察剣道大会が十一月十日（水）、日本武道館において開催されました。本大会は三部制

（一部十二チーム・二部一八チーム・三部一八チーム）をとり、徳島県は二部で出場しますが、一次リーグ（三チーム）、二次リーグ（三チーム）を勝ち抜いた二チームにより二部の決勝が行われます。また、二次リーグの上位四チームが次年度に一部昇格となり、一次リーグの最下位六チームが三部に降格となるため、毎年白熱した試合が展開されています。

〈試合結果〉

第一部

優勝 神奈川県警察

準優勝 警視庁

三位 大阪府警察

第二部

優勝 熊本県警察

準優勝 愛知県警察

三位 北海道警察

第三部

優勝 福島県警察

準優勝 高知県警察

第三位 岐阜県警察

〈出場選手〉

徳島東 山名 伸行（四段）

機動隊 山室 雅幹（四段）

〃 森 晋作（三段）

〃 富沢 憲一（四段）

〃 富田 圭介（五段）

〃 小坂 治（五段）

〃 岩木 一功（六段）

〃 吉田 茂生（六段）

〃 平野 誠司（六段）

○戦評

本県は、一次リーグで熊本県警・奈良県警と対戦しましたが、特に熊本は今年の国

体開催で強化されていることが予想され、激戦が予想されました。

△一次リーグ一回戦▽

徳島県警 0 (0) 1 (4) 4 熊本県警 0

山室 × 小山

富沢 1 ⊗ 春田 0

山名 1 ⊙ 益田 0

富田 × 高波

吉田 1 ⊗ 渡邊 0

岩木 × 吉川

平野 1 ⊗ 宮上 0

初戦のためか審判にも堅さが見られ（？）

先鋒・山室選手の放った渾身の面が時間終了後と判定され、取り消される場面があり、イヤな立ち上がりとなる。続く次鋒・富沢にも堅さが見え一歩リードを許す。

五将・山名選手は、二刀流でどれだけ全国に通用するか期待されたが、審判も慣れでなかなか一本とならず、逆に上段からの突きを許す。

中堅・富田選手の引き分け後、三将・吉田選手の勝負のかかった一番であったが、後打ちの引き面を取られ勝負がついた。大将の私も最後で意地を見せたいところではあったが、巧みな引き面に翻弄され一本負け、結局0対4で完敗となる。

△一次リーグ二回戦▽

○徳島県警 4 (5) 1 (2) 2 奈良県警

山室 ー × 生駒

○山名 ㊦ ㊦ ー 宮尾

○富沢 ㊦ ㊦ ー 濱田

富田 ー ー 反山本 ○

○吉田 ㊦ ー ー 森本

岩木 ー ー ㊦ 辰巳 ○

○平野 ㊦ ー ー 田口

先鋒の山室選手は引き分けに終わるが、後につながる気迫のこもった内容で次鋒・山名選手につなぐ。自由自在に繰り出す二刀の太刀は、的確に相手の小手と面を捕らえ、「二刀・山名ここにあり。」

続く五将・富沢選手、奈良のポイントゲッター・濱田選手に対して、果敢に攻め込み、中心を割つての小手面が炸裂し、みごと一本勝ち。

中堅の富田選手は不運にも反則負けを喫するが、三将・吉田選手、ここでは勝負師らしい出小手を決める。

勝負を決めたい副将・岩木選手、積極的に勝負をかけるが逆に返し胴を取られる。

大将の私が二本負けを喫しない限り、チームの負けはない状況であったため、比較的落ち着いて勝負ができ、諸手突きの一本勝ち。

結局四対二で勝利を収める。

このように、今年もリーグ一勝一敗で一部への挑戦は失敗に終わり、二部残留が決定しましたが、一つ上(一部)を目指すには一人一人の技の幅と確実性、そしてそれらを出すための強い精神力と集中力など、まだまだ課題は山積みです。しかし、一人一人が同じ夢を持ち部員が一丸となって精進すれば、必ず道は開かれることを信じて頑張っていきたいと思えます。

また、夢に向かうその姿・頑張りが県警だけでなく徳島県全体の剣道本体の高揚として少しでも浸透していつてくれれば、それはすばらしいことだと思います。

最後になりましたが、今大会に際しまして物心両面にわたりご支援・ご激励いただきました堀江名誉会長、遠藤会長をはじめ多くの先生方に衷心よりお礼を申し上げ大会のご報告といたします。

第二十一回

全日本高齢者武道大会

徳島県高齢剣友会

理事 南 充美



平成十一年六月七日（月）日本武道会に於いて、第二十一回全日本高齢者武道大会が、剣道三〇名・なぎなた二〇名・計六一〇名が一同に会し、大太鼓の合図で華々しく開催された。

開会式では凶らずも徳島県の一村喜佐男教士七段が全日本高齢剣友会から選手宣誓の要請を受け、選手六一〇名を代表して選手宣誓をしたのであるが堂々としたものであった。

演武に移り堀ノ内勇吉範士八段・高崎慶男教士八段の立派な日本剣道形が披露された。（両先生共徳島県での高齢者剣道大会

にお越し下さって深く親交のある方である）昼食後、異種試合があった。剣道対銃剣道二組・剣道対なぎなた二組・剣道対鎖鎌一組・鎖鎌対なぎなた一組。普段見られない珍しい演武である。

徳島県からの参加者は卒寿組三名・特組二名・A組四名・C組一名であった。現在まで全日本高齢者武道大会では徳島高齢剣友会の剣士が優勝者三名を出したのをはじめ、準優勝者第三位と数々の優秀な成績を残している。これには東京大会に備え、有志が必ず大会前日三日位には上京し、野間道場・三菱道場・西山道場へと出稽古に参加し、多くの先生方と剣を交え、ご指導を受けているのであるが、今年には遠藤一美教士七段がA組で三位に輝いたのが最高で他の剣士は三回戦までに終わってしまった。最後に平岡竹雄教

士七段が永年連続出場優秀選手として表彰され、記念品を頂いたことを報告する。



選手先生をする一村選手

平成十一年度 徳島高齢剣友会大会報告

徳島高齢剣友会

事務局長 東内 勉



長年剣の道に
そしみ心身を鍛練
し楽しい生きがい
を求めて集まった
熟年の団体高齢者
剣友会は現在96名

が参加して年間計画のもと平成十一年度の
行事が行われました。

一、第十四回徳島県高齢者剣道交流大会

日時 平成十一年四月二十四日(土)

場所 徳島中央武道館

本年も全国老人福祉助成会、徳島県剣道連盟等の後援を得て盛大に行われた。この日土佐生涯剣友会より門田豊会長ほか九名の先生方のご臨席を頂くとともに県下から一村喜佐男先生始め老人パワーを秘めた意気軒昂たる剣士三十五名が元氣よく勢揃

いして予定の時刻に開催された。まず国旗に敬礼と君が代が斉唱され、恒例の剣道物故者に黙祷を捧げた後、濱田逸郎大会長の激励のあいさつのあと、演武を皮切りに熱戦の火ぶたが切られた。

(一) 演武

日本剣道形(前年度優勝阿南支部B)

打太刀 西岡 侃 教士六段

仕太刀 有賀秀敏 教士六段

居合道

抜刀術神伝流

近藤康次

(二) 試合

① 団体

・優勝

徳島 B

(東内 勉 南 充美 勝浦 守)

・準優勝

阿南 B

(西岡 侃 中山啓男 遠藤一美)

・三位

阿南 A 阿波

② 個人

優勝	中西 敏治	遠藤 一美	高下 正義	東内 勉
準優勝	蛇名 久作	美馬 政雄	中山 啓男	有賀 秀敏
三位	岡島 茂雄	西山 勝喜	佐藤 勇	西岡 侃
三位	平岡 竹雄	高田 豊	菱田 晋	岡田 良人

③ 高知対徳島団体交流試合

才一試合 三勝三敗四引分 引分け

才二試合 三勝六敗一引分 高知の勝ち

以上の成績で終わったが今年には東京組が都合で参加できない為、高知との対戦を増し、親善交流試合を終え、最後に交流稽古で大会を終了した。なお昼食時に、十一年度の総会を開き、年間の行事予定と会計報告を承認した。

第14回 徳島県高齢者剣道大会



二、第十一回土佐生涯剣友会交流大会

五月二十日(休)創立十周年記念剣道大会が高知城近くの県立武道館で開催された。徳島側からねりんピック福井大会の代表選手十名が参加し、立合稽古、A・Bに分れ団体組み合わせ試合、合同稽古で汗を流し宿舎に帰り入浴後、懇親会に臨み土佐剣友会との交流を深め一泊した。

参加者は次の通り

一村喜佐男、勝浦守、高田豊、濱田逸郎、岡島茂雄、遠藤一美、南充美、近藤康次、有賀秀敏、東内勉以上十名

三、第六回徳島県健康福祉祭99とくしまねんりんピックシルバースポーツ交流大会

日時 平成十一年十一月二十日

場所 徳島市民吉野川運動公園(中央武

道館

例年のごとく吉野川運動公園において大会役員や各種目の選手たちが合い集い、剣道関係からも濱田逸郎会長、西野四郎、糸田川美千男、南充美、橋本武、の五名が代表として出席した。

開会式終了後、ただちに剣道会場である

県立中央武道館に移動して競技に入る。

剣道大会は、午前十時から二十八名の選手と他徳島剣道連盟の審判員の先生、並に会員の先輩方にお世話を頂き大会が挙行された。

濱田会長の挨拶の後、直ちに演武にはいり

(一) 日本剣道形

打太刀 中山啓男 教士七段

仕太刀 西岡 侃 教士六段

(二) 居合道

抜刃術神伝流 近藤康次

剣道と同じようにこころした古武道も大切にしたいものである。演武終了後、と合同練習で体を慣らし、団体戦から試合が行われた。

(三) 試合

〈団体の部〉

優勝 海部支部

準優勝 阿南支部A

三位 徳島支部C 阿南支部C

〈個人の部〉

三位	三位	準優勝	優勝	
西野 四郎	一村 喜佐勇	勝浦 守	吉田 祖	特組
糸谷 文雄	阿部 三十三	西山 勝喜	高田 豊	A組
近藤 康次	南 充美	高下 正義	中山 啓男	B組
佐々木 武夫	東内 勉	有賀 秀敏	福井 軍二	C組

熱戦の結果、右のような成績でつつがなく終了した。試合の準備は全員参加でスムーズに出来、審判等の労は若い剣道連盟の皆さんにお世話を頂き、大いに感謝してる。今後とも健康に留意し、来年も剣道発展のため、また後進の指導にと精進いたしたいと願っている。

四、その他の主な行事

(一) 役員会と総会

平成十一年二月二十五日、ファミリーレストラン・ゲンダイにおいて二十五名の役員が出席し十年度各種報告の承認、次年度活動計画、予算案等の議案を審議し決定した。平成十一年四月二十四日、中央武道館での第14回県下高齢者剣道大会のおり総会を開催し、全議案承認する。

徳島県高齢者剣友会年間行事は次の通り。

平成12年度事業計画

四月十五日

第15回県下高齢者剣道大会

場所 徳島中央武道館

四月十五日(土)

懇談会

場所 厚生年金会館

五月十六日(火)

土佐生涯剣友会交流剣道大会

場所 高知武道館

六月五日(月)

第22回全日本高齢者武道大会

場所 日本武道館

十一月三日(金)～六日(月)

第13回全国健康福祉祭大阪大会

場所 羽曳野市(はびきの)

市立総合スポーツセンター

十一月十八日(土)

第七回健康福祉祭徳島大会

場所 徳島中央武道館

青少年巡回指導 二回予定(日時未定)

十二月二日(土)

高齢者剣友会忘年会

平成十三年三月

高齢者剣友会役員会監査

以上

(二) 青少年巡回指導

恒例の地方巡回指導今日は八月二十八日、

鳴門支部佐藤勇先生のお世話で、鳴門武道館で開催され、三木只雄先生ほか二十七名の地元青少年・一般剣士多数が参加して行

われた。まず、濱田逸郎会長あいさつ、佐藤勇鳴門支部代表の歓迎と謝辞のあいさつ

の後と、中山啓男先生による基本指導、会員全員による打ち込み、懸り稽古の順で約

一時間汗を流した。その後ねりんピック強化組み合せ試合、一般者同士の稽古を行っ

た。その後、堀江幸夫先生から青少年達に

先生自身の体験を通じて、剣道の心について解りやすく講話して頂いた。夜は近くのホテルベガサスにて一泊し、懇親を深め、有意義な日程を終えた。尚、今回お世話を下さった鳴門支部の佐藤勇先生・菱田晋先生ほか関係の諸先生方には、格別のご配慮を頂き一同深く感謝している次第である。

第12回全国

健康福祉祭ふくい大会

ねりんピック99

福井剣道交流大会

徳島県代表選手兼

監督 勝 浦 守

十月の北陸路に武士の誉高い福井大会が開催され、本県代表の選手一同はベストメンバーに近い編成で勇躍出発いたしました。出発前より福井市民から異例の激励文を頂き、幸先よい門出でございました。

開会式に参加後、剣道交流大会の開始式がありました。その折、高齢者表彰（全国出場者中六名）が行われ、その一員に私も選ばれ、感激いたしました。

試合は予選リーグで始まり、その第一位が翌日の決勝トーナメント戦に出場できることになっています。予選リーグの一回戦、青森と戦うことになりました。必勝を期して対戦しましたが、中堅・美馬選手のみ「小手」を先取しましたが「面」を取り返



され、結局他の者と同じ引き分けて零対零に終わりました。

続く二回戦では地元福井Aと対戦、稽古量と優勝を期す地元最強のチームを相手に廻しては不利となり、善戦の甲斐なく、決勝トーナメント出場は成りませんでした。

(福井Aは優勝)

出発前、ポイントゲッターの遠藤先生が県議会のため欠場の止むなきに至りましたのも戦力の減退に無関係ではなかったようです。

戦績は左記の通りです。

〈予選リーグ一回戦〉

チーム	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
徳島	東内	南	美馬	高田豊	勝浦
0対0	×	×	⊙× ⊗	×	×
青森	田中	境澤	佐藤	沖田	三浦

以上のように期待をかけた福井大会でありましたが、稽古量と地元開催の優位を崩すことは出来ませんでした。

最後に次期本県開催の大会には周到なる準備と強化練習により是非優勝の栄冠を獲得してほしい念願する次第でございます。

〈予選リーグ二回戦〉

チーム	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
徳島	東内	有賀	美馬	高田豊	勝浦
0対4	⊗ ⊗	⊗ ⊙	⊗ ⊗	×	一本勝 ⊗
福井A	北	中川	田中	西川	石黒





ねんりんピック'99福井 剣道交流大会 平成11年10月10日～11日



大会所感

思い出の山家旗剣道大会

徳島県剣道連盟

監事 吉田 租



山家旗争奪県下
剣道大会は、昭和
五十一年より剣道
を広め、愛好者を
増し、剣技の向上
と、相互の友情を

深めることを目的として、行われています。

- ① 試合は五名一組の勝ち抜き法による
- ② 登録七名のうちから一試合毎選手の入れ替え自由
- ③ 五名揃わぬ時は三名を一組として可
- ④ 合宿を原則として宵稽古、朝稽古をする

この原則によって大会を行い、各方面の

温かいご理解とご協力を得て、年毎盛大となり今年で二十五回目を迎えることが出来るはこびとなりました。

ここで、多くを語らず初回よりの戦跡を顧みて先輩達は往事を思い出して友情を温め合い、後輩は先輩の偉業を見て若き血をたぎらせて下さい。

山家旗について

山家旗は、範士七段山家雪藏先生を景仰し、剣道によって磨かれた先生の徳を讃え、一步でも先生の剣技入徳に近づかんとして剣道精進する印の旗であります。

先生は、大正六年徳島県剣道研究会を吉本彦吉範士と共に創設し、以来二十五年間庶務会計を担当し、昭和三年よりは、県立徳島商業高校の剣道教師、戦後は郷里驚敷町百合に帰られ剣道連盟丹生谷支部長兼振武館館長として東奔西走、剣道の普及と振興に努め、青少年の指導育成はもちろん指導者を育成せられました。今日丹生谷剣道隆盛を見るに至ったのは、一重に先生のご尽力の賜であります。

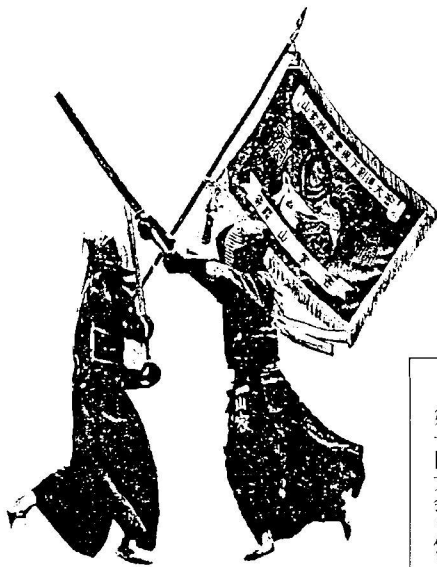
清廉潔白、豪気にして温容、ひたむきに剣道修練される御姿はまさに剣道人の鑑でございます。

先生は、徳島県剣道連盟審議員を長く勤められ、昭和五十五年一月二十三日九十一才で永眠されました。

私達は、剣道を盛んにすることが即ち先生にお報いする道と思ひ在世中の昭和五十一年、この旗を作り第一回大会を催し今日に至っております。

第24回山家旗争奪県下剣道大会

1999年4月18日(日) AM9:00開会
於：B&G驚敷海洋センター体育館



主催：驚敷町教育委員会・驚敷町体育協会
後援：驚敷丹生谷支部驚敷支所
徳島県剣道連盟・徳島新聞社

第 4 回			第 3 回			第 2 回			第 1 回			回数					
同 所	四月二十九日	昭和五十四年	同 所	四月二十九日	昭和五十三年	場 所 同	四月十七日	昭和五十二年	驚敷町民体育館	四月十八日	昭和五十一年	年 月 日 場 所					
	石井克太郎			松本一城			松本一城			石井克太郎		審判長					
城北高	小松島高	鳴門第二中	名西高	日和佐高	鳴門第一	城北高	富岡西高	木頭中	富岡西高	阿南工業	木頭中	優勝 中学校 高校男 高校女					
										富岡西高	羽ノ浦中	準優 中学校 高校男 高校女					
富西・張間 尚久 六人抜	小松島・田村 義広 六人抜	新野・田上みゆき 七人抜	阿南工・佐々木和人 八人抜	城 北・寺西佳代子 十二人抜	新野・向井 偉二 十二人抜	富西・岩佐 恭信 五人抜	阿南工・福山 伸明 五人抜	名 西・佐原 浩子 七人抜	城北・新居 秀樹 八人抜	城 北・寺西佳代子 七人抜	富西・本田 敦彦 十一人抜	阿南工・熊谷 信行 八人抜	富西・走川 敦 七人抜	日和佐・作本 一枝 七人抜	名 西・大西 修子 七人抜	富西・米田 和代 五人抜	個人 五人以上勝抜者名 高校のみ
富東・神余ますみ 五人抜	小松島・荻谷 絹子 五人抜	水産・福永 和美 五人抜	小松島・吉田 博文 五人抜	阿南工・大津 裕也 五人抜	名 西・宮崎 光正 六人抜	新野・金久 博 五人抜	小松島・前田 寛重 五人抜	小松島・福多 士郎 五人抜	徳市立・山田 浩史 五人抜	阿南工・桜井 秀雄 五人抜	水産・森本 治夫 五人抜	水産・杉原 昭人 五人抜	阿南工・岡内 和生 五人抜	阿南工・昇 克巳 五人抜	富西・米田 和代 五人抜		

第 8 回			第 7 回			第 6 回			第 5 回			回数		
同	四月十七日	昭和五十八年	同	四月十八日	昭和五十七年	同	四月十九日	昭和五十六年	鶯敷町民体育館	四月二十七日	昭和五十五年	場年 月 日 所		
所	松本一城		所	松本一城		所	松本一城			松本一城		審判長		
川島高	富岡西高	相生中	川島高	那賀高	木頭中	富東高	水産高	木頭中	富岡東高	小松島	相生中	優勝 中学校 高校男 高校女		
小松島高	水産高	阿波中	徳商高	富岡西高	徳島中	新野高	阿南工	徳島中				準優 中学校 高校男 高校女		
富東・近藤 昭子 五人抜	富西・玉田 晋作 五人抜	川島・住友 健司 五人抜	鳴門・中井 英樹 六人抜	那賀・中川 裕司 六人抜	水産・松川 隆志 十人抜	小松島・泰地 雅貴 六人抜	富東・近藤 洋后 六人抜	那賀・白木 崇 十七人抜	新野・松本 昭子 六人抜	富東・神余ますみ 六人抜	那賀・吉田 憲司 六人抜	阿南工・岡内 隆樹 七人抜	水産・小野 高弘 十一人抜	個人 五人以上勝抜者名 高校のみ
富西・岡部智賀代 五人抜	小松島・尾畑 好美 五人抜	小松島・佐々木奈緒美 五人抜	川島・藤井 淳子 五人抜	富西・延 由加里 五人抜	鳴門・吉田 幾美 五人抜	城北・荒井 桂子 五人抜	徳商・朝田 陽子 五人抜	新野・福本 浩三 六人抜	那賀・小島 公則 五人抜	水産・森崎 善之 五人抜	徳商・宮田 洋一 五人抜	阿南工・曾根 徳治 五人抜	小松島・関口 裕史 五人抜	

第 12 回			第 11 回			第 10 回			第 9 回			回数	
同	四月二十四日	昭和六十二年	同	四月二十七日	昭和六十一年	同	四月二十八日	昭和六十年	鷺敷町民体育館	四月三十日	昭和五十九年	場年 月 所日	
所	松本一城		所	松本一城		所	松本一城		松本一城			審判長	
富岡西高	富岡東高	木頭中	富岡東高	阿南工中	宮浜中	富岡東高	富岡西高	市場中	小松島高	那賀高	那賀川中	優勝 中学校 高校男女	
富東高	川島高	相生中	川島高	那賀高	阿波中	小松島高	徳島市立高	那賀川中	川島高	川島高	阿南中	準優 中学校 高校男女	
小松島・井村悦子 六人抜	富東・松永貴史 六人抜	川島・北村仁志 七人抜	富東・香川利治 七人抜	富西・吉岡久美子 九人抜	小松島・富田圭介 九人抜	阿南工・春木晃二 十人抜	那賀・山川健二 五人抜	城南・武知直輝 五人抜	小松島・田中匡暢 五人抜	阿南工・岡山悟士 五人抜	富西・島田伸吾 六人抜	阿南工・小川康弘 六人抜	個人 五人以上勝抜者名 高校のみ
那賀・西浦英樹 五人抜	生光・佐藤暢寿 五人抜	那賀・山下義久 五人抜	川島・山田真也 五人抜	徳農・小川康博 五人抜	富東・河野容子 五人抜	川島・工藤環 六人抜	富西・中村洋子 五人抜	川島・宝積千鶴 五人抜	富東・林美枝 五人抜	富東・谷育子 五人抜	新野・中野豊 五人抜	小松島・尾沢百合子 五人抜	富東・米倉砂織 五人抜
鳴門市立・橋本浩二 五人抜	富西・笹谷誠志 六人抜	富西・井利元裕哉 六人抜	那賀・中川武史 七人抜	新野・小田弘 八人抜	阿南工・岡山悟士 八人抜	小松島・中道光男 七人抜	那賀・中川武史 七人抜	富西・北田敦子 十一人抜	城南・武知直輝 九人抜	徳市立・吉田茂生 八人抜	富西・北田敦子 十一人抜	鳴門市立・橋本浩二 五人抜	富西・笹谷誠志 六人抜
那賀・中川裕司 五人抜	川島・木下芳典 五人抜	徳市立・吉田茂生 五人抜	小松島・谷口志保 五人抜	富東・前伊寿巳 五人抜	富西・有賀康巳 五人抜	川島・小川有里 五人抜	川島・阿部貴代 五人抜	那賀・要英二 五人抜	鳴門工・浜啓介 五人抜	川島・小林有里 五人抜	富西・笹谷誠志 六人抜	那賀・中川裕司 五人抜	富西・笹谷誠志 六人抜

第 16 回			第 15 回			第 14 回			第 13 回			回数
同	四月二十八日	平成三年	同	四月二十二日	平成二年	同	四月二十三日	平成元年	驚敷町民体育館	四月二十四日	昭和六十三年	場年 月 所日
所	石井克太郎		所	西野四郎		所	石井克太郎			石井克太郎		審判長
富岡東高	富岡西高	市場中	富岡東高	富岡西高	木頭中	富岡東高	富岡西高	木頭中	富岡東高	富岡東高	木頭中	優勝 中学校 高校男 高校女
富岡西高	川島高	木頭中	川島高	富岡東高	阿波中	富岡西高	富岡東高	海南中	富岡西高	富岡西高	宮浜中	準優 中学校 高校男 高校女
新野・泉	徳市立・郡	富東・小藪	富東・小藪	川島・中川	富西・大和	那賀・谷沢	海南・前川	富西・近藤	小松島・小野	富西・福多	富西・井元	個人 五人以上勝拔者名 高校のみ
保久	大介	香	美鈴	昇	泰宏	真樹	学	健司	勝	博史	幸作	
五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	六人拔	六人拔	八人拔	五人拔	六人拔	六人拔	九人拔	六人拔	
川島・北川	川島・中川	阿南工・中山	富東・磯部	富東・西沢	小松島・登	徳市立・豊沢	川島・米倉	那賀・殿谷	富東・小川	新野・野々宮	徳東工・岩原	
忠司	昇	政人	健治	知也	健司	英作	史	正志	大造	新民	靖人	
五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	五人拔	

第 20 回	第 19 回	第 18 回	第 17 回	回数
七 ン タ ー B ・ G 海 洋 四 月 二 十 三 日 平 成 七 年	同 所 四 月 二 十 四 日 平 成 六 年	同 所 四 月 二 十 五 日 平 成 五 年	鷺 敷 町 民 体 育 館 四 月 二 十 六 日 平 成 四 年	年 月 日 場 所 審 判 長
石 井 克 太 郎	西 野 四 郎	石 井 克 太 郎	石 井 克 太 郎	審 判 長
富 岡 東 高 城 ノ 内 高 相 生 中	富 岡 東 高 城 ノ 内 高 市 場 中	富 岡 東 高 小 松 島 高 阿 南 中	富 岡 東 城 ノ 内 高 市 場 中	優 勝 中 学 校 高 校 男 女
富 岡 西 高 富 岡 東 高 鷺 敷 A	富 岡 西 高 德 東 工 高 那 賀 川 中	富 岡 西 高 富 岡 西 高 那 賀 川 中	川 島 高 小 松 島 高 鷺 敷 A	準 優 中 学 校 高 校 男 女
富 西 ・ 福 田 勇 至 五 人 抜 富 東 ・ 勢 井 智 裕 五 人 抜 城 ノ 内 ・ 三 木 琢 司 六 人 抜 富 東 ・ 敷 田 美 紀 六 人 抜	文 理 ・ 中 都 史 雄 五 人 抜 富 西 ・ 森 信 之 五 人 抜 德 東 工 ・ 谷 口 智 弘 六 人 抜	城 ノ 内 ・ 近 藤 正 幸 五 人 抜 城 ノ 内 ・ 佐 藤 智 五 人 抜 小 松 島 ・ 島 本 直 七 人 抜 阿 南 工 ・ 西 聡 七 人 抜	阿 南 工 ・ 大 城 圭 司 六 人 抜 川 島 ・ 鑄 形 智 也 七 人 抜 城 ノ 内 ・ 佐 野 伸 治 七 人 抜	個人 五 人 以 上 勝 拔 者 名 高 校 の み
富 東 ・ 陶 木 り え 五 人 抜	川 島 ・ 板 東 義 明 五 人 抜	富 東 ・ 笠 松 寛 子 五 人 抜	川 島 ・ 田 島 希 実 子 五 人 抜 文 理 ・ 小 林 隆 志 五 人 抜 富 東 ・ 磯 部 健 治 五 人 抜 那 賀 ・ 福 井 和 明 五 人 抜	
城 ノ 内 ・ 岩 朝 洋 平 五 人 抜	城 ノ 内 ・ 泉 秀 俊 五 人 抜	小 松 島 ・ 川 添 義 仁 五 人 抜	鳴 門 工 ・ 多 田 元 五 人 抜	
富 東 ・ 丸 岡 桂 五 人 抜	富 東 ・ 酒 卷 裕 美 五 人 抜	協 町 ・ 伊 月 修 士 五 人 抜	脇 門 工 ・ 伊 月 修 士 五 人 抜	
德 東 工 ・ 上 田 昌 也 五 人 抜	富 東 ・ 酒 卷 裕 美 五 人 抜	小 松 島 ・ 川 添 義 仁 五 人 抜	川 島 ・ 田 島 希 実 子 五 人 抜	

第 24 回			第 23 回			第 22 回			第 21 回			回数	
同	四月十八日	平成十一年	海洋センター	四月十九日	平成十年	同	四月二十日	平成九年	海洋センター	四月二十八日	平成八年	場年 月 所日	
	西野四郎			福井軍二			遠藤一美			西野四郎		審判長	
富岡東高A	富岡西高	阿波中	富岡東高B	富岡東高A	阿南一中	富岡東高A	城ノ内高	阿南第一中	富岡東高	阿南工	宮浜	優勝 中学校 高校男 高校女	
富岡東高B	阿南工	相生中	富岡東高A	富岡西高A	平谷	富岡東高B	富岡西高	阿南	富岡西高	城ノ内高	鷺敷A	準優 中学校 高校男 高校女	
阿南工・瀬口智七 七人抜	川島・近藤多恵 八人抜	富西・多川大智 十人抜	富西・大坂真右 五人抜	富西・長谷川普紀 五人抜 阿南工・前田悟志 五人抜 富西・小柏祐三 五人抜 富東・坪井あき 七人抜 富東・儀宝正志 十三人抜	富東・儀宝正志 十三人抜 富東・伊藤奈津子 五人抜 富東・榎本みくに 五人抜 富東・服部茜 五人抜 富西・菱本美希 五人抜 川島・北川真衣 五人抜	富西・敦賀晋平 五人抜	富東・森知世 六人抜 富東・一村美穂子 五人抜	富西・谷岡和夫 八人抜 富東・木里健一 七人抜 富東・畑山尋美 五人抜	城ノ内・岩朝洋平 六人抜	富西・福永恵美子 六人抜	富西・福田勇至 八人抜 那賀・坂井純 五人抜 阿南工・仁木隆夫 五人抜	城ノ内・郡陽介 九人抜 富東・大坂尚子 五人抜	個人 五人以上勝抜者名 高校のみ
川島・北川真衣 五人抜	富東・榎本美紀 五人抜	富東・岡田友香 六人抜	城ノ内・富永誠二 五人抜	富東・森知世 五人抜 富東・伊藤奈津子 五人抜 富東・榎本みくに 五人抜 富東・服部茜 五人抜 富西・菱本美希 五人抜 川島・北川真衣 五人抜	富東・森知世 五人抜 富東・伊藤奈津子 五人抜 富東・榎本みくに 五人抜 富東・服部茜 五人抜 富西・菱本美希 五人抜 川島・北川真衣 五人抜	富東・籠土恵子 五人抜	富東・一村美穂子 五人抜	富西・大石哲生 五人抜 川島・相坂和男 五人抜	阿南工・仁木隆夫 五人抜	富西・福永恵美子 六人抜	富西・福田勇至 八人抜 那賀・坂井純 五人抜 阿南工・仁木隆夫 五人抜	城ノ内・郡陽介 九人抜 富東・大坂尚子 五人抜	個人 五人以上勝抜者名 高校のみ



ありし日の山家雪蔵先生（振武館道場にて）

阿土少年剣道錬成大会

大会実行委員 佐々木 武 夫

本大会も回を重ねること二十七回となり、土佐と阿波の交流試合の定着をみている。

昭和四十八年の第一回大会を見ると、団体試合小学校の部、土佐・阿波共に二道場からの九チームの対戦。中学校の部では土佐わずか一校、阿波六校九チームの対戦でそれぞれリーグ戦を経て、小学校の部は大板スポーツ少年団A、中学校の部は日和佐中学校が優勝の栄に輝いた。少年約百七十名の参加であったが、一般を含めた交流試合や全員による地稽古など活気あふれた意義ある初回であった。

その後剣道熱も盛り上がり、いつの間にか流域も拡大し高知市・室戸市・安田町・鳴門市・小松島市等参加者は増大し、第十二回大会では、団体四十チーム総数五百八十名を越える参加であった。試合場は柔剣道場と体育館の二会場とし、試合方法も男女に分け、男子は小学一年生から中学三年

生まで学年別に、女子小学生は、低・中・高学年に中学生は全学年の対戦とするなど長時間を要する大会となった。

こうした事から、遠路参加される者の旅行時間の問題などご意見や反省をふまえ、団体試合は三人制に、個人試合は各学年二名以内等の参加制限をし、会場も一会場として第二十七回大会を迎えた。団体試合小学校十九チーム、中学校十二チーム約二百八十名の参加を得ている。その間に落ち着いた模範試合をと、「阿土石立山決戦」と称し、小学生から年代別に女子対戦や一般剣士十名の選手による阿波軍土佐軍の対戦を実施し好評を得たが、土佐軍選手不足から休止中である。

二十七回それぞれに心に残るすばらしい試合が展開されて来たと思いますが、技量の差はその年によって異なると思います。しかし今大会の中学校団体準決勝は二試合共に代表決定戦という熱戦が展開されているように、全体的にその差がかなり接近向上していることが伺えると思います。

また、第一回団体優勝、日和佐中学校監

督中山啓男先生、第二十七回小学校の部団体優勝徳島至誠館、館長中山啓男先生は単なる偶然ではないと思われ特記しておきます。

終りに初回からご指導いただいております県剣道連盟の先生方や、多くの先生方から感謝申し上げますと共に、一層充実した大会に定着するよう今後共ご指導ご協力をお願い申し上げます。



個人戦 第27回 阿土少年剣道錬成大会入賞者一覧

学 年	優 勝	準 優 勝	3 位	
小学 2 年	和田 悠 暉 (修心館)	湯 浅 翔 平 (徳島至誠館)	櫻 木 舞 (坂野少年剣道クラブ)	曾 根 健 貴 (徳島至誠館)
小学 3 年	櫻 木 鉄 也 (坂野少年剣道クラブ)	中 澤 公 貴 (修心館)	福 川 敬 太 (日野谷小学校竜虎館)	壺 内 美 沙 希 (今津小学校剣道クラブ)
小学 4 年	村 井 僚 (徳島至誠館)	西 浦 大 地 (大野小学校剣道)	元 木 龍 太 (日野谷小学校竜虎館)	島 田 晃 郎 (大野小学校剣道部)
小学 5 年	玉 田 赳 大 (徳島至誠館)	河 田 紋 (徳島至誠館)	本 田 智 子 (高知至誠館)	泰 地 健 人 (阿南少年剣道教室)
小学 6 年	田 村 元 (修心館)	島 田 和 佳 (大野小学校剣道部)	竹 部 久 代 (新野少年剣道教室)	株 田 薫 (上那賀竹友館)
中学 1 年	京 小 晋 平 (阿南第一中学校)	的 場 大 和 (平谷中学校)	福 永 晃 久 (相生中学校)	久 津 間 和 也 (羽ノ浦中学校)
中学 2 年	西 本 宇 志 (相生中学校)	田 中 啓 基 (宮浜中学校)	岸 正 樹 (相生中学校)	小 西 裕 (新野中学校)

団体戦

	優 勝	準 優 勝	3 位	
小学校の部	徳島至誠館	阿南少年 剣道教室	高知至誠館	坂野少年 剣道クラブ
中学校の部	新野中学校	平谷中学校	相生中学校	阿南第一中学校

平成八・九・十年度文部省指定

武道指導推進校としての 取り組みについて

城北高等学校

教諭 福 多 雅 英

一、はじめに



平成八年度に文部省及び徳島県教育委員会より三年間にわたり、武道指導充実のための研究実践を行う

「武道指導推進校」の指定を受け、研究主題を「意欲的に取り組む剣道学習を目指して―男女共習による選択制授業を通して―」として取り組んだ。本校では、従来男子生徒で柔道・剣道の選択、女子生徒はダンスを実施していたが、学習指導要領の改訂にともない、平成六年度より学年進行で、男女共習による柔道・剣道・弓道・ダンスの選択制授業を実施し、二年間の継続学習を

展開している。

高校入学時にオリエンテーションを行い選択希望調査をしているが、生徒から見た剣道は「痛い・臭い・暑い・寒い」などのマイナスイメージやきつくて苦しいものであるという意識があるため剣道を第一希望にあげる生徒は少なく、授業においても消極的な生徒も多い。そこで、本来伝統的に守られてきた剣道の指導法をふまえながらも、楽しく充実した剣道学習を展開し、生徒が意欲的に取り組む剣道学習を目指してこの主題を設定した。

生徒が意欲的に授業に取り組めるように、四つの仮説を立て、教科体育での武道授業を中心として研究実践に取り組んだ。

二、研究の仮説

(1) 武道・ダンス選択制授業における種目選択のオリエンテーションを工夫し、武道・ダンスの特性や学習のねらいを理解させることにより、生徒の主體的に授業に取り組む意欲を喚起することができよう。

(2) 生徒個々の能力・適性・興味・関心

に応じた学習内容の精選や授業形態を工夫することにより、生徒自らが意欲的な取り組みができるようになるであろう。

(3) 学校行事等において学習の成果を発表する場をもうけたり、武道講話を聞くことや模範演武を見ることにより武道の特性にふれ、楽しさを味わうことができるであろう。

(4) 学習環境の整備や用具等の工夫によって学習成果が得られるであろう。

三、研究実践の内容と成果

(一)

(1) 武道・ダンス選択制授業における種目選択時のオリエンテーションを工夫することにより、生徒が武道の特性や学習のねらいを知り、校内武道・ダンス発表大会や授業風景などを撮影したビデオをみることでより深く武道を理解することができた。その結果生徒が主體的に種目を選択し、意欲的な取り組みができるようになった。

(1) グループ学習を多く取り入れることにより、生徒が相互に認め合ったり、協力・工夫しながら意欲的に授業に取り組むことができた。

(2) 剣道学習ノート・グループ学習ノートを活用することにより、各自のねらいを明確にさせると共に反省・自己評価・相互評価をさせることで、自主的な取り組みができるようになってきた。

(3) 新聞紙の棒を使つての模擬試合や審判の練習、創作技の研究などを授業に取り入れることにより、剣道の楽しさにふれ意欲的な取り組みができた。

(4) 日本剣道形の授業では、理合いを学ばせると共に、礼法などの伝統的な行動の仕方や、武道の特性を理解させるのに役立った。

(5) アンケート調査の結果を活かすことにより、効果的に授業を進めることができた。

(三)
(1) 武道講演会や校内武道・ダンス発表大会を実施することにより、我が国固

有の文化としての伝統的な行動様式を学ばせ、武道についての興味・関心を持たせることができた。

① 平成八年度武道指導推進講演会と日本剣道形の演武

講師 沢井勝之先生
演題 「武道精神と高校生活」

② 平成九年度校内武道・ダンス発表大会

武道・ダンスの選択制授業やクラブ活動・部活動での取り組みを発表・見学

③ 平成十年度武道指導推進講演会

講師 金本嘉明先生
演題 「私の求道心そして人生」

(四)
(1) 学習環境を整備し、安全面・衛生面に配慮することにより、楽しく積極的に授業に取り組めるようになった。

(2) ビデオカメラ・VTR等の視聴覚機器の活用により、技能の習得、課題の発見に役立った。

以上のような成果を得ることができたが、

生徒の意欲的な取り組みを促す上で重要だと感じたのは、導入段階でのオリエンテーションを工夫することにより、武道に対する興味・関心をいかに喚起するかということと、生徒が主体的に授業に取り組めるよう、授業内容の精選と授業形態の工夫を図ることである。

また、学校行事としての外部講師招聘事業や校内武道・ダンス発表大会も効果的であり、武道についての理解を深めさせるのに役立ったように思われる。しかし、学校行事としての取り組みについては、武道指導推進校に指定されたことにより、はじめに実現したことであり、経費や、授業時間の確保による学校行事の見直しが行進しつつある学校現場の現状を考えると困難な問題が多い。

四、今後の課題

(1) 男女共習による選択制の学習形態をとる以上、男女比の問題は避けられない。今後さらに個に応じた指導や複数の指導教師による指導等を工夫する必要がある。

(2) さらに意欲的な取り組みができるよ

う、学習内容の精選や指導方法の工夫
について研究を深めていく必要がある。

(3) 剣道学習を通して学んだ事柄を、日
常生活の中でいかせるよう指導してい
く必要がある。

(4) 選択制授業における講座編成の工夫
や、今後さらに学習環境の充実を図る
必要がある。

五、まとめ

新学習指導要領の、「心と体を一体とし
て捉える」というこれからの学校体育の在
り方について考えると、武道指導の果たす
役割の重要性を強く感じる。また、自分で
課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体
的に判断し、行動し、よりよく問題を解決
する資質や能力といった「生きる力」を身
に付けさせることや、自らを律しつつ、他
人と共に協調し、他人を思いやる心や、感
動する心などの「豊かな心」を育むという
取り組みは、まさに武道の精神そのもので
ないかと思う。武道の特性である我が国固
有の文化としての考え方や、伝統的な行動

様式の学習が、「生きる力」を身に付けさ
せ、「豊かな心」を育むと考えられる。

三年間の武道推進指定校としての取り組
みの中で私自身、再認識したことがある。

武道、とりわけ剣道は、臭い・痛い・きつ
い・暑い・寒いといった理由で、敬遠する
生徒が多かった。しかし、いくら学習環境
の整備や用具等の工夫をしても、それだけ
では、意欲的な取り組みを促すという根本
的な解決にはならないということである。

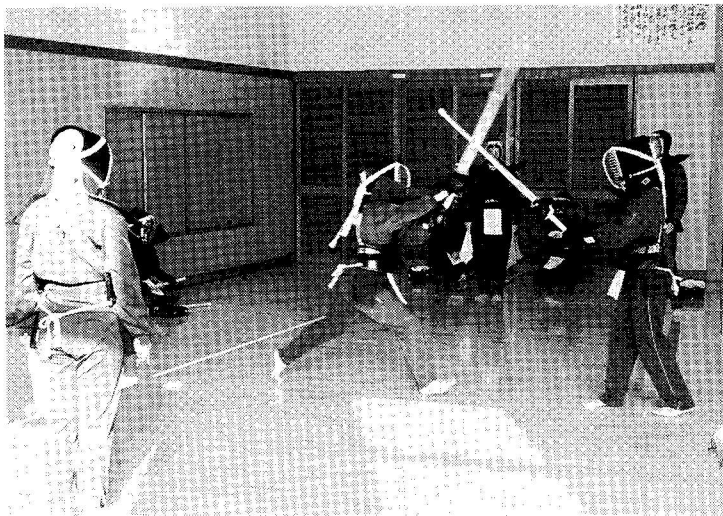
マイナス的要因を乗り越えて、「楽しい」・
「おもしろい」といった興味・関心が高く
なってくると、自然と意欲的な取り組みが
できるようになってくる。剣道に長年親し
んでいる生徒も、授業で初めて竹刀を握る
生徒も同じである。重要なことは、生徒個々
の能力・適性・興味・関心に応じた学習内
容の精選や授業形態の工夫、そして、指導
者自身の武道（剣道）に真摯に取り組む姿
勢である。

また、これからの学校体育における武道
指導において大切なことは、武道を通して、
技術や体力の向上を図るだけでなく、武道

の学習を通して学んだ武道の精神文化を日
常生活の中に活かしていく資質や能力を身
に付けさせることである。武道を通して
「生きる力」を身に付けさせ、「豊かな心」
を育み、生徒の健全育成に寄与できればと
思う。また、その取り組みが私自身の人間
形成の道になれば幸いである。

六、おわりに

平成八年度から、文部省より武道指導推
進校の指定を受け「意欲的に取り組む剣道
学習を目指して―を研究主題による選択制授
業を通して―」を研究主題に設定し、三年
間の研究実践を終え、報告することができ
ました。三年間にわたって御指導・御助言
いただきました諸先生方に対して心よりお
礼申し上げますと共に、今後一層の御指導
を賜りますようお願い申し上げます。



随 想

国体に参加しての思い出

副会長 大沢 孝 彰

一、国体選手の始まり



国体剣道大会に
最初に参加させて
頂いたのは昭和四
十年第二十回岐阜
国体でした。監督
が故高島永吉先生、

大将・故浜口市郎先生、副将・堀江幸夫先生、中堅・大沢、次員・岡本憲三先生、先鋒・中尾豊選手（現県警師範中尾正輝先生の弟さん）でした。どんな道程で行ったのかは殆ど記憶にありませんが、宿舎は徳島県（成年の部）だけの民宿でした。民宿と云っても「うなぎ」料理の料亭でした。お店の御主人の御好意で国体食でなく、毎日

ご馳走の連続で、しかも夕方になると一般のお客様が階下で三味線で芸者さんと宴会をやっているのが聞こえて来るのです。私たちも負けじと二階でお酒を楽しみました。国体に参加して不謹慎と思われるかも知れませんが、昼間は試合に備えて血の出るような稽古をしました。私は初めての事なので楽しくて楽しくて馬鹿騒ぎをしました。今思えば、ほんとうに無茶苦茶だったのに少しも厳しいお顔をなさらずに、にこにこと一緒に楽しく下さった先生方の度量の大きさに感服しております。

さて、試合ですが一回戦、鳥取県と対戦しました。運悪く、先鋒が不戦負け、（理由はあったのですが）しかし、岡本先生が二本勝ちこれで対。ところが、私は初めての大きな大会の雰囲気、全然相手が見えない位舞い上がってしまい、簡単に二本負け。何が何だか分からずじまいでした。しかし、さすが堀江先生は二本勝ちで、大将戦になりました。一本一本勝負の大熱戦でしたが、残念ながら一回戦敗退でした。悔しかったとか、その他色々の感情反省等は、

今何も思い出せません。只々民宿で初めて剣道の大先輩の高島・堀江・浜口・岡本の各先生方と数日間寝食を共にさして頂き、こんな楽しい事は無かったと云う記憶だけが心に深く残りました。

二、勝ち負けの事

剣道の勝ち負けは、色々な要素があつて決まると云う事は誰でも知っている事なのですが、自分自身の事となるとなかなか分析しにくいものです。相手の強さ（練習量・調子・精神状態も含めて）自分の強さ（前記の事項を含めて試合前の調整等）がぶつかつて勝ち負けが決まると思いますが、どう考えても負ける相手でない相手に負ける事があります。これも色々要因はありますが、前日の不摂生などが一番大きな原因になると思います。

団体戦の場合、自分が負けた時は棚に上げて、チームの誰かが負けると口には出さないけれど心のどこかで負けた人を責めている事が時々あります。団体戦だから止めようがない感情かも知れませんが後から考えて自分の心の未熟さ狭さに恥じるばかり

です。他人の負けを見て自分も同じでつを踏まないよう反省し、努力することが剣道の最も大事な事だと思っています。

成年男子の国体剣道は年令別の団体戦です。従ってその日の調子の良い人、悪い人いや午前午後で好不調もつと細かく、一試合一試合状況が異なると思います。もし形勢が悪くなってもあきらめず、みんなで助け合って必死で頑張れば必ず良い成績が得られると信じます。

三、監督審判は楽し？

四、折角なのに何故観光しないのか。

五、面白くなって、いや好きで酒を飲むのでもない。

六、徳島国体が最後？

三、四、五、六、はお許しが出来れば次にゆずりたいと思います。

医者 素人剣道奮闘記

— 県社会人剣道でのがんばり —

徳島大学医学部剣道部

師範 勝 沼 信 彦



医者 素人剣道
と言いますが、赤

ひげ医者ばかりで

なく江戸時代にも

医者の中にこそ

この剣を使う人は

多かったです。

千葉周作の家は代々馬

医者で時には人も診たようです。古くは藤

木道満などは達人と言われています。近く

は大正一昭和に京大内科教授で学士院賞を

もらわれ昭和天皇の御進講役であった佐々

木隆興先生は日本癌学会を創られた方でも

あります。先生は京都武徳会の先生方が一

目おく達人でありました。『剣道と生理学』

『剣道と条件反射、無条件反射』等の論文

が多くあります。この先生は剣の鐔の収集

〔鬼手佛心〕と言います、何故割りに剣の

達者が多かったのかわかりません。私事で

恐縮ですが、私の叔父、勝沼精蔵（名古屋

大学学長・学士院恩士賞受賞）は東大剣道

部主将で当時の錬士四段であり、皇宮警察

チームと試合をした話など聞かされました。

写真は見せてもらいましたが、私は稽古を

してもらった事はありません。

医者 素人剣道は、しよせん余技であり、心

身鍛練の為であった事に間違いありません。

然し、私が幼少より剣道をやっていないけれ

ば今日の学問は出来なかつたとも言えます。

『精神の高揚』に剣道ほど有効な鍛練法は

ありません。

さて、本題に入り、厚顔に言わしていた

だければ、私は徳島大学・医学部剣道を育

て上げました。昭和三十六年徳大医学部に

教授として赴任した当時は形だけの剣道部

しかなく、道場もありませんでした。そこ

で当時、県下で最も強いと言われていた下

村富夫先生を師範に迎え、ささやかな道場

を作ってもらい、毎日、若い医学部学生と

稽古をやりました。今では、私が育てた剣

道部学生から、六段が三人、五段が五人程育っております。皆立派に医学と剣道を両立させております。

しよせん医師の素人剣道ですが、意外に勝負に強くて奮闘しており、県下の社会人剣道大会で優勝一度、準優勝二度、三位二度の戦績があります。主に久保・畠山・倉都・谷木・勝沼を中心にしたチームでありました。優勝は第二十回大会平成三年であります。準優勝は第八回昭和五十四年と、第十八回平成元年の二度であります。皆、非常に多忙な診療と研究の間に稽古の時間を作り、精進してきています。最近はやまわり良くありませんが、とにかく毎年欠かさず出場して「ガンバッテ」います。この事は現役学生にも大変良い「生涯の稽古」という教育になっているものと思っております。

何となく取り留めのない話になりましたが、好きなことを自慢してもよいとのお話なので、医学部の剣道、医師の剣道共に徳島大学は「ガンバッテ」いますと言う事をお伝えしたくて！。

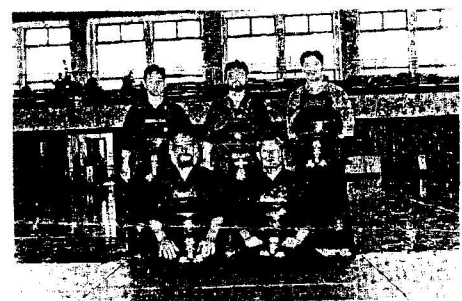
（特集）徳島県社会人剣道大会

「徳大OB虎チーム、念願の初優勝!!」

去る平成三年十月六日、鳴門武道館に於て、「第二十回徳島県社会人剣道大会」が開催されました。
徳島大学医学部OBは昨年に引き続き龍チーム、虎チームの二チームが試合に臨みました。
龍虎両チーム共、決勝トーナメントに進出し、とくに虎チームは、勝沼先生の二刀流も身えわたり、優勝の快挙を成し遂げました。



虎チーム



龍チーム

- 本大会には、
- 虎チーム
 - 勝沼 信彦先生（医学部剣道部部長）
 - 谷木 利勝先生（医学部二十期卒）
 - 畠山 茂敏先生（医学部二十五期卒）
 - 倉都 滋之先生（医学部三十期卒）
 - 久保 宜明先生（医学部三十三期卒）

徳島大学医学部・歯学部 剣道部誌「剣徳」より

第2試合
徳大OB虎チームは三好支部に不戦勝

〈第一試合〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数	代表戦
岫雲館A	高島	岡田	藤本	那倉	田村	2	3	田村
	⊗		×	⊗ コ				
徳大OB虎		⊗ メ▲	×		⊗ ▲	2	3	⊗
	久保	倉都	畠山	谷木	勝沼			勝沼

〈準々決勝〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
小松島支部	西山	福山	熊沢	松田	早川	0	2
	×	キケン	メ		Ⓕ		
徳大OB虎	×	○ ○	Ⓕ	⊗	コメ	3	6
	久保	倉都	畠山	谷木	勝沼		

決勝トーナメント

優勝 徳大OB虎
準優勝 徳島刑務所支部

三位 阿南支部
三位 鳴門支部

〈準決勝〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳大OB虎	久保	倉都	畠山	谷木	勝沼	2	5
	Ⓕ	⊗ メ	×	⊗ コ	×		
阿南支部B	ドメ		×		×	1	2
	柳山	小延	板東	日浜	株木		

〈決勝〉

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝数	本数
徳大OB虎	久保	倉都	畠山	谷木	勝沼	1	4
	コ	⊗ メ		⊗	×		
刑務所支部	⊗ Ⓢ		⊗	× ツ	×	1	3
	片山	細川	鈴木	中村	吉本		

今年の体感

警察支部

三木 毅



『懐舊朴處』

(カイキユウボク シヨ) この四文字は私の造語である。

今、私の部屋の出入口の表札になって掲げられている。

墨書は、堀江幸夫先生にお願いいたしましたところ、快く引き受けていただき立派な文字を頂戴いたしましたので、桜の古木板に彫刻して掲げているのである。出来映えに満足している作品である。

つい先日、嫁いだ娘二人と大学生の長男の三人が久しく顔をそろえた時に丁度表札が完成したところであったので「これ見てくれ」と声を掛けたところ、三人共無言のままなんの評価もない。

私は内心「分かったたまるか」とつぶや

きながら子供達からの言葉を待っていた。三人の子達は互いに「何んて読むん」と言いながら「懐だろう」「朴だろう」というもののその先がない。

その様子は、夢中になっていることは認められるが、結局素読さえできず私の解説の運びとなった。説明を聞いた子供達は納得したようだが奥の深さまでは到底理解はしていない様子である。

私がこの言葉を作るには一年九ヶ月余かかっている。その理由は次のようないきさつである。

平成八年から二年間、意外なことに自分の時間にゆとりがある県外勤務となったことから、思い出作品を残しておこうと一大決心をしたのである。そして、それは『自分専用の丸太の家』を造ることであった。

杉の間伐材を手に入れることから取組み、独力コツコツと一年九ヶ月余でやっと完成にこぎつけたのであるが、形として残る代物だけに人さんの目にはいることを思案の中に組み込み精を出して工程をこなしていたのである。

完成に近づく工程でイメージ通りに進み満足感にひたりながら、部屋の『命名』にも意を配さなくてはと考え旧字に挑戦して編み出したのが表札になった文字である。

意味するところは『旧き昔のことを素直にし、懐かしむ處』ということになるがそれは私自身のわずかな体験や思い出というものでなく、もっともっと旧いむかしのことを知りたいということである。お人さんの知識や書物をあさってもみたいのである。これは今後の夢ということである。

ところで、私はこの度の工作で体験した中で身にしみたことを三つ挙げる事ができる。その一つは、構築の一つ一つの工程で無知の中から考えて考えての施工であり、職人さんならどうするのかということを探らせながらの前進であった。曲がりなりに形づくりが出来たが、よくよく考えたことであった。その二つは、床張りである。床になる材料の板は、我が家にやって来て二ヶ月余経っていたので随分乾燥していると判断して隙間のないように張りいきなり釘付けしてしまった。今になって合わし目

が開いている。聞くところ床張りして様子を見て釘付けするのが常識とのことであった。

その三つは、窓用五ミリの厚さのガラス切りのことである。ガラスを斜めに切ろうとしたが失敗の連続であった。根尽きて不本意ながらも本職さんという矢先のこと、友人の新築祝いに出席する日となり、会場のガラス屋さんに見かねてみた。ガラス屋さんが言うには「五ミリのガラス細工をする現場へは、内の若い者でも五年の修行がないと行かせない」と。いくら粘っても切る技術を言ってくれないのである。酒席のこととて職人のくだりは長くどうしようもない。しかしこの場を逃してはという気分で得意の粘り作戦の戦術となった。

やつとのこと「ガラスはなア、力では切れん。静かな所で切る音が自分の耳にはいることじゃ。道具が自分に馴染むことじゃ。農でも人さんのガラス切りを渡され、さア切れといわれても絶対に切れん」という。教えてくれたことはこれだけであった。

この言葉を胸に刻みこみ、翌日から一切

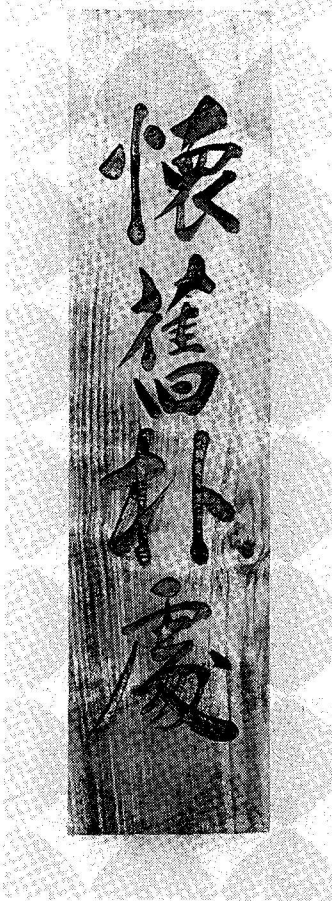
れる音、切れる音」と音を求めて耳を澄ましての稽古を始めることとなり、先に失敗して腹立ちまぎれに投げ捨てた破片に世話になる羽目となった。そこで破片に感謝を込めながら、音を求めて引くこと引くこと、やはり根よくやることでいい音が出るようになり快音と共にガラスが切れるようになったのである。

このような過程の中で、身に刻んだことは職人さん達は出来映えに精魂込めてやっていることを察し、棟札には「やってみて己が覚める道の技」と記した。

自問自答の連続の工程の中で、嗚呼自力

は大したことはないなアということであった。その反面、昔の人は大層偉い。今に伝える技はいくらかもある。手の技、体全体の技、調和ある全体像の技など限らない技がある。人さまから口伝され、人さまと交わり体験し、自分が様になった体現をすることが技術となり技になる。そしてよきものが伝承されて今に生きているのである。

剣道についても同じ事である。修得することは限りなくあることを、じっくりと自分に言い聞かせる体験をした今年であった。



私と剣道

徳島支部 松村 和宏



私が剣道を始めたのは、中学校に入学してからの事です。当時入田中学校には、剣道部はあつたけれど指

導して下さいる先生もなく、先輩からの指導だけでした。一宮小学校の校長をなさつておられた中川虎雄先生の指導を受ける為、出稽古に時々行き、高校では高下正義先生が私の師であります。

私は剣道は好きであるけれど、決して真面目に練習に励む生徒ではなく、よくさぼつては山や川へと遊びに行った事を思い出します。しかしながら、剣道は私の人生に大きな力となり、自信となつて私を支えてくれています。仕事に追われる毎日、決して時間の余裕はありません。一日一日、時の経つのは早く、その日の予定を上手にこな

さなくては明日へと持ち越してしまう事も多々あります。

こうした毎日の中での少年剣道の指導は、私に仕事を忘れさせてくれるやすらぎとも言える時間です。少年剣士と竹刀を振り、汗を流し、すがすがしい気分になれ、一つ一つアドバイスすることを素直に聞き、一生懸命練習する子供達は本当にかわいし、自分自身も無になり、仕事の忙しさに流され、パンクしそうな頭の中が剣道をしていると、我にもどれ、明日への活力源となつている事も事実です。「徳島の剣道十五号」の中に会長の遠藤一美先生が、ある著名な学者が「より健康な充実した生活」への示唆として次のことを挙げていと書かれておられた所を拝読し、すぐれた自己修養の感覚を身につけ、おだやかな気質で情緒的に安定していることは、経営者としても私のまさに思うところです。

前後になります私が私は高校卒業してから十年間という剣道のブランクがあります。長男が小学校へ入学するのを機に剣道をしていた入田の仲間が、四、五人集まつて中

学校の体育館を借り、週に二度程練習するようになりました。それを知った地元の人達が、自分達の子供も教えて欲しいと集まり出したのです。それが入田錬成の発足の始まりです。それから十八年間、月日の経つのは早いものです。息子が高校三年の時、徳島で第四十八回国体が開催されることを知り、それから徳島県代表選手として国体に出場させたいと思う様になりました。息子にはプレッシャーだつたと思います。

しかしながら、その夢も息子はかなえてくれました。親の思い通りのレールの上を走ってくれたことは、親にとっては嬉しい事です。が、今になって話してくれた息子の気持ちの中には、大きな格闘が幾度となくあつた様です。剣道で培つた根性や忍耐力、そして礼に始まり礼に終わる教えは、社会人となつた今、身に付いていることが本当に無駄でなかつたと話してくれます。

入田錬成会も私一人の力ではここまで続けてこれませんでした。松村明文先生の力は大きく、木下一幸先生の事務的な面は全部まかせられ、また佐藤佳宏先生、森直行

水産高校の十一年

学剣連 福井軍二

先生の指導力には頭の下がる思いでした。当時、初稽古には堀江幸夫前会長をはじめ、柏原浩副会長、県警の近藤巨先生、米倉滋先生、手塚十三子先生方が指導に来てくれておりました。私は、この様に沢山の方々のおかげで剣道を続けることができるのだと思っています。

剣道を通して子供達に人と人との交流を深め、忍耐力や根性を培い、強く成長して欲しいと望んでいます。今日少年犯罪も多く、毎日のニュースでも心を傷める事ばかりです。剣道を愛し練習に汗を流している人達には無縁のことと信じてやみません。剣道連盟が行なっている少年の強化練習も、堀金實先生を中心に指導に当たっておりますが、これからの徳島の剣道界にこの子供達が貢献してくれることを期待し、頑張っていきたいと思えます。



ないことがある。

定年退職を迎え、教員生活三十六年を省みると、忘れられない思い出が清水のようにわいてきて夜も眠られない

松山の新田高校で八年間お世話になり、昭和四十七年四月、水産高校に赴任して以来二十八年が過ぎた。今思えば、厳しく生きた水産高校の十一年は、自分にとって最も充実した三十代であった。剣道は新田高校でも、作道圭二先生・松公明先生にご指導をいただいたが、日和佐で中山啓男先生との出会いがなければ今日の自分はなく、剣道も五段止りであったと思う。また、すばらしい人間との出会いや感動もなかったと、今しみじみ考える。

当時水産高校にも剣道部はあったが、稽

古も休みがちな状態で、試合に行っても選手が揃わないことが時々あり、どうすれば毎日全員が揃い稽古が出来るようになるかと悩んでいた。そんなとき日和佐中学校の中山先生との出会いがあった。日和佐中学校は大勢の部員で毎日厳しい練習をしていた。試合も強く県下を征して全国大会で上位に進出した。中山先生の情熱あふれる熱心な指導姿を拝見して、自分は叱咤激励された。剣道を再発見することができた。一

学期の終りに剣道部を解散すると、一年生三人と二年生は一名計四名になったが、剣道部を立て直すことができた。稽古も日曜日でもできるようになり中学校への出稽古の日数を増やすことができた。夏季合宿を木頭村で始めることもでき、稽古の内容も基本を重視して新田方式に切り替えた。秋の選手権で篠原健二が準優勝した。四十八年の選手権で本田政芳が優勝した。四十九年には団体で四国大会丸亀に出場することができた。五十年度に日和佐中学から井村・杉原・岩田・原・森本が入学し、水高剣道部も県下を征して全国大会出場を目標にす

ることが出来るようになった。その年から、私の教員住宅での強化合宿を始めた。玉竜旗大会では西川が五人抜きを果たして三回戦に進出したが高千穂高校に逆に五人抜きされた。しかし、玉竜旗大会に参加したことは水高剣道部にとって大きな起爆剤となり良い収穫を得ることが出来た。団体戦では、それまで、県下で何度か決勝戦まで進出したがすべて負けていた。五十一年度ライオンズ大会で初めて団体優勝した。それまで決勝に五回ほど進出したがどうしても勝てなかったことを思うと感激も深く涙が出る思いであった。その年、井村が総体個人で優勝してインターハイに出場。五十二年度には、総体で団体・個人（井村）とも優勝して津山インターハイに出場し、白木が秋の選手権で優勝した。総体で優勝するまでに六年が経過していた。五十五年に故下村富夫先生が校長として赴任されご指導いただいたことは水産高校剣道部にとってこの上もない有り難いことであった。福永・美馬が活躍インターハイ出場、五十六年森崎が四国大会で三位に入賞した。五十七年

度、松下・松川・張西・中野・灘・藤田を擁して新人戦に優勝し、県内のすべての大会で男子団体戦で優勝することができた。

一時期優勝旗七本を集めたこともあったと記憶している。



自分の専門は電気工学の学習指導であるが、今思えば水産高校の十一年は自分の人生にも悲哀を感じ、剣道に明け暮れた日々であった。学校側の理解もいただき、自分も稽古を毎日することができたことに感謝したい。五百本、千本の切り返しは日常であったが、部員は良くついてきてくれたと思う。体当たりを受けて面金が折れたことも良い思い出となる。懸命に生徒と汗を流すことによって、生徒から多く事を学ぶことができ、剣道について多少知ることができ、剣道という道門の入口に立つことができたと思っている。この道は生涯続けても行き着くところのない道であると最近思うようになってきた。考えてみれば今まで多くの先生方や、後輩達にお世話になっていながら自分は何も恩返しをしていない

いことに気がついた。今から健康管理に配慮し、物事を謙虚に受け止め「行」の実行できるように生きたいと思う。

当時の水高剣道部OBの会「水軍酒会」では、昨年と今年二回の退職慰労会をしていただき、十七年ぶりに水産高校道場で稽古の機会を得て、数十枚ある賞状を観ながら過去の自分を思い出し、新たな人生を見つめることができた。ここに共に汗を流し、涙を流した我が友に心から感謝したい。そして、一句を詠む。

剣道に命をかけし わが友よ

生涯つづく 水高たましい



遠征・訓練

姫路遠征

(しらすぎ剣友会)に参加して

知友会 兵頭新平

平成十一年十一月二、三日の予定で姫路遠征に参加させてもらう事になり、私にとりましては剣道を始めた地とあって、懐かしく、嬉しい思いでマイクロバスに乗り込みました。

朝十時に鳴門武道館前を出発して、車窓から左右の景色を眺めながら淡路の自動車道をどんどん走っている時、堀江先生の方から、(本日の稽古会には、七段を中心に二十名ぐらいと、機動隊員数名が参加してくれてるそうですから、しっかり稽古してください。)と言われた時、エツ、とビツクリするとともに不安な気持ちになりました。そういう気持の中、車は姫路に向かっ

てどんどん走り、途中交通停滞に遭い姫路に着くのが一時間余り遅れた為、(途中どこか見学しながらと、予定されていたが)直接、姫路武道館の方に行くことになり、予定より早く武道館に到着しました。

稽古が始まる前には何と、二十名どころか、長野武大範士、三浦経一範士以下五十名近い先生方が集まり、もう逃げも隠れも出来ない、一生懸命稽古するしかないという覚悟を決めて、一時間半余り稽古をつけていただきました。一日目の稽古も終わり、夕食の懇親会には、双方合わせて三十余名で楽しい二時間余りを過ごさせていただきました。(実はその後、幹事されていた今富豊紀先生の部屋で、また酒の稽古、剣道談義をしていただきました。)

そして次の日、午前、陸上自衛隊姫路駐屯地の体育館で二十名余りの先生方が参加してください、稽古、ご指導していただきました。その稽古が終わった時、やっと解放感を味わいました。(正直な気持)それから昼食後は、長野大先生の御案内で国宝姫路城を見学させていただきました。姫路を後にし

ました。

私にとつて姫路遠征は、貴重な体験となりました。こういう機会を与えていただいた堀江先生を始め同行されました先生方に、心よりお礼申し上げます。

最後になりましたが、しらすぎ剣友会の先生方、母の会の皆様へ献身的なご高配をいただき心より感謝申し上げます。



姫路遠征の旅日記

板野西支部 岡島茂雄

兵庫県明石市は、私の青春時代の思い出の古里であり、紅顔の十六才の頃、同市西本町の港添いに在った石油販売店の店員として住み込み勤めていた頃、町内の私立武道館へ入門し剣道の修行をしていたものです。その明石大橋を通過して姫路市へ遠征したのであります。それは昨年の十一月二日の午前十時頃、鳴門武道館前に集合しマイクロバスに同乗して出発しました。一行は、剣道連盟名誉会長範士、堀江幸夫先生を筆頭に吉田先生を始め、松村克隆先生等、合計十一名のメンバーでした。途中明石市郊外の国道で少々交通渋滞がありました、案外早く正午過ぎ頃に姫路市内へ到着しました。当日は午後三時から姫路市武道館で稽古の計画でした。予定より少し早く到着したのですが、既に武道館は地元の先生方で溢れんばかりの出迎えで驚きました。

長野武大範士、三浦経一範士の顔も見え

ます。

長野範士のお兄様で神戸国際大学名誉教授の長野大先生と、兵庫県警今富主席師範が種々お世話下さり稽古となりましたが、約五十名ほど錚々たる先生方から入れ代わり立ち代わり息もつかせぬお手合わせに剣道の醍醐味を満喫させて頂きました。

その夜は姫路城の近くの市街が一望できる豪華な宿で、地元の多数の先生方出席歓迎の宴に招かれて時の経つのも忘れて剣談に花を咲かせました。

二日目は午前中、陸上自衛隊体育館で新手の先生方を交え一時間三十分たつぷりと鍛えて頂きました。

稽古後、昼食をご馳走になり、長野大先生のご案内で、世界遺産名城白鷺城を見学させて頂いたき帰途につきました。

この度は剣の練磨と郷土の大先輩の温かい慈悲に深い感銘をうけた武者修行でした。

合掌

(注) 長野先生ご兄弟は、本県出身の長野充

孝九段範士のご子息です。

(徳島の剣道十四号参照)

少年部強化訓練に参加して

入田錬成会 坂東潤

ほくは、強化訓練は、厳しいと聞いていました。実際に行ってみても、いつもしている練習の三倍の時間練習するのですごくつかれました。午前中は、基本練習をします。先生方が、細かい所まで、教えてくださるのでとてもいい勉強になります。それから、他の剣道クラブの人たちと練習できるので、すごくいい練習になります。

午後からは試合をします。ほくは、いつも途中で負けてばかりだったけれど、この前に一度だけ優勝しました。練習なので、試合みたいにメダルがもらえるわけでは、ありませんがとてもうれしかったです。

午後の試合がおわると次は先生方にかかっていきます。試合の時に早くおわっていると楽ですが、最後の方まで残っているとけっこうしんどいです。先生によって、試合のようになってしまう先生や、かかりがいばかりの先生がいるので並んでいる人の数が

多かつたり少なかつたりします。ぼくは、並んでいる人の数が少ない先生の所になるべく並ぼうと心がけているけれど、少ない所ばかりいつているとつかれるので、後ろにまわつたりしています。

練習がおわると堀金先生が、ぼくたちのためになるお話をしてくれます。その中にもいつも、ことわざのようなものが入っています。それは、いつもよく聞いています。剣道とはちがう勉強にもなっています。堀金先生は年のわりに声も大きくて姿勢もいいです。剣道をやっていると、やっぱりちがうなあと思います。

それから、強化訓練に参加する前は少なかった友達も強化訓練に参加してからは、いっぱい増えました。試合に行った時とかに、話をしたりする相手が増えてよかったです。

それに、この前に京都に遠征に行つてきました。二試合しか試合をしていないし、練習も三十分くらいしかしなかつたけれど、面タオルがビショビショになるくらい汗をかきました。その後に、野島断層保存館と

いう所に行きました。剣道以外の勉強にもなつておもしろかつたです。

最後に残念だったのは、徳農の大会と最後の強化訓練の日が重なつてしまつたことです。ぼくは、一応徳農の大会に行くことにしました。最後の強化訓練に参加できないのは本当に残念です。



堀金先生より実技指導を受ける

強化訓練は、月に一回しかないけれど、

いろんなことを先生方に教えてもらえるし、他の剣道クラブの人たちとの交流も深まつてとてもいい練習になると思います。これから強化訓練に行ける人にはがんばつてほしいです。



堀金先生による講話

平成11年度少年強化錬成実施報告

少年部 広瀬 清
(○印は講師)

第1回 4月10日(日) 鳴門武道館 参加人数 70名

指導者 ○堀金・広瀬・高田・佐藤(勇)・松村(和)・丸岡・大石(雅)・森本・山田・
近久 以上10名

- | A 組 | | B 組 | |
|----------------|----------------|---------------|---------------|
| ① 岡田 大資(池田剣正堂) | ① 井口あすか(入田錬成会) | ② 坂東 潤(入田錬成会) | ② 三木 翔太(市場少剣) |
| ② 本田 万里(阿南少剣) | ③ 久保 智司(清風館) | ③ 新田 裕(竜虎館) | |
| ③ 吉田 光佑(加茂名少剣) | | | |

第2回 5月2日(日) 鳴門武道館 参加人数 62名

指導者 ○堀金・広瀬・高田・松村(和)・久保・兵頭・大石・森本 以上8名

- | A 組 | | B 組 | |
|---------------|----------------|----------------|---------------|
| ① 原 怜司(大野小学校) | ① 岡田 大資(池田剣正堂) | ② 白井由加里(穴吹少剣) | ② 大野 敬太(阿波少剣) |
| ② 山ノ井陽介(錬武館) | ③ 村上 征史(穴吹少剣) | ③ 近藤 雅規(入田錬成会) | |
| ③ 岩沙 佑樹(竜虎館) | | | |

第3回 7月18日(日) 鳴門武道館 参加人数 55名

指導者 ○堀金・広瀬・高田・佐藤(勇)・久保・兵頭・元木・有松・丸岡・近久 以上10名

- | A 組 | | B 組 | |
|----------------|-----------------|-----------------|---------------|
| ① 新田 裕(竜虎館) | ① 川村 昌史(藍住スポーツ) | ② 浜岡 大気(藍住スポーツ) | ② 湯浅 貴浩(市場少剣) |
| ② 石井 孝二(小松島少剣) | ③ 大野 敬太(阿波少剣) | ③ 石川 祐介(錬心館) | |
| ③ 井口あすか(入田錬成会) | | | |

第4回 8月11日(日) 鳴門武道館 参加人数 62名

指導者 ○堀金・広瀬・高田・佐藤(勇)・兵頭・久保・元木・佐伯・森本 以上9名

- | A 組 | | B 組 | |
|---------------|----------------|----------------|---------------|
| ① 本田 万里(阿南少剣) | ① 岡田 大資(池田剣正堂) | ② 西 太一(藍住スポーツ) | ② 石田 良太(阿南少剣) |
| ② 新居見 航(鴨島少剣) | ③ 山ノ井陽介(錬武館) | ③ 切中 真志(小松島少剣) | |
| ③ 岩沙 佑樹(竜虎館) | | | |

第5回 8月23日(日) 鳴門武道館 参加人数 59名

指導者 ○堀金・高田・佐藤(勇)・久保・岡崎・兵頭・美馬・丸岡・森本 以上9名

- | A 組 | | B 組 | |
|---------------|-----------------|----------------|---------------|
| ① 新田 裕(竜虎館) | ① 生長 祐樹(坂野少クラブ) | ② 金山 雄祐(和田島少剣) | ② 正木 翔太(脇町少剣) |
| ② 坂東 潤(入田錬成会) | ③ 湯浅 貴浩(市場少剣) | ③ 岸野 哲也(徳島少剣) | |
| ③ 久保 智司(清風館) | | | |

第6回 9月26日(日) 鳴門武道館 参加人数 53名

指導者 ○堀金・高田・松村(和)・兵頭・元木・有松 以上6名

- | A 組 | | B 組 | |
|---------------|---------------|-----------------|--------------|
| ① 新田 裕(竜虎館) | ① 津山 孝宏(大野小) | ② 工藤 和也(錬武館) | ② 岩見 恭輔(錬心館) |
| ② 新居見 航(鴨島少剣) | ③ 湯浅 貴浩(市場少剣) | ③ 山田 秀治(藍住スポーツ) | |
| ③ 坂東 潤(入田錬成会) | | | |

第7回 10月3日(日) 鳴門武道館 参加人数 51名

指導者 ○堀金・広瀬・高田・佐藤(勇)・松村(和)・
久保・元木・美馬・丸岡・森本・岩見・近久

以上12名

- | A 組 | | B 組 | |
|---------------|-----------------|-----|--|
| ① 山ノ井陽介(錬武館) | ① 西沢 英吾(牟岐剣クラブ) | | |
| ② 新田 裕(竜虎館) | ② 清水 桃代(入田錬成会) | | |
| ③ 岩見 恭輔(錬心館) | ③ 佐古 賢太(誠武館) | | |
| ③ 坂東 潤(入田錬成会) | ③ 太田 宏生(蔵本少剣) | | |

第8回 11月21日(日) 藍住中学校 参加人数 60名

指導者 ○堀金・広瀬・高田・松村・久保・兵頭・元木・有松・國友・森本・近久 以上11名

- | A 組 | | B 組 | |
|---------------|---------------|-----|--|
| ① 新田 裕(竜虎館) | ① 鶴江 範彦(新野少剣) | | |
| ② 工藤 和也(錬武館) | ② 新野 敏央(新野少剣) | | |
| ③ 岩見 恭輔(錬心館) | ③ 久米勘四郎(阿南少剣) | | |
| ③ 湯浅 貴浩(市場少剣) | ③ 森 亮介(羽ノ浦少剣) | | |

第9回 12月12日(日) 藍住中学校 参加人数 56名

指導者 ○堀金・広瀬・高田・佐藤(勇)・松村(和)・久保・兵頭・元木・國友・森本・近久
以上11名

- | A 組 | | B 組 | |
|----------------|-----------------|-----|--|
| ① 新田 裕(竜虎館) | ① 中山 耕兵(北島少剣) | | |
| ② 坂東 潤(入田錬成会) | ② 小原 広和(岫雲館) | | |
| ③ 大野 敬太(阿波少剣) | ③ 岡 俊介(藍住スポーツ) | | |
| ③ 佐藤 一貴(入田錬成会) | ③ 木内 佑太(藍住スポーツ) | | |

第10回 1月16日(日) 鳴門武道館 参加人数 57名

指導者 ○堀金・広瀬・高田・松村(和)・久保・兵頭・元木・有松・森本・國友 以上10名

- | A 組 | | B 組 | |
|---------------|-----------------|-----|--|
| ① 新田 裕(竜虎館) | ① 生長 祐樹(坂野少クラブ) | | |
| ② 坂東 潤(入田錬成会) | ② 清水 源明(大野小) | | |
| ③ 山ノ井陽介(錬武館) | ③ 新野 敏央(新野少剣) | | |
| ③ 湯浅 貴浩(市場少剣) | ③ 村瀬 聡美(坂野少クラブ) | | |

第11回 2月6日(日) 藍住中学校 参加人数 53名

指導者 ○堀金・広瀬・高田・松村(和)・久保・兵頭・佐藤(勇)・元木・有松・森本

以上10名

- | A 組 | | B 組 | |
|----------------|-----------------|-----|--|
| ① 坂東 潤(入田錬成会) | ① 三木 翔太(市場少剣) | | |
| ② 工藤 和也(錬武館) | ② 松原 早起(藍住スポーツ) | | |
| ③ 近藤 雅規(入田錬成会) | ③ 鈴木 達也(清風館) | | |
| ③ 新田 裕(竜虎館) | ③ 鶴江 範彦(新野少剣) | | |

第12回(最終回) 3月19日(日) 鳴門武道館

指導者 ○堀金・広瀬・高田・松村(和)・久保・兵頭・佐藤(勇)・元木・有松・森本

以上10名

- | | |
|----------------|-------------|
| ① 山ノ井陽介(錬武館) | ① 生長 祐樹(坂野) |
| ② 石井 孝二(小松島少剣) | ② 山田 秀治(藍住) |
| ③ 新田 裕(竜虎館) | ③ 近藤佳那子(阿波) |
| 岩見 恭輔(錬心館) | 岡 俊介(藍住) |

段位合格者

七段に合格して

居合道部 岸田光博

このたび、平成十一年十一月六日の東京審査において、合格することができました。先の鹿兒島審査では不合格し、過去の六段受験の仙台、大阪、東京審査で不合格、福岡審査で合格。過去の不合格の度に反省し、自分の修業不足、修練の浅さを思い、六段合格より月、水、金曜日の稽古は六年間を通じてほとんど休むことなくつづけて来ました。また、私の所属する撤心道場の道場長である平尾先生が出席される各地の居合道大会には、すべて出席してきました。

師匠平尾先生がよく言われる事に、「道場内での稽古も大切だが、外へ出たの修業も非常に大切ですよ」との、お言葉の意味も理解出来る様になりました。それは、一、

見取り稽古、二、試合度胸、三、場なれ(平常心)、四、視野を広げる、等で有ると思います。

又、全国各地の剣友が出来、居合道だけでなく、年齢、職業、性別に関係無く知人友人が出来て大変感謝しています。

私が三段の頃、大阪の居合の大先生が「君、居合は続けなさい。一番に、一人て出来るスポーツで有り、年がいつても出来るスポーツは外にないですよ。二番に、武道を一生懸命しても、世間の人が悪く言う事は無い。」と、おっしゃった事を、忘れません。私は居合道を行って良かつたと思いますし、これからも続けて行く気持ちには変わりません。

私なりに、居合道を続けて来て今思う良いことを書きます。

一、正座が長時間出来る。親戚の法事など、正座する行事が苦痛で無くなった事。

二、身体の姿勢がよくなる。それまでの私は猫背だった。

三、武道の精神は商売。人生の教訓にな

る。自営業だが社内会議に利用している。

四、後輩の指導ができる。少年少女から若い人たちとの会話で考え方等が理解出来る。

五、友人知人が増える。異業種の人と交流ができる。

六、自分の人間形成に役立つ。武道精神で氣が出来る。

七、家庭の信頼を得る。孫が大きくなったら、居合をさせたいと子供が言う。

八、永続は力なり。七段合格、二十数年行っていることを「すごいですね」と、評価される。

等々有ります。

師匠が「居合を修業する事が出来る事は幸せですよ」と言われますが健康(氣)、仕事(金銭)(剣)、家庭(体)が、うまくいつて居合が出来、まさにその通りだと思います。

今後、よき人間形成を目指し努力するつもりですので今後とも諸先生方をはじめ皆々様のご指導をお願い申し上げます。

剣道七段に合格して 「ゼロからの再スタート」

知友会 兵頭 新平



このたび、平成
十一年十一月二十
五日、剣道七段審
査会（東京）にお
いて幸運にも、合
格する事ができま

した。これも日頃から熱心に剣道のご指導、
稽古をしてくださった、知友会（藍住剣道
クラブ）、剣道連盟の諸先生方のおかげだ
と、思っております。心からお礼申し上げ
ます。

私が剣道を始めたのは、三十年前兵庫県
姫路市に就職していた時からです。剣道を
始めるまでは（中学、高校、一般と）バレー
ボールをやっていました。社会人全国大会
（産業人大会、実業団大会等）も何度か経
験しております。

当時、私が住んでいた西播地方（姫路、

竜野、上郡、相生、赤穂）は、スポーツが大変盛んに行われ、なかでも剣道は一番盛んに行われていたように思います。その時、よし、剣道を覚えようと思い（今までやってきたバレーボールを辞め）必死になって練習を始め、現在に至っております。今思えば、立派な先生方、剣友に恵まれて、剣道をやって良かったと心から思っております。

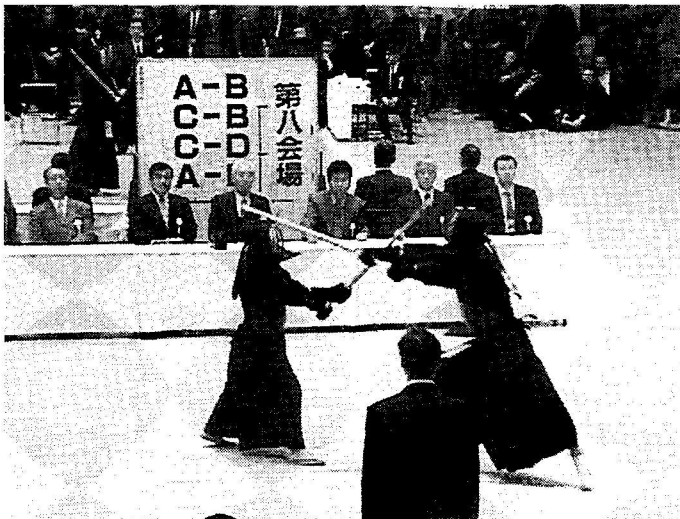
また、今回の昇段審査を受けるにあたり、日頃先生方から指導、指摘されている、着装と姿勢はもろろんの手

一、「はじめ……から、やめ」まで（時間にして一分あまり）気を抜かない。
二、堂々とした構えから、一拍子で打ち切る。

この二つを常に心掛けて練習に取り組ましました。いつも堀江先生が言われている、剣道は「只管稽古」、この言葉の通りだと思っております。

剣道を始めて三〇年、年齢五〇歳、西暦二〇〇〇年、ゼロ、ゼロ、……と私にとつて、まさに「ゼロからの再スタート」の年

であります。これからも、初心忘れず一生懸命、練習、稽古に励みたいと思っております。今後とも、ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。





七段に合格して

徳島支部 松村明文

「八〇二D」私の受験番号である。平成十一年十一月二十五日東京日本武道館で行なわれた千九百年代最後の七段審査の実技発表、「おめでとう」の声「ありがとうございます。ございます。」と答える。健康の為にと再度始めて二十年近くになりますが、ここまで来れたのは入田錬成会の仲間、少年達、そして何よりも堀江幸夫先生を始め徳島、名西支部の先生方、その他の多くの諸先生方と出会いご指導いただいたおかげだと深く感謝いたしております。

今回三度目の挑戦ですが前二回の京都、福岡と今一步のところでは不合格、このことは希望もてましたが、プレッシャーも感じた中で、この一步のところを久保隆司先生に撮っていただいた京都審査のビデオを何度となく見返し研究した上で、一分三十秒の間に、有効打をあまりにも欲しがりすぎて、普段の稽古と異なる剣道をしている

と気付き、打てる時に打たなければ相手が上と思う気で審査に望みました。

また十一月二日三日と堀江先生、吉田祖先生、松村克隆先生、田村清憲先生総勢十一人で姫路に遠征稽古に出かけ、同年配の六、七段の先生五十人余りに迎えられ、多くの初対面の先生方を相手に、自分の納得のいく稽古ができたことは、非常に役立つと思います。

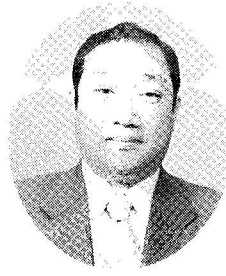
立会いについては、幸い一人目の初太刀に攻めの中での面が決まり、非常に心に余裕ができ、二人目に対しては余りいい打ができなかったが、京都・福岡の立会いから比べると少し落ち着いてできたようです。

この三回の審査で得た経験をこれからの剣道の修業に生かして、七段位として恥ずかしくないように稽古を重ねたいと思います。今後ともご指導をよろしくお願いいたします。また、剣道発展のために微力ではありますが、お力添えしたいと思います。

剣道七段に合格して

美馬東支部 青木茂生

「鬼稽古ありて七段あり」



栄を賜りました。

これもひとえに、徳島県剣道連盟の諸先生方、剣友の方並びに鬼稽古会の諸先生方の暖かいご指導とご助言を賜わったおかげだと心から深く感謝申し上げます。

今回の受審者は、一五二八名で合格率二六・九%という好成绩でありました。

その中で、徳島県からは一度に七名の合格者が出たと言うことで、大変喜ばしいことです。皆さん、それぞれに六段を取得後一生懸命修練された結果だと推察を致します。

私くしも、日々コツコツと精進してきたことが合格という、うれしい二文字を手にすることができたのだと思います。

今でも、あの時の緊張した立ち会いから「心気力一致」した面の打突が出たことが、正に無心の中からでた会心の一撃であったと、目に焼きついて思い出されます。

自分自身をほめてやりたいです。「誰しもそうだと思いますが」審査となるとやはり緊張もするし、周りの雰囲気というものもかなり意識するもので、いかに心を落ちつかせて審査に臨むか精神面での修養・鍛練というものがかなり大切なことが、身をもってわかりました。

私は、七段審査を受けるまでの間、良き師匠に巡り会えたことも合格への要因だと、心の底から感謝しています。

また、鬼稽古会で私くしを熱心に稽古をつけて頂いた、市場の佐藤吉邦先生・国府の吉永明彦先生・清風館の久保隆司先生には、本当にありがたく思っております。

合格して、最初にいただいた言葉「おめでとう、ようやったなあ。しかしこれから

が本当の修業だ」とお祝いと励ましの言葉をもらったことを、肝に銘じ今後七段としての風格を身につけるよう、修練していきたいと思っております。

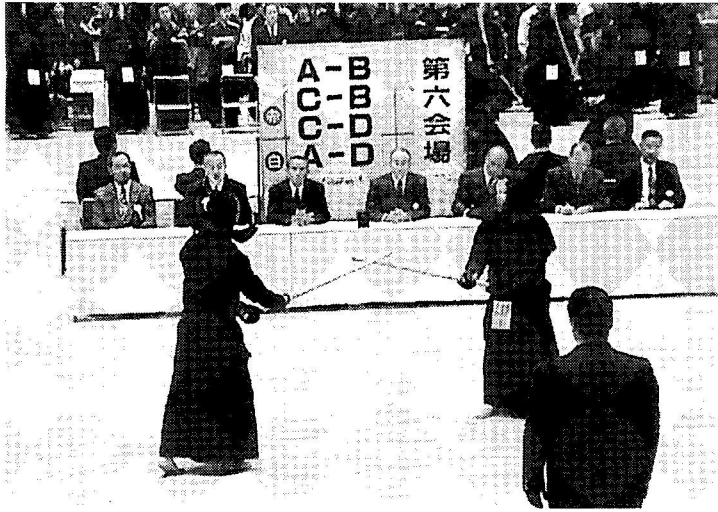
これから益々、剣道人口の減少が進む中に、いかに剣道を普及発展させていくことができますか？大きな問題になってきます。それゆえにこれからは、正しい剣道の指導ができる指導者が求められてくるでしょう。

幕末の剣豪、島田虎之助は「剣は心なり、心正しからざれば剣亦正しからず、剣を学ばんとする者は先ず心を学ぶべし」と、人違いで刺客に襲われた時、その首謀者に一喝した話は有名である。

私は、一人でも多くの人達が剣道を愛し、真剣に取り組んでいかれるよう広めていきたいと願っております。

最後になりましたが、徳島県剣道連盟の益々のご発展、ご繁栄をお祈り致しますと共に皆様方の益々のご健勝を心より祈念いたします。

今後とも宜しくご指導ご鞭撻を賜わりますようお願い申し上げます。



七段に合格して

徳島支部 榎本英夫



平成十一年十一月二十五日、日本武道館にて七段審査があり、おかげを持ちまして昇段することができました。

した。ご報告いたしますとともに、今日までご指導いただいた皆様に心からお礼を申し上げます。

六段から実に十五年、その間アキレス腱断裂などがあり、剣道からしばらく離れており今回久々の受験となりました。離れていた期間が剣道の魅力を再度認識させてくれたところもあり、初心に返ることができたように思います。

それまでの稽古でお教えいただき、心がけたことは、

①立ち会いで、すでに心構え・気構えができていること。(半歩でも前へ)

② 初太刀は全身全霊を込めて。(先先の先をとる)

③ 中途半端にならない。(身を捨てる)

④ 相手との縁が切れないように。(常に攻防を続ける)

⑤ 審査員に後ろを見せない。(一度、大きく中央から外れたので相手を引き戻した)

振り返ってみますと、相手に恵まれたのはもちろんですが、落ち着いてこれらのことができたのが不思議です。三分間自分が主人公になれたように思いました。しかし、まだまだ無駄打ち・気分のムラがあり、理にかなった動きまで遠いものがあります。これからが大切と考えています。謙虚にそして地道に努力を重ねたいと思いますので、今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

七段に合格して

小松島支部 高木 壽 史



私が剣道を始めたのは、中学生の頃、その当時七段とは無縁。遊びと同じようなものでありました。そんな私に剣道の理念・真念というものを教えてくれ、ここまで導いてくれたのが高校時代に出身した、恩師塩田善治先生でありました。

こんな私にも剣道をして行くのが恐くなった時期があります。それは、今から七年前、全国教職員大会強化練習会に参加していた時の事。「バーン」という音と同時に身動きがとれなくなってしまうのです。そう、それがアキレス腱が切れてしまったのです。それからというもの足を庇うようになり、思うような稽古が出来なくなってしまう事。それを機に剣道から離れていった事

も事実です。

平成十年京都審査より受験を始めましたが、思っていた通り七段の道は厳しく、これでもか、これでもか”という気持ちと同時に”この足捌きはダメだ……この構えでは、……”と頭を悩ましたものも確かでした。審査を受けに行き、落ちる度、自分なりに打突の仕方そして攻方を工夫していきました。

そして十一月二十五日の審査当日。緊張の中でも落ちつけるように、目を閉じて呼吸。出来るだけ無心になれるよう努めました。一人目の立ち合いが終わると力がスーッと抜け、周りの様子がよく見える様になっていき、二人目の時には、より自然と体が動き自分が納得いくような剣道が出来ました。それが掲示板に出ている番号につながったと思います。七段を受験するにあたっていろいろな面での勉強を強られ自分の今までやってきた剣道をそして信念を見つめ直すいい機会だったように思います。最後に塩田先生はじめ諸先生方先輩方のお蔭があったからこそ今の自分がありこ

して日本武道館という場所で七段という輝かしい段位を頂けたのだと思っております。これからは、勝ちにこだわらず自分の剣を見つめ飛翔して行けるよう努力していくつもりです。

「修証一如」

警察支部 平野誠司



冒頭に、平成十一年十一月二十五日、日本武道館にて行われた剣道七段審査に、無事合格することができました。

この場をお借りしまして、ご指導していただいた先生方に心より御礼申し上げます。

さて、平成五年の六段合格から自分自身に与えた課題は、「懸待一致」でありました。警察剣道の勝負剣道に身を置きながら、試合での勝負を自分のめざす剣道でやっつけようとするのは非常に厳しいものがありました。自分の中で考える理想的剣道と試合剣道との間に矛盾を感じ、どうしたら自己の剣道を進めていくことと試合に勝つことが同じ線上に来るかという葛藤の中、それが懸待の不一致にあることを真摯に突

き詰めながら稽古を続けてきました。

自分の中で「懸待一致」は、攻め・先・気などの問題が複雑に絡まりあい、頭の中で理屈としてわかっていてもいざ実行になったときにはバラバラになってしまいます。一つ一つをやろうとすれば、その一つが極端になりその程合いが全くわかりません。攻めであれば、攻めきってしまつて打突まですつながら、打つための攻めなのに打てない状態になってしまうのです。こうした過程を経験しながら、「打っていく」とと「応じ返す」ことが同時に存在する状態を、意識的・有形的に構え・攻め・技に求めていったのです。

そして最近、その有形的懸待にも行き詰まりを感じていた時に、ちょうど昇段の機会と重なったこともあり、有形的な懸待の上に内なるものの問題、すなわち無形的懸待「気の懸待」が必要であるという次の課題が鮮明に見えてきた、そんな気がしています。審査は普段の姿をそのまま見せればいいわけですが、その普段の力を出させるための「気」なるものが結局様々な弊害を



呼び起こしたり、摩訶不思議な力を与えてくれたり、とても重要な問題なのです。今回の立ち会いの前もいつもの試合とは違っていたいろいろな「気」が体中を駆けめぐりました。ここで気の充実ができなければ懸待一致どころではないのです。セルフコントロールによる気の充実体の実現、これは「呼吸」との関係にもなりますが、そういった内なるものを一緒に合わせた剣道の本体について考えさせられました。

さらに打突の機会について考えたとき、それは攻めであり、その攻めも「気」から繋がってきます。無形的懸待を支配するその「気」についてこれから勉強して、懸待を想うばかりに捨てきれなかった打突も、柳生新陰流にいう、「カラヲ忘ル事」により、身も心も自由自在になつていかなければならないと思つています。

今私が求めているのは、懸待が一つになつた「構え」と「攻め」から、柔らかな「打ち出し」が生まれる、即ち「構え」と「攻め」と「打ち出し」が一つになるような剣道。それがその先にあるのです。

始めありて 終わりなし

道環して 断絶せず

修証一如なり 湯野正憲範士

正に一つのこと達成すれば、同時にそれは次の課題に向けた修練の始まりです。決してそれは尽きることはありません。今はその夢叶うまで一つ一つ、只管……です。

六段合格させて

いただきました

鳴門支部

竹内 佳代子



去る五月二日、

やっと念願の六段合格が私のものになりました。思えば、六段への道程は遠かったし、とても厳しいものでした。それだけに、掲示板に張り出された自分の番号「307D」を見つけた時の喜びと感激は、とても口で表せるものではありません。

私が六段を目指して初めて受審したのは、平成三年だったと思います。それから何回か不合格が続き、出産・育児というプランクがあつて、再び六段に挑戦しようと思つたのは去年からでした。

前回は、「剣窓」の載るところまでいったし、自分でも手応えがあつたのですが、何か一点、満足のいかない部分がありまし



た。

その何かとは何だろう……。折りにふれそれは心にひっかかって私の悩みの一つとなりました。そのことが解らないうちは、永遠に六段合格は成し遂げられないのではないかと思っていた時、主人の一言が「ぐさつ」と胸に突きささったのです。

「それは人間性の問題だよ。思うように練習が出来ないことを不満に思い、イライラしていた精神状態を見ていて多分受からんだろうと思っていた。」

思えば、審査直前私はいつもイライラしていました。「仕事が忙しくて思うように練習できなかった」仕事・育児・家事……「そんな環境の中で私は受験しているのに……」

審査の相手に対しても、「相手の体格が大きい」とか「やりにくかった」などと、全部自分以外に責任を転嫁していました。要するに自分が弱かった、未熟だった、計画性がなかっただけにすぎないのに、人のせいにして、結局自分自身をも甘やかしていたのです。常々心がけていたつもり、知っているつもり、の剣道修練の心構えを忘

れてしまっていたのです。

闘う相手は自分なのだ、自分の心なんだ、仕事や家事そして育児の合間を縫って練習にいけるわずかな機会を大切にしよう。その間不自由な思いをさせている家族には心から感謝しなければ……。それが高段者をめざす剣道家としての第一歩だと、そこまで考えがたどり着いた時、一つの迷いがふつきれました。

審査の直前は、どんな相手が来るだろうなどと余計なことは考えず、精神統一に心がけました。僅か二分しかない対戦時間に「自分以上のは出せない、見せ掛けは通用しない、今自分が持っている力をすべて出し切れたらそれでいい。後悔はしたくない」その思いで静かにその瞬間を待ちました。

百二十秒の内容はあまり覚えていません。ただ終わった時「これ以上のことは自分にはもうできない」と感じたことだけは覚えていきます。

長い間私を支えてくださった多くの方々、お教えくださった先生方、皆様のご支援や

ご指導によって夢の獲得ができました。これからまた新しい夢が始まります。六段の重みをしっかりと受け止め、これからも自分自身との闘いを続けようと思います。本当にありがとうございます。今後とも指導よろしくお願いいたします。



六段に合格して

丹生谷支部 野々宮 真佐夫



平成十一年五月、
京都審査において
幸運にも六段に合
格することができ
ました。

これもご指導下

さった諸先生方、先輩、同輩、後輩皆様のお陰と心から感謝いたしております。

私は、現在鶯敷町で振武館の一員として吉田租館長の下、稽古に励んでいます。一時期腰痛などもあり中断していましたが、そんな折、町内の少年剣道の指導を熱心に勧められ、渋々ながら引き受けることになりました。後に、この少年剣道との出会いが私の剣道に対する考えを大きく変えていくことも知らぬまま……。最初の頃は、それまで蓄えた乏しい知識で何とか子供達を指導していましたが、まもなく限界を感じ、子供を教える前に自分が勉強をやり直さな

ければと思えてきました。「それなら昇段審査を受けてみなさい」と吉田先生からご助言をいただき、二度の受験で五段を取得しました。受験の機会に実技だけでなく学科や形を学ぼうと、剣道の奥深さに新たな興味がわいてきました。

その後、二人の息子も剣道を始め、親子三人で稽古をする時間も増え、より一層充実して気持ちで剣道に取り組むことができるようになりました。

平成九年に六段受験資格ができるのを待つて十一月に名古屋、翌年五月に京都で受験するも不合格。二度とも気持ちばかりが空回りして、有効打突らしきものは一本もなしという無残な結果でした。常日頃指摘されている「剣先の攻めの弱さ」を改めて痛感した次第です。それから一年、自分なりに努力を重ね三度目の挑戦。最初の立合いでは開始直後、相手の氣勢に押されて思わず二、三步退いてしまいました。すぐには気を取り直して逆に一步二歩と押し返した時迷いなく面に出ることができました。後で聞くと相面だったそうですが、自分では

満足できる一本でした。(相手の方も合格)二人目は、すり上げ面、応じ胴が一、二本当たりでしたが出来はもう一つで結果が心配でしたが、何とか無事合格することができました。

今後は、「攻めて打ち切る」剣道を目指しに精進努力すると共に、剣道を通して少しでも社会に貢献して行きたいと思っています。

継続は力なり

阿南支部 須藤 恭 宏



平成十一年五月の京都審査において、幸運にも六段に合格することができました。これも日頃からご指導くださいました皆様のおかげと深く感謝申し上げます。

平成九年の名古屋審査に始って、京都、名古屋、京都と、六段の道はかなり厳しいものと考えておりましたのに、自分で思っていたよりもずっと早く合格させていただき、合格発表の時は本当に飛び上がって喜んだものでした。今まで剣道を続けてきて良かった、そして続けることができて良かったと、今は亡き範士清原栄先生がよく言っておられた「継続は力なり」のことは再認識することができた一瞬でした。自分なりに今回の審査で、何がよかった

のかを考えてみますと、前三回の審査の順番がいつも早く、番号をもらってからの心の整理をする間もなく、何がなんだかわからない内に終わっていました。最初から審査を受けにいつているのですから、順番に係なく自分の剣道をしなくてはいけないのですが、何分にも心が練れていないのか緊張するより以前の問題でした。

今回の京都審査では、運良く順番も後ろのほうで、前の人たちの立合いや、自分自身の気持ちの整理もできて、余裕を持つてのぞむことができたことは非常にありがたかったことです。

立合いにおいても、今まではいろいろな先生方に稽古の時注意されたことを気にしすぎ、形にこだわって自分の実力以上のものを出そうと気負い、格好良く打ってやろう打ってやろうとしていたような気がします。

今回においては、少し開き直って今まで稽古を重ねてきた自分なりの剣道をしてみようかと思いい審査に望みました。それが良かったのか、躊躇して立合った時自然と相手を

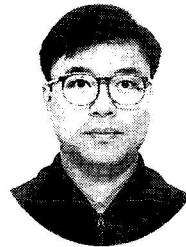
攻めていったような気がします。相手にも恵まれて、剣先で中心をとりながら攻めると、相手が下がり、もう一つ攻めたところ相手が甲手に打つてき、自然に身体が動いてすりあげの面を決めることができました。自分では、タイミング良くすりあげることができたものの、少し軽かったかなと思っただけですが、一緒に行っていた仲間からは良かったと後で聞いて、少しは自分なりの剣道ができたのかなと思っただけです。二人目は少し背の高い人だったので、初太刀の相面を決めることができ、後は無理をせずじっくりと相手を見ることができたと思います。

今回の審査で、十分に稽古を積むことの大切さと、よい意味での開き直りの剣道（稽古で収得した自分なりの剣道）をと考えることも大切ではないかとつくづく考えさせられました。稽古に勝るものはないとよく言われます、稽古を積んで自分の身体で覚え、無意識の内に相手に対応できることが大切なのだと思感させられました。

最後になりましたが、今まで何かとお世

六段に合格

阿南支部 山田浩司



話になりました徳島県剣道連盟と阿南支部の先生方、剣友の皆様、又羽ノ浦朝錬で稽古をお願いした浜田先生を始め諸先生方、そして阿南少年剣道教室の有賀先生始め諸先生方と教室の子供たちに、心からお礼を言いたいと思います。本当にありがとうございます。ありがとうございました。

剣道に終わりはありません、これからも次の目標に向かって「継続は力なり」の言葉を忘れず修練し、人間として少しでも成長できるように努力して行きたいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願い致します。

最後に恐縮ですが、今まで陰で支えてくれた我が家族にもお礼を言いたいと思えます。「ありがとう、そしてこれからもよろしく」

でした。

今回二度目の審査で六段を頂くことができました。

一度目、稽古は充分にできていたし、自信満々で審査に

望みました。が、いざ立合いになると緊張のあまり体が全々動かず、その上「打ちたいけど」「打たれたくない」という気持ちで手も足もバラバラでした。終わった後は足が筋肉痛で動かないぐらいでした。

一回目の不合格を反省しながら先生の教えを守り『仕太刀の気位』そして『攻めのある剣道』をすることを頭にたたき込み毎日の稽古に励みました。しかし、審査の日の稽古に励みました。しかし、審査の日の稽古につれて自分の思う剣道ができなくなり、攻めているつもりが色に変わったり、仕太刀の気位のつもりが『待ち』に変わってしまったり心に邪念が生じるばかり

ちょうど審査の一週間前、恵まれてまして

全国中学校剣道大会に地元那賀川中学校女子が出場することとなり、応援に参加することができました。さすが全国クラスの中学生だけあって打ちもスピードも攻めも目を見はるものがありました。そして、打つべき機会があれば『捨て身』で飛び込むこと。今までの自分にはない物を見つけることができました。さっそく帰ると道場に足を運びひとり鏡の前に立ち一人稽古に励みました。審査当日、とにかく落ちつくこと、そして『仕太刀の気位』で相手をのみ込むこと、そして打つべき機会には『捨て身』で飛び込む事を頭にたたき込んで立ち合いに望みました。

立ち合いは自分の納得の行く立ち合いで、相手の動きがスローモーションに見えるような感じがしました。

合格発表で自分の番号を見た時は「よう稽古頑張ったもんなー。」と、自分で自分をほめてやりました。

『六段合格』にあたって剣道のすばらし

さと同時に奥の深さをより一層しることができました。『五十才までが基本』という意味がわかったような気がします。

これからは七段を目指しより一層稽古に励んでいきたいと思えます。

最後になりましたが指導して下さいました先生方に又、先輩方に、そして全中に連れて行ってくれた那賀川中学校の生徒達に心からお礼を申し上げます。

「六段審査は

今回きりにしてね」

三好支部 小谷 徹



「いつてきます」とさりげなく玄関を出る私の背中に、「六段審査は今回きりにしてね。」と妻の激励の声。

ビクツとしながらも、気丈にも「四万円ほど準備しておけよ。」と言い放ち複雑な気持ちで福岡に向かった私でした。

この事が吉と出たのか、結果としては、妻と私の会話のとおり無事六段に合格する事ができました。

剣道とは、「いかに「気」で戦うものか」という事を身をもって実感させられた（今となつては）嬉しい出来事でした。

実は、私は転勤族で全国を点々としていきます。出身は愛媛県今治市です。

会社への入社が徳島だった事も含め、入

社十六年間で徳島県勤務が計三回五年間、剣道においても四段・五段を徳島県在勤中に取得させて頂いております。大へん徳島に縁深い私が、今回池田町在勤中に六段合格できたのも何かの縁があったのでしょうか。

転勤回数八回の私は、六段受審に向けて準備をはじめると転勤（次の地へ）、仕事多忙によるプランクの繰り返しで、あつという間に十年近くの月日が経ちました。今回、池田の地にやってきました、同じ会社に勤務する萩田先生との出逢いにより、ようやく本格的に剣道を始めることが出来ました。今治の故大沢鹿一範士七段・松本博伸教士八段・兵庫の故鶴丸寿一範士九段（全剣連理事）京都の丸田雄生範士九段（全剣連理事）と、数々の先生方に師事し、学んだ事を自分なりに消化して、早く六段に合格したいというあせりに似た気持ちを持ったまま一年近くの月日が経ちました。そして京都でようやく受審することができましたが、前述した「あせりの気」が審査でもそのまま出てしまい、打つことばかりに気を取られ、「攻める気」が出せないまま、消

化不良の剣道で終わりました。

福岡では、幸運の道衣とはかまを身につけ充分な気迫でもって先ず前へ一歩・そして充実した一本の面を先に打つことを頭に描いて相対しました。すると、どうでしょう。イメージしていた通りの充分の気迫で一本の先の技(面)を打つ自分が、まるでスローモーションでもみる様にそこにいるではありませんか。その途端、体のいらぬ力が抜け、一本目を上回る気合が剣先に伝わり、自信に満ちた胸を張った自分がそこに立っていました。

前述しましたが、剣道は「気が大きく左右する武道」であることを、今回色々な体験を通してかい間みることができました。

この体験は、合格後、大きな自信となつて剣道に生かされている様に思います。

現在、箬蔵道場・川崎道場等にて小・中学生達と修行しております。剣道のみならず人は教える事によって、相手の立場・自分の立場を同時に観ることで教える事の大切さ、難しさを感じる事が出来ると思います。しいては、自己の成長につながっているのだと思います。

この場をお借りして御礼を言わせて下さるのだから、自分の事以上に私に熱心に指導して下さる萩田先生・いつの時にも暖かく仲間として迎えて下さる高橋支部長はじめ三好支部の先生方 常に私を支えてくれる特に今回「気」の大切さを改めて教えてくれた妻と子供達・いつも私に勉強させてくれる道場の子供達等、今の私があるのは皆様のお陰です。本当にありがとうございます。今回は、私の念願のビッグタイトルを取る事ができました。

今後は、人間七段と同時に剣道七段を目指し、真の剣道六段・人間六段を育んでゆき、少しでも世の為、人の為、剣道界の為に微力ながら尽力してゆきたいと心に誓っております。

押忍



『出合い』に感謝しながら、 私はこの道を歩き続けたい

板野東支部 本村 賢 一



平成十一年十一月、名古屋で行われた審査会で六段に昇段させて頂いた。これもふだんの稽古、また公私共に私を引き立てて下さった堀江先生、遠藤先生はじめ剣道連盟の先生方のご指導のおかげである。

初めての挑戦であった平成十年東京審査では、それまでの準備も当日の段取りも不足で、すべてが取り繕ったものだった。今回は『自分の納得のいく立ち合いをしよう』ただそれだけを目指した。受付の約一時間前に会場に到着し、身体だけはほぐしておこうとそばの運動場でストレッチング・ランニング・素振りを繰り返した。この一時間でだんだん気持ちも集中できた。

立ち合いが始まってみると相手が私よりわずかに早く、態勢が不十分なまま打ち出してきた。たまたまそれを冷静に対処できたことで平常心を保つことができ、無理なく立ち合うことができた。私が相手より優位に立って崩せたわけではなく、立場が逆になっていった可能性もある。頂いた結果はただ幸運であったと言わざるを得ない。事後の感想も『納得がいく』というよりも『今の自分はいくらなんだろうなあ』と、合格に対しての期待感も逆に落ち込みもなかった。偶然居合わせた大学時代の後輩に出来栄を尋ねたところ「あと一本欲しかったですね」とのことだった。とはいえ平常心で立ち合えたことは、私にとって大きな収穫であった。また立ち合い後の行われた形に審査においては、立ち合い以上に私自身の未熟さを感じ、これからの修練上の課題を頂くことができた。

ところで、私は時々『何のために剣道を続けているのだろうか』ということを考える。今回の受審に向けての準備中にも怠け心という誘惑があった。しかし今、私には

剣道を続けていける理由がある。それは『出合い』である。人との出合い、出来事との出合いさまざまあるが、その中で剣道に対し次の良い思われる点を見いだすことができていく。まず剣道そのものが奥深いこと、次に剣道を通して多くのすばらしい人々に出合えること、最後に剣道をしている自分がほかの何をしているときよりも自分が好きになれること、である。

『出合い』は、剣道における目指すべき方向を明確に示してくれ、そのレベルの高さを体感させてくれる。レベルの高さを知ること、一方ではいやと言うほど未熟な自分や、失敗を繰り返す自分と向き合うことになる。しかし向き合う過程において、出合った人々から感じるイメージは「苦しさ、つらさ、しんどさ」というマイナスのイメージではなく、「温かさ、やさしさ、道に対するひたむきさ」というプラスのイメージを常に感じる事ができる。だから『出合い』に感謝し、これからも『出合い』によって生じた関係を大切にしたいと思うことができる。

申し上げます。

これらの『出会い』によって、私は「少なくとも」今剣道を続けることができている。しかし、それは私にとって決して「少ない」ことではない。なぜなら剣道を通して繰り返された多くの『出会い』が、今の自分に続く道のすべてをつくってくれたとさえ思うからである。

今回の昇段をまた一つの契機として、私はこれからも私と稽古をして下さる方々の『出会い』をより大切にし、剣道を通して人間として成長させて頂けたらと考える。

最後になりましたが、誌面をお借りし、今回の昇段に向けてご指導頂いた諸先生方、特に剣徳館の来代先生と門下生の方々、剣道連盟板野東支部の先生方、阿波支部の先生方、学剣連の先生方、昨年まで共に汗を流した北島中学校剣道部のみなさん、現在共に汗を流している上板中学校剣道部のみなさん、黙って見守ってくれた家族に感謝申し上げます。また、小学一年生の私を剣道へと初めてお導き下さった誠武館初代館長・故中谷智好先生にお礼と感謝を申し上げますと共に、今回の昇段を謹んで御報告



六段に合格して

警察支部 小坂 治



平成十一年十一月二十四日、日本武道館で行われた昇段審査会において念願であった六段に合格すること

ができました。これも日頃から御指導頂いた剣道連盟の諸先生方、警察剣道特練の先生、先輩、同僚の皆様のおかげだと心から感謝しております。この場をお借りして御礼申し上げます。

振り返ってみますと二年前の名古屋審査から始まり京都二回、福岡二回、さらに名古屋一回と各地の審査会場に足を運び今回の東京が七回目のチャレンジでした。毎回、合格するぞと気合を入れて受験しましたが結果は不合格、

「どうしてだめなのか」

「今回は打てたのになあ」

等、悩み、自分がもうどうしてよいのかわからなくなっていました。しかし六段は私にとつてはひとつの目標であり夢でもあったので決して諦めることなく日々稽古に励みました。

一、攻めて先を取る。

二、中心を取り、堂々した構え。

三、打ち切る。

四、気迫。

五、間合い。

等、以上のことに特に心掛けながら取り組みました。

月日はあつという間に流れいよいよ審査会当日。私は大きく深呼吸し自分を信じて臨みました。今までの審査会ではただ緊張ばかりだけだったのですが今回は自分でも信じられない位、気力、気迫共に充実しおもしろい納得のいく剣道ができました。立ち合い後ですがすがしい気分になりました。「やるだけのことはやった。あとは結果を待つだけ。」祈るような気持ちで私は結果発表を待ちました。いよいよ結果発表。自分の受験番号を確認した時は、とても嬉

しく思いました。

最後、私自身まだまだ精神面、技術面でも未熟なので今後更に努力していく所存であります。

今後共、御指導、宜しくお願い申し上げます。



平成十一年度

称号・段位合格者一覽

一 剣道

【教士】

五月八日

柴田宗忠

久保隆司

富田正

吉永明彦

中村稔裕

【錬士】

五月八日

柳本巖

十一月二十六日

富浦廣志

藤井利一

野々宮真佐夫

須藤恭宏

丸岡偉人

阿部三十三

【七段】

十一月二十五日

平野誠司

高木壽史

榎本英夫

青木茂生

松村明文

兵頭新平

大西正範

【六段】

五月二日

竹内佳代子

野々宮真佐夫

須藤恭宏

八月二十八日

山田浩司

小谷徹

十一月二十四日

小坂治

十一月二十八日

滝本博文

本村賢二

【五段】

五月九日

梅山寧史

九月十九日

佐野伸治

半井大輔

武田修典

十一月二十八日

山本泰史

久野正勝

二月十三日

上田雅文

岩木淳子

長谷川陽子

【四段】

五月九日

佐藤充浩

太田充宏

笠松寛子

岩見さゆり

九月十九日

加藤圭貴

富原光男

十一月二十八日

西野知成

近藤正章

早川幸男

二月十三日

藤崎雅隼

山本雅裕

加藤良光

奥田博志

原芳弘

坂本洋二

東島幸

玉田真理

【三段】

五月九日

大久保竜一

谷田尉晃

笠井真人

住友賢司

野久保志穂

赤川真由美

六月二十日

矢代潤

九月十九日

奥田隆陽

隅田憲男

尾華誠

大西聖

西木将聖

喜多将記

新居弘行

三木康寛

勝田邦男

敦賀晋平

原知永

田中貴之

甚田弘

小平智守

小川智滋

栗本美香

伊藤奈津子

近藤多恵

森崎知恵

竹内さやか

十一月二十八日

富森義治

竜田庸平

原崎茂康

森本高明

宮田健太郎

近清素也

根来健二

黒上雅史

井手雅史

中條賀奈子

田室貴子

二月十三日

藤本和香

岸野千恵

高橋千恵

河片杉小松星下倉大久小山中吉森瀬仁
 野岡林田加藤橋前川柏井川岡充智進
 守 行尚洋 孝智誠祐敬達大正智介
 秀浩一雄久二仁輔仁弘三仁彦介正智介

【二段】

藤茂美河中生大藤田友佐花鎌森安元坂木野兼宮木山柿五月
 本村馬田本原村井中行藤野矢本田木本下宮西武田口本九日
 優早真美美茂猛貴陽安佳浩圭昌力史秀裕崇雄
 子苗奈美紗歌雄夫正伸一謙瞬宏二佑覺章哉朗幸一郎史大剛

中大河折星佐島山西松橫本岡森森西佐湯三塩山九村若
 川野井坂野藤田田本手藤田下岡古村谷田口十九日月上代
 健和一祐宜英泰晃和榮裕俊晃貴和將潔敬雅裕日茜幸
 太則甫一哉夫輝三輝郎一佑郎雄也將教喬幸人輔 茜幸

繁今前森豐大池粟北寺新森岸橋中 小松本近甘原岡大木多
 友井田本島節添田川井居島本山西本浄久利 谷村田
 裕亜恵利香亜沙葉裕希あゆみ真季子香織奈美穂善男寛征造貴史琢夫
 香美子奈矢織月子依み子香織奈美穂善男寛征造貴史琢夫

大江香小野田原中丸河佐田吉的國井石板松佐神十一杉桑
 宗富川原宮島田尾岡原光中田場吉口井東田川元二月二十八日浦田
 和友正康 弘俊健 健將照祐 克恭駿 平一 子希
 法郎憲温太拓大孝嵩樹介太佳祐幸太介悟毅平一日 子希

井前四岩藤昇岩笠切田二月十三日宮加阿上坪竹長古昇桑荻豐富
 本川宮佐田脇井中孝 智一 千麻亜亜和葉啓博優敏
 剛崇健佑省有雅 孝 壽恵梓尋衣紀美代子治博優敏
 航志作太助吾軌樹論弘 壽恵梓尋衣紀美代子治博優敏

時元山山坂島佐谷日大中
 信浦内下本田藤本下石村
 秀さみ久裕佳甲雄浩
 子おりゆ美子美織子功二昇章

四月二十九日

岸日松西井佐黒横高田坪服福元井湯市加北篠近太湯梅
下浦端本出伯田田野村内多山村上村川藤浦原藤藤田浅田達
祐平佑元隆圭竜和洋政康孝和崇義慎優和将充大達
樹祐郎祐樹仁祐二哉介人佑輔樹希喬元悟介貴人生輔也

重咲兼大森奥菅林中青泉正寺西城山岩野廣近湯玉別佐大
本川松塚田岡木木口崎本本田本木澤藤浅置宮藤石
淳航直崇勇圭勇寿一佳雄祐雅瑞裕正優雄慎和惣慎二真
也志毅史樹一真作誌明孝補輔弘應一尊作太也俊朗郎充也

吉榊清久田笠中茂近西仁中池堀寺岡松高川濱金下乃大
田井水保上井岡村藤前科村袋口西本元田人本元村一岡野
繪菜久雅文友垂美紫香由千一あゆみ佳子二和夫宏史哉
美織美美香加美穂央織希秋葉み佳子二和夫宏史哉

桂奥花向松川野竹岩掛森服西森酒脇須佐大佐永住村
田房井本人人口岡本田崎部川卷藤竹田藤田友井
智悦由絵明日幸尚紗晃実伊春美早加紗友喜香千
子子佳美香葵彩栄子世舞代希子香幸紀容子佳子子子織裕

阿犬池野澁小山藤河影澤祖櫻山古桑井中濱藤水影白山山
佐伏田崎田田川野本田川井畑波原上川井上本井口本
豪善佳将英裕祐二達佑稔大隆千昌雄健雄達彰開陽翔庸
洋則彦史明矢介郎也樹史輔史秋隆介善大也大三祐司平

山島山佐三山敦佐蔵小大佐近湯藤松船梶東八新藤大ニ川
本尾崎藤好西賀藤敷山栗藤藤岑澤浦田川幡田田地橋
ゆ美祥麻藍裕香早里美慶真倫香泰和吉祐直恭祐亮
かり子子美華子梓織歩苗子帆子美子里男俊徹彦也篤史喜太

竹鍛岸後鎌三田小山品谷柴小八月
部治篤一健啓英康勝大一月二十二日
靖篤一健啓英康勝大一月二十二日
弘学史也生卓基裕資太哉翔平

がんばろう徳島

剣連稽古会 参加者の動向について

強化部長 近藤 亘

剣連の稽古会が正式に発足するのは、平成七年の四月からであります。それ以降の延人数は一月から十二月までの合計となります。ですから、平成七年の延人数が少ないのは、集計上の期間によるものであります。

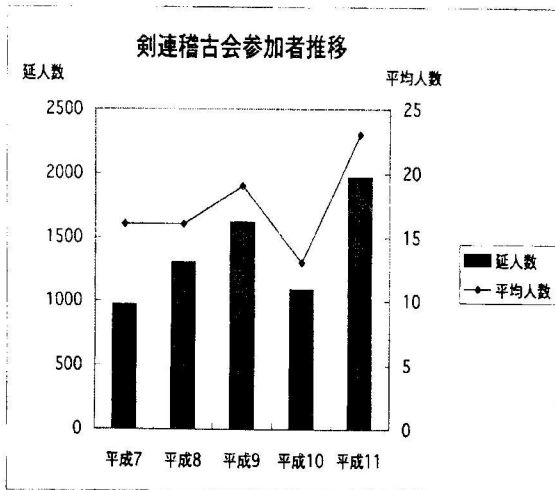
平成十年の延人数・平均参加人数は、前年を大きく下回り、稽古会存続の危機的状況でありました。しかし、平成十一年はその不安を一気に吹き飛ばす、驚異的な参加者数の伸びを示しています。

それが、平成十一年の六・七段の合格者の急増、全国家庭婦人大会での徳島県初の三位入賞、等々の実績となって現れており

ます。

個人記録を見ても、手塚十三子先生の六十六回、平野悦子さんの六十三回とハイレベルとなっております。ちなみに、毎年年末の最後の稽古会の際には、年間の稽古参加日数上位三名には、剣連より、豪華記念品が贈呈されますので、振るって、ご参加下さい。

平成十一年以上の成果を出せるよう内容的にも、剣連稽古会を充実させたいと思っておりますので、さらなるご協力をお願いいたします。



徳島県剣道連盟稽古会

年	回数	延人数	平均	1位	2位	3位
平成7	61回	970名	16名			
平成8	84回	1,306名	16名	富田 圭介 56回	坂下 彦之 玉田 晋作 54回	
平成9	86回	1,620名 成年男女1,357名 少年 263名	19名	富田 正 59回	手塚十三子 58回	小坂 治 54回
平成10	84回	1,090名 成年男子757名 成年女子163名 少年170名	13名	手塚十三子 56回	森 晋作 52回	富田 圭介 小坂 治 51回
平成11	86回	1,970名 成年男子1,215名 成年女子264名 少年491名	23名	手塚十三子 66回	平野 悦子 63回	平野 誠司 60回

徳島県下稽古場所・時間帯一覽

一般社会の方が稽古できる場所と時間帯一覽を作成してみました。
編集委員 白木 崇

主催	場所	住所	日	時	駐車場	常時参加人数	代表者	メッセー
剣道連盟	警察学校 体育館	徳島市論田町	水 第2・4土 その他土	18:00~19:00 19:00~20:00 10:00~11:00 11:00~12:00	50台	30名	遠藤 一美 〇八六二一三三七	県下の実力のある剣士が集まっています。さらに充実した稽古会になるよう、さらに多くの方の参加を期待します。
	県立武道館	徳島町城の内六番地	水 土	19:00~20:00	無	15名	馬場 力 〇八六六八〇三〇	剣道をやりたい人であれば、どなたでもおいでください。土曜のみ二七〇円利用料がかかります。
	東内道場	北矢三町四丁目県営住宅前	水 土	19:00~20:00	5台	5名	東内 勉 〇八六三二五七八	老若男女年齢問わず。
	上八万小学校 体育館	上八万町樋口一	水	19:00~21:00	10台	30名	河野 通宣 〇八六六八〇六七	小学生の練習は、水曜ハ:〇〇・土曜セ:〇〇です。
	加茂名中学校 体育館	庄町一丁目	水	20:00~21:30	有	10名	橋本 武 〇八六一九二〇七	初心者も歓迎 基本中心
徳島支部	加茂名小学校 体育館	庄町五丁目	木	18:00~19:30	有	15名	橋本 武 〇八六一九二〇七	少年中心の錬成
	加茂名南小学校 体育館	鮎喰町二丁目	日	17:00~19:30	有	8名	藤本 俊夫 〇八六一三三三三	一九:〇〇より一般の稽古
	養武館	徳島市八万町馬場山 四三一二	火	20:00~21:00	5台	5名	米倉 滋 〇八六六八二六五〇	県下で唯一、空調設備の整った道場で夏でも快適!
	岫雲館	徳島市北田宮三丁目一	月 木 金	20:15~21:30	10台	10人	藤本 辰夫 〇八六一六四一五三二	基本練習からやっています。初心者の方も気軽にどうぞ。
	徳島清風館	徳島市国府町中八九	火 木	21:00~	15台	4人	久保 隆 司 〇八三三三二七〇	基本理念は「正しく楽しく仲良く」おいで頂くときは電話して下さい。
県庁 剣道同好会	県立武道館	徳島町城の内六番地	毎月一回土曜日	10:00~12:00	無	15名	植田 一夫 〇八一三二一三五六	平成九年に発足しました。細く長く続けるため、月一回どなたでも気軽に参加して下さい。
鳴門支部	光武館	撫養町大桑島	第二日曜	18:30~20:00	30台	8名	寺西 慶 裕 〇八六六五〇七三	
	県立鳴門武道館	撫養町立岩	月 水 土	19:00~20:00 19:00~20:00 19:00~20:00	50台	10名	佐藤 勇 〇八六一五一四六一	
板野東支部	松茂町総合 体育館	松茂町中喜来字群恵 二二五一二一	金	18:00~20:30	300台	8名	米田 利彦 〇八六一九九一六二七六	いつでも自由に参加して下さい。

主催		場所		住所		日時		駐車場	加常時 入人数	代表者	メッセージ
美馬東支部	阿南市武道館	阿南市大湯町	火	二〇:三〇	二二:〇〇	30台	13人	有賀 秀敏	〇八四一三一六九八		
	大野小学校 体育館	阿南市下大野町	水	二〇:三〇	二二:三〇	20台	4人	池田 洋一	〇八四一三一七八二		
阿波支部	那賀川B&G	那賀川町今津浦	水	二〇:三〇	二二:三〇	20台	2人	山田 耕司	〇八四一四一三三八二		
	羽ノ浦町武道館	羽ノ浦町宮倉	水	六:〇〇	七:三〇	10台	10人	浜田 逸朗	〇八四一四一四二四四		
板野東支部	徳島至誠館	羽ノ浦町宮倉沢田	木	三〇:〇〇	三二:〇〇	15台	20人	中山 啓男	〇八四一四一六六〇三		剣道を愛する人の為に門戸を開いています。初心者も遠慮なく。
	北島北小学校 体育館	北島町北村字巻町四友地 一月二十日	月	一九:〇〇	二〇:三〇	20台	6名	伊賀 雅人	〇八六一九一四五三		いつでも自由に参加して下さい。
板野西支部	北島町立武道館	北島町江尻柳池四一	土	一八:三〇	二〇:三〇	50台	7名	大野 義則	〇八六一九一三三六		いつでも歓迎。
	藍住町武道館	藍住町矢上前三二一	火	二〇:〇〇	二二:三〇	20台	3名	高田 亮	〇八六一九一三五〇		初心者・再開する人・剣道好きな人大歓迎です。町外の参加者もOKです。
阿波支部	上板中学校 体育館	上板町神宅西金屋四〇	火	六:三〇	七:四〇	50台	15名	坂東 伸光			早朝稽古ですが誰でも歓迎します。
	土成町農業者 トレーニングセンター	土成町土成字漆畑	水	一九:三〇	二二:〇〇	15台	9名	岡田 京子			少年教室を主として、一般を兼ねています。
美馬東支部	阿波中学校 武道館	阿波町字東原二三〇	水	二〇:〇〇	二二:〇〇	20台	10名	中尾 誠	〇八六一五一五四四		初心者不可、ほか誰でも歓迎。
	市場町立武道館	市場町興崎字北分	月	二〇:〇〇	二二:〇〇	30台	8名	河野 耀雄	〇八六一五一一三三		初心者不可、ほか誰でも歓迎。
美馬東支部	脇町小学校 体育館	脇町猪尻字西久保七八	火	一九:〇〇	二二:〇〇	30台	5台	細川 欣典			いつでも歓迎。
	穴吹小学校 体育館	穴吹町穴吹字井口二三	月	一九:〇〇	二二:〇〇	30台	5台	大石 雅生			いつでも歓迎。

主催	場所	住所	日	時	駐車場	常時参加人数	代表者	メッセージ
美馬西支部	重清東小学校 体育館	美馬町大泉一五	水 土	一八：〇〇～二〇：〇〇	8台	25名	香西虎夫 〇八三―一三―五二六	こども・一般・初心者からでも歓迎します。
勝浦支部	勝浦町体育館	勝浦町三溪字古川	水 土	一九：〇〇～二二：〇〇	100台	20名	立岩勝己	皆様のご指導をお願いいたします。
小松島支部	直心館道場	田野町明石南二九七―一	月 金	一九：三〇～二二：〇〇	10台	3名	松田敏弘	己に勝つ。
丹生谷支部	驚敷海洋 センター体育館	驚敷町百合	月 水 金	一九：〇〇～ 三：〇〇～三：〇〇	100台	10名	井村雅人	他町村の方も： 楽しく剣道をやりましょう。
	木頭錬心館	木頭町出原	火 金	二〇：三〇～	無	10名	松本英雄 〇八四六―八―三三九	
丹生谷支部	木頭錬心館 一般居合道	木頭町出原	月 木	一九：三〇～	無	7名	原田勝 九八四―八―三三九	
	日野谷小学校 体育館	相生町大久保中西二八一―一	木	二〇：〇〇～二二：〇〇	30台	5名	西浦新 〇八四―二―〇八六	元々剣道の盛んなところ。昔取った杵柄とやらで子供の少剣入門と共に復活する人が多い。
海部支部	延野小学校 体育館	相生町延野字王子原三二	火 木 土	二二：〇〇～二二：〇〇	30名	5名	橋本一幸 〇八四―二―〇四六	指導者が共に切磋琢磨している。剣道教室出身者が、今は指導者として頑張っている。
	日和佐小学校 体育館	日和佐町奥河内	水 木	一八：〇〇～一九：三〇	20台	25人	張西政晴 〇八四七―七―〇八二	一人でも多くの方々の参加をお待ちしています。

事務局だより

事務局長 藤本雅史



幼稚園の年長さん以来、「長」という字に縁の無かった不肖私が、平成十一年度の役員改選で事務局長とい

う大任を仰せつかりました。右も左も、前も後も、上も下も解らず、早十二月が過ぎ去ろうとしています。その間会員の皆様には、大変ご迷惑をおかけしています。幸いにも遠藤会長さんを始め藤本辰夫理事長、森川理事、手塚事務局次長のベテランの先生方に助けられ、ご指導を仰ぎながら長谷川事務局員さんと共に頑張っています。

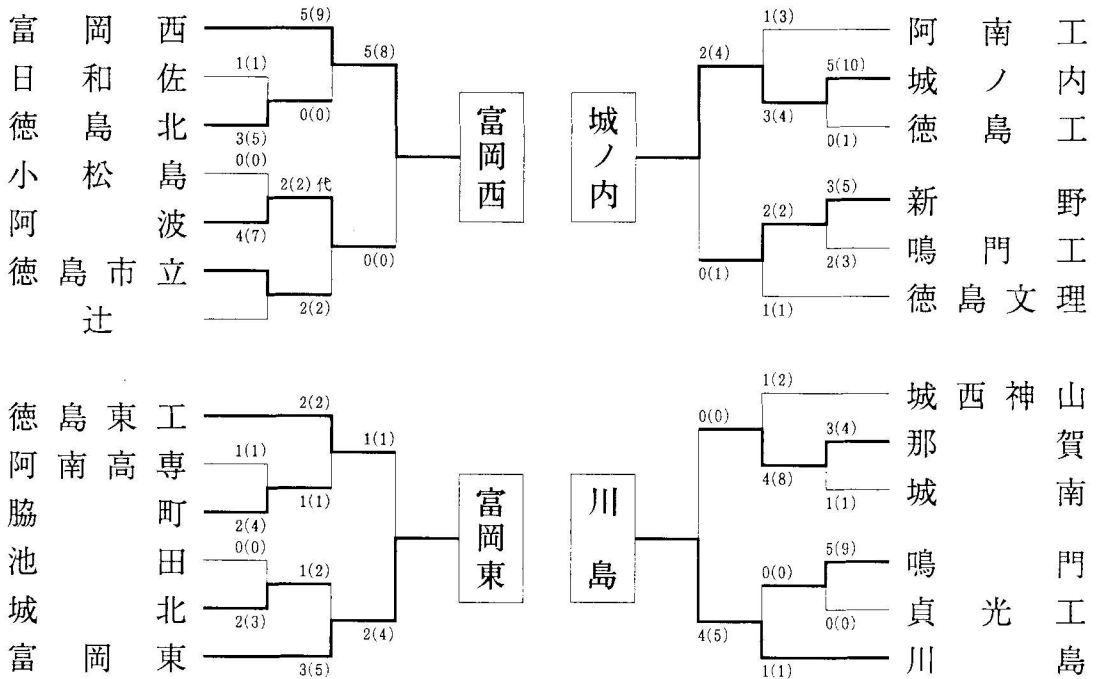
会員の皆様の窓口として、お気軽にお立ち寄りいただける事務局として努力して参りたいと思っています。今後共宜敷くご愛顧の程お願い致します。

(なお、ご来局の節には、長谷川事務局

員のため、高カロリーな物の持ち込みはご遠慮下さい。)



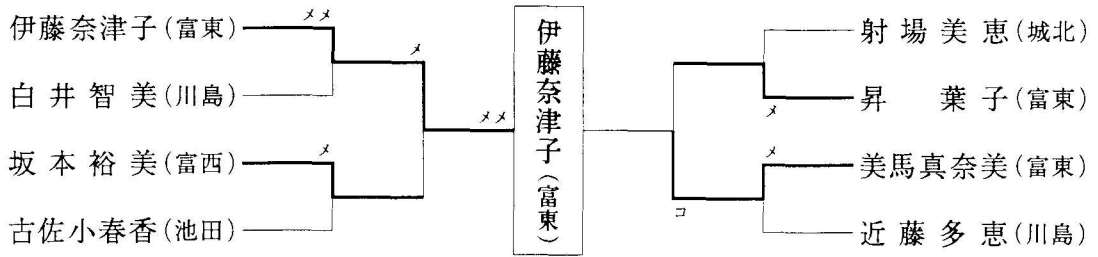
〈男子団体予選〉



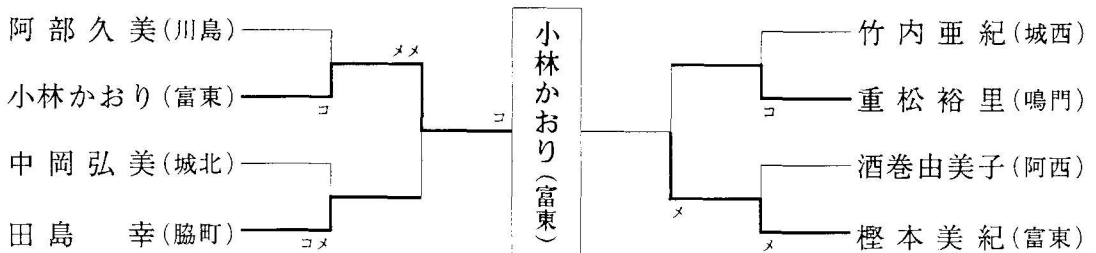
〈男子団体決勝〉

	富岡西	富岡東	城ノ内	川島	勝数	勝者数	勝本数	順位
富岡西	-	$\frac{4}{3}$	$\frac{5}{3}$	$\frac{5}{3}$	3	9	14	1
富岡東	$\frac{0}{0}$	-	$\frac{5}{3}$	$\frac{0}{0}$	1	3	5	3
城ノ内	$\frac{2}{2}$	$\frac{2}{1}$	-	$\frac{1}{1}$	0	4	5	4
川島	$\frac{1}{0}$	$\frac{2}{2}$	$\frac{2}{1}$	-	2	3	5	2

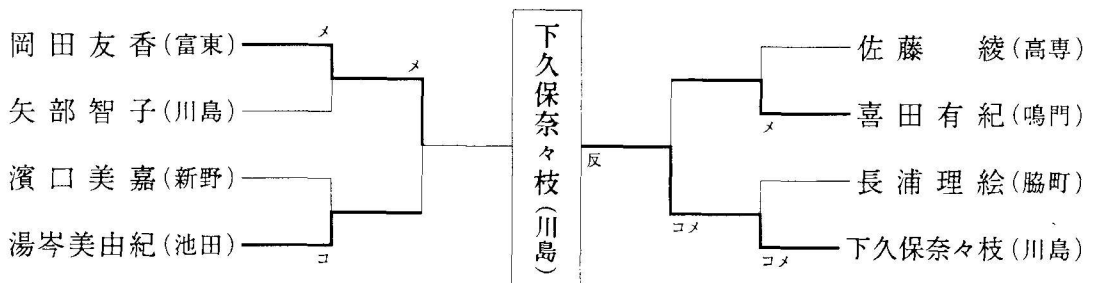
〈女子個人 1 組〉



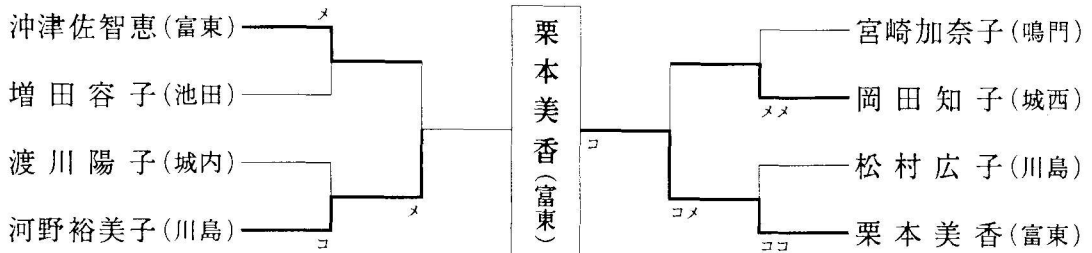
〈女子個人 2 組〉



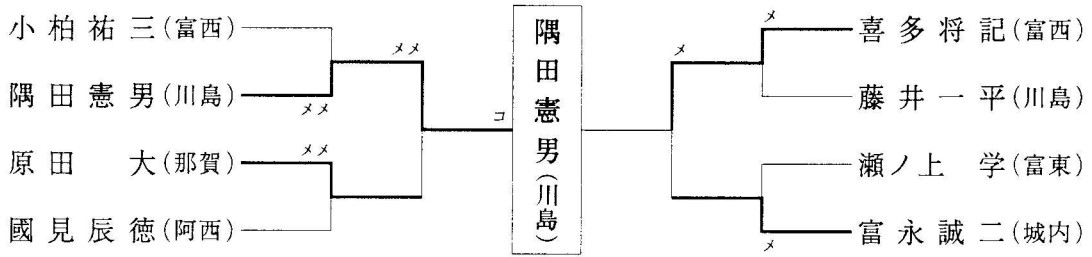
〈女子個人 3 組〉



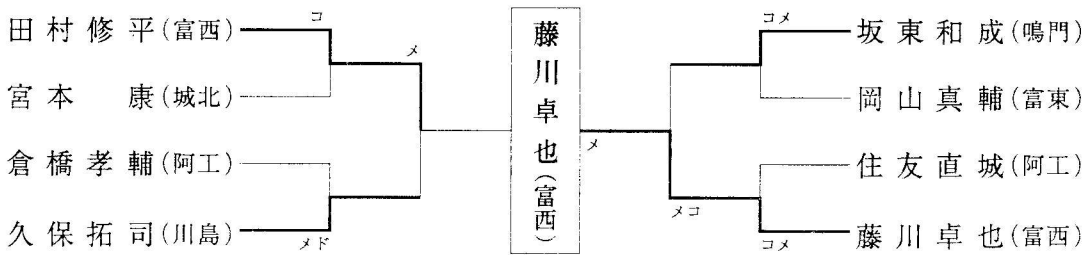
〈女子個人 4 組〉



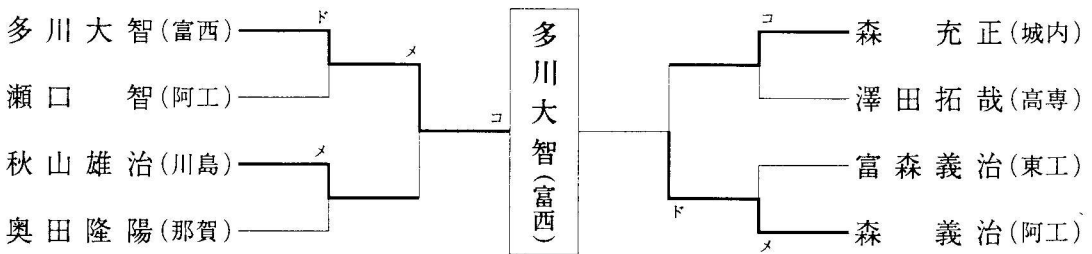
〈男子個人 1 組〉



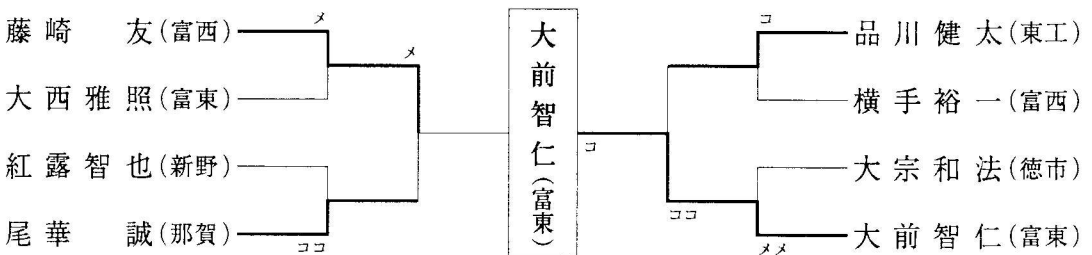
〈男子個人 2 組〉



〈男子個人 3 組〉



〈男子個人 4 組〉



< 女子個人決勝 >

	伊藤	小林	下久保	栗本	勝数	勝本数	得失点差	順位
伊藤		メ延	コメ	メメ	3	5	+4	1
小林	△		△	△	0	0	-3	4
下久保	△	コ一本勝		△	1	1	-2	3
栗本	メ	メ	反延		2	3	+1	2

最優秀選手 伊藤 奈津子 (富東)

< 男子個人決勝 >

	隅田	藤川	多川	大前	勝数	勝本数	得失点差	順位
隅田		メ延	メ延	メ一本勝	3	3	+3	1
藤川	△		△	メ延	0	1	-3	4
多川	△	メ延		△	1	1	-1	3
大前	△	メ延 メ	コ延		2	3	+1	2

最優秀選手 隅田 憲 男 (川島)

第11回 徳島県剣道選手権大会兼全日本剣道選手権大会予選会

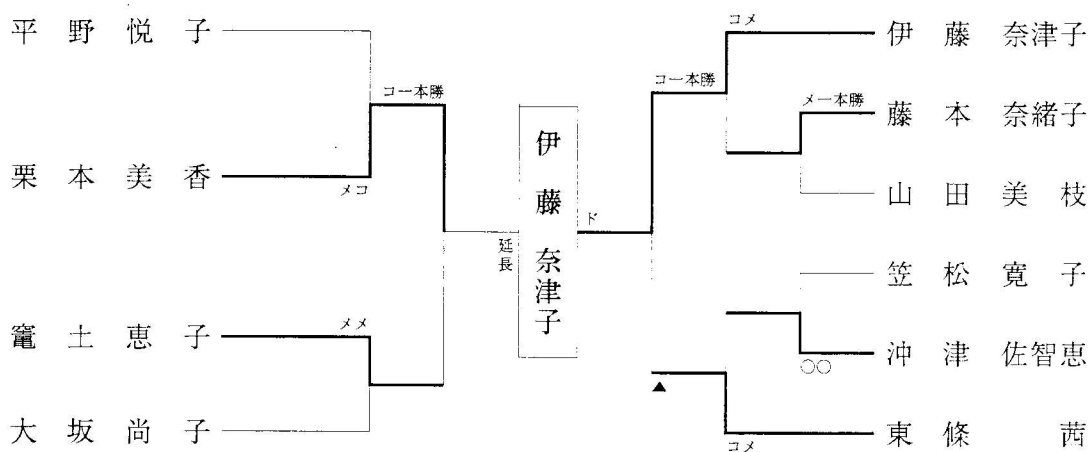
平成11年6月27日
鳴門武道館

〈女子の部〉

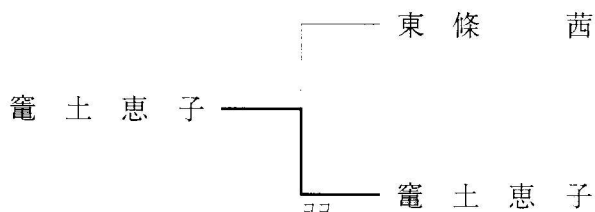
優勝 伊藤 奈津子(富岡東高校)

準優勝 栗本 美香(富岡東高校)

第3位 竈土 恵子(阿南支部)

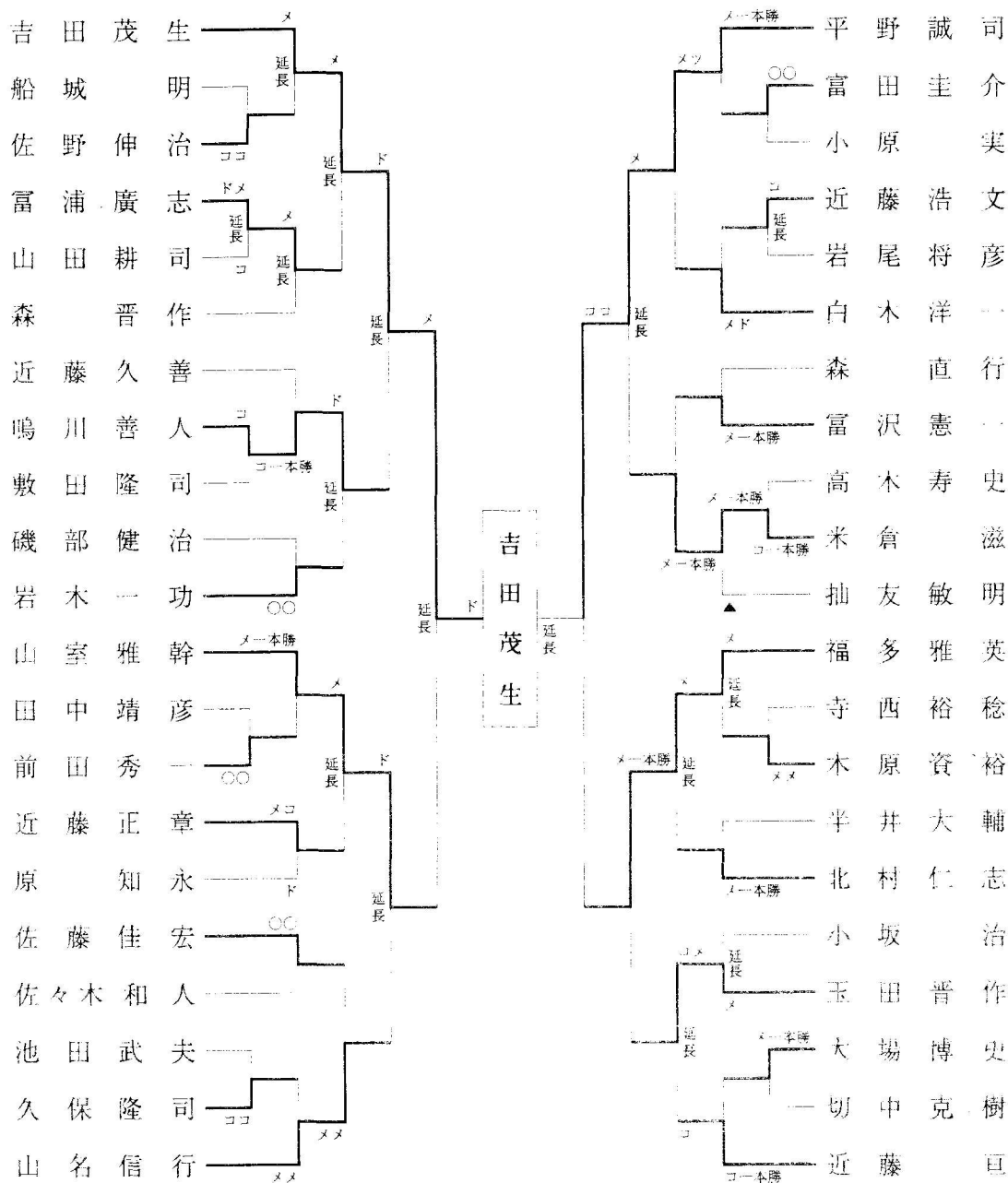


〈3位決定戦〉



〈男子の部〉

優勝 吉田茂生(警察支部)
 準優勝 平野誠司(警察支部)
 第3位 山室雅幹(警察支部)
 第3位 福多雅英(徳島支部)

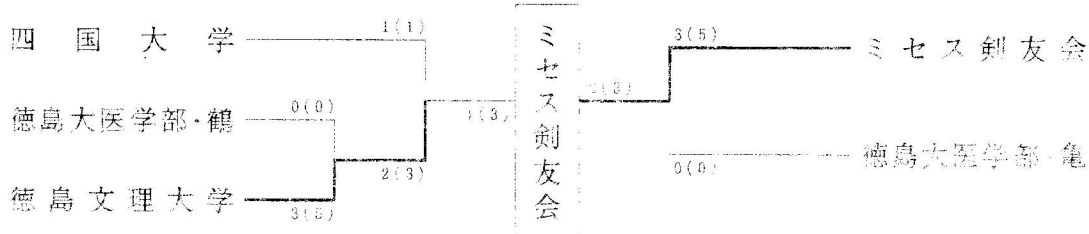


第20回 徳島県女子剣道大会

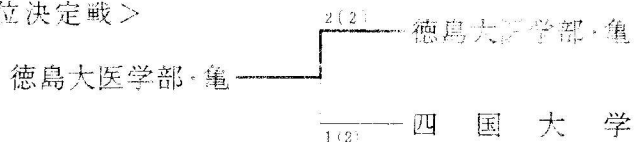
平成11年 7月11日
徳島県立中央武道館

< 団体戦 >

優勝 ミセス剣友会
準優勝 徳島文理大学
第3位 徳島大学医学部・亀



< 3位決定戦 >



決勝戦

	先鋒	中堅	大将	
徳島文理大	豊田	岡本	佐々木	3
		コ	ココ	1
ミセス剣友会	一本勝コ	延長 メ		3
	岩木	平野	竹内	2

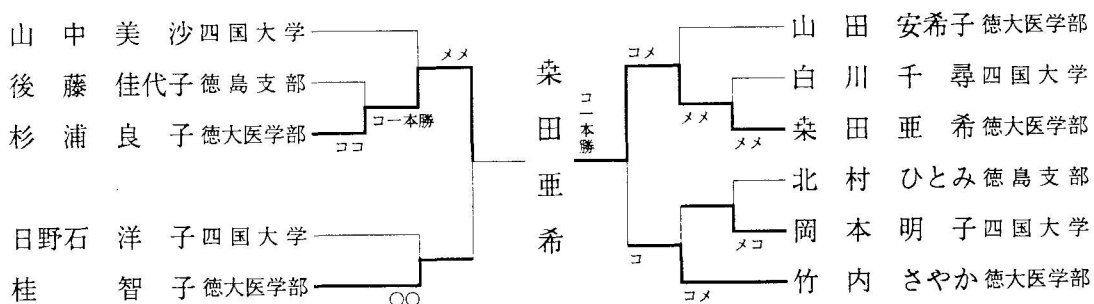
3位決定戦

	先鋒	中堅	大将	
四国大学	岡本	山中	白川	2
	メ			1
徳大医学部 亀		延長 コ	延長 ド	2
	山田	竹内	渥美	2

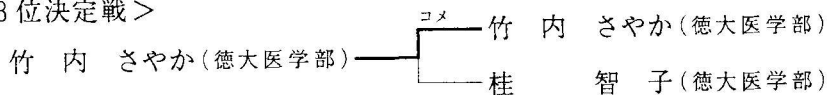
＜ 個人 戦 ＞

＜二段以下の部＞

- 優勝 桑田 亜希 (徳島大医学部)
 準優勝 杉浦 良子 (徳島大医学部)
 第3位 竹内 さやか (徳島大医学部)

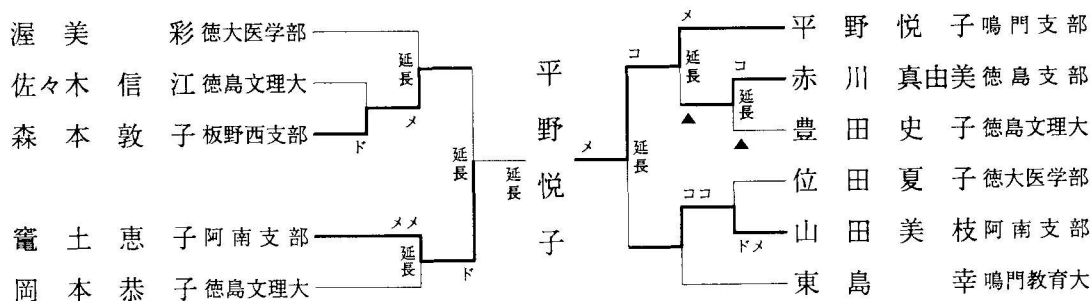


＜ 3 位 決 定 戦 ＞

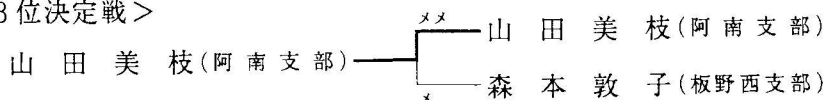


＜三段以上の部＞

- 優勝 平野 悦子 (鳴門支部)
 準優勝 竈土 恵子 (阿南支部)
 第3位 山田 美枝 (阿南支部)



＜ 3 位 決 定 戦 ＞

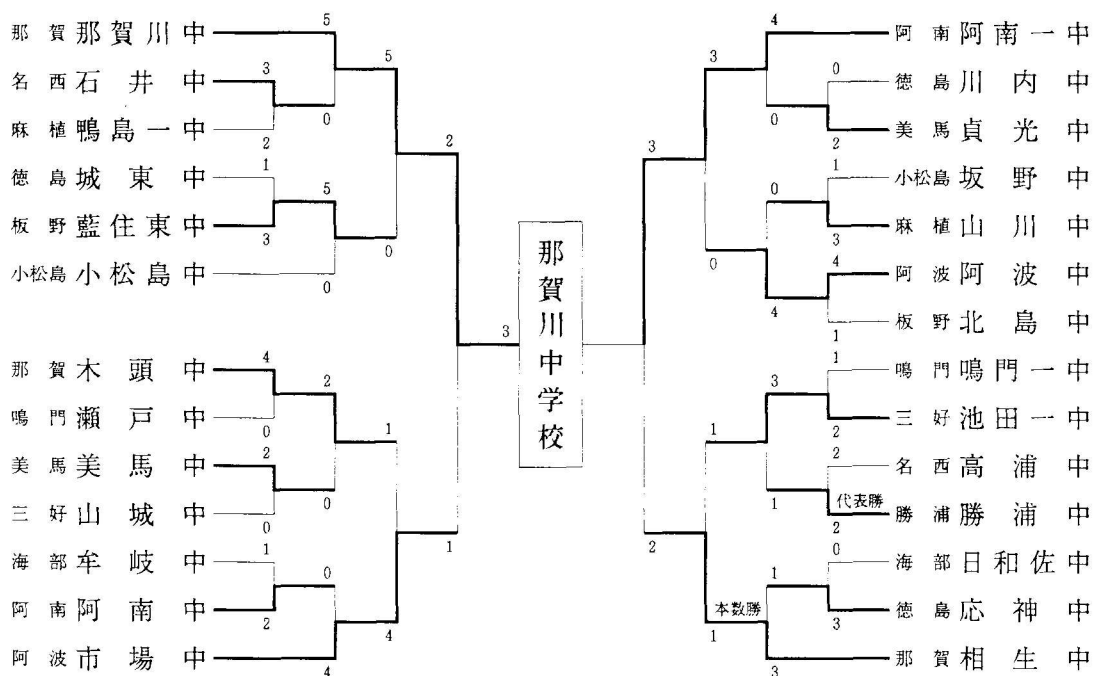


第53回 徳島県中学校夏季総合体育大会

平成11年7月20日
鳴門武道館

〈女子団体戦〉

優勝 那賀川中学校
準優勝 阿南一中中学校
第3位 市場中学校
相生中学校

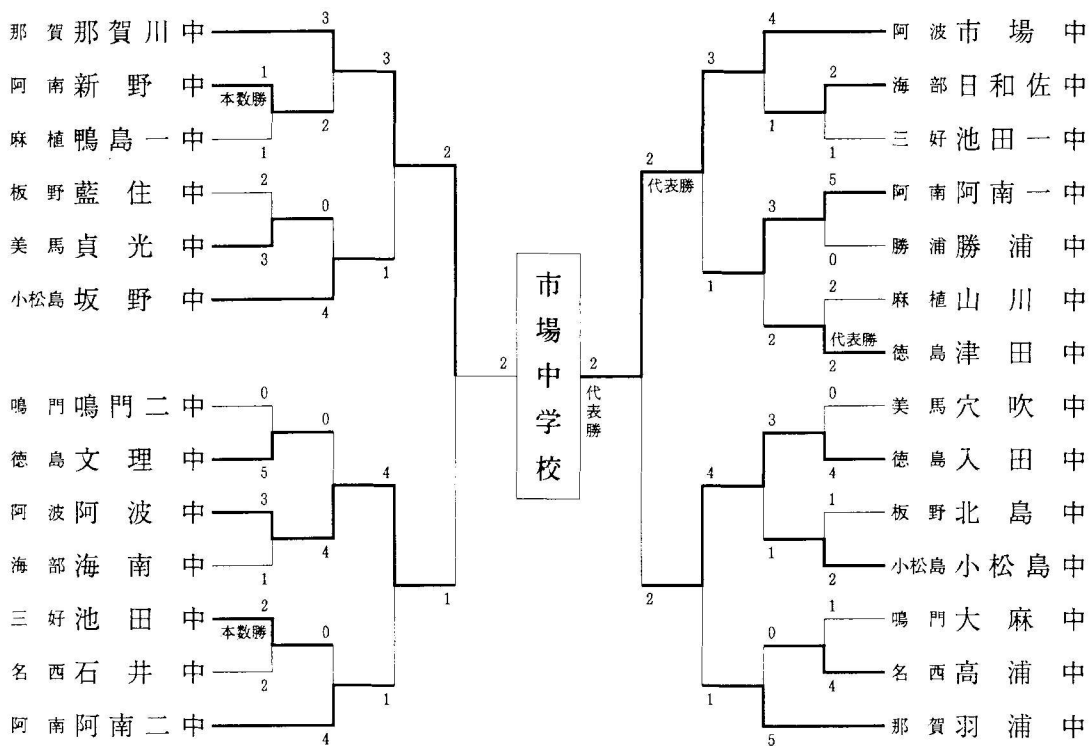


〈決勝戦〉

学校名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	勝敗
那賀川中	中山	橋本	工藤	小西	岸	3
	×延長	×一本勝	×延長	×延長	×延長	
阿波一中						0
	住友	清水	村井	服部	茂崎	

〈男子団体戦〉

優勝 市場中学校
 準優勝 那賀川中学校
 第3位 阿波中学校
 入 田中学校



〈決勝戦〉

代表戦

原

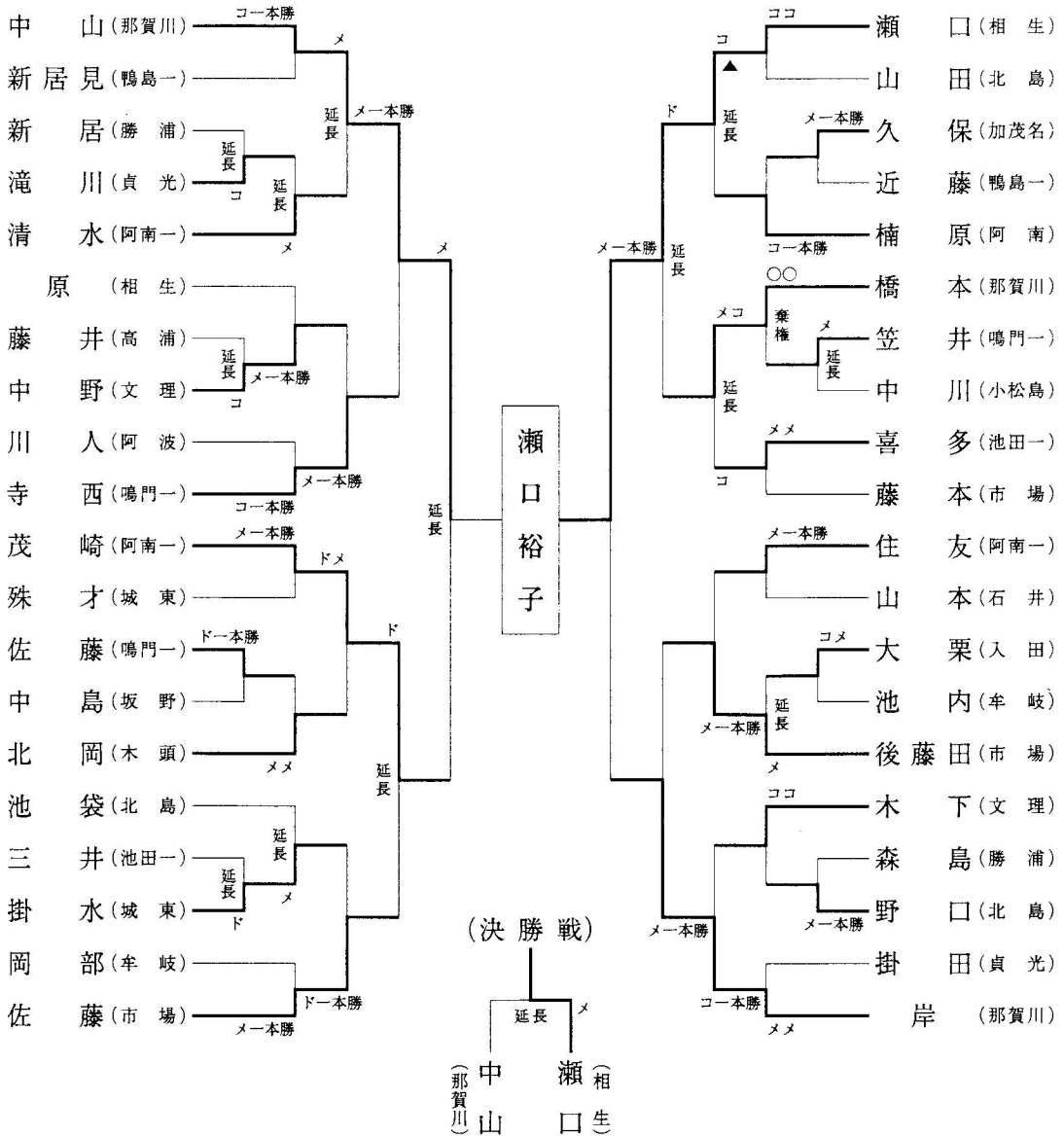
学校名	先鋒	次員	中堅	副将	大将	勝敗
那賀川中	小川	河田	佐藤	湯浅	原	2(3)
	メ一本勝	コ一本勝		延	メ	
市場中			メ一本勝	岩脇	メコ	2(3)
	藤井	近藤	尾田	田中孝		

代表戦

コ
田中孝

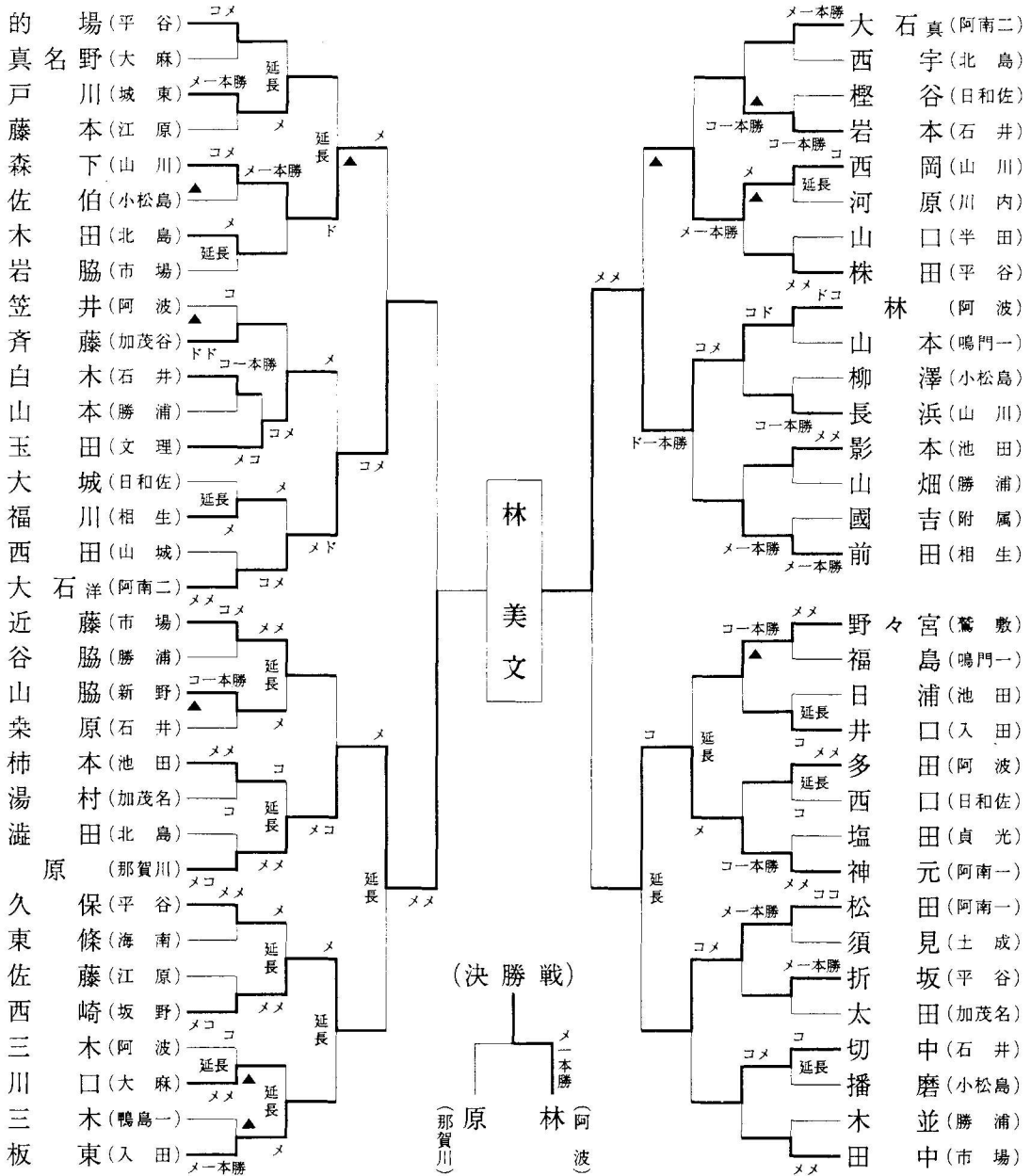
〈女子個人戦〉

優勝 瀬口裕子 (相生中)
 準優勝 中山希実子 (那賀川中)
 第3位 茂崎江里子 (阿南一中)
 岸香織 (那賀川中)



〈男子個人戦〉

優勝 林 美文 (阿波中)
 準優勝 原 祐輔 (那賀川中)
 第3位 石 洋史 (阿南二中)
 大 神 駿 一 (阿南一中)



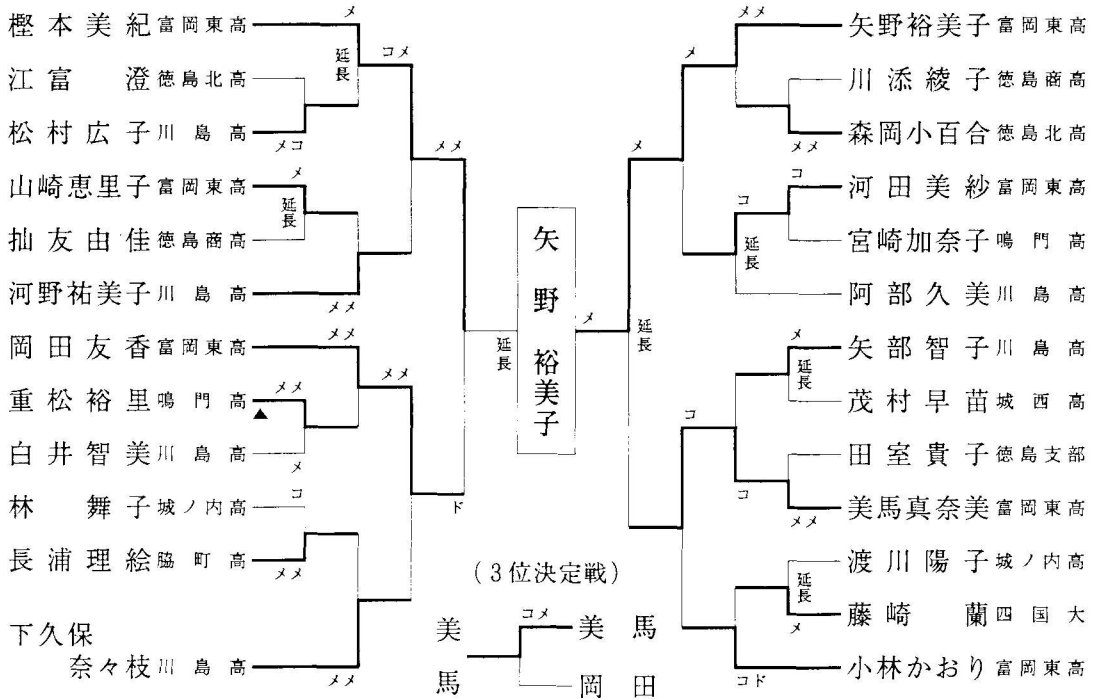
〈女子の部〉

(2段の部)

優勝 矢野 裕美子 (富岡東高)

準優勝 樫本 美紀 (富岡東高)

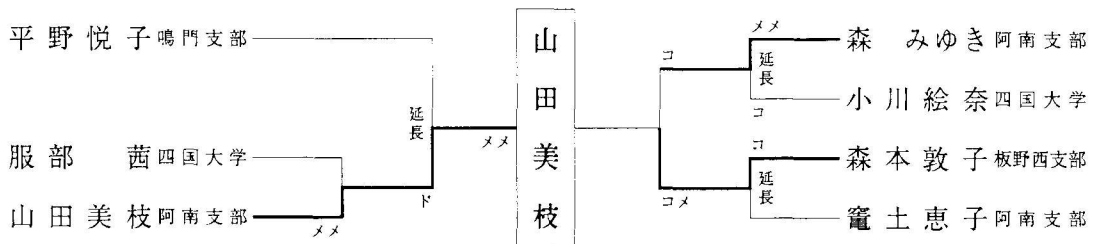
第3位 美馬 真奈美 (富岡東高)



(3段以上の部)

優勝 山田 美枝 (阿南支部)

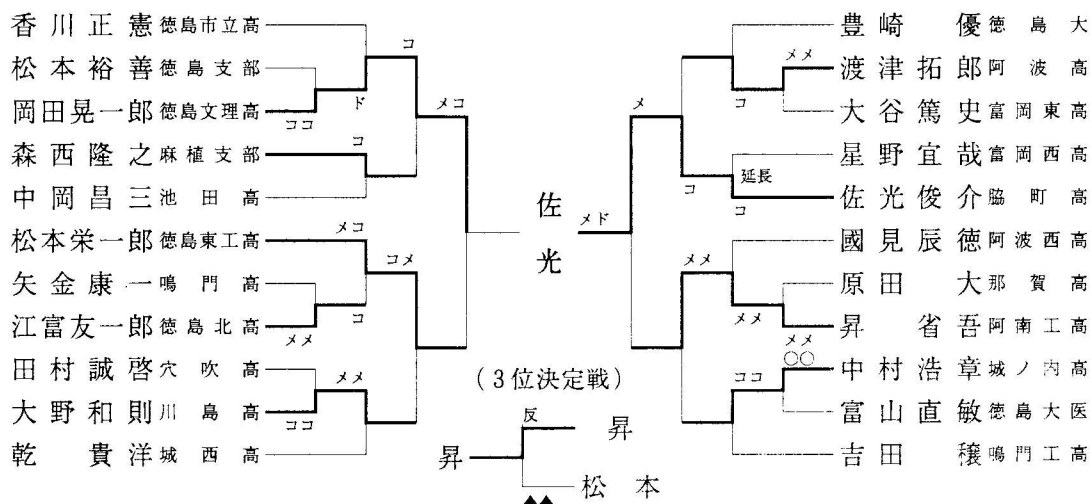
準優勝 森本 敦子 (板野西支部)



〈男子の部〉

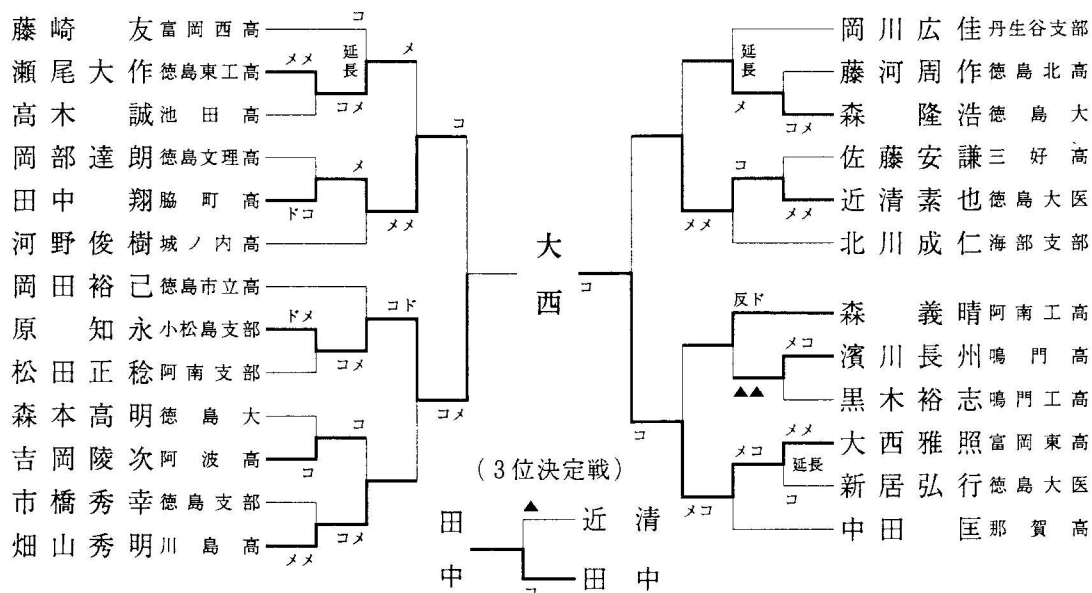
(初段以下の部)

優勝 佐 光 俊 介 (脇町高)
 準優勝 岡 田 晃 一 郎 (徳島文理高)
 第3位 昇 省 吾 (阿南工業高)



(2段の部)

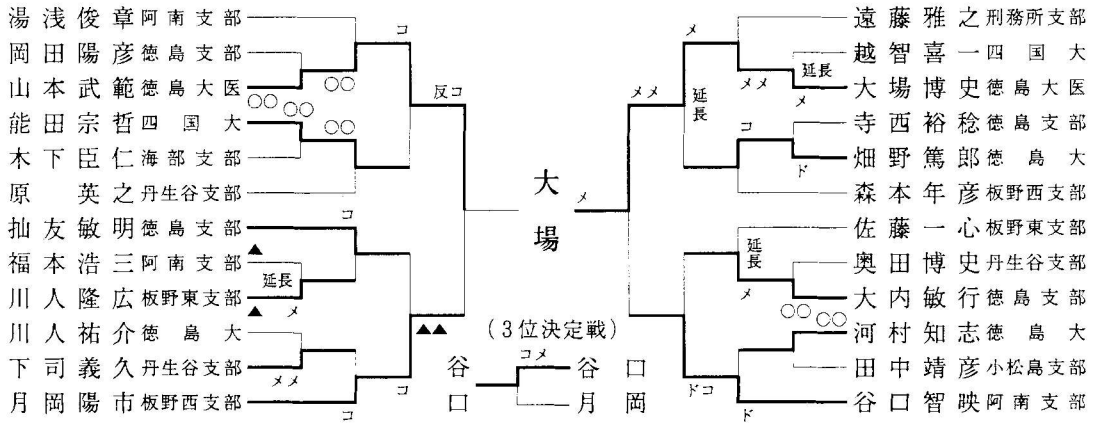
優勝 大 西 雅 照 (富岡東高)
 準優勝 原 知 永 (小松島支部)
 第3位 田 中 翔 (脇町高)



〈男子の部〉

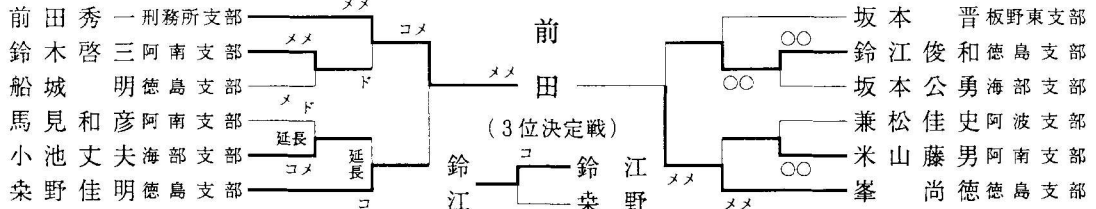
(3段の部)

優勝 大場博史 (徳島大医)
 準優勝 山本武範 (徳島大医)
 第3位 谷口智映 (阿南支部)



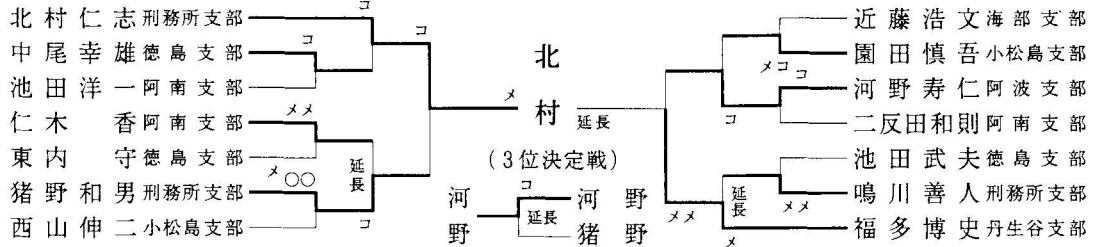
(4段の部)

優勝 前田秀一 (刑務所支部)
 準優勝 峯尚徳 (徳島支部)
 第3位 鈴江俊和 (徳島支部)



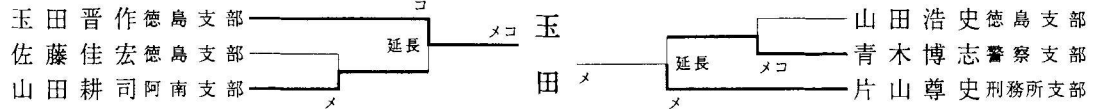
(5段の部)

優勝 北村仁志 (刑務所支部)
 準優勝 福多博史 (丹生谷支部)
 第3位 河野寿仁 (阿波支部)



(6段の部)

優勝 玉田晋作 (徳島支部)
 準優勝 片山尊史 (刑務所支部)



第28回 徳島県社会人剣道大会 平成11年10月17日

〈予選リーグ〉

A

	徳島刑務所	蔵本剣道クラブ	麻植支部	徳島支部D	勝者数	勝者数	勝本数	順位
徳島刑務所		7/4	10/5	6/4	3	13	23	1
蔵本剣道クラブ	0/0		3/1	4/1	1	2	7	3
麻植支部	0/0	7/3		3/2	1	5	10	2
徳島支部D	0/0	2/0	4/2		1	2	6	4

N

	徳島至誠館	右武館	阿波支部B	小松島航空隊	勝者数	勝者数	勝本数	順位
徳島至誠館		8/5	6/4	7/4	3	13	21	1
右武館	0/0		1/1	1/1	0	2	2	4
阿波支部B	1/1	7/4		3/3	2	8	11	2
小松島航空隊	0/0	3/2	2/1		1	3	5	3

B

	阿南支部B	板野東支部B	小松島支部梅	勝者数	勝者数	勝本数	順位
阿南支部B		6/3	4/2	2	5	10	1
板野東支部B	2/1		2/1	0	2	4	3
小松島支部梅	1/1	6/3		1	4	7	2

C

	阿南支部A	徳島支部E	振武館	勝者数	勝者数	勝本数	順位
阿南支部A		8/4	5/3	2	7	13	1
徳島支部E	0/0		1/1	0	1	1	3
振武館	3/1	7/4		1	5	10	2

D

	徳島支部A	美馬東支部C	鳴門支部A	勝者数	勝者数	勝本数	順位
徳島支部A		6/4	7/4	2	8	13	1
美馬東支部C	0/0		0/0	0	0	0	3
鳴門支部A	1/0	6/3		1	3	7	2

E

	阿波支部C	徳大医OB	丹生谷支部	勝者数	勝者数	勝本数	順位
阿波支部C		5/2	5/2	2	4	10	1
徳大医OB	1/0		4/2	1	2	5	2
丹生谷支部	2/1	1/0		0	1	3	3

F

	海部支部C	美馬東支部B	小松島支部竹	勝者数	勝者数	勝本数	順位
海部支部C		2/1	8/5	1	6	10	2
美馬東支部B	7/3		6/2	2	5	13	1
小松島支部竹	1/0	3/1		0	1	4	3

G

	養武館	美馬西支部B	海部支部A	勝者数	勝者数	勝本数	順位
養武館		7/4	3/1	2	5	10	1
美馬西支部B	0/0		1/0	0	0	1	3
海部支部A	2/1	10/5		1	6	12	2

H

	名西支部	小松島支部松	徳島錬心館	勝者数	勝者数	勝本数	順位
名西支部		7/3	7/4	2	7	14	1
小松島支部松	2/0		5/3	1	3	7	2
徳島錬心館	1/0	3/1		0	1	4	3

I

	板野東支部A	岫雲館	海部支部B	勝者数	勝者数	勝本数	順位
板野東支部A		8/4	5/2	2	6	13	1
岫雲館	3/1		5/3	1	4	8	2
海部支部B	3/1	1/1		0	2	4	3

J

	木頭錬心館	板野西支部B	美馬東支部A	勝者数	勝者数	勝本数	順位
木頭錬心館		8/4	6/3	2	7	14	1
板野西支部B	0/0		4/1	0	1	4	3
美馬東支部A	4/2	7/3		1	5	11	2

K

	鳴門支部B	徳島支部B	阿南支部C	勝者数	勝者数	勝本数	順位
鳴門支部B		6/4	6/2	2	6	12	1
徳島支部B	0/0		0/0	0	0	0	3
阿南支部C	3/0	5/3		1	3	8	2

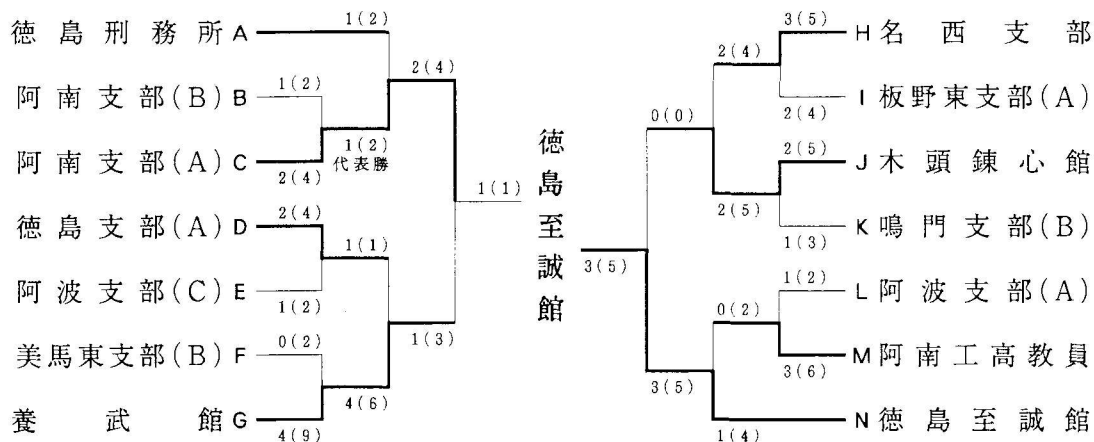
L

	阿波支部A	美馬西支部A	阿南支部大野	勝者数	勝者数	勝本数	順位
阿波支部A		8/4	4/2	2	6	12	1
美馬西支部A	2/0		6/3	1	3	8	2
阿南支部大野	1/0	4/2		0	2	5	3

M

	徳島支部C	板野西支部A	阿南工高教員	勝者数	勝者数	勝本数	順位
徳島支部C		1/0	0/0	0	0	1	3
板野西支部A	2/1		0/0	1	1	2	2
阿南工高教員	5/4	8/4		2	8	13	1

〈決勝トーナメント表〉



準決勝戦

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
阿南支部 (A)	磯部	白木	上田	芝原	北條	4 — 2
	X	一本勝	X	コメ	コメ	
養武館	X		X	メメ		3 — 1
	山田	熊沢	福多	米倉	谷崎	

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
木頭錬心館	喜多	山下	小川	岡田	松本	0 — 0
			X		X	
徳島至誠館	ココ	一本勝	X	コメ	X	5 — 3
	玉田	中山	村井	河田	木下	

決勝戦

優勝 徳島至誠館

準優勝 阿南支部(A)

養武館

第3位

木頭錬心館

	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	得点
阿南支部 (A)	磯部	白木	上田	芝原	北條	1 — 1
		一本勝	X			
徳島至誠館	一本勝		X	メコ	ココ	5 — 3
	玉田	中山	村井	河田	木下	

< 少年の部準決勝戦 >

	先鋒	次員	中堅	副将	大将	得点	代表		先鋒	次員	中堅	副将	大将	得点
徳島至誠館	鎌田憲	村井	繁田	玉田	岸	0/0	繁田反	竜虎館	福永	西村	岸	岩沙	新田	4/3
	X	X	X	X	X					一本勝	X	一本勝	X	メコ
入田錬成会	X	X	X	X	X	0/0	▲▲坂東	藍住剣道スポーツ少年団	川村	浜岡	國友	西	山田	0/0
	井口	清水	近藤	佐藤	坂東									

< 中学男子の部準決勝戦 >

	先鋒	次員	中堅	副将	大将	得点		先鋒	次員	中堅	副将	大将	得点	
阿南第二中学校	大石洋	山田	井出	横田	大石真	2/1		坂野中学校	佐川	木田	高瀬	梅田	西崎	2/1
	コメ	X	X	X	X					X		メメ	X	X
徳島文理中学校	X	X	X	X	X	0/0		相生中学校	福川	川口	西本	高右	谷澤	1/1
	中村	川口	西本	高右	谷澤					一本勝				

< 中学女子の部準決勝戦 >

	先鋒	次員	中堅	副将	大将	得点	代表		先鋒	次員	中堅	副将	大将	得点
阿南第一中学校	佐竹	岡本	茂村	村井	住友	0/0	住友	木頭中学校	後藤	北岡	岡内	岡脇	昇	5/4
	X	X	X	X	X					一本勝		一本勝	メメ	一本勝
相生中学校	X	X	X	X	X	0/0	メ東根	入田中学校	ドメ	石井	森	松浦	近藤	2/1
	谷澤	昇	井東	橋本	東根					大栗				

< 少年の部 >

決勝戦

優勝 竜 虎 館
 準優勝 徳 島 至 誠 館
 第 3 位 入 田 錬 成 会
 藍住剣道スポーツ少年団

	先鋒	次員	中堅	副将	大将	得点	代表 繁田 延長 メ 新田
徳島至誠館	鎌田 憲	村井	繁田	玉田	岸	0 — 0	
	×	×	×	×	×		
竜 虎 館	福永	西村	岸	岩沙	新田	0 — 0	

< 中学男子の部 >

決勝戦

優勝 阿南第二中学校
 準優勝 坂野中学校
 第 3 位 徳島文理中学校
 相生中学校

	先鋒	次員	中堅	副将	大将	得点
阿南第二 中学校	大石洋	山田	井出	横田	大石真	3 — 2
	コメ	メ 一本勝		×	×	
坂野中学校			メ メ	×	×	2 — 1
	佐川	本田	高瀬	梅田	西崎	

< 中学女子の部 >

決勝戦

優勝 相生中学校
 準優勝 木頭中学校
 第 3 位 阿南第一中学校
 入田中学校

	先鋒	次員	中堅	副将	大将	得点
相生中学校	谷澤	昇	井東	橋本	東根	2 — 2
	メ 一本勝	×	メ 一本勝	×	×	
木頭中学校				×	×	0 — 0
	後藤	北岡	岡内	岡脇	昇	

世界柔道選手権は本当に面白かった。女子48キロ級で日本人女性として初の四連覇を達成した「ヤワラちゃん」と田村亮子選手のスピード感あふれる技には思わず見とれてしまった。その一瞬の勝負に感動すら覚えた。

テレビを見ていて印象に残ったのは、試合に勝った外国人選手の喜びようだ。

「一本」をとるやいなや

場外に走り出て、監督や仲間と抱き合って大はしゃぎ。試合終了のおじぎをしようとして

場内でポツリと待つ敗者もどこへやら。

同じ武道の剣道をしていただけに、信じられない光景だった。あんなことをすれば「勝って奢（おご）らず」という武道の精神を尊ぶ師匠から大目玉を食らったに違いない。民族性の違いか、とらえ方の違いか。青色の柔道着といい、柔道も変わっていく…。



平成11年10月15日 夕刊



大将・近藤、副将・佐藤

県代表の7選手決まる

都道府県対抗剣道選手権
第四十七回全日本都道府
県対抗剣道優勝大会選手選
は十一日、県警察学校体
育館で大会の参加資格に基
づく7種別に計4人が参加
して県代表を争った。

その結果、元はつは猪尾
(阿蘇支部)、次はつ・高
我部(嵯峨大)、五将・竹
内(昭門一中教)、中堅・
白木(石井中教)、三将・
吉川(県警)、副将・佐藤
(原市)、大将・近藤(県
警)がそれぞれ制した。7
選手は全日本大会(5月3
日・大阪市中央体育館)に
選抜チームとして出場す
る。

△決勝	△先鋒	△三将	△副将	△大将
高我部	猪尾	吉川	佐藤	近藤
嵯峨大	阿蘇支部	石井中教	原市	県警
メロメ	メロメ	メロメ	メロメ	メロメ



大将の部決勝 木原(嵯峨大教)から
2本目のメンを奪い優勝した近藤(県
警委)＝県警察学校体育館

県警・近藤選手(六将
の部で、3年ぶりに優勝
し)＝決勝
の相手・木
原選手(嵯
峨大教)は
2年前の決
勝で対決し
名けた相手
たないで、
自分の方か
ら攻めよと
思ったのが
良かった。全
国大会はベ
スト8を自
目指す。そ
のためにも
、毎週1度
の練習は必
ず、遠征も
頻りにや
りた



小、中学生が熱戦を繰り広げた丹生谷少年剣道大会―葛敷町B&G海洋センター体育館



瀬口さん(相生)らV

丹生谷少年剣道 5町村の140人競う

3年①元久龍人②西川義玄(以上龍虎館)③榎野千里(未頭錬心館)④内陽平(延野)⑤同4年①福永卓己(竜虎館)②松本和起(延野)③北岡佑貴(北川)④津原之(龍虎館)⑤同5年①新田裕②岩沙右樹(以上龍虎館)③栗本拓野(西郷)④後藤和也(未頭錬心館)⑤同6年①的場大和②株川巧(以上竹友館)③中田泰二(北川)④川口了登(延野)⑤同7年①福川

【相生】小学校①龍虎館(福永啓人、新田裕、岩沙右樹、庄本武司、福永晃久)②竹友館③延野少年剣道教室、北川小学校剣道クラブ④中学校①相生中学校A(菅根慶文、瀬口裕二、前田隆貴)②相生中学校B③鷺敷中学校A、平谷中学校A

第20回丹生谷少年剣道大会(丹生谷ライオンスクラブ主催) 21日、葛敷町B&G海洋センター体育館。那智郡丹生谷5町村から小学校7チーム、中学校1チームの計140人が出場。競技の結末、個人戦中学2年の部で、相生中の瀬口了登さんが優勝した。

【個人戦】小学2年以下①福永啓人②前田淳史(以上龍虎館)③株田淳(竹友)④中田泰二(北川)⑤川口了登(延野)⑥同1年①福川

◆第30回那智郡相生町少年剣道大会(14日、日野谷小学校体育館)

【団体戦】小学校部①龍虎館A(延野少年剣道教室)②龍虎館B(中学校の部)相生中B(相生)

個人戦(小学1年)①藤本稜②平山志(以上龍虎館)③井東愛(西郷少年剣道教室)④同2年①福永啓人②福川敏太③前川淳史④西川泰史(以上龍虎館)⑤同

3年①元久龍人②西川義玄(以上龍虎館)③榎野千里(未頭錬心館)④内陽平(延野)⑤同4年①福永卓己(竜虎館)②松本和起(延野)③北岡佑貴(北川)④津原之(龍虎館)⑤同5年①新田裕②岩沙右樹(以上龍虎館)③栗本拓野(西郷)④後藤和也(未頭錬心館)⑤同6年①的場大和②株川巧(以上竹友館)③中田泰二(北川)④川口了登(延野)⑤同7年①福川

2月23日 県南版

大野剣道大会

徳島至誠館(団体)が制覇

県内各地から豆剣士300人



熱戦を展開する大野剣道大会の出場者
|| 阿南市下大野町の太野小仏高館

第23回大野剣道大会(大野小学校剣道部主催)2月28日、大野小学校体育館。阿南市のほかに徳島、小松島両市や那賀郡など道内各地から18チーム、300人余りの豆剣士が出場。団体戦と浮仁別の個人戦で日ごろの練習の成果を出し合った。

【団体戦】徳島至誠館が優勝した。
【個人戦】1年①曾根健

貴②湯浅翔平(以上至誠館)③櫻木舞(坂野)大羽寛史(新野)▽2年①西上中里奈(練武館)②櫻木鉄巳(坂野)③永浦隆(阿武館)松本漢太郎(和島島)▽3年①西浦大地(大野)②久井僚(至誠館)③中野出貴(B&G)鎌山憲資(至誠館)▽4年①玉田起水館

県南版

四国道外旅行お砂ふみ修行道場

心をあらい 心をみがく
鯖大師本坊
 海部郡海南町浅川
 ☎(08847)3-0743

ニユースは支局へ

事件、事故、話題、写真提供のご連絡は下記支局へ

鳴門支局 088-686-2691
 松茂支局 088-699-3707

団体Vは鴨島教室

藤花杯少年剣道 準優勝に蔵本ク

第5回藤花杯少年剣道大会(石井町体協など主催)2月28日、石井中屋内運動場。

県内各地から25チーム271人が参加、日ごろ鍛えた技を競った。

【団体】①鴨島少年剣道教室②蔵本少年剣道クラブ③久武館、高浦少年剣道クラブA

【個人】小学1年①鈴木

智也②松下誠(以上清風館)▽2年①鎌田美紀②松下由治(以上清風館)③岡田大樹(右武館)▽3年①川人広平(岫雲館)②鈴木達也(清風館)③松浦一真(入田鍊成会)▽4年①塩田伯大②須見康生③片山将志(以上鴨島少年剣道教室)▽5年①新居見航(鴨島少年剣道教室)②岡田大資(清風館)③井口あすか

(入田鍊成会)▽6年①新居大②須見政弘③三木良平(以上鴨島少年剣道教室)

6チーム熱戦 和田島ク優勝

98年度小松島市送別剣道大会(県剣道連盟小松島支部など主催)7日、同市立武道館。6チーム・84人が日ごろ

鍛えた技を競った結果、団体では和田島少年剣道クラブが優勝した。

【団体】①和田島②小松島少年剣道クラブ③坂野少年剣道クラブ、直心館少年剣道クラブ

【個人】小学1年①櫻木舞(坂野)②高瀬雄一朗(新開剣道クラブ)③西山史織(小松島)河野友希(同)▽2年①櫻木鉄也(坂野)②小西衛③松本凜太郎、田村嘉崇(以上和田島)▽3年①壺石貴之②切中めぐみ③谷尚月、上田祥平(以上小松島)▽4年①近藤徹(小松島)②井上真

衣(立江少年剣道教室)③中津恭平(同)鶴岡由貴(和田島)▽5年①生長祐樹(坂野)②岩本達也(和田島)③村瀬聡美(坂野)鶴岡洋志(和田島)▽6年①播磨良幸(小松島)②中川一美(同)③本田章訓(和田島)小西航(同)

3月16日 県南版

富岡西、決勝下に進出

女子・富岡東も貫録の連破



剣道

各16チーム)進出を決めた。男子・富岡西は関東の茨城県・水戸第一(茨城)と地元・富岡西(茨城)とを破る活躍ぶりとなった。女子・富岡東は全日本大会準決勝の貫録をみせ、決勝の富岡西(茨城)を破り、決勝下に進出した。男子・富岡西は、準決勝で水戸第一(茨城)を破り、決勝に進出した。女子・富岡東は、準決勝で富岡西(茨城)を破り、決勝に進出した。

優勝候補を下し勢い西

準決勝初戦で男女ともに優勝候補を破る活躍ぶりを見せた。男子・富岡西は、準決勝で水戸第一(茨城)を破り、決勝に進出した。女子・富岡東は、準決勝で富岡西(茨城)を破り、決勝に進出した。

3月28日 スポーツ

厚

乗

高

夜

富岡西と東 初戦敗退

男女 決勝下

第八回全国選抜剣道大会(茨城)が、茨城県水戸市総合体育館で男子・女子ともに決勝下に進出した。男子・富岡西は、準決勝で水戸第一(茨城)を破り、決勝に進出した。女子・富岡東は、準決勝で富岡西(茨城)を破り、決勝に進出した。

3月29日 スポーツ

◆第4回徳島市スポーツ少年団剣道交流大会(2月21日、作良&G 海洋センター)

【個人の部】小学1、2年①

森出大介(入田錬成会)②鈴木哲也(清風館)③吉高貴起(上八万剣道倶楽部) 庄地康太(養武館)▽小学3年①松浦一真(入田錬成会)②高松慶知郎(応神少年剣道)③堀田夏紀(蔵本少年剣道クラブ) 鈴木紀博(加茂名少年剣道教室)▽小学4年①安田明博(養武館)②長谷川輝(津田剣道教室)③平田善美(蔵本少年剣道クラブ)④佐藤和樹(応神少年剣道)▽小学5、6年男子①藤江隆昌(上八万剣道倶楽部)②坂東潤(入田錬成会)③武内秀晃(上八万剣道倶楽部) 増田雄太(同)▽

同女子①森田伊(入田錬成会)②井口あすか(同)③石井由美(同)④清水桃代(同)▽中学生男子①板東悟(入田錬成会)②近藤真也(同)③鮎合穂記(津田剣道教室) 井口照太(入田錬成会)▽同女子①加友由佳(上八万剣道倶楽部)②長田亜希美(同)③大栗幸恵子(入田錬成会) 西内千鶴(応神少年剣道)▽同小の部①上八万剣道倶楽部B②入田錬成会B③蔵本少年剣道クラブA

3月30日 県南版

徳島県善戦 ベスト8に 団体

少年団剣道交流大会

第二十一回スポーツ少年団剣道交流大会は二十六日から三日間、兵庫県赤穂市民総合体育館に、各都道府県を代表した小学生の団体48チームと中学生の個人男女各48人が参加して熱戦を繰り広げた。

徳島県勢は市休(玉田起夫、中本雅美、玉田康朗、新居兄綾、大行洋史)で、全国強豪相手に善戦し、準々決勝で鹿児島と対戦。勝者数が2対2となったが、

奪本数差で惜しくも四強入りを逃した。中学個人戦は女子・瀬口裕子(延野少年教室)がベスト16。男子・原祐輔(那賀川少年ク)は予選リーグで敗れた。

【小学(団体)予選リーグJ組】徳島5-0宮城、徳島3-2大分、大分3-0宮城、順位①徳島2勝②大分1勝1敗③宮城2敗1勝④徳島は決勝トーナメントへ

▽決勝トーナメント1回戦 徳島 2-1 岡山 山 鹿児島 2-2 徳島

▽準々決勝 鹿児島 2-2 徳島 (本数勝ち) 【中学個人男子】予選リーグG組①原祐輔(那賀川少年ク)2敗

▽決勝トーナメント1回戦 池田 1-0 瀬口

3月31日 スポーツ

中尾(県警)ら県代表に

女子 四国予選へ3人決定

【中尾(県警)、次はう・吉田茂(平野)、中堅・平野誠(平野)、佐野メ(平野)、司(平野)、副将・松村和(平野)、大將・中尾平(平野)、中尾(平野)が優勝し、代表権を獲得した。

【男子】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【女子】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【男子】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【中尾(県警)】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【女子】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【男子】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【中尾(県警)】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【女子】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【男子】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

4月26日(月) スポーツ

男子次はうの部決勝 延長の末、メンを奪い富田を下した吉田(金一)が筑波学校体育館



【中尾(県警)】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【女子】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

【男子】先ほどの部決勝は先ほつ・坪井さくら(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、中堅・平野悦(筑波大)、大將・森本(筑波大)が優勝し、代表権を獲得した。

富岡東の8連覇濃厚 剣道女子

剣道女子団体で8連覇を狙う富岡東。同校剣道場



剣道

(5月7日・城西高)
男子団体は層の厚い富岡西が抜き入っている。小柳、藤川、多川の三年生トリーに迫力があり、春の全国選抜大会でも決勝トーナメントまで勝ち残った。富岡西に接近しているのは川島。大将の隅田まで回せば面白い。

5月20日(木) スポーツ

もう一つのライバル阿南工はポイントゲッター瀬口の出来がきを握りそう。富岡東、徳島東工がこれに続く。個人戦はこれから

中川(城西ノ内)、さらに二年生の藤崎、松本(以上富岡西)を加えての争いか。女子は、八連覇を狙う富岡東が今年も安定している。伊藤、栗本の二本柱を軸に穴がなく、実力は全国級。そして、これを追うのが力の差はあるが二年生主体の川島と富岡西。川島は富岡東に現在4連敗中だが近藤、下久保、阿部らは力があふ。富岡西は上段の菅野、阿部ら三年生3人がチームを引っ張り、2位争いはし烈。個人戦も富岡東勢中心の展開となりそう。なかでも長身の伊藤は、全国どこでも大将とも互角の勝負ができる実力派。足さばきの良い栗本、矢野、小林らがどこまで苦しめるか。

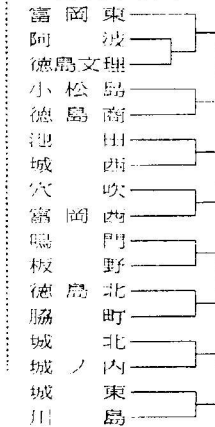
剣道

【男子団体】



決勝リーグ

【女子団体】



決勝リーグ

県選抜2位

四国四員剣道

第五十一回四国四員剣道大会は二十三日、高知市立介良瀬見台小学校体育館で行い、徳島県選抜は2位に入った。優勝は高知県で、二年連続十度目。

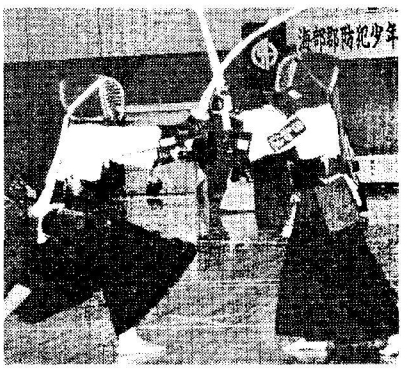
▽リーグ戦 香川5―2愛媛、高知4―3徳島、徳島7―2香川、高知4―3愛媛、愛媛4―3徳島、高知7―4香川
 ▼順位①高知③勝②徳島(酒巻、山田、菅我部、前田、吉田、片山、福多、近藤、河田、西谷、中尾、長久保、川田) 1勝2敗③香川1勝2敗④愛媛1勝2敗②24位は勝者数による。

5月24日(月) スポーツ

(29) 地方B

第3種郵便物認可

海部川A団体戦制す 由岐大会



熱戦を繰り広げるチビっ子豆剣士 由岐町内のB&G海洋センター体育館

◆海部郡防犯少年剣道練習 成由岐大会(5月30日・由岐町B&G海洋センター体育館)
 【団体】①海部川剣道教室(由岐)②中川綾那(海部川)③辺見純太(由岐)④4年生①高田嗣久(海部川)②豊田優紀(日和佐)③中岡祥寛(日和佐)④5年生①西澤英吾(牟岐)②美馬志太(牟岐)③福田正太(海部川)④6年生①丸岡佑丈朗(海部川)②森口温(海部川)③白岐中直也(由岐)

◆第9回北島ライオンズクラブ少年剣道大会(5月30日・北島中体育館)
 板野部内と徳島市川太、応神両町の中学生100人と同地区の道場・剣道教室に通う小学生90人が参加。学校や教室別の団体戦と個人戦で技を競った。
 【団体戦・小学生】①藍住(藍住)②西村幸司(藍住)③谷口昌郷(北島)④5年生①木内康寛(北島)②森本龍毅(吉野)③井上さゆり(応神)④高松真実子(応神)⑤6年生①浜岡大貴(藍住)②西太一(藍住)③中山耕兵(北島)④佐古賢太(誠武館)
 【個人戦・中学生】男子①加藤優次(藍住)②木田崇史(北島)③遊塚啓太(藍住)④佐古野紀(北島)⑤女子①福田まより(藍住)②佐藤真弓(藍住)③山田浩子(北島)④池袋一葉(北島)

6月1日(火) 県南版

剣道

◆第12回市場警察管第1防犯剣道錬成会(5月28日・阿波町林小学校体育館)

市場管内の小学5、6年生20人が参加。予選は5人ずつ4ブロックに分かれてリーグ戦を行い、上位2人ずつが決勝トーナメントで戦った結果、阿波剣道教室の大野敬太君が優勝した。上位4人が県大会に出場する。

①大野敬太(阿波剣道教室) ②湯浅真浩(市場剣道教室) ③二本吉博(阿波剣道教室) ④近藤雅俊(同) ⑤近藤伴那子(同) ⑥三木翔太(市場剣道教室)

6月2日(水) 県南版

大会に先立って主催の防犯協会阿波連合会から98年度少年健全育成功労者として藤井利一、藤川広美、森友邦明、出口正春の4氏に感謝状が贈られた。

剣道

【男子団体】予選トーナメント
1回戦
徳北3-1白高 阿波4-0松高
脇野2-1高導 城上2-0池田
城内5-0徳工 新野3-2鳴工
那賀3-1城南 鳴門5-0貞工
▽2回戦
富西5-0徳北 川島1-0鳴門
阿波2(代表勝ち)-2市立
東上2-1脇野 富東3-1城北
城内3-1阿一 新野2-1文理
那賀4-1城西山
【女子団体】予選トーナメント
1回戦
阿波2-1文理
▽2回戦
富東4-0阿波
松高2(代表勝ち)-2徳南
城西2-1池田 富西5-0穴吹
鳴門5-0板野
徳北2(代表勝ち)-2脇野
城内2-1城北 川島5-0城東

6月6日(日) スポーツ

剣道

【男子団体】予選トーナメント
3回戦
富西5-0阿波 富東2-1東上
城内2-0新野 川島4-0那賀
【女子団体】予選トーナメント
3回戦
富東5-0松高
富西1(本数勝ち)-1城西
鳴門4-1徳北 川島4-1城内
【男子個人】複式決勝
脇野 多
川島 村
藤川 森
多 阿一
城西 阿一
富西 阿一
富東 阿一
伊藤 美馬
藤 阿一
常東 阿一
小林 阿一
下久保 阿一
栗本 阿一
川島 阿一

6月7日(月) スポーツ

富岡東 8年連続V 女子団体

第39回 県高校総体

第4日

男子は富岡西に栄冠

第1回県高校総体柔術大会富岡日体館内各団体戦が、1日、2日、3日の3日連続で決まり、制覇男子は富岡西が、女子は富岡東が、それぞれ5年連続で、バシバシと栄冠を手にした。

男子は、2日(土)に富岡日体館内各団体戦が行われ、富岡西が、富岡東を破り、男子は富岡西が、女子は富岡東が、それぞれ5年連続で、バシバシと栄冠を手にした。

剣道
 富岡東が、富岡西を破り、男子は富岡西が、女子は富岡東が、それぞれ5年連続で、バシバシと栄冠を手にした。



制覇女子 8連覇の立役者となった富岡東の選手(右)富岡日体館



制覇男子団体 興敵に攻める富岡西の多用(右)城山日体館

全国へ向けさらに精進

富岡東

富岡東の選手は、全国大会に向けて、さらなる精進を期している。選手たちは、日々の練習で、技術と精神力を鍛錬し、全国大会での活躍を目指している。

輝く優勝校

- 男子 富岡東
- 女子 富岡東
- 男子 富岡西
- 女子 富岡東
- 男子 富岡東
- 女子 富岡東
- 男子 富岡東
- 女子 富岡東
- 男子 富岡東
- 女子 富岡東

男子 平谷、女子 相生がV

県中学剣道選手権

第二十八回県中学校剣道選手権は十三日、鳴門武道館で男子57校、女子41校が参加して団体戦を行い、男子は平谷が初優勝を果たし、女子は相生が二年ぶり三度目の栄冠を獲得した。

<p>【男子】1回戦 新野3-0美馬、北島3-1脇町、阿南1-0山城、文理2-0板野、津田1-0川島、海南2-1藍住、市場4-0池田、江原3-0城西、日和4-1城東、阿南2-3-0八尾、田岐4-0鳴門、加茂谷4</p>	<p>1三好、川内1-0三加茂、高浜3-1加茂谷、高野4-1勝浦、坂野3-1穴吹、石井5-0国府、小松島5-0上板、山田2(代表勝ち)2北井上、応神2(本数勝ち)2池田一、鴨島4-1牟岐、入田5-0高浦、付属3-2木頭、真光3-1南部、徳島3-2藍住東2回戦 平谷0(代表勝ち)0新野、北島3-1阿南、津田2-1文理、藤敷4-0海南、市場4-0江原、阿南1-0池田、相生4-0川内、阿南1-3-1高浜、坂野3-1吉野、石井2(本数勝ち)2小松</p>	<p>島、那賀川3-0山川、羽浦3-0応神、入田1(本数勝ち)1鴨島、真光3-2付属、阿波4-0徳島3回戦 平谷5-0北島、藤敷3-1津田、市場3-1阿南、相生3-1加茂谷、阿南1-3-2坂野、那賀川3-0石井、入田2-1羽浦、阿波4-0真光、進々決勝 平谷3-1藤敷、相生2(本数勝ち)2市場、那賀川2-1阿南一、阿波2(本数勝ち)2入田</p>	<p>○の場メニュー 折坂島 引き分け 湯浅 久保 引き分け 原</p>	<p>戸▽3回戦 那賀川5-0川内、北島1(代表勝ち)1城東、市場3-1藍住東、池田2-1鳴門一、相生5-0石井、阿波1-0真光、木頭4-0鴨島一、阿南1-0山城▽準々決勝 那賀川3-0北島、市場3-1池田一、相生3-0阿波、阿南2-0木頭</p>
<p>【女子】1回戦 新野3-0美馬、北島3-1脇町、阿南1-0山城、文理2-0板野、津田1-0川島、海南2-1藍住、市場4-0池田、江原3-0城西、日和4-1城東、阿南2-3-0八尾、田岐4-0鳴門、加茂谷4</p>	<p>1三好、川内1-0三加茂、高浜3-1加茂谷、高野4-1勝浦、坂野3-1穴吹、石井5-0国府、小松島5-0上板、山田2(代表勝ち)2北井上、応神2(本数勝ち)2池田一、鴨島4-1牟岐、入田5-0高浦、付属3-2木頭、真光3-1南部、徳島3-2藍住東2回戦 平谷0(代表勝ち)0新野、北島3-1阿南、津田2-1文理、藤敷4-0海南、市場4-0江原、阿南1-0池田、相生4-0川内、阿南1-3-1高浜、坂野3-1吉野、石井2(本数勝ち)2小松</p>	<p>島、那賀川3-0山川、羽浦3-0応神、入田1(本数勝ち)1鴨島、真光3-2付属、阿波4-0徳島3回戦 平谷5-0北島、藤敷3-1津田、市場3-1阿南、相生3-1加茂谷、阿南1-3-2坂野、那賀川3-0石井、入田2-1羽浦、阿波4-0真光、進々決勝 平谷3-1藤敷、相生2(本数勝ち)2市場、那賀川2-1阿南一、阿波2(本数勝ち)2入田</p>	<p>○の場メニュー 折坂島 引き分け 湯浅 久保 引き分け 原</p>	<p>戸▽3回戦 那賀川5-0川内、北島1(代表勝ち)1城東、市場3-1藍住東、池田2-1鳴門一、相生5-0石井、阿波1-0真光、木頭4-0鴨島一、阿南1-0山城▽準々決勝 那賀川3-0北島、市場3-1池田一、相生3-0阿波、阿南2-0木頭</p>
<p>【男子】1回戦 新野3-0美馬、北島3-1脇町、阿南1-0山城、文理2-0板野、津田1-0川島、海南2-1藍住、市場4-0池田、江原3-0城西、日和4-1城東、阿南2-3-0八尾、田岐4-0鳴門、加茂谷4</p>	<p>1三好、川内1-0三加茂、高浜3-1加茂谷、高野4-1勝浦、坂野3-1穴吹、石井5-0国府、小松島5-0上板、山田2(代表勝ち)2北井上、応神2(本数勝ち)2池田一、鴨島4-1牟岐、入田5-0高浦、付属3-2木頭、真光3-1南部、徳島3-2藍住東2回戦 平谷0(代表勝ち)0新野、北島3-1阿南、津田2-1文理、藤敷4-0海南、市場4-0江原、阿南1-0池田、相生4-0川内、阿南1-3-1高浜、坂野3-1吉野、石井2(本数勝ち)2小松</p>	<p>島、那賀川3-0山川、羽浦3-0応神、入田1(本数勝ち)1鴨島、真光3-2付属、阿波4-0徳島3回戦 平谷5-0北島、藤敷3-1津田、市場3-1阿南、相生3-1加茂谷、阿南1-3-2坂野、那賀川3-0石井、入田2-1羽浦、阿波4-0真光、進々決勝 平谷3-1藤敷、相生2(本数勝ち)2市場、那賀川2-1阿南一、阿波2(本数勝ち)2入田</p>	<p>○の場メニュー 折坂島 引き分け 湯浅 久保 引き分け 原</p>	<p>戸▽3回戦 那賀川5-0川内、北島1(代表勝ち)1城東、市場3-1藍住東、池田2-1鳴門一、相生5-0石井、阿波1-0真光、木頭4-0鴨島一、阿南1-0山城▽準々決勝 那賀川3-0北島、市場3-1池田一、相生3-0阿波、阿南2-0木頭</p>

6月15日(火) スポーツ

あわ-スポーツ

剣道

小学生剣士、練習成果競う

小松島少剣
記念大会

◆小松島少剣クラブ創立
25周年記念剣道大会(6日)

・小松島市立武道館
県内の小学生300人が
参加し、日ごろの鍛錬の成
果を競った。

【団体】①徳島全誠館②
阿南少年剣道教室③新野少
年剣道教室④錬武館少年剣
道教室

【個人】1・2年①湯浅
翔平(全誠館)②櫻木舞
(坂野)③大羽寛史(新
野)④表原寛人(全誠館)
▽3年①櫻木鉄也(坂野)
②賀上由里奈(錬武館)③
細井俊彦(上八万)④小西
衛(和田島)▽4年①西浦

大地(大野)②鎌田憲資
(全誠館)③久津間勲(羽
ノ浦)④中野由貴(那賀川
B&G)▽5年①泰地健人
(阿南)②西澤英吾(牟
岐)③河田紋(全誠館)④
長谷直輝(津出)▽6年①
生原祐樹(坂野)②櫻木愛
(坂野)③狭子通(那賀川
B&G)④大久佐直記(羽
ノ浦)

◆第6回板野防犯少年剣
道大会(5月23日・藍住町
武道館)
【小学生の部】①浜岡大
貴(藍住東小6年)②西太
西田昌彦
【個人】中学3年生の部
①久保美奈②的場健祐(以

上笠谷)③野々宮史朗(藍
敷)▽同1・2年生の部①
福川智也(相生)②折取浩
太(平谷)③谷澤健太郎
(相生)▽以上3選手は県
大会出場▽小学5・6年生
の部①岩沙祐樹②新田裕
福永竜二(以上高虎館)④
松本和起(延野少年剣道教

室)以上4選手は県大会
出場▽同3・4年生の部①
西田義玄(高虎館)②久保
俊樹(上那賀竹友館)③元
木龍太(竜虎館)▽同1・
2年生の部①藤本稜(竜虎
館)②福田美佐子(延野少
年剣道教室)③井東愛実
(西納少年剣道教室)



好試合に沸いた小松島少剣
クラブ創立25周年記念大会
＝小松島市立武道館

6月16日

吉田(警察支部)が連覇

全日本剣道男子予選

全日本剣道男子予選の出場選手名簿(一部)

地区	選手名	所属
北海道	山本 隆	札幌南
東北	佐藤 健	仙台
関東	田中 浩	東京
中部	鈴木 誠	名古屋
関西	高橋 誠	大阪
中国	山田 隆	岡山
四国	佐藤 健	高松
九州	田中 浩	福岡
警察支部	吉田 隆	警視庁

女子は伊藤(富岡)初優勝

全日本剣道女子予選の出場選手名簿(一部)

地区	選手名	所属
北海道	山本 隆	札幌南
東北	佐藤 健	仙台
関東	田中 浩	東京
中部	鈴木 誠	名古屋
関西	高橋 誠	大阪
中国	山田 隆	岡山
四国	佐藤 健	高松
九州	田中 浩	福岡
警察支部	吉田 隆	警視庁



伊藤(富岡)が優勝

坪井(筑波大)決勝で惜敗

男子・日和田はベスト16

全日本剣道男子予選の出場選手名簿(一部)

地区	選手名	所属
北海道	山本 隆	札幌南
東北	佐藤 健	仙台
関東	田中 浩	東京
中部	鈴木 誠	名古屋
関西	高橋 誠	大阪
中国	山田 隆	岡山
四国	佐藤 健	高松
九州	田中 浩	福岡
警察支部	吉田 隆	警視庁



坪井選手



日和田選手



伊藤選手

全日本剣道男子予選の出場選手名簿(一部)

地区	選手名	所属
北海道	山本 隆	札幌南
東北	佐藤 健	仙台
関東	田中 浩	東京
中部	鈴木 誠	名古屋
関西	高橋 誠	大阪
中国	山田 隆	岡山
四国	佐藤 健	高松
九州	田中 浩	福岡
警察支部	吉田 隆	警視庁

剣道

◆小松島署管内防犯少年
 剣道大会(26日・小松島市
 立武道館)
 【小学生の部】3回戦
 石井孝二(小松島)2-1
 櫻木愛(坂野)、岩本達也
 (和田島)1-0 村瀬聡美
 (坂野)、生長祐樹(坂
 野)2-0 森島大樹(勝
 浦)、切中真志(小松島)
 2-0 櫻木雄一郎(坂野)
 ▼準決勝 石井孝二2-0
 岩本達也、生長祐樹1-0
 切中真志▼決勝 生長祐樹
 2-0 石井孝二

【中学生の部】2回戦
 佐伯隆仁(小松島)2-0
 高瀬広詩(坂野)、柳澤康
 宏(小松島)1-0 梅田達
 也(坂野)、本田章訓(坂
 野)1-0 佐川洋介(坂
 野)、西崎雅弘(坂野)2
 -0 播磨良幸(小松島)▼
 準決勝 佐伯隆仁2-0 柳
 澤康宏、西崎雅弘2-0 本
 田章訓▼決勝 西崎雅弘2
 -0 佐伯隆仁

6月29日 あわスポーツ

(19) 地方 B

第3号

100人が練習成果競う 鳴門少年
 剣道大会

剣道

◆鳴門市戦没者追悼少年
 剣道大会(6月12日・光武
 館剣道場)
 鳴門市内の小・中学生約
 100人が参加。日ごろの
 練習の成果を競った。
 【小学1・2年生】優勝
 宮浦昌平(光武館)▼準
 優勝 白髪晃佳(運動公
 園)▼3位 樽井秀昇(光
 武館)小倉大典(同)【同
 3・4年生】優勝 山本敬
 太(光武館)▼準優勝 平
 野千尋(同)▼3位 藤本
 健登(同) 糺健太(運動公
 園)【同5・6年生】優勝
 林勇作(光武館)▼準優勝
 米澤弘朗(同)▼3位 米
 田正人(同) 山本義征
 (同)【中学女子】優勝

バドミントン

◆第28回県西部バドミン
 トン大会(6月27日・穴吹
 高校体育館)
 寺西由佳(鳴門)▼準優
 勝 西川実希(同)▼3位
 勝 佐藤友子(同) 笠井友加
 (同)【同男子】優勝 山
 本義裕(鳴門)▼準優勝
 川口雄大(大麻)▼3位
 福島孝典(鳴門) 柴田大
 翔(光武館)
 男子
 藤本芳
 一岡田
 森茂行
 1-0 出
 同決勝
 ダブル
 ・橋本
 1-2
 之(十
 安井賢
 1-1 森
 フアミ
 島・安
 ▼女子

あわ-スポーツ

半田町教室がV団体

美馬西部
防犯大会 小中学生 64人競つ

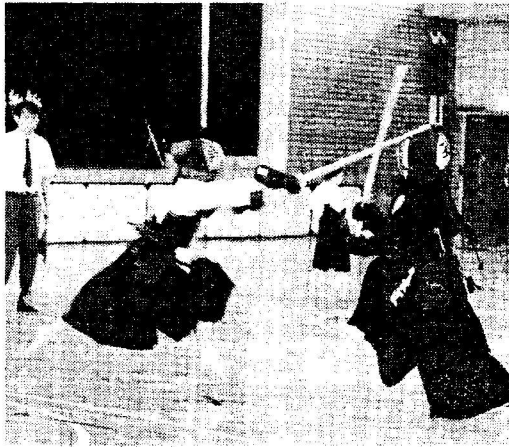
剣道

◆第14回美馬西部防犯少年剣道大会(4日・貞光中学校体育館)

貞光、半田、美馬、一宇の4町村から小・中学生64人が出場、日ごろの練習の成果を競った。個人戦・中学3年生の部では、塩田雅人君(貞光)が優勝した。

【団体戦】①半田町剣道教室B(西岡明修、石井英樹、松本祐和、片岡里恵、岡田和貴)②美馬町剣道教

育館
熱戦を展開する美馬西部防犯少年剣道大会↑貞光



室B③美馬町剣道教室A④半田町剣道教室A

【個人戦】小学校中学生の部①河井(馬)②藤田雄也(美馬)③藤本あや(美馬)▽小学校高学年の部①廣澤直斗(一宇)②西岡明修(半田)③石井英樹(半田)▽中学校1・2年の部①小出高也(半田)②近藤繁央(美馬)③藤澤倫子(美馬)▽中学校3年の部①麻田雅人(貞光)②掛田紗世(貞光)③山口雄大(半田)



練習の成果を競つた麻植郡内防犯少年剣道大会↑山川武道館

◆麻植郡内防犯少年剣道大会(6月26日・山川武道館)

【団体】①鴨島少年剣道

鴨島少年剣道教室▽中学①新居人②三木良平(以上鴨島)③吉田真二(山川)④須見政弘(鴨島)

糸田川
CONTACT
鴨島駅前
☎(0883)24-2531

教室②山川スポーツ少年団
修練館③川島少年剣道教室
【個人】小学①西岡敬太②
新居晃航③片山将志(以上

高校優秀36人発表

県剣道連盟

県剣道連盟は二十八日、99年度の県高校優秀選手36人(男子23人、女子13人)を発表した。

優秀選手は次の通り。

【男子】小柏祐三、藤川卓也、多川大智、田村修平、喜多将記(以上富岡西)大前智仁、山井敏仁、佐竹孝文(以上富岡東)隅田憲男、岡一貴、佐藤太、久保拓司(以上上川島)中川達彦、富永誠二、森充正(以上城ノ内)瀬口智、吉岡大介、久川誠弘、倉橋孝輔(以上阿南工)坂東和成(以上鳴門)大西允、富森義治、西木聖造(以上徳島東工)

【女子】伊藤奈津子、栗木美香、沖津佐智恵(以上富岡東)阿部純子、菅野智恵、森崎知(富岡西)藤本和香、近藤多恵(以上上川島)寺西真理子、喜田有紀(以上鳴門)古佐小春香、島尾恵理子、湯峯美由紀(以上池田)

6月30日 スポーツ

(19) 地方 B

第3報

100人が練習成果競う

鳴門少年
剣道大会



◆鳴門市戦没者追悼少年
剣道大会(6月12日・光武
館剣道場)

鳴門市内の小・中学生約
100人が参加。日ごろの
練習の成果を競った。
【小学1・2年生】優勝
宮浦昌平(光武館)▽準

優勝 白髪晃佳(運動公
園)▽3位 樽井秀昇(光
武館)小倉大典(同)【同
3・4年生】優勝 山本敬
太(光武館)▽準優勝 平
野千尋(同)▽3位 藤本
健登(同)椛健太(運動公
園)【同5・6年生】優勝
林勇作(光武館)▽準優勝
米澤弘朗(同)▽3位 米
田正人(同)山本義征
(同)【中学女子】優勝

寺西由佳(鳴門一)▽準優
勝 西川実希(同)▽3位
佐藤友子(同)笠井友加
(同)【同男子】優勝 山
本義裕(鳴門一)▽準優勝
川口雄大(大麻)▽3位
福島孝典(鳴門一)柴田大
翔(光武館)

7月6日 あわスポーツ

◆剣道
男子団体は告知、愛媛の代表に強豪校をぞい、市場、那賀川は予選リーグ突破が第一目標だ。市場は田中孝を中心、元気のいいチーム。那賀川は原をはじめ、各選手に豪快さがある。両校とも大得意な持ち込みは勝機はある。個人はバランスのいい林(阿波)や原(那賀川)のベスト4入りに期待。
女子団体は那賀川が各選手ともに個人技が高く、頭一つ抜けた存在。阿南は

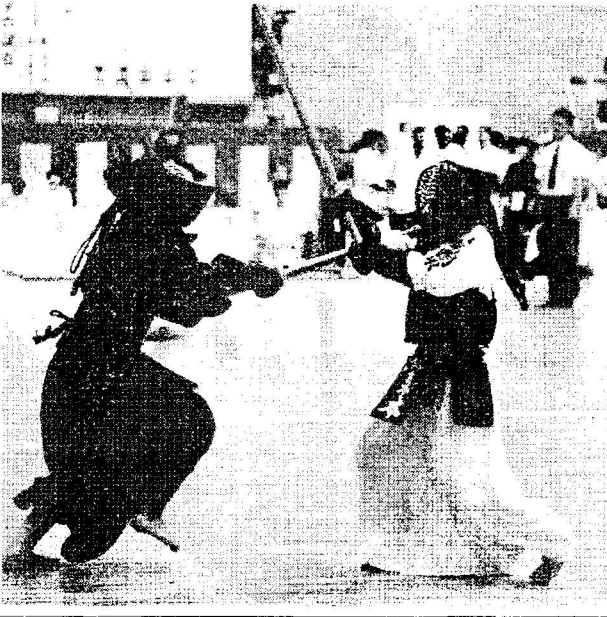
8月3日(火) スポーツ

富岡西、予選で涙
男子団体

◆剣道

男子団体は予選リーグ突破が第一目標だ。市場は田中孝を中心、元気のいいチーム。那賀川は原をはじめ、各選手に豪快さがある。両校とも大得意な持ち込みは勝機はある。個人はバランスのいい林(阿波)や原(那賀川)のベスト4入りに期待。
女子団体は那賀川が各選手ともに個人技が高く、頭一つ抜けた存在。阿南は

富岡西、栗本美香選手(女子個人で2回戦で敗れ)納荷のいく剣道はできず、あっさり負けてしまった。(中略として出場する)団体の決勝トーナメントは自分の力を出して勝ち、後者にならないうい



1回戦、木村(左、宮崎・山笠学園)に攻め勝った栗本(富岡西) 富岡西が、左よりの

予選リーグで戦った富岡西は、富岡西も苦戦を覚悟して、予選リーグ突破が第一目標だ。市場は田中孝を中心、元気のいいチーム。那賀川は原をはじめ、各選手に豪快さがある。両校とも大得意な持ち込みは勝機はある。個人はバランスのいい林(阿波)や原(那賀川)のベスト4入りに期待。
女子団体は那賀川が各選手ともに個人技が高く、頭一つ抜けた存在。阿南は

8月4日(水) スポーツ

全国家庭婦人剣道

徳島が3位入賞果たす

第十六回全国家庭婦人剣道大会は三日、日本武道館で都道府県代表47チームが出場して行われ、徳島は準決勝まで勝ちあがって3位入賞を果たした。今回はじめて予選リーグを突破した徳島は、決勝トナメント1回戦で栃木に3-2と粘り勝ち。続く準決勝では昨年度の名門を3-2と破って準決勝に進んだ。準決勝では茨城に0-4と敗れてしまったが、全員が最後まで力強い剣道を展開した。

▽予選リーグ 徳島2-1奈良、徳島2-1島根、2勝で決勝トナメントへ

▽決勝トナメント1回戦
 徳島 3-2 栃木
 ○山田 コー 藤高木
 ○岩本 メ 茂原
 ○平野 メコ 高津戸
 ○後藤 コ 大杉
 ○森本 コ 金田

▽同準決勝
 徳島 3-2 愛知
 ○山田 コ 秋田
 ○岩本 メ 中野
 ○平野 メ 青野
 ○後藤 コ 上野
 ○森本 メ 村上

▽同準決勝
 茨城 4-0 徳島
 ○鍋山 メメ 山田
 ○大石 メ 岩本
 ○金井 コ 平野
 ○砂押 コ 後藤
 ○後藤 コ 森本

徳島・手塚十三子監督（出場16回目にして、初の3位入賞）「これも選手たちの日ごろの練習のたまもの。各支部でのけいこ、県剣道連盟主催の強化練習のおかげだと思う。来年はもうひとつ、上を目指したい」

剣道

【男子団体】決勝

高谷 2-1 和歌山
 (佐賀) 代表勝 (和歌山)

【男子個人】決勝

宮川寛次 西谷 ③
 大坂 鹿兒島
 P.L.学 島商

【女子団体】決勝トナメント1回戦

広島女商 2-1 富岡東
 (広島) 本教勝 (徳島)

鬼沢 ② 大野 ②
 小宮 ② 櫻本 ②

○後 ② メメ 栗本 ②
 ○錦 ② メメ 小林 ②
 長原 ② メメ伊藤 ②

▽決勝

阿蘇 3-1 山吉ヶ丘
 (熊本) (京都)

【女子個人】決勝
 興梠舞 ② 土井千恵 ③
 (熊本) (佐賀)
 阿蘇 (佐賀)

徳島至誠館(羽)団体制す



◆第17回小松島市坂野少年剣道錬成大会(5日・坂野小体育館)

県内の小学生280人(16チーム)が参加。団体高学年の部で徳島至誠館(羽)浦町が優勝した。

【団体】高学年①徳島至誠館②阿南少年剣道教室③坂野少年剣道クラブ④大野小剣道部▽低学年①徳島至誠館②那賀川B&G剣道教室③新野少年剣道教室④坂野少年剣道クラブ

【個人】1年①岩佐淳希(練武館)②松本好史(至誠館)③横山依

利加(那賀川少剣)▽5年①神元育己(練武館)②細川美幸(練武館)③秋川元宏(如水館)④長地千景(那賀川B&G)▽6年①賀上晴香(練武館)②生長祐樹(坂野)③荻子達(那賀川B&G)④細川靖晃(練武館)



気合のこもった試合が続いた少年剣道大会—坂野小体育館

9月8日(水) あわスポーツ

徳島至誠館が制す

県社会人剣道

第一十八回県社会人剣道大会は十七日、鳴門武道館で44チームが参加して行われ、決勝で徳島至誠館が3-1で阿南支部Aを下して優勝した。

徳島至誠館	3-1	阿南支部A
▽決勝		
木下		松本
玉田		阿南支部
山口		徳島
村井		北条
河田		上田
木下		北条
▽決勝		
徳島至誠館	3-1	阿南支部A
▽決勝		
木下		松本
玉田		阿南支部
山口		徳島
村井		北条
河田		上田
木下		北条

10月18日 スポーツ

くまもと未来国体

国勢の展望

4

《剣道》(成年男子、少年女子)
県単出場の成年男子は、
県勢の選手が中心。大将も
兼ねる中尾監督(県警)
は、「(1)は練習十分」
と、入賞に向け手こたえを
つかんでいる。全日本選手
権などでも活躍する次ほう
の吉田、中堅の平野(以上
県警)の2人がチームの
軸。副将の松村(白鷲)は
体は小さいが鋭さがある。
先ほう・佐野(県警)が試
合の流れを引き寄せられる
か。初戦の青森に勝って、
勢いに乗りたい。

少年女子は、インターハ
ンに出場した富岡東の単独
チーム。四国ブロック選
は全勝で突破し、上位進出
の可能性は十分。初戦の新
潟は強豪だが、河田監督は
「2勝2敗で大将伊藤につ
なければ勝機はある」と冷
静だ。メンバーからも信頼
の厚い伊藤ほか、経験豊富
な中堅・奥本も動きにキレ
がある。先ほうの矢野、次
ほうの榎本、副将の小椋ら

徳島、2回戦で敗退

剣道
少年女子

剣道

【少年女子】1回戦
徳島4-0 新潟
○矢野②×メメ 長谷川③

○榎本②×メメ 田中②
○栗本②×ド 佐藤②
○小林②×メメ 佐藤②
伊藤② 野沢②

▽同2回戦
○山田③×メメ 徳島
○矢野②

○藤田③×メメ 榎本②
○平田③×メメ 栗本②
○武野③ メメ小 林②
土井③ 伊藤②

剣道少年女子・伊藤奈津
子主将(富岡東高)「1回
戦は自分たちの剣道ができ



たものの、2回戦では中堅
までで勝負がついてしまっ
た。大将として、チームの
締めくくりと高校3年間の
かけて戦っ
たが、勝ち
負けではな
く、課題が
残る試合だ
った」

剣道

【成年男子】1回戦
徳島4-1 青森
○佐野④×ド 中林④
○吉田④×ド 対馬④
○平野④×メメ 鹿内④
○松村④×メメ 二本④
○中尾④×メメ 二本④
(第3試合の平野の〇は相手の
棄権による不取得扱い)

▽同2回戦
○片岡③×ド 徳島
○吉野③×ド 佐野④
○小止③×ド 古田④
○安永③×メメ 平野④
○吉林③ 中尾④

【成年女子】決勝
東京2-1 熊本

10月25日 スポーツ

10月27日 スポーツ



◆第29回徳島眉山ライオンズクラブ少年剣道大会



(10月11日・徳島市立体育館)
 ②瀬部克好(久武館)
 ③若木達也(和田島少年剣道クラブ) ③太田宏生(蔵本少年剣道クラブ) ⑤5年男子 ①美馬憲太(全岐剣道クラブ) ②近藤雅俊(阿波少年剣道教室) ③岩雲大樹(鴨島少年剣道教室) ③津田光芳(鴨島少年剣道教室) ③6年女子 ①村瀬聡美(坂野少年剣道クラブ) ②田尾望(鴨島少年剣道教室) ③西條のぞみ(新野少年剣道教室) ③長楽良子(和田島少年剣道クラブ) ⑤5年女子 ①服部明日香(大野小学校剣道部) ②池田住南(大野小学校剣道部) ③福永悦子(竜虎館) ③元木綾子(大野小学校剣道部)

力いっぱい竹刀を振るう少年剣士たち―徳島市立体育館

11月2日 あわスポーツ

高校男子は富岡西 女子・富岡東がV

清原杯剣道

剣道の清原杯兼第四十四回県大会は三十一日、阿南工業高校に約120チームが参加し、6部門で熱戦を展開。このうち高校男子は富岡西、また女子は富岡東が優勝した。

【少年】準決勝

河庄少年剣道教室 0-0 徳島至誠館道教室

代表勝ち

鳴門市光武館 2-0 小松島少剣

代表勝ち

小松島少剣 2-0 徳島至誠館

代表勝ち

阿南少年剣道教室 1-1 鳴門市光武館

代表勝ち

【中学校】男子準決勝
 阿南 3-0 阿波
 相模 1-1 市

代表勝ち

▽同3位決定戦
 市 3-1 河波
 相模 3-0 阿南

▽同決勝

市 3-0 阿南

▽女子準決勝
 阿南 1-4 木頭
 相生 1-0 鳴門

▽同3位決定戦

鳴門 3-2 木頭

▽同決勝

阿南 3-1 相生

【高校】男子準決勝

富岡西 3-1 阿西工A
 川島 3-2 富岡東

▽同3位決定戦

富岡東 2-1 阿南工A

▽同決勝

富岡西 3-1 川島

▽女子決勝リーグ①富岡東2勝

②川島1勝1敗③城西2敗

【一般】準決勝

阿波支部A 3-0 小松島支部
 養武館 3-1 阿南支部A

▽同3位決定戦

阿南支部A 4-0 小松島支部

▽決勝

阿波支部A 2-1 養武館

11月2日 スポーツ

12月27日



◆第16回新野少年剣道練習
成大会兼第6回県スポーツ
レクリエーション祭(23日
・阿南市民体育館)

【団体】男子①大野②練武館③新野▽女子①練武館②新野
【個人】1年生①岩佐将希(練武館)②上田壽弘(至誠館)③坂東俊樹(新野)④料原紗也香(至誠館)⑤皆谷耕太(至誠館)⑥青木太(新野)⑦河野宏紀(大野)⑧西田隼平(武野)⑨小松島将(小松島)⑩谷口英貴(B&G)▽2年生①湯浅翔平(至誠館)②大北寛史(新野)

(新野)③仁木啓夫(練武館)④櫻六郎(武野)⑤根健貞(至誠館)⑥美原崇人(至誠館)⑦柳瀬美希(至誠館)⑧白木郁登(至誠館)▽3年生①榎木鉄也(武野)②田部直康太(至誠館)③細川美波(練武館)④湯浅彰義(至誠館)⑤川又啓輝(新野)⑥西山拓志(小松島)⑦窪内美沙希(那賀川)▽4年生①松本明真(至誠館)②瀨尾香(那賀川)③原田隆(新野)④村井僚(至誠館)⑤島田晃郎(大野)⑥久田有輔(新野)⑦藤貴純(新野)⑧大羽優美(新野)▽5年生①長地千景(B&G)②森健人(阿南)③清野智之(至誠館)④平川倫美(楠公)⑤西宮啓登(阿南)⑥安田博博(養武館)⑦原山昌明(新野)⑧中野如榮(B&G)▽6年生①植下拓也(如水館)②平田真美(楠公)③石立康洋(新野)④若木三穂(阿南)⑤河野宏紀(大野)⑥福島暢晃(阿南)⑦吉川知宏(至誠館)⑧新野場子(新野)



◆半田町剣道教室開設20周年記念・第25回美馬西部少年剣道大会(5日・同町スポーツセンター)女1)

上鴨島)▽同4年の部①湯野哲穂里(鴨島)②武田裕平(川島)③近藤直弥(鴨島)野口祥希(山川)▽同5年の部①岩雲大樹②塩田伯大(以上鴨島)③原田光晴、桑野千尋(以上山川)▽同6年の部①大野敬太②石川量太(以上阿波)③富本剛至、新川典子(以上鴨島)▽中学1年男子の部①白井浩志(穴吹)②佐藤森也(江原)③鈴木明良(江原)栗尾太二(美馬)▽同女子の部①掛田祐加(貞光)②中山麻衣(穴吹)③長江綾美(美馬)酒井恵(貞光)▽中学2年男子の部①佐藤亮(穴吹)②藤本真太郎(貞光)③廣澤雄太(一字剣)黒田圭祐(穴吹)▽同女子の部①近藤紫央(美馬)②武田ゆづり③岡村千秋、小椋汐織(以上貞光)

12月20日

◆第16回新野少年剣道練習大会兼第6回東スポーンレクリエーション祭(23日・阿南市民体育館)



- 【団体】男子①大野②練武館③新野④女子①練武館②新野
- 【個人】1年生①若尾博希(練武館)②上田義弘(全誠館)③坂東俊樹(新野)④若原紘也香(全誠館)⑤西田龍平(浪野)⑥青木太将(小松島)⑦谷口奨真(B&C)⑧2年生①湯浅翔平(全誠館)②大羽寛史(新野)
- (新野)①仁木悠美(練武館)②橋本雄(浪野)③曾根健貴(全誠館)④表原寛人(全誠館)⑤柳剛美希(全誠)⑥山口桐登(全誠館)⑦3年生①櫻木鉄也(坂野)②生地島康太(練武館)③江口直希(小松島)④細美波(練武館)⑤湯浅彰(全誠館)⑥川又隆輝(新野)⑦西山拓志(小松島)⑧森内美沙希(那賀川)⑨4年生①松本明良(全誠館)②雨瀬香(那賀川)③赤田(新野)④村坂(全誠館)⑤高田晃郎(大野)⑥久住有輔(新野)⑦藤原純(新野)⑧大羽優美(新野)⑨5年生①長地千景(B&C)②峯地研人(阿南)③清野智之(全誠館)④山倫美(横公)⑤四宮優登(阿南)⑥安田明博(練武館)⑦原田昌明(新野)⑧中野加菜(B&C)⑨6年生①種下祐也(如水館)②平田真美(横公)③若木統洋(新野)④若木統洋(新野)⑤河野宏紀(大野)⑥梅崎晴晃(阿南)⑦吉川知宏(全誠館)⑧新野陽之(新野)

(19) 地方 BC

第3種転便枚

寺西さん(鳴門)2連覇

鳴門寺西杯 争奪大会 小中生437人が熱戦



◆第2回寺西杯争奪県下選抜少年剣道大会(12月19日・阿南市総合運動公園武道館)は、鳴門総合運動公園武道館(小学校)団体戦(徳島市光武館、小松島少剣道クラブ)個人1・2年生(若原健貴(全誠館)②若尾博希(練武館)③大羽寛史(新野)④桑原大樹(鳴門)⑤同生20年1・2年生(加加)3・4年生(村井優(全誠館)②松本明貴(阿南)③中



山人地(勝島)山本敏夫(香川・本町)②(光武館)▽同5・6年生①新田裕亮(徳島)②西岡敬太

計437人が参加した第2回寺西杯争奪県下選抜少年剣道大会一鳴門総合運動公園武道館

【中学校】徳島(光武館)①徳島(光武館)②徳島(光武館)③徳島(光武館)④徳島(光武館)⑤徳島(光武館)⑥徳島(光武館)⑦徳島(光武館)⑧徳島(光武館)⑨徳島(光武館)⑩徳島(光武館)

【小学校】鳴門(鳴門)①鳴門(鳴門)②鳴門(鳴門)③鳴門(鳴門)④鳴門(鳴門)⑤鳴門(鳴門)⑥鳴門(鳴門)⑦鳴門(鳴門)⑧鳴門(鳴門)⑨鳴門(鳴門)⑩鳴門(鳴門)

寺西さん(鳴門)2連覇

鳴門寺西杯
争奪大会
小中生437人が熱戦

剣道

【下学】団体戦上選勝
【上学】個人戦上選勝
【下学】個人戦上選勝
【上学】個人戦上選勝

◆第2回寺西杯争奪県下選抜少年剣道大会(12月10日、鳴門才島院、小松島少剣道館)・鳴門総合運動公園武道館) 徳島、香川両県から小学(徳島)137人、中学(香川)137人が参加した。中学女子部は鳴門(徳島)が優勝した。



計437人が参加した第2回寺西杯争奪県下選抜少年剣道大会。鳴門総合運動公園武道館で開かれた。

【上学】個人戦上選勝
【下学】個人戦上選勝
【上学】個人戦上選勝
【下学】個人戦上選勝

1月11日

鳥 糸斤 月 昇

文理大学長に勝沼氏

4期務めた添田氏の後任



勝沼信昭(左)が文理大学長に就任した。添田氏(右)は4期を務めた。

九日、在朝朝了となった徳島文理大学長の添田氏(五十五)の後任に、同大健康科学研究所所長の勝沼信昭教授(五十九)が十日付で就任した。勝沼新学長は、国立大が先行き不透明な独立行政法人化問題に揺れる中、私立大の責任は重大になってきている。徳島大学問を推進する大学を「指し示す」と発言を述べた。

勝沼新学長は、国立大が先行き不透明な独立行政法人化問題に揺れる中、私立大の責任は重大になってきている。徳島大学問を推進する大学を「指し示す」と発言を述べた。

愛媛大は鮎川氏
愛媛人は十一日、次期学

1月12日

気合を込め竹刀を振り下ろす小学生剣士 池田署柔剣道場



小学生剣士が鏡開き

池田

三好郡池田町ウエノの池田署柔剣道場で十一日夜、少年剣道クラブ・池田剣止童(岡田順子会長、十三人)の鏡開きがあった。

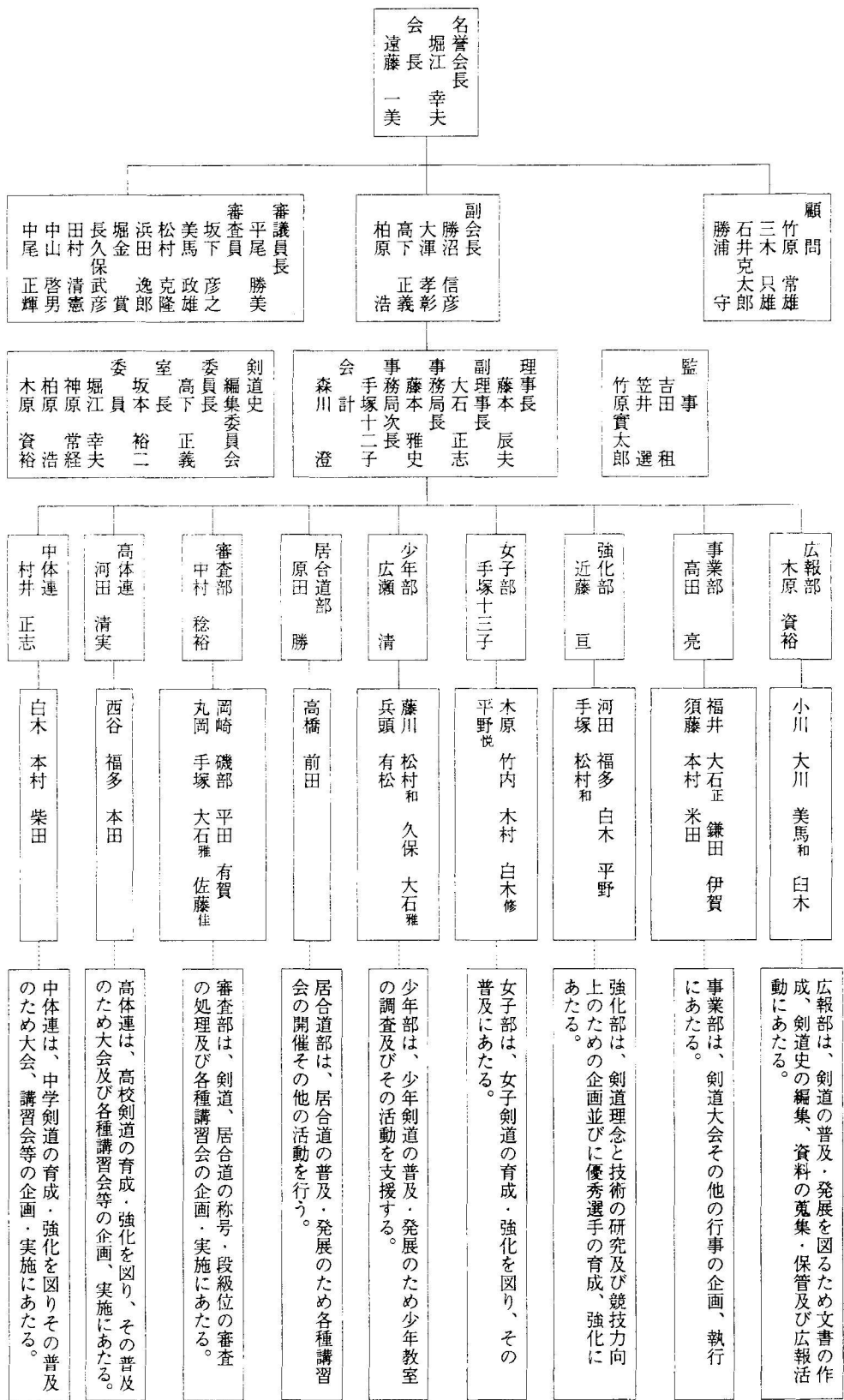
小学校一・六年生の男女十一人が参加した。小学生剣士は防具を身にまとい、頭に鉢巻をしめるなど気合十分。供えられた鏡もちに向かって、勢いよく竹刀を打ち下ろし精神、技術、体力の向上を誓った。指導員の高橋和察さん(五巴)白地、無職と徳永賢二さん(五巴)シマ、町職員による「今年も体に気を付け、一生懸命練習しよう」との年頭あいさつにも真剣に聞き入っていた。

池田小六年の岡田大資君(こ)は「県大会で優勝できるよう頑張ります」と新年の抱負を語っていた。

1月14日

徳島県剣道連盟事務分掌表

平成十二年四月一日現在



編集後記

この「徳島の剣道」を編集させていただきながら、昇段された方々の原稿を読む時、そのよろこびが行間に、にじみ出ている、何かすがすがしさを感ずるのは、私一人ではないでしょう。それは、単に、段位が上がったことをよろこんでいるのではなく、昇段審査を受ける過程の中で、自分自身の気づきや、剣道（居合道）の素晴らしさを感じたこと、さらに、自分一人ではなく、家庭や師・仲間の支えや励ましで、がんばり抜けたことへの感謝が、その主な内容であると思われまます。剣道を通して自分自身への内面の深まりを求めつつ、そこに感謝の気持ちがあれば、もともと自分分の剣道がすばらしくなることを実証として、示してくれています。

この剣道のすばらしさのうねりを、もっと大きく、二十一世紀へ伝えて行きたいものです。

『徳島の剣道』第十六号

編集委員会

編集顧問

堀江幸夫	柏原浩	木原資裕	小川本書	中村稔裕	大川功	白木崇	美馬和義
------	-----	------	------	------	-----	-----	------

『徳島の剣道』第十六号

平成12年5月10日発行

編集・発行 徳島県剣道連盟

代表者 遠藤一美

☎770-0853 徳島市中徳島町2丁目96

T E L 088-652-2337

F A X 088-652-2360